昭和58年1月20日　第3種郵便物認可　平成4年10月1日発行第121号（毎月1回1日発行）

ミュージシャン参加の生活必需マガジン

ARENA37℃

アリーナ サーティセブン

ARENA37℃創刊10周年記念特別号！

特別付録

YOSHIKI & TOSHI ビッグ・ポスター!!

LADIES ROOM／THE ALFEE／De+LAX／THE MODS／PINK SAPPHIRE
仲井戸麗市+蘭丸／KNiFe／林田健司／ムーンライダース／THE BANKY JET CITY
KATSUMI／山下久美子／M-AGE／福山雅治／JUSTY NASTY

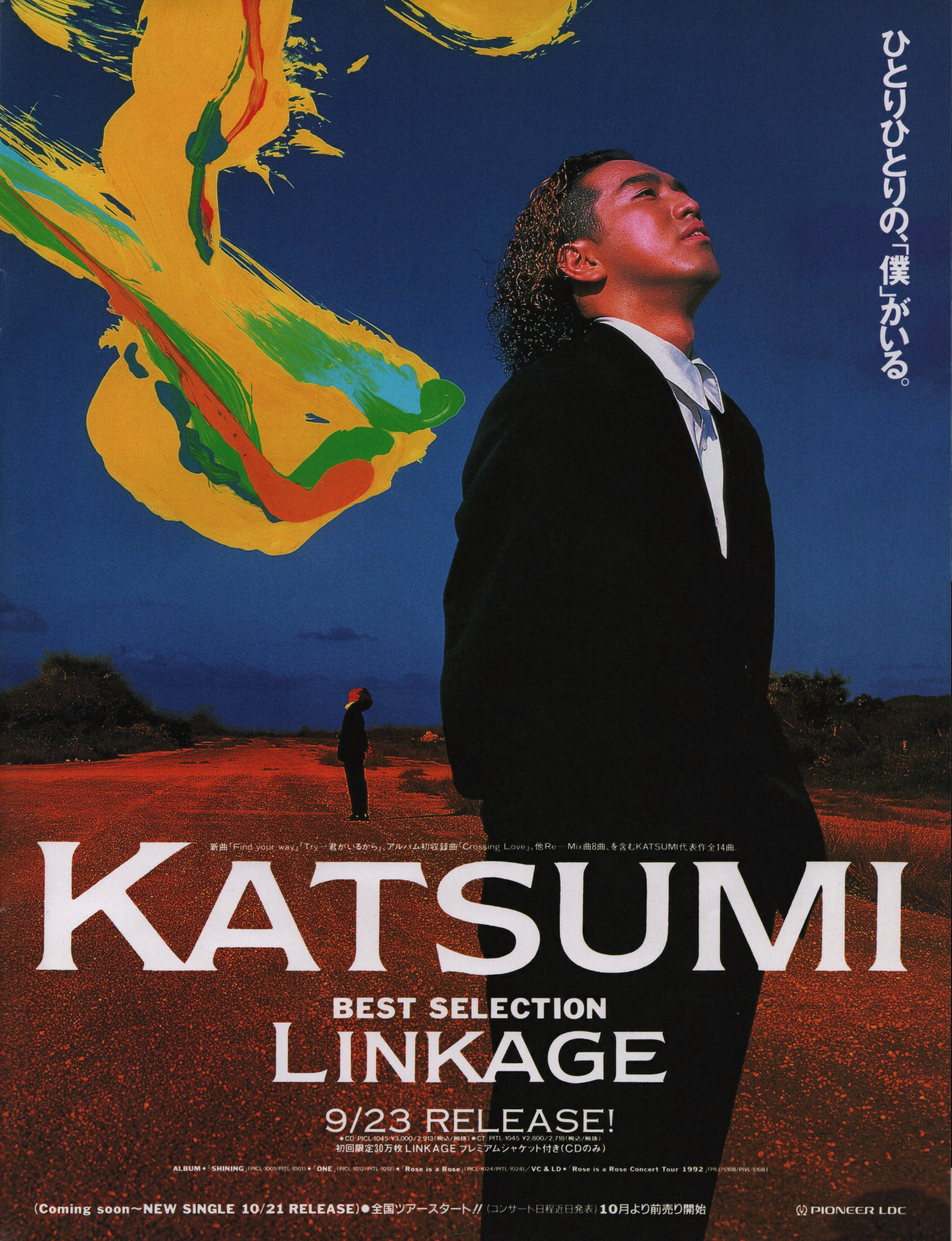
TOSHI

LUNA SEA／DIE IN CRIES
BY-SEXUAL／Zi÷Kill／SOFT BALLET
UNICORN／吉川晃司

YOSHIKI



OCTOBER 1992
10
No.121
690yen



ひとりひとりの、「僕」がいる。
新曲「Find your way」「Try一君がいるから」、アルバム初収録曲「Crossing Love」、他Re一Mix曲8曲、を含むKATSUMI代表作全14曲。
KATSUMI
BEST SELECTION
LINKAGE
9/23 RELEASE!
●CD:PICL-1045 ¥3,000/2,913(税込/税抜)●CT:PITL-1045 ¥2,800/2,718(税込/税抜)
初回限定30万枚 LINKAGE プレミアムジャケット付き(CDのみ)
ALBUM●「SHINING」(PICL-1001/PITL-1001)●「ONE」(PICL-1012/PITL-1012)●「Rose is a Rose」(PICL-1024/PITL-1024)/VC & LD●「Rose is a Rose Concert Tour 1992」(PILL-5108/PIVL-5108)
(Coming soon~NEW SINGLE 10/21 RELEASE)●全国ツアースタート!!(コンサート日程近日発表)10月より前売り開始
PIONEER LDC



瓦礫の中のダイヤ。
悩み多き女の子よ！
彼が落ち込んだときの気持…
強がりで失敗する恋…
キュート＆ファニーなミュウの歌で
ストレスなんて吹き飛ばせ!!
1992パリ・モスクワ・北京マラソンレイドテーマソング
彼方へ…
2nd SINGLE
9・17緊急発売！
16000kmラリー、8月29日から9月29日までNHK放送中！
C/W WHY? AVDD-20030 税込定価￥930（税抜￥903）
First Single "STRIPPER LADY" 好評発売中！ AVDD-20021
作曲★久保田利伸、富樫明生、羽田一郎ほか多彩なアーチスト作品
MEYOU FIRST ALBUM
MUSEUM
ミュウ・ファーストアルバム"ミュウジアム"
NOW ON SALE
AVCD-11052 税込定価￥3,000（税抜￥2,913）
PRODUCED BY
avex trax
NIPPON CROWN Co.,Ltd.
MEYOU'S CLUB "MUSEUM" に関するお問い合わせは〒151東京都渋谷区笹塚2-27-7-302 P・S・Pまで

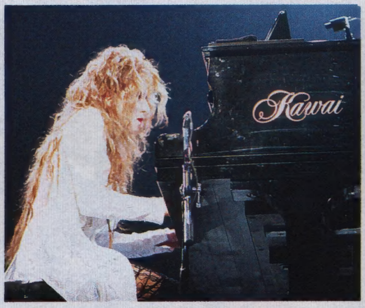
ミュージシャン参加の生活必需マガジン
ARENA37℃
アリーナ サーティセブン

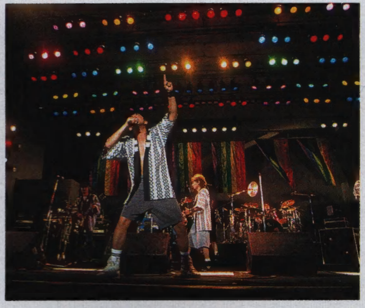
1992年10月号　No.121　特別定価690円（本体670円）
発行人＝荒井敏行　編集人＝渡辺孝二　発行所＝株式会社　音楽専科社
〒104東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F
☎03(3574)0201　FAX03(3574)8548
印刷所＝三共グラフィック株式会社
●万一、製本上のミスがありましたら、お取替えします。

C O N T E N T S

おかげ様でARENA37℃は10歳になりました。

特別付録＝YOSHIKI＋TOSHIビッグ・ポスター



巻頭大特集
TOSHI——5
ソロ活動／TOSHIのすべて
①ロング・インタビュー「HEAVENは君の中にある」
②誰も知らなかったTOSHIの7つのクエスチョン

第2特集
YOSHIKI——35
①7.30日本武道館、驚異の大イベント
②YOSHIKIソロ契約記者会見

第3特集
DIE IN CRIES——70
9.23ニューアルバム『NODE』徹底解剖

第4特集
UNICORN——139
①ソロ・シングルのゆくえ ……………その2
②CSAちゃん祭りのすべて

COLOR SECTION
De＋LAX——42
新作『Our Favorite Roads』9.18リリース／
LUNA SEA——67
7.26　日比谷野外音楽堂で見せた顔
BY-SEXUAL——74
9.18　Album『4D Pocket』リリース
Zi:Kill——80
7.30　NHKホール
SOFT BALLET——82
どこまでつき進むのか?
SPEEDSTAR——85
新しいロックの波が押し寄せた
仲井戸麗市＋土屋"蘭丸"公平——88
8.13栃木会館小ホール
吉川晃司——115
『Shyness Overdrive』のすべて
KNiFe——122
あの3人の男が新たなデビュー//
THE ALFEE——148
8.9　アルフィー、11回目の夏のイベント
山下久美子——150
7/26.27　NHKホールLIVE

M-AGE——151
7/21.22　新宿パワーステーションLIVE

MASTERS OF JAPANESE ROCK
ムーンライダース——22
歓迎/　一見の御客様

INTERVIEW & REPORT
KATSUMI——19
とってもウレシイベスト盤リリース/
THE MODS——26
新作『F.A.B』徹底インタビュー/
THE BLANKEY JET CITY——29
9.30新作『LIVE』で、みんな熱くなれ
林田健司——32
なぜ、今林田なのか
KAZZ——46
KAZZ自身が語るKAZZ
PINK SAPPHIRE——48
夏休み企画/湘南・鎌倉へ
THE MAD CAPSULE MRKET'S——60
半年ぶりに8.14渋谷クアトロでライヴ//
スピッツ——62
カッチョイイアルバムがでちゃうよ〜ん
陣内大蔵——92
6thアルバム『TWIN』で見せた実力
福山雅治——93
8.5　中野サンプラザでツアーファイナル

JUSTY NASTY——94
8.2　日比谷野音ライヴレポート
The 5 TEARDROPS——95
5ティアとボウリングデート♡
アン・ルイス——96
久々のアルバム・リリース
TERRE PIERCE——97
岡山よいとこ一度はおいで
シャ乱Q——98
ミッキー・ロークにへなちょこパーンチ

話題のNEWS満載
『タイガー新聞』——99
祝・アリーナ37℃創刊10周年記念特別企画/
①ミュージシャンに聞きました「あなたは10年前何をしていましたか?」②「10年後なにをしてると思いますか」③「アリーナ10周年に一言」／ローリー、ナーブ・カッツエ、Eナイト、MAGIC, ボニーダック、ヒートウエイブほか

大好評連載
THE DEAD P☆PSTARS——51
『KENchanついに新バンド結成
LADIES ROOM——52
ワイド版『月刊レディース』
中島和之——54
『俺はヘアメイク稼業』⑫
Z-BACK——65
『Z-BACK BODYプレス〜歯ぬけのユウウツ』最終回
川村かおり——66
『かおりのGROOVY DAYS』④

ARENA FREAK
ALBUM 自己紹介——108
コンサート・ガイド——112
微熱フリーク——124
BIGプレゼント——133
バックナンバーのお知らせ——134

●アリーナ37℃定期購読のご案内

毎月確実に『アリーナ37℃』をお求めになりたい方には定期購読が便利です。次の要領で実施していますのでヨロシク！
①希望月号と購読期間を明記
②購読期間は6ヵ月，12ヵ月とします。料金は6ヵ月が3720円，12カ月が7440円。ご予約期間中に定価改正があった場合も別途請求はいたしません。なお送料は当社でサービスいたします。
③申し込みは必ず現金書留か小為替でお願いします。
以上、①の必要事項をご記入の上、〒104東京都中央区銀座5-1-7数寄屋橋ビル5F音楽専科社経理部アリーナ37℃係まで、お申し込みください。

STAFF
編集＝渡辺孝二，梅原祐子，金子貴昭，中尾美香，藤盛誠司▶デザイン＝京免敏彦，プロジェクトQ，studio JIN，編集部▶表紙撮影＝井ノ元浩二▶フォト＝大屋美和(本誌)，松崎信彦，大西基，植田信，高橋文恵，金丸雅代，加藤正憲，佐藤貴志、梶木則男，今井俊彦▶ライター＝角野恵美子，松浦靖恵，藤野洋子，長沢智典，大島暁美，加藤祐介，石川直子，今津甲，関根章喜，荒川れいこ，大畑幸子，村野弘正，安達文子，斉藤ユカ，高橋厚子▶イラスト＝高杉よしみ，蒲原みさえ

TOSHI made in HEAVEN

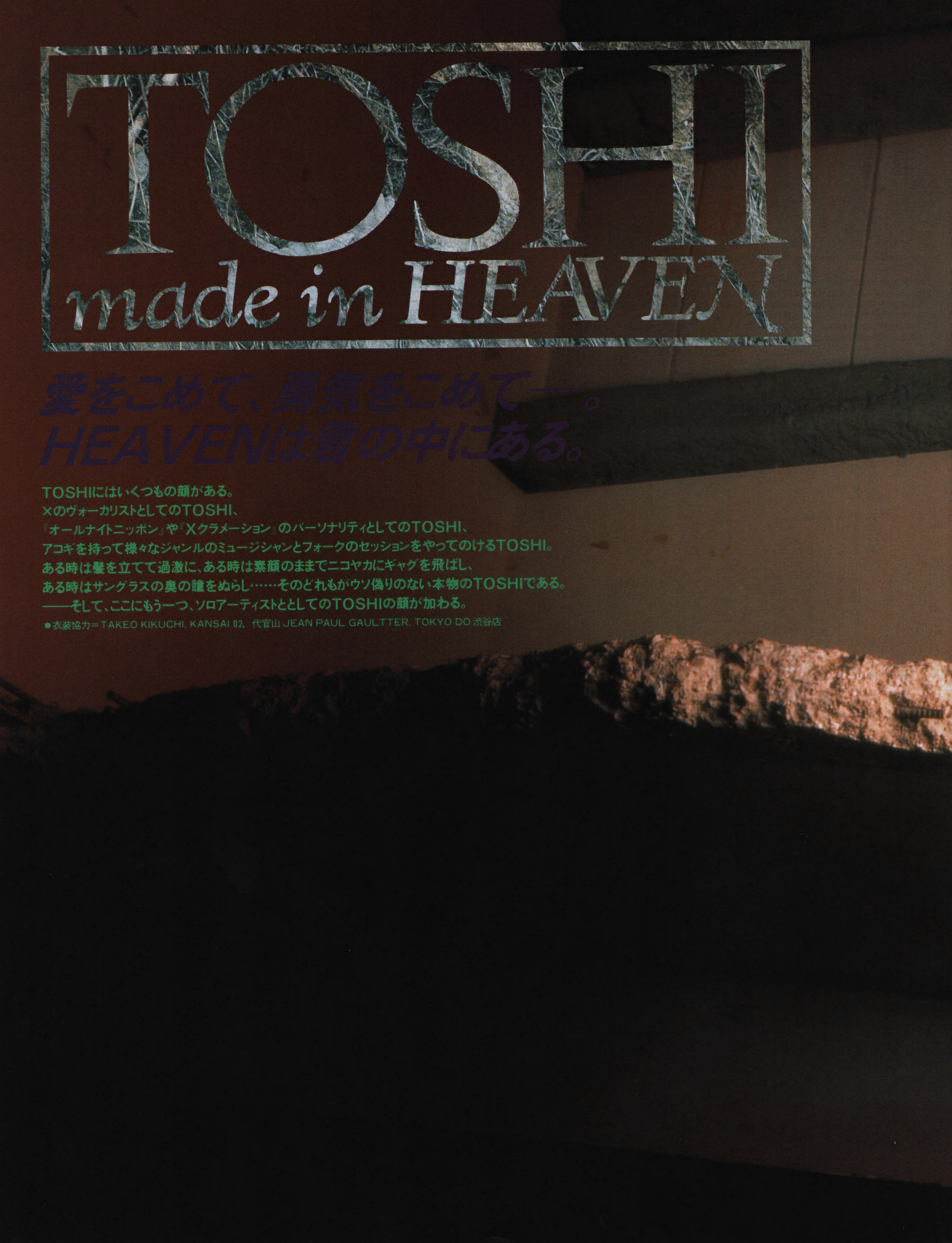
SOLO

今、そのベールを脱いで——。

インタビュアー／大島暁美　撮影／井ノ元浩二　スタイリング／酒寄幸一　ヘア&メイク／加藤貴光







TOSHI
made in HEAVEN

愛をこめて、勇気をこめて──。
HEAVENは君の中にある。

TOSHIにはいくつもの顔がある。
×のヴォーカリストとしてのTOSHI、
『オールナイトニッポン』や『Xクラメーション』のパーソナリティとしてのTOSHI、
アコギを持って様々なジャンルのミュージシャンとフォークのセッションをやってのけるTOSHI。
ある時は髪を立てて過激に、ある時は素顔のままでニコヤカにギャグを飛ばし、
ある時はサングラスの奥の瞳をぬらし……そのどれもがウソ偽りのない本物のTOSHIである。
──そして、ここにもう一つ、ソロアーティストとしてのTOSHIの顔が加わる。

●衣装協力＝TAKEO KIKUCHI, KANSAI 02, 代官山 JEAN PAUL GAULTTER, TOKYO DO 渋谷店

SHI
HEAVEN

TOSHI LONG INTERVIEW
愛を込めて、勇気を込めて——。HEAVENは君の中にある。

「まず歌が歌いたかった。個人的に好きな歌を歌ってみたいという欲求が、どんどん大きくなってきた」

1月の東京ドーム以来、ほとんど表立った活動をしていなかったエックス。水面下では、新ベーシストの選出や世界進出の準備に忙しかったようだが、その状況は、ほとんどマスコミで伝えられることはなかった。そんななかで、ラジオのパーソナリティなど活発な個人活動を続けていたTOSHIが、ソロ・アルバムを制作するというニュースが飛び込んできた。エックスのヴォーカリストとして高い評価を得ている彼が、なぜ、この時期にソロ・アルバムを作ることにしたのか？　バンドを離れてひとりのヴォーカリストとして、彼が表現したい音楽はどのようなものなのか？　彼のソロ活動に対する期待は、膨らむ一方だ。

そこで、本誌では、TOSHIが初めてひとりのヴォーカリストとして、作品を作っていく過程を追ったドキュメンタリー・ブック『MAKING OF TOSHI』（10月14日発売予定）を、作ることにした。既に、レコーディング前の打ち合わせ、外国人ミュージシャンやオーケストラの音入れ、彼自身の歌録りなど、数回にわたってスタジオを見学させてもらっている。さらに、間をおいて3回のロング・インタビューも敢行し、レコーディング状況を彼自身の口から語ってもらっている。

8月上旬、日本での作業をすべて終了し、TOSHIはアメリカへと旅立っていった。彼自身の言葉を借りると、レコーディングは全体の七割まで進んでいるという。現在の予定では、シングルを10月21日にリリース、アルバムを11月21日にリリースするタイム・スケジュールになっている。渡米直前に、TOSHIが手渡してくれた1本のテープ……。それは、ラフMIXされた4曲のシングル&アルバム候補曲が録音されているテープだった。そのなかには、エックスのヴォーカリストとしてのTOSHIとはまた別の、ひとりのシンガーTOSHIの魅力が刻み込まれていた。

*　　*

——なんだか声がかすれてるけど、レコーディング疲れ？

TOSHI　いえいえ。昨日で、一応、日本での作業が終わったんで、飲んでしまったんです（笑）。それで、寝てないんですよ。まぁ、スケジュール的にすごくきつかったんで、喉が疲れてるってこともあるんだけど、直接の原因は飲み疲れです（笑）。

——心配したのに（笑）。

TOSHI　大丈夫。喉はガラガラだけど、気持ちは元気です。

——じゃ、まず、東京ドームが終わってから、TOSHIが何をしていたのかを教えてもらいたいんだけど？

TOSHI　〝俺は何をやりたいのか〟を考えていました。エックスのほうが、メンバーのこととか契約のこととかでゴタゴタしていて、なかなか音楽的な活動ができなかったんで、俺もいろいろ考える時間があったんですよ。決して、エックスが暇だったわけじゃなくて、ミーティングとかでしょっちゅう集まってはいたんだけどね。それで、自分の個人活動のことを、考えてみたんですよ。YOSHIKIがV2をやったり、HIDEが写真集を出したりしてたでしょ。俺もラジオはやってたんだけど、そろそろ音楽的なことっていうか、アーティスティックなことをやりたいと思って、まわりの人に相談してたんですよ。それで、ソロは前からやってみたいと思ってたし、まわりにだんだん協力者も増えてきたんで、下準備を少しずつ進めてたんです。

——個人の活動として、写真集とかデュエットじゃなくて、TOSHIがソロ・アルバムを選んだ理由は？

TOSHI　俺、結構、ラジオやテレビや人のライヴで、セッションをしてたでしょ。それで、人の曲を歌う機会が多かったんだけど、それがすごく楽しかったのね。だから、ソロっていうよりも、まず、歌が歌いたいなっていう気持ちがあったんだ。もちろん、エックスの音楽も好きなんだけど、その他の個人的に好きな歌を歌ってみたいなっていう欲求が、だんだん大きくなってきたんですよ。

出山利三の音楽になる

——TOSHIのなかで、ソロ・アルバムを作ろうかなって思い始めたのは、いつ頃からなの？

TOSHI　それは、ずいぶん昔から。デビュー当時から、そういう気持ちはありましたよ。デビューしたときのインタビューで「いつかは、ソロを作りたい」っていった記憶があるし、まわりの人たちにもそれは機会あるごとにいってましたね。それで、エックスがある程度認められて、それぞれ自分の好きなこともできる時期が、やっと来たかなっていう気がしたんですよ。

——でも、今の時期って、エックス本体も動きだそうとしている時期なんじゃない？

TOSHI　それをいったら、本体はいつでも動いてますからね。まったく、お休みになっちゃってたわけじゃないから。だから、ソロ活動っていうのは寝る間を惜しんでやるもので、あくまでメインはエックスなんですよ。そういう意味では、エックスが休んでいるからとか、動いているからっていうのは、関係ないですね。ただ、コンサートとかレコーディングじゃなくて、活動がミーティングとか契約とか音楽とは離れたところでのものが多かったから、自分のなかに歌いたいっていう欲が出てきたんだと思います。それが、たまたま時期的に、重なっただけなんじゃないかな。

——ソロを作ろうって思ったとき、TOSHI自身はどんなビジョンを描いていた？

TOSHI　最初は、全然、なかった。楽曲が貯まってたわけじゃないし、この曲をやりたいっていうのもなかった。ただ、アコースティックっぽいっていうか、生の良さを伝えるような作品を作りたいって、思いました。最初のキーワードは、それくらいかな。それは、ピアノ一本でやるとか、ギター一本でやるっていう意味じゃなくて、もっと大きな意味での生っていうことなんだけどね。

——自分自身、エックスのTOSHIとソロのTOSHIとでは、違うものを表現していきたいと思ってた？

TOSHI　エックスとまるきり違うっていうわけじゃないんだけど、違う側面を見せたいなとは思ってました。エックスのメンバーが演奏するわけじゃないし、曲を作るわけでもないから、そういう意味では自然に違ってくるだろうけど、歌ってる人は同じだからね。そのへんのところは、正直いって、あまりこだわってないです。ただ、自分の好きな音楽だったり、自分のなかから生まれてくる音楽だったり、自分の好きな作家に頼んだ音楽だったりするから、やっぱり、エックスのTOSHIではなくて出山利三の音楽になるでしょうね。

——作詞に松井五郎さんの名前がクレジットされているけれど、ヒットメーカーの彼の詞は今までのTOSHIのイメージとは、まったく違うよね？

TOSHI　自分でお願いしたんだけど、実際に歌ってみるとテレくさくて、ちょっと直してもらったりしてる部分もあります。言葉が強烈すぎちゃって……普通の人にとっては強烈じゃないんだろうけど、エックスのTOSHIにとっては強烈な言葉ってあるんですよ（笑）。「君と僕」的な世界は今までになかったんで、まだ試行錯誤を繰り返してます。曲も、エックスのTOSHIだと思って聞かれ




TOS
made in

SHI
HEAVEN



「全体的に、バラード系が多い。エックスでは表現できない部分を、ソロとしてやりたかったということ」

ちゃうと、全然、違うと思う。節々にエックスのTOSHIもいるんだけど、基本的にはまったく違うんじゃないかな。でも、ギャップがあっても、いいものはいいと思うから、とにかく、しっかりした作品を作ることを第一に、作業を進めています。

セルフ・プロデュースにした理由

——自分で作る曲以外は、人に頼むとき、なにか注文をしたりした?

TOSHI　あんまり、ない。ないから、逆に作家の人は戸惑ってたみたい。みんなエックスのTOSHIしか知らないから、「どんな曲を、歌いたがっているんだろう」って悩んでたらしくて、それがまた面白かったりしましたね。それで、お互いのイメージを近づけていく作業もして、だんだん曲が形になっていくわけ。そういうやり方って初めてだから、楽しかったですね。

——音作りのときから、スタジオにいたでしょ? そういうところから、ちゃんと関わっていたかった?

TOSHI　うん。時間があるかぎり、スタジオにはいたかった。それじゃないと、ソロの意味はないからね。アイドルじゃないんだから、人任せにはできないよ。自分の好きな音を作るために、アレンジャーの井上さんや作家さんと意見を戦わせつつ、動きのあるアクティブな作り方をしていきたいって思ってました。だから、自分もなるべくスタジオに通って、細かいところまで一緒に作りたかったし。一応、僕はプロデューサーでもあるからね(笑)。

——セルフ・プロデュースなんだ?

TOSHI　そう。だから、すべて、僕の責任なんです。

——セルフ・プロデュースにしようと思ったのは?

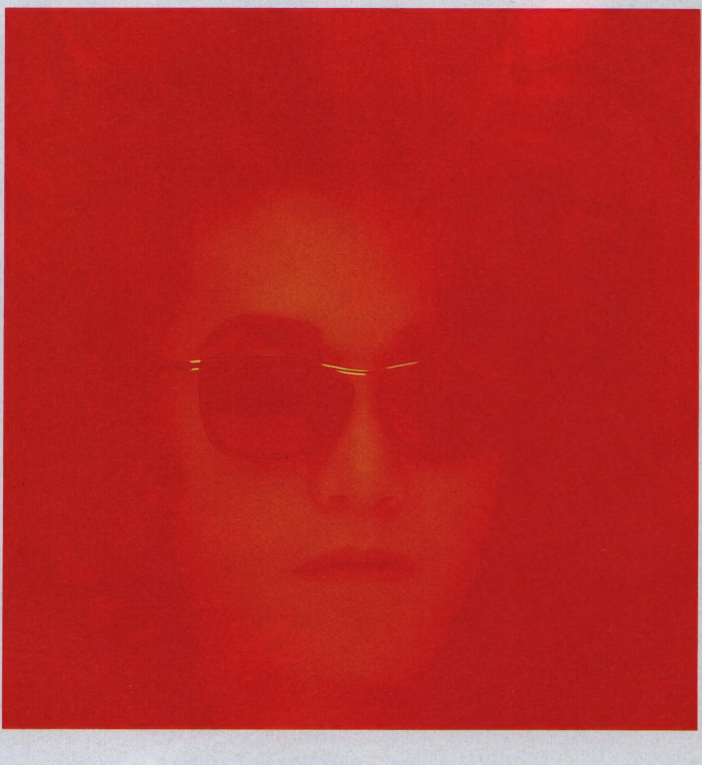
TOSHI　それしか、考えてなかった。人にやってもらうなんて、まったく最初から頭になかったんですよ。とにかく、今回は自分の自由にやりたかった。別に、エックスで自由にやれてないっていうんじゃないけど、バンドにはバンドのノリがあるからさ。バンドの秩序もあるから、そのへんとは違う、自分のわがままなものに、今回は挑戦していきたかったんです。これから先、またソロを作るチャンスがあったら、ちゃんとしたプロデューサーにお願いすることがあるかもしれないけど、今回は最初の経験ということで、自分のやりたいように作ってみたかったんです。

——アレンジャーを、井上鑑さんに頼んだのは?

TOSHI　僕、アレンジャーって、誰がいるのか、よくわからなかったんですよ(笑)。エックスをやってる分には、アレンジャーと知り合う機会なんかないからね。ただ、井上さんは前にWOWOWの仕事を一緒にやったことがあって、僕が会ってしゃべったことのある唯一のアレンジャーさんだったんです。それで、井上さんがどんなアレンジをするのかなっていろいろ今までの作品を聴いてみたんだけど、結構、面白くて変わったアレンジをしてるんですよ。井上鑑さんっていうと、どうしても「ルビーの指輪」のイメージが強いんだけど、それ以外にも面白い作品をたくさん作っている。僕の歌は正統的なものが多いと思うんで、それに井上さんの斬新なアレンジが加わったら面白いなと思って、それで一緒にやることになったんです。

——日本での作業はほぼ終わったわけだけど、全体としては、どのくらい進んでいるの?

TOSHI　七割くらいかな〜。まだ歌録りも残ってるし、オケも残ってる。あとは、LAで時間のある時に、少しずつ作業を進めていくっていう感じですね。



——このテープに入ってる4曲は、ほぼ完成しているの?

TOSHI　いやいや。まだTD前だし、これから、ずいぶん変わると思いますよ。とりあえず、このテープは、今、入れてある音を全部出してあるんで、ここからさらに省いていったり、もっと足したりの作業があるんです。世に出るときはかなり変わるんじゃないかな。

——このテープは取材をする人だけに聞かせるものだそうだけど、4曲ともスローなナンバーだよね?

TOSHI　別に、スローな曲ばかりを選んだんじゃなくて、たまたま人に聞かせられる段階までいってる曲が、この4曲しかなかっただけなんですよ(笑)。一応、取材に来てくれる人に、なにかの資料を渡さなくちゃって思ったから作っただけのテープですからね。深い意味は、ないんです。

——でも、この4曲から想像すると、アルバムは広がりのあるバラードが多くなるんじゃないかなっていう気が、するんだけど?

TOSHI　外国のミュージシャンでもそうだと思うんだけど、ソロを作るときって、自分のバンドの音楽に近いものを作るか、まったく別のものを作るかっていう、ふたつの方向性があると思うんですよ。それが、俺の場合、大雑把にいうと、エックス寄りの音楽じゃなかったということですね。全体的に、バラード系っていうか、歌いあげる系の曲が、多いです。ただ、「ENDRESS RAIN」とか「SAY ANYTHING」みたいな、みんなで大合唱っていうバラードとも、またちょっと違うんですよ。キィも幅を広げて、エックスで使ってない低い音とかも、使ってます。高音で張る部分より、低いほうのレンジを広げた感じかな。

——それは、最初から考えていたこと? それとも、やっているうちにだんだんとそうなってきたの?

TOSHI　最初から、そう考えてました。気持ちのうえでは、エックスでできない部分っていうか、エックスでは表現できない部分を、ソロとしてやりたかったということですね。

——この4曲のなかでは、アルバム収録予定曲の「Beyond the time」が、今までのTOSHIといちばん違う面が出ていると思うけど? ファルセットで歌ったり。

TOSHI　そうですね。今までファルセットは、ほとんど使ったことがないから、感じが違うと思う。曲調も詞も、新しくお見せする一面だと思いますね。パッと聞いたときに、なんとなくクリスマスのイメージが浮かんだんで、そういう詞を書いたし。今まで録った曲のなかでも、個人的にすごく気に入っている曲のひとつです。それで、この曲でギターを弾いているのが、実は、坂崎さん(アルフィー)なんですよ。ここのアコースティック・ギターを、是非、彼に弾いてもらいたくて、来てもらいました。

HEAVEN=真実

——「made in HEAVEN」がシングル候補曲になっているけど、これはほぼ決まり?

TOSHI　うん、たぶん、この曲でいくんじゃないかと思う。

——この曲って、最初にスタジオに行ったとき、音を作ってた曲だよね?

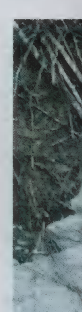
TOSHI　そう。この曲は、いちばん最初にできた曲で、いちばん最初に作業を始めた曲。録り始めたのも、この曲が最初だった。

——作曲はTOSHIだけど、シングルを意識して作った?

TOSHI　俺は、そんなふうには思ってなかった。どれがシングルとか、そういうことは意識せず、思いつくままに曲


made in

SHI
HEAVEN



「苦しみも楽しみも嬉しさも幸せも不幸せも全部自分の気持ち次第。その人にとってのHEAVENは存在するんだ」

を書いたり詞を作ったりしてたから。ただ、アルバム全体というか、今回のプロジェクト全体のイメージが、言葉でいったらHEAVENなんで、最初のシングルとしては、わかりやすいんじゃないかなと思ったんです。曲も受け入れやすい感じだし、アルバムを暗示させることもできると思うんで、多分、この曲がシングルになるでしょう。

──今、アルバム全体、このプロジェクト全体のイメージがHEAVENだといったけど、それはどういうことを意味するの?

TOSHI　それは、松井さんと話しているときに出てきたアイデアなんだけど、俺はHEAVENっていう言葉に、いろんな意味があるんじゃないかと思うんだ。「VOICELESS SCREAMING」のなかでも、HEAVENっていう言葉を使ってるんだけど、それは「真実」っていう意味で使っているのね。そういうふうに、HEAVENって人によっていろんな意味に受け取れて、すごく大事な言葉なんじゃないかと思うんですよ。誰にでもその人にとってのHEAVENっていうものは、存在するんだっていうか、すべての基準は自分にあるっていうことを、この言葉にこめたかった。苦しみも楽しみも嬉しさも幸せも不幸せも、人が決めるんじゃなくて、全部自分の気持ち次第。そういう心を持っていれば、いつでも天国っていうか、気持ちのいい状態にいれるんじゃないかなって、そういう感じですね。全体的にそういうアルバムに、なるんじゃないかと思います。

──どんな意味にもとれるといっても、HEAVENという単語を聞いて邪悪とか攻撃とかを連想する人はいないと思うのね。ということは、アルバム全体がハッピーというか、ポジティブな方向性を持っているということ?

TOSHI　完全に、ポジティブ。まぁ、いろいろあっても、最終的にはいい方に向かってるっていうか。だから、絶対に絶望で終わらない。最近の自分の気持ちが、そうなんですよ。人間だからいろいろなことが起こるけど、きっと大丈夫だよっていう、得意の根拠のない自信がここにもあらわれてますね(笑)。そういうポジティブな気持ちを常に持っていたいと思うし、それが現在の正直な気持ちだから、歌で表現したかったんです。

──この曲には、ストリングスが入っているよね?

TOSHI　うん。入るべくして、入った。井上さんと相談して、「ありきたりのストリングスは、やめよう」っていうことになって、よく聞くと面白いアレンジで面白い入り方をしてるんですよ。

ストリングスは絶対必要だった

──全体的に、ストリングスの占める割合って、多いよね?

TOSHI　うん、多い。曲を作っているときやアレンジを考えているとき、自分の頭のなかで、自然にストリングスが鳴っちゃうんですよ。そしたら、井上さんも、まだ俺がなにもいう前から、同じことを思ってたそうなんですよ。だから、ストリングスに関しては、はじめから二人の意見は、同じだったということなんですよね。それで、井上さんがいいアレンジをしてきてくれるから、アルバムのなかで占める割合がだんだん増えてきちゃったんですよね。

──最初から、ストリングスは入れる予定だった?

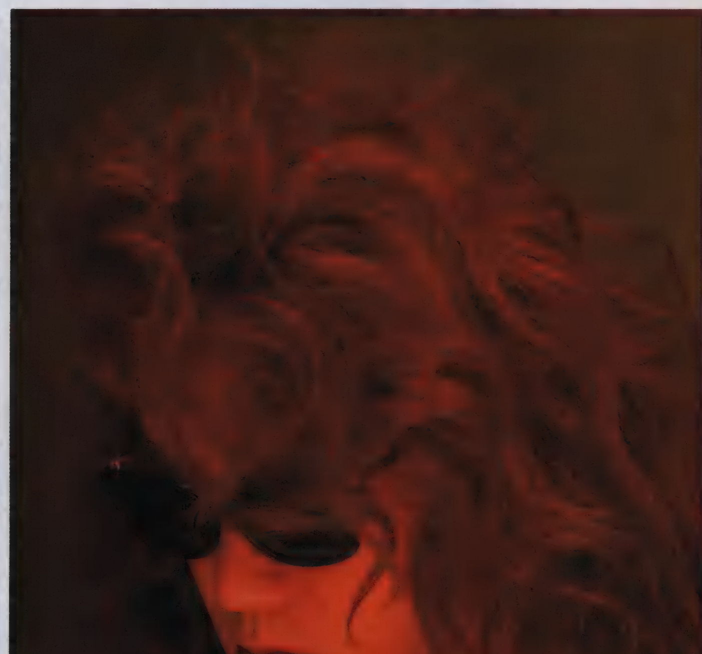
TOSHI　うん。それは、もう、絶対。キーボードでできないことはないんだけど、あの情感は弦でなければ出せないからね。それで、今のところは、つめられるだけ音をつめてしまおうっていう作業なんで、あとから曲やアルバムの全体像をみて、音を減らしていくことになると思う。やってるうちに、どんどんいろんな音が欲しくなっちゃうんだよね。「あぁ、ここに弦の音が入ってたら、カッコいいな」って、すぐに思っちゃう。だから、これから、それを削る作業をしていかなくちゃならないんだ(笑)。

──バックには、サイモン・フィリップス(ドラムス)をはじめ、外国のミュージシャンが参加しているけれど?

TOSHI　本当は、誰でも良かったんですよ(笑)。でも、どうせやるのなら、普段、一緒にできないような人とやりたいなと思っていたし、世界の一流ミュージシャンはどんなふうに演奏するんだろうっていう個人的な興味もあったんで、参加してもらいました。何人か候補をあげたんだけど、ちょうど井上さんが知り合いだったのと、ラッキーにもスケジュールがあったんで、サイモンとスチュワート(ベース)にきてもらったんです。

──実際に一緒にやってみて、どうだった?

TOSHI　やっぱり、テクニックはすごいですよ。サイモンがたたいて、イメージが全然変わっちゃった曲もある。たたきたい放題(笑)。どこか、YOSHIKIと共通するところがあるよ(笑)。でも、本当に真剣にやってくれたし、音楽に対する妥協許さない姿勢っていうのは、すごく嬉しかったですね。



──シングルカップリング候補曲の「Welcome to my destiny」も、オーケストラの入ったミディアム・バラードだね?

TOSHI　この曲、最初は、全然、雰囲気が違ってたんですよ。最初はもっと重いバラードっていうか、違う感じの曲だったんだけど、俺と井上さんでいろいろいじって、こういうふうになったんです。クイーンっぽい感じにしたかったんで、ギターも(ブライアン・)メイさんみたいに弾いてもらってます。フレディ・マーキュリー追悼ということで(笑)。

──サビの前で、オーケストラと歌が絡むところなんて、歌がずいぶん難しそうだけど?

TOSHI　実際、この曲、難しい歌なんですよ。でも、気合いをこめて歌ったら、わりとスムーズにいきました。最初の部分も難しくて、変な音階を使ってるんですよ。なかなかピッチがとれないで苦労したんだけど、まぁ、うまくいったんじゃないでしょうか。

──全体的に、歌入れはスムーズに進んでいるの?

TOSHI　そうですね。いつもに比べれば、スムーズです。

──それはいつもがエックスだから……。

TOSHI　比べる対象が、悪すぎますね(笑)。でも、エックスの曲は声を張ることが多いから、何回も歌うと喉が疲れちゃうんだけど、今回はそういう歌は少ないですからね。そういうとこで、何回歌っても声が出なくなるっていうことがないから、余計にスムーズに感じるのかもしれないな。

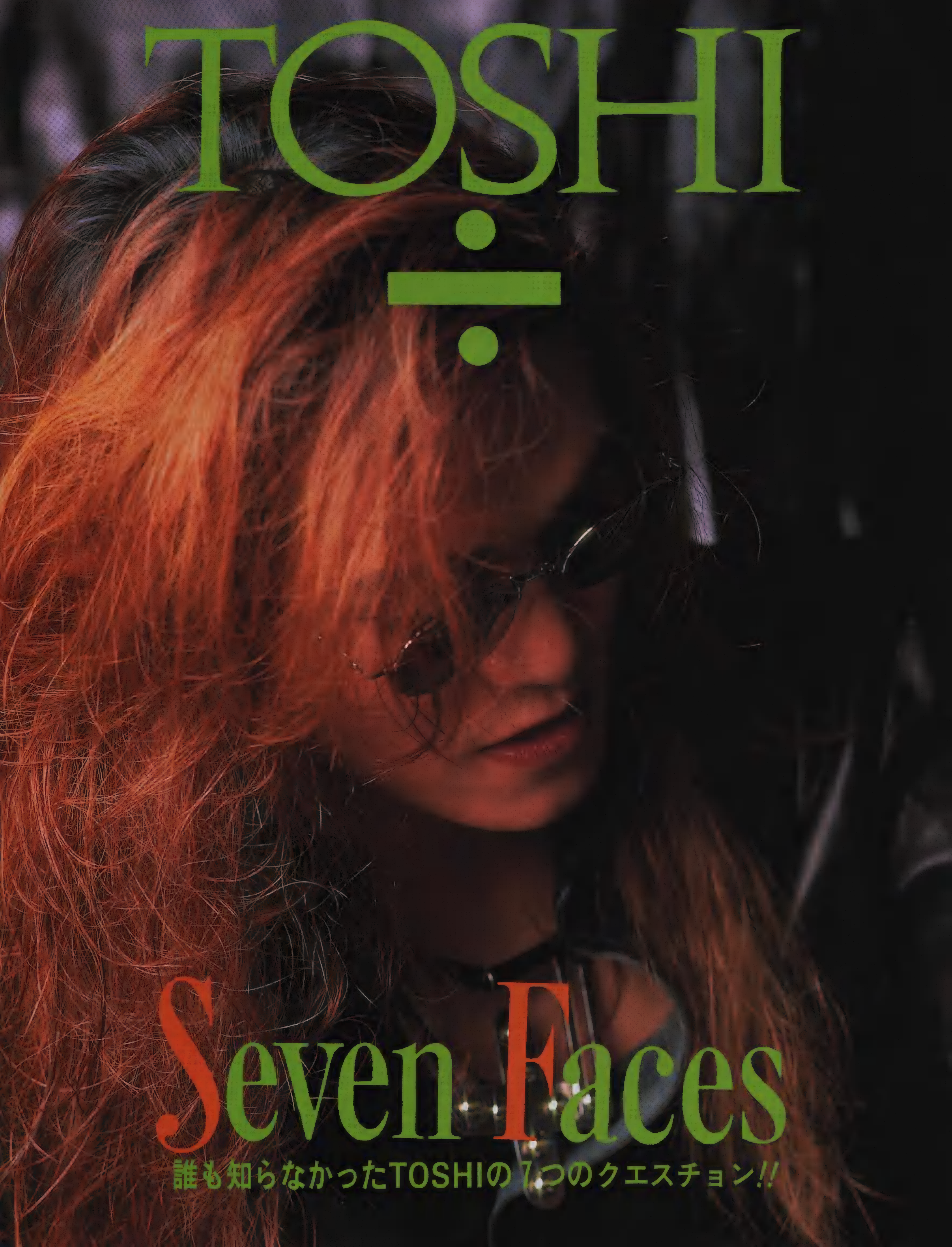
──最初のキーワードは「生の音」を大切にしたものだといってたけど、アルバムの中にはアコギだけの曲とか入る?

TOSHI　一応、入る予定です。ストリングスとピアノだけの曲はあるんですけど、その他にもアコギだけの曲か、ピアノだけの曲をできれば入れたいですね。それは、今後の状況によりけりなんで、まだなんともいえないんですけど。音が厚い曲はもうたくさんあるんで、全体のバランスを考えて、入れるか入れないかを決めたいと思ってます。

──それは、これから決まるんだ?

TOSHI　そう。一応、日本での作業は一段落したけど、まだ制作の途中段階なので、これからまだまだ変わるかもしれません。ただやっと全体像が見えてきたんで、本人としてはちょっとホッとしているという状況です(笑)。


made in



TOSHI

Seven Faces

誰も知らなかったTOSHIの7つのクエスチョン!!



TOSHI Seven Faces

●指揮者

実は、俺、指揮者になりたかったんですよ。なんか、すごく好きなんです。だって、カッコいいじゃない〜。昔は、部屋を真っ暗にして、ステレオから大音響で曲を流して、ひとりで指揮をしてました。部屋にあるスポットライトをひとつだけつけて、それを自分に当ててね（笑）。高校生の頃だったかな。でも、それをやってると、世界に入っちゃうんですよ。だから、この前もスタジオでオーケストラ録りを見てたとき、ひとりで、つい指揮をしちゃったりして。癖で、ついつい腕が動いちゃうんです（笑）。だから、自分の曲をあんなにたくさんのオーケストラの人たちが弾いていると思ったら、なんだかすごく感動しちゃいました。エックスでもいつもオーケストラとやってるけど、今回はソロだから、感動はより大きかったです。

●ダイエット

別に、ダイエットをしてるわけじゃないけど、レコーディング中は食事に気をつかってる。スタジオにずっといて、特に、自分が歌うとき以外は、卓にず〜っと座ってるだけじゃない。体が、なまってきちゃうんだよね。それで、今はスタジオにお菓子を置かないようにしてるんですよ。お菓子なんか置いてあったら、知らないうちにポリポリ食べちゃうから。顔だけゲッソリしてるんだけど、体は太ってきちゃうんだよね。あと、喉のために蜂蜜を飲むから、知らず知らずのうちに甘いものをとりすぎてしまう。レコーディング中はいいんだけど、レコーディングが終わるとジャケット撮影とか、取材とかが始まるじゃない。そのときになってから、あわてても遅いからね。なるべく、レコーディング中から、気をつけるようにしてるんです。

●喉

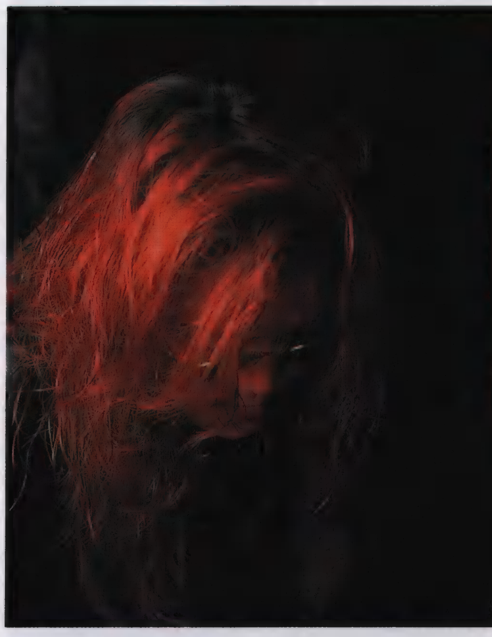
レコーディング中は喉に気をつかってたけど、でも、エックスのときほどナーバスにはならなかったかな。エックスの曲はハイトーンが続くし、スケジュールが厳しいから、とにかく喉には気をつかわなくちゃならないんですよ。あんまり普段は大声を出さないようにしたり、辛いものを避けるとか、食事に気をつかったりね。でも、今回は、精神的にも楽しいから、それほど、神経質にはなってないですね。音楽の楽っていう部分を、ちゃんと残しながら、レコーディングをやってるから。エックスの場合、音苦だから（笑）。もちろん、プレッシャーはあるんだけど、「楽しく作ろう」っていうのが今回のテーマなんで、できるだけ悩んだり落ち込んだりはしないようにしてます。苦しむレコーディングは、ちゃんと先に待ってますからね（笑）。

●祭り

実は、時間のないレコーディング中に、恒例の地元のお祭りに行ってきてしまったんです。本当は行かないつもりだったんだけど、唯一の休みをそこに使ってしまったんですよ。でも、楽しかったですよ。いい息抜きに、なったと思います。別に、特別に何をしたというわけじゃなく、お神輿を担いで太鼓をたたいたっていうだけの、普通の祭りなんですけどね。それで、太鼓をたたきすぎて、手に豆を作っちゃったんですよ。まだ、痛い。普段、太鼓のバチなんか持つことってないから、豆ができて、それが、破れてしまった。それで、神輿を担ぐときに声は出すし、木やり（鳶職の人などが、歌う歌）は歌うし……（笑）。一応、最初は、祭りに行っても、声は出さないようにしようと思ってたのね。レコーディング中の大事な時期だから。なるべくお酒も飲まずに、騒がずにいようと思ってたんだけどさ。木やりは歌うわ、はしゃぎすぎるわ、飲みまくるわ……。でも、自分では、押さえてたつもりなんですけどね（「TOSHIは、血管、切れてた」というマネージャーの声）。あ、「血管、切れてた」というマネージャーの証言がありましたから、傍目にはそう見えたんでしょうね。でも、あれでも、いつもよりは押さえてたんですよ。

それで、祭りの翌日からレコーディングの予定だったんだけど、まったく声が出なくて（笑）。しゃべる声も出ないくらいだったから、「やばいな〜、ディレクターに怒られる」と思ってたら、うちのマネージャーが工面してくれて、その日は休みになったんですよ。でも、その日一日ゆっくりできたから、海にドライブに行ったりして、すっきりできた。普段はドライブなんてする時間がないから、









TOSHI ∴ Seven Faces

なんだか、リフレッシュしましたよ。それで、その翌日はたまたまオーケストラ録りの日で、僕は歌わなくてすんだから、その日も喉を休ませることができました。だから、祭りの日の翌日とその翌日、喉を使わないですんだんで、その間に声もなんとか立ち直りました。まぁ、まわりの人には迷惑をかけたけど、自分としてはいい気分転換にもなったし、「これから、やるぞ」っていう気にもなれたんで、無理してお祭りに行ったことは、良かったんじゃないかなって思ってます。でも、来年はもう行きません（笑）。

●海外

エックスのレコーディング場所は、またLAなんですよ。前回、レコーディングから戻ってきたときは、LAの印象って最低になってたんだけど、それはレコーディングがつらかったからなんです。楽器チームがLAが好きだし、今回は海外進出っていうことがあるんで、いろんなことを吸収するためにも、あっちに行ってないとね。NYと比べたら、やっぱりLAかなっていう気がするし。俺自身としては、どこへ行っても同じだと思ってます。日本だろうが、オーストラリアだろうが、ガラパゴスだろうが、天国にいちばん近い島だろうが、もう、どこでも同じ（笑）。ただ、個人的には、今、イギリスにすごく興味がある。結構、最近、イギリスの音楽シーンにも注目してるしね。UKチャートなんか見てると、メチャクチャでしょ。無名の企画物みたいなアルバムが、大ヒットしちゃったり、変なバンドが受けてたり。アバンギャルドでへたくそなバンドが人気あって、とにかく、なんか面白そうなんだよ。井上さんがイギリスが好きで、今も行ってるし、今回、呼んだミュージシャンもみんなイギリスの人だから。まだ一度も行ったことがないんだけど、オフで行けたら、きっとすごくエキサイティングできるんじゃないかと思います。でも、レコーディングじゃないよ、あくまでオフだからね、オフ（笑）。

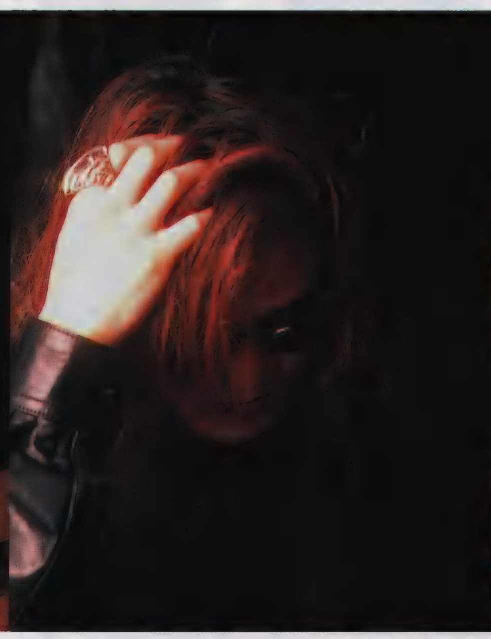
●オールナイト・ニッポン

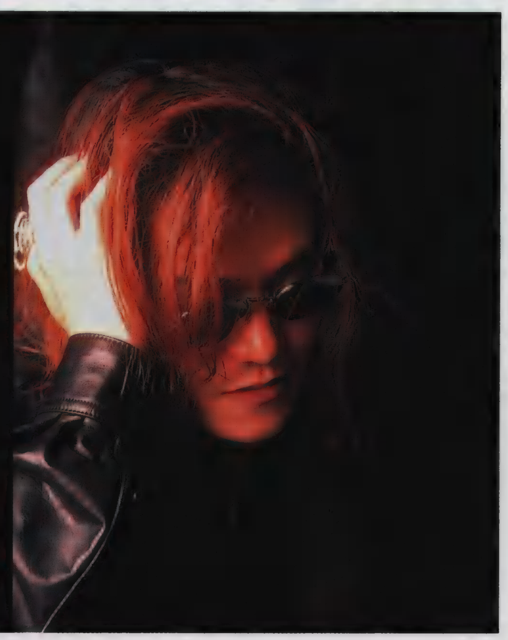
『オールナイト・ニッポン』は、高校時代にずっと聞いてた番組ですからね。第一回目に出演したときなんか、緊張して何をしゃべったのか、まったく覚えてなかったですよ。最初の1ヵ月くらいは、ずっと緊張しっぱなしでした。ラジオには慣れてたけど、『オールナイト』は自分にとって特別な番組だったから、8月いっぱいで終わってしまうのは、とっても悲しい。できれば、もっと続けたいですよ。やっと緊張が解れて、波にのってきたかなっていうときでしたからね。でも、エックスがずっとアメリカに行くことになっちゃって、物理的にどうしても続けていくことが不可能なんで、とりあえず、おしまいです。応援してくれたみなさん、ありがとうございました。

●エックス

8月の下旬に全世界発売の契約をしたんで、それに向けてのレコーディングを、まず始めます。それは、形としては、今までのベスト盤＋新曲になるんじゃないかと思います。それから、『ART OF LIFE』、『Jealousy』に続くニュー・アルバムのレコーディングにも、順次、とりかかっていく予定です。まず、楽曲が出来上がっているものから、作業を始めるでしょうね。実は、ニュー・アルバム用の曲は、まだほとんどできてないんで、向こうでリハーサルから始めなければならないんですよ。まぁ、これは今現在の予定なんで、実際にどうなるかはわかりません。なにしろ、エックスのことですから（笑）。でも、ヴォーカルは大変だよ～。全世界発売のほうはイングリッシュ・バージョンなんで、今までの歌としての基準＋英語っていう難関が待ってますから。もう、HEAVENどころか、HELLでしょうね。でも、越えなければならない関門だから、やるっきゃないでしょう。それもあって、この時期に自分のソロを作りたかったんですよ。今を逃したら、1年……いや、へたしたら2年くらいは、こういう機会はないと思うんで。だから、この1ヵ月半、寝る時間も惜しんでソロを作ってたわけだけど、自分としては良かったと思う。まだ、作業は残ってるし、アルバムが完成したわけではないんですけどね。エックスとしての日々が始まる前に、自分の作品が作れたっていうことは、TOSHIに戻ったときにも、きっとエックスのTOSHIに戻ったときにも、プラスになっていると思ってます。





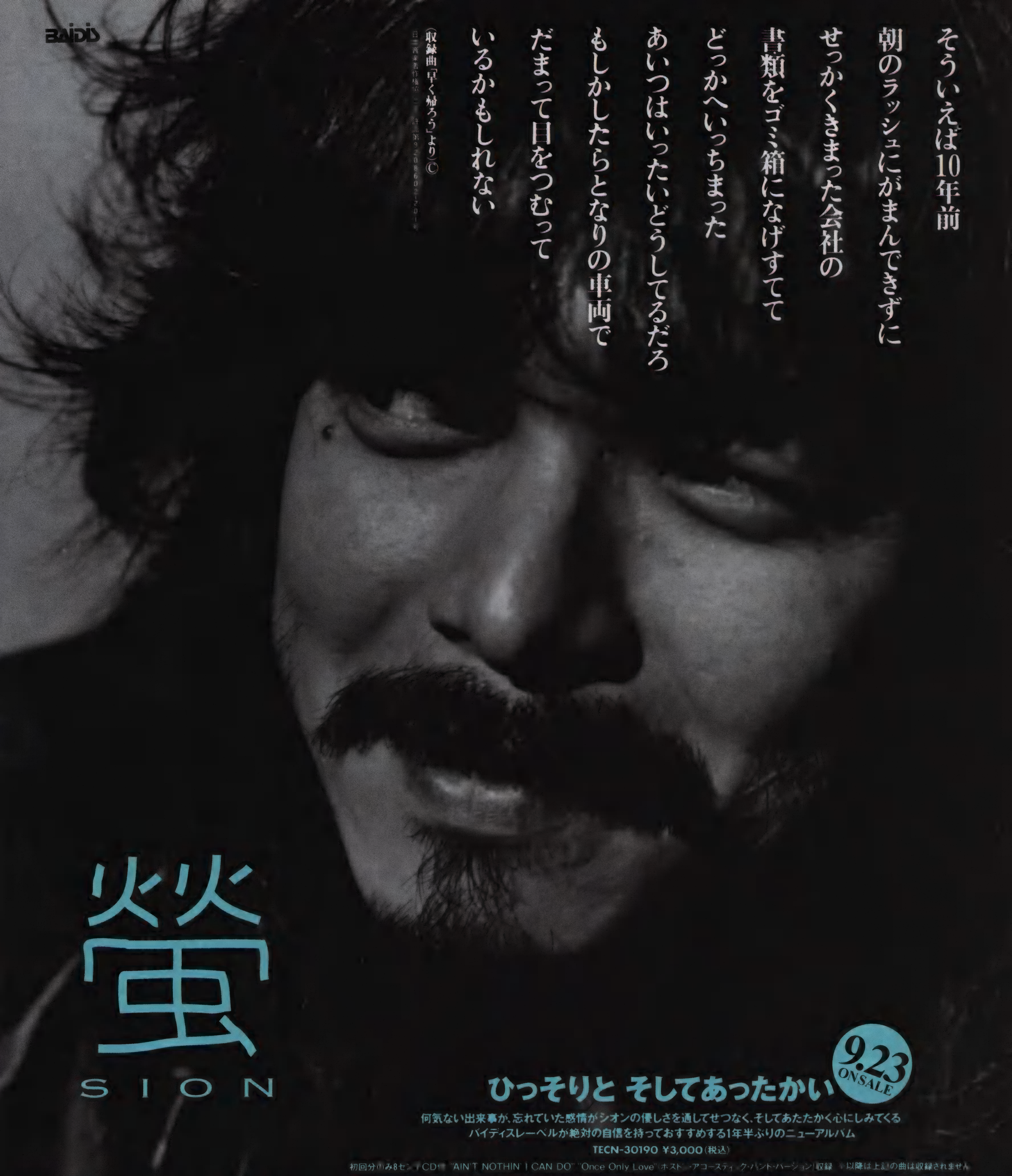




〈きりとり線〉

雑誌注文書	●書店(番線)印	●受注 月 日	●部数	●担当者
		●書名 メイキング・オブ TOSHI 予価2000円(税込) 10月19日発売予定		
		●あなたの名前	●TEL	
		●あなたの住所 〒		
	雑誌扱い	●出版社名 ㈱音楽専科社 〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F ☎03(3574)0201 FAX.03(3574)8548		

※この注文書は切り取らないでコピーしたものでもかまいません。



SIONビデオコンサート「ALL ABOUT SION」

デビューから現在までのライブ、ビデオクリップ、シオン自身のトークや貴重な証言などでつづる必見ビデオを公開!! 参加資格▶シオンに興味のある人

■9/23(祝・水) 渋谷「THE AIR」14:00〜 横浜シアル4F「POCO A POCO Ⅰ」15:30〜 問/テイチク東京営業所03(3578)8821 ■9/23(祝・水) 新潟プラーカ1「遊とぴあホール」14:00〜 問/テイチク関東営業所03(3578)8891 ■9/25(金) 福岡天神イムズ5F「三菱ソシオテックプラザ」18:30〜 問/テイチク福岡営業所092(714)1871

当日ニューアルバムの即売有り!! 会場購入特典も用意しています!! ※他の地区は終了しました。

SAVE YOUR STOMACH TOUR

■10/3(土)仙台BEEBベースメントシアター ■10/5(月)名古屋ダイアモンドホール
■10/6(火)大阪厚生年金会館中ホール ■10/14(水)札幌ペニーレイン24

■10/16(金) 東京NHKホール

問/ウォークオンシオンFC 03(3479)4728
(このあと当分の間ライブを休ませて頂きます。)

うれしいことにKATSUMIが早くもベスト・アルバムをリリースしてくれる。
といってもKATSUMIのこと、大半がリミックス、新曲も2曲はいっている。
KATSUMIフリークはもちろん、これからファンになろうとしてる人には最高のプレゼント!

本当にいいバラードが歌える歌い手でいたい

ベスト・アルバム『LINKAGE』9月23日リリース!

インタビュアー/関根章喜
撮影/大西基



LINKAGE BESTSELECTION INTERVIEW

KATSUMI

僕の場合は1対1のラブソングでも社会的なメッセージソングでも、僕自身の内面を探るところから全部発生してるんです



デビューして約2年半、アルバム3枚でしっかりとした自分の世界を作り上げたKATSUMI。9月23日にはその世界に一つの区切りをつけるベスト・アルバム『LINKAGE』リリース。〝LINKAGE〟とはつながりを意味する言葉だが、KATSUMIは彼らしく、それを輪廻という大きなテーマに昇華させている。そしてそれは3枚のアルバムをつなぐものであると同時に、聴き手とKATSUMIをつなぐ大切な〝LINKAGE〟でもある。

曲は「危険な女神」を始め、今までのシングルやCFで使われたナンバーが中心となり、彼のポップ性が存分に発揮された作品集となった。また新曲2曲、リミックス曲8曲と、メロディ、サウンドなどで新たな部分も垣間見せるなど、完成度の高いベストに仕上がっている。

次のステップのための一区切り

—初のベストアルバムですね。

「そうですけど、元々こんなに早く出す予定ではなかったんですよね。でも以前からアルバム3枚で3部作の一区切りということを言ってたんで、ここでそれをまとめちゃうのも、次にいきやすいかなという気持ちで作ったんです。出来としてはポップな曲が並んでて、どちらかというと僕をすでに知ってくれている人よりは、知らない人のためにという気持ちが強いかもしれないですね」

—タイミング的にはすごくいい時期だと思いますけど。

「あまり時期的なものは意識してなかったんですけど、結果的にそうなったみたいですね。最近ずっとリリース関係がなかったですから（笑）、新曲が2曲あるんですけど、それをシングルにするかどうかとか、いろいろ話はあったんですよ。でも、その新曲もベスト・アルバムという形の中に入れて一区切りさせちゃえば、次のステップのための気持ちの整理もつくかなというのはありましたね」

—選曲としてはシングルやポップなものを集めようという？

「シングル・カットになったものを集めようとは思わなかったんですけどね。ただ2枚目、3枚目とコンセプチャルなものを作ってきたというのがあるんで、ベスト・アルバムまでコンセプチャルになっちゃってもあんまりかなと思いまして。だからベストとしては、みんなが知ってると思われる曲を並べるのと、コンセプト的に僕の考えてきた足跡みたいに並べるという2通りしかないと思ったんですけど、今回はやっぱりもっといろんな人に知ってほしいという思いが強かったんで、そっちの方を選んだんですけどね」

—リミックスされているものもありますけど、これは何か意図がありました？

「僕の場合、以前からレコーディングしてる時にすでに打ち込みバージョンとか生リズムバージョンとか、いろいろなバージョンを作っていくんですよ。それで、後戻りはよくないんですけど、あの時のあの曲はこういう音を入れとけばよかったなとか、こういうバージョンも良かったなとかっていうのがなきにしもあらずなんで、そのへんのところを今回できたかなというのはありましたね」

—サウンドの統一感みたいなものは考えました？

「いや、元々はそんなに考えてなかったんですけど、何人かのエンジニアがいる中で、今回は最終的に一人のエンジニアにやってもらったんです。で、その彼との気持ちの通じ合いみたいのがあったんですよね。どちらかというと僕の場合、コンセプチャルでメンタルなかんじのものが多いですけど、そういう世界が好きな人だったんです。何で僕がこういう詞を書いているとか、何でこういうメロディなのかというのをわかってくれてるというのが大きいかなという。だから細かいところはいろいろ話しましたけど、基本的にはあまりこざかしいことは考えずに、好きなようにやってもらったんですよ。だから聴こえなかった音も聴こえるようになってきたし、エンジニアが絞ってるということも統一感が出た理由だと思うんですけどね。1枚目から3枚目まで、アプローチも声質も違うのに、それほどバラけて聴こえなかったというのは自分でもビックリしたんですよ」

リミックスで奥行きと質感を出した

「例えば「ONE」とかはもう一度ミックスし直したかったんでやってもらったんですけど、バラード系はけっこう奥行きがあって、今回かなり満足してるんです。全体的にも今回のリミックスはとても奥行きと質感が出て、ピュアなかんじがするんですよね。一つ一つの音がちゃんと聴こえるというせいもあると思うんですけど、どうせなら平面的なかんじでズラッと並んでるよりも、奥行きがあるミックスにしたいなというのもありましたから。だから「Tonight Spend Together」とかも、1枚目の時は生リズムが入ってなくてけっこう淡々としたクールなかんじのバラードだったんですけど、今回は生のドラムを入れたりして、ドラマティックになってたりするんですよ」

—確かに音の押し引きがクリアになってますよね。

「そう、やっぱり不思議なもので、エンジニアが違うと変わってくる部分ってありますね。もちろん1枚目、2枚目のミックスも好きでしたけど、今回のはとてもシェイプアップされたかんじがする。それとツアーの感触を入れたというのもありますね。生のブラスやリズムを入れて、ライヴのグルーヴ感を出したいという。そのへんが違ってるかなというのと、あと全体的に歌も大きくしてあるんで、かなり歌が聴こえるかなというのもありますね」

――曲の並びは考えました？

「曲順はけっこう悩みましたね。ただ最後に「For You」で終わるというのは狙いでした（笑）。歌を歌ってる人なら誰でもバラードは大好きだし、今までシングルにもなってないでそれほどクローズアップされてないんですけど、これから本当にいいバラードが歌える歌手でいたいという思いもあるんですよ。で、「For You」というのは聴いてる人たちにとても人気がある曲ということもあるし、「ONE」みたいなメッセージ性のあるものよりは、1対1のパーソナルなかんじで終わらせた方が全体がしまるかなというのがあったんです」

――自分で全体を通して聴いてみて、自分自身のデビューからの歩みみたいなものを感じます？

「感じますね。もちろんそんな遠い昔じゃないんで、あの時はああだったなとかって、けっこう楽しんじゃう気持ちの方が強いんですけど。でもやっぱり基本的には1枚目にはすごくバネがあったと思うし、2枚目はちょっと荒いけどパワフルだなっていうのはありますね。ただボーカルに関しては、入れ直したくなかったんです。昔の歌は、その時のテイクがそれなりにベストだと思うんで、レコードで半永久的に残るものはいじりたくないというのがあったんですよ。だから歌はそのままなんで、生々しい成長の跡が伺えるみたいなところはありますね」

――具体的にはどんな風に？

「1枚目の時はテクニックうんぬんというよりも、全体的にこれからデビューなんだというのが無意識的にあって、とてもキラキラしたかんじというか、そういうエネルギーがあったような気がするんですよ。で、2枚目、3枚目になってくると、余裕も出てくるんだろうけど、押しの強さみたいのがあったりしますね」

「僕の中での輪廻ととらえています」

――ずっと以前から3部作と言ってたから、今回のは本当に精神的な部分での区切りというのが意味が大きいでしょうね。

「そうですね。特に2、3枚目とコンセプチャルなものを作りましたけど、僕が持ってるテーマ性みたいなものってしばらくはあまり変わらないと思うんですよ。そういう意味でも、これから作るものが似ちゃう恐れがあるんで、3枚目までは1ステップでしたという区切りをつけたんだというのがあるのとないのとでは、これから曲を作っていく上でだいぶ違うだろうなと思ったことも確かですね」

――詞の方の変化はどうですか？

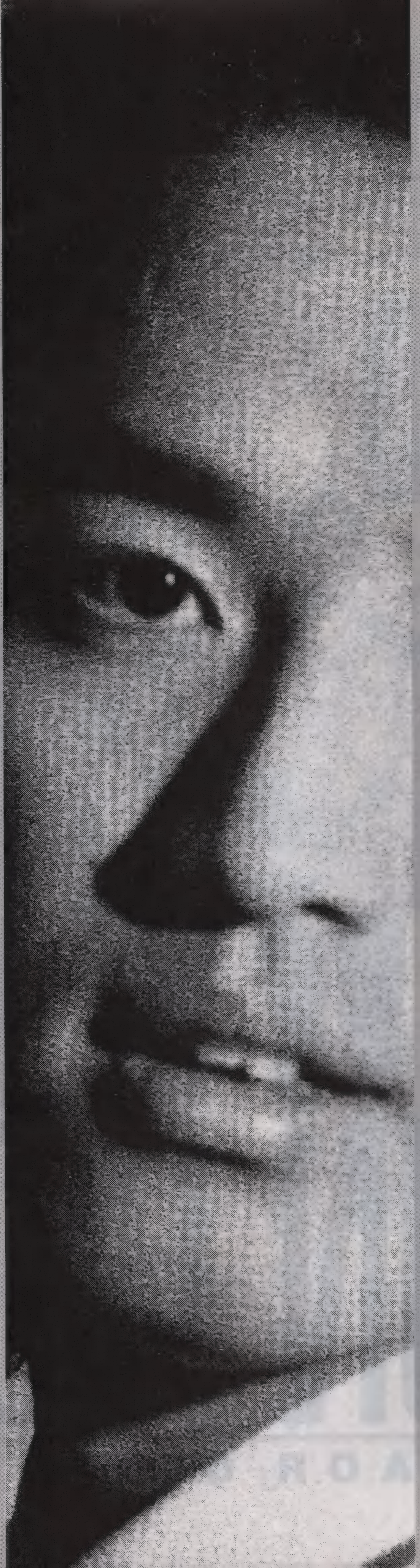
「1枚目の時は言葉の使い方みたいな部分で肩の力が入ってるというか、よく言えば考えてたというのはあるかなと。かといって今は考えてないかといえばそれはちょっと違うんですけど（笑）、あの頃は言葉を選びすぎてたような気はしますね。形にするために難しい言い方をしてみたり、かっこよさそうな言葉を選んでみたりとか、自分の気持ちを出すのにお化粧が多かったというか。それがでも2、3枚目からはシンプルになってきて、あまり小手先ではやらなくなった気はしますね。頭に思いついたものをごまかさないで書いてるというか、最近は好きなら好きって言っちゃえみたいな、口語的な書き方が多いから、これからどうやって新しいものを見つけるかとか、そのへんはこれからの課題だと思うんですけど。いわゆる自分っぽい書き方になっちゃえば、それはそれでいいんですけど、シンプルというところでは行き着く所まで行っちゃった気がするんで、これから新しいステップのために風呂敷を使わないといけないわけだから、それを見つけるのに苦労しちゃうかなというのはありますね。今はもう新しいやつを書いてるんですけど、どうしてもどこか昔のものをひきずってるところがありますから。例えば本とか映画とか誰かの言葉とか、そういうものからインスパイアされるものから影響力みたいなものを磨いていかないといけないんですけど、あまり意図的にこざかしいことはしたくないんで、そのへんはザックリといきたいと思ってるんです。僕の場合は1対1のラブソングでも社会的なメッセージソングでも、ベースになるのは僕自身の内面を探るようなところから全部発生してるんで、まず自分がいて、自分の中から出てきたものでしかないというか」

――タイトルに関しては？

「まず単にベストというより、何かタイトルがほしかったというのと、あとは今までの流れと違うものにはしたくなかったんで、つながりという意味でつけたんですけどね。1枚目から2、3枚目とつながってますよみたいな（笑）。それと僕の中では輪廻という大きな意味でも捉えてるんで、そういうのは僕っぽいかなと思ったんですよね」

――アルバムの話はこれぐらいにして、最近の近況としてはどうです？

「最近は体を動かしたいというのがあって、スポーツをやってるんですよ。ゴルフとか、あと学生の時バスケットやってたんで、みんなでチームを作ってやろうと思ってるんですけどね。何か体を動かすとリフレッシュできるし、そういう意味でも今年は、仕事のペースを少しダウンさせてるんです。これまでのアルバム3枚までのペースが速かったんで、ペースを落とすというよりマイペースを見つけたいという。だから一応来年1月に4枚目のアルバムを予定してるんですけど、今回は少しだけ期間を延ばして（レコーデング）やろうかなと思ってます」



歓迎、一見のお客様

MASTERS OF JAPANESE ROCK 7

ムーンライダース1年6ヵ月振りのニューアルバム(しかし彼らのインターバルを考えれば異様に短い)がリリースされた。
電脳的コネクションをフルに使った、21世紀のレコーディングであったらしい。
しかし中身はポップ。イキな仕上がり(笑)。今回は鈴木慶一、岡田徹の両氏に仕上がり具合を聞いた。

取材/角野恵津子
撮影/大西 基(★印)



MOON RIDERS

9/30 ALBUM『A.O.R』ON SALE

高野寛、元有頂天、現ロング・バケーションのケラを初めとして、ムーンライダースの信奉者は若手のアーティスト達にも数多い。実際、プレイヤーなど多方面で彼らの名前はよく見かけるし、ヘッドの鈴木慶一氏などは、あちこちのライヴのゲストや飛び入りでちょくちょく顔も見る。彼らは、日本の良質なポップスの首ねっこをぎゅっと捕まえてる集団だといっても過言ではないと思う。

そして彼ら自らの、復帰（?）第2作『A.O.R』がめでたく、1年5ヵ月ぶりにリリースされる。毎回新たな手法で、面白いことをやってくれる彼らだが、今回はメンバーの岡田徹、白井良明の2人にプロデュースを任せるという方式。新方式による新鮮さもずいぶんあったようで、またまた新しいポップ・アルバムができあがった。

——ムーンライダースって、毎回必ずやり方を変えてきますね。

鈴木 うん。どうやって作るかっていうのは毎回変えないと、20年も一緒にいるから同じやり方だと、

岡田 ダイナミズムが保てないんだよね。

鈴木 ともすればテンション下がる。だから、毎回変えるのが最大の長続きの秘訣で、クオリティーを保つ秘訣でもある。

——で、今回こういうやり方をしたのは。

鈴木 まず去年の暮れに6人集まって、2～3曲作ってみようって始めたんだけど、そこで1回止まっちゃったんだよね。何故かっていうと、出来たものがまああいいものだったんだよ。

岡田 うん。とろけなかったからね。

鈴木 このやり方でいくと、テンションの高いものはできないなと。ということは、6人全部が集まってパッとやっていく、去年の『最後の晩餐』の作り方はできないなと。

岡田 『最後の晩餐』がけっこう時間かかってて、それをまだ引きずってるから、6人集まっても時間が重くなる感じがあったのね。そうじゃなくて、やっぱり楽しくなきゃダメじゃないっていうこともあったかもしれない。

2人のファシストを立てたほうがいい（笑）

鈴木 レコーディングには、スタジオ内の複雑なこととか重苦しい空気とか、当然あるんだけど、それは見えないものにしたいなと。それで方法を探っていくと、今度の方式になった。今回テンションを上げるには、民主主義はダメだと。2人のファシストを立てたほうがいいと（笑）。

——でも、ムーンライダースって、みなさんプロデュース能力あると思うんだけど、どうしてこのお2人にしたんですか。

鈴木 それはムーンライダースの中で、一番プロデューサーとしての仕事が多いから。ということは、彼らの需要があるってことじゃない。それは、彼らの何かが回転してるってことだよね。だから、今回自分らをプロデュースするのに、自分らの中の最精鋭部隊を送り込もうと。

——需要があるってことは、彼らが一番ポピュラリティーがあるってこと?

鈴木 うん。そういうことだと思う。

——具体的には、どういうふうに作業は進んでいったんですか?

鈴木 みんながこの2人のとこに曲を送って、相変わらずシンクタンクのようなメンバーは今回もいて、そこでコントロールされて、楽曲がふり分けられていく。

岡田 で、みんな何か自分の仕事もやってるわけで、もしその曲がダメなら（自分で使うから）早いとこ返してくれって。

鈴木 そうそう。また逆に自分でボツにしたのを流してきたりとか、いろいろあるんだ（笑）。

岡田 連絡とるのにもみんな勝手に動いてるから、ムーンライダース集めるのは惑星直列みたいなもん（とても珍しいこと）でとても大変だから、やりとりはフロッピーとFAXと電話だよね。

——じゃあ、前回同様電脳的コネクションはフルに使って。

鈴木 形態はもう、完全にそうだね。

——プロデュースの分担は、どういうふうにしていったんですか。

岡田 自分の曲はまあ、自分でやるでしょ。あとは、いわゆるリズムものはだいたい良明にふろうと思ってたんだけど、まあ自然にうまく半分ずつになったね。

鈴木 そこらへんのやりとりは、私は全

MOON RIDERS ムーンライダーズ

MEMBER

鈴木　慶一／岡田　徹
武川　雅寛／かしぶち　哲郎
白井　良明／鈴木　博文

1975年、それまで鈴木慶一を中心に活動していた伝説的バンド〝はちみつぱい〟を前身として、ムーンライダーズは結成された。バンドとしての最初のステージは、なんと青森県五所川原市でのアグネス・チャンのバックであった。当時のギターは、椎名和夫。のち1977年4月、彼の脱退と同時に白井良明が加入、現メンバーとなる。

1976年1月には、〝鈴木慶一とムーンライダーズ〟の名義でアルバム『火の玉ボーイ』をリリース、多彩なゲストの参加したこのアルバムで、ムーンライダーズは本格的な活動を始める。77年2月には、アルバム『ムーンライダーズ』発売、以後、86年11月の『DON'T TRUST OVER THIRTY』まで10枚のオリジナル・アルバムをリリース、特に78年の『NOUVELLES VAGUES』79年『MODERN MUSIC』80年『カメラ＝万年筆』の3枚のアルバムでは、日本のロック・シーンにおいていちはやくニューウェーヴの要素を取り入れ、尖鋭的で高い音楽性を示した。

81年11月には『マニア・マニエラ』がレコーディングされるも、その完成からわずか1週間後に発売延期となる。（のち82年に発売）理由は時代的に内容が時期尚早であったことであると思われるが、これもムーンライダーズを語るうえでは忘れることのできない事件であった。この直後に作られたアルバム『青空百景』は、メンバーのエネルギーがよりポップな曲づくりにつながり、彼らのアルバムの中でも、名盤との呼び声が高い。

ムーンライダーズとしての活動は86年の『DON'T TRUST…』以来、休止状態であったが、1990年、東芝EMIについに6社目（!）の移籍をし、92年4月、まさに5年ぶりのアルバム『最後の晩餐』をリリース。その後92年9月『A.O.R』リリース。

◀ムーンライダーズ・栄光の足跡

1976
1月25日、『火の玉ボーイ』リリース
2月、アグネス・チャンREC
5月、矢野顕子REC
6月、キャンディーズREC
10月、小室等REC
11月～ 江利チエミREC
『MOON RIDERS』REC

1977
2月25日、『MOON RIDERS』リリース
3月、みなみらんぼうREC
上田正樹REC
4月28日、新宿ヘッドパワー、白井良明加入
5月15日、紀伊国屋ホール
6月5日、高田馬場BIG-BOX
7月2日、大阪三越劇場
8月5日、札幌大谷会館
5日～7日、第1回札幌ロック祭
7日、札幌単細胞
25日、シングル「ジェラシー」リリース
26日、新宿ロフト
27日、下北沢ロフト
9月26日、名古屋勤労会館
10月25日、LP『イスタンブール・マンボ』リリース
12月18日、久保講堂〝ROCK JAM〟リサイタル

1978
2月13日、名古屋雲竜ホール
5月22日、西武劇場
6月15日、LP『サイエンス・フィクション』リリース
12月15日、『ヌーベル・バーグ』発売記念ライヴ
22日、下北沢ロフト
25日、『ヌーベル・バーグ』リリース

1979
1月21日、有楽町日立ローディ・プラザ
2月10日、名古屋電竜ホール
3月10日、新宿ロフト
5月10日、新宿ロフト
7月、『モダンミュージック』REC
8月17日、札幌大谷会館
18日、札幌玉光堂
27日、吉祥寺シルバー・エレファント
9月9日、日比谷野音
10日、池袋サンシャイン劇場
24日、東京芸大
29日、新宿ロフト
10月25日、LP『モダン・ミュージック』リリース
12月14日、新宿ロフト
22日、大阪毎日ホール
23日、名古屋CBCホール

1980
1月25日、シングル「モダン・ラヴァーズ」リリース
2月23日、芝郵便貯金ホール〝MODERN MUSICの向こう側に東京が見える?ムーンライダース・リサイタル〟
7月10日、鳥取ブギランド
11日、大阪OBCホール
12日、大阪スタジオ・アヒル
13日、大阪バーボン・ハウス
14日、京都磔々
19日、新宿ロフト
25日、シングル「彼女について知っている二、三の事柄」リリース
8月25日、LP『カメラ＝万年筆』リリース
9月29日、芝郵便貯金ホール〝ムーンライダース・リサイタル〟
10月4日、京都勤労会館
6日、名古屋勤労会館
8日、大阪厚生年金
10日、福岡都久志会館
11日、広島見真講堂
12日、福井県民会館
16日、札幌道新ホール
18日、仙台市民会館

1981
4月15日、シングル「エレファント」リリース
5月25日、LP『東京一は日本一』リリース（ベスト）

1982
1月25日、新宿ロフト
7月20日、高樹町クリーズ・クリーク
8月25日、シングル「僕はスーパーフライ」リリース
9月25日、LP『青空百景』リリース
11月12日、大阪厚生年金ホール
16日、渋谷公会堂
12月15日、CD『マニア・マニエラ』リリース

1983
6月1日、渋谷パルコ
7月28日、青山タワーホール

1984
1月7日、原宿クロコダイル
18日、仙台電力ホール、No.1バンドと共演、鈴木慶一、白井良明ゲスト出演
5月21日、新宿ロフト〝ZELDA〟ゲスト（鈴木慶一、白井良明）
7月14日、渋谷公会堂
21日、『アマチュア・アカデミー』リリース

1985
9月1日、渋谷公会堂
12月18日、中野サンプラザ
19日、名古屋勤労会館
10月16日、17日、五反田簡易保険ホール
21日、名古屋勤労会館
23日、大阪近鉄劇場大ホール
24日、中野サンプラザ



★

然知らない。見てないとこは全然見てない。ブラインド状態といわれている（笑）。

岡田 慶一が耳にしているのは、だいたいこの曲で行くっていうラインのデモ・テープと、次にほとんどオケが完成した状態のもの。それにメッセージをつけて送ると、今度は慶一がこういってたって伝えてくれる伝書バトがいてね。やっぱり、今慶一がどう思ってるかっていうのは、なんとなく伝わるのね。最初の頃は、すごい不安がってるんだよ（笑）。ブラインド状態は初めてだから。でも、ある段階から慶一も楽しんでるなっていうのはわかってきたのね。それがわかるまではこっちもけっこう、どう思ってるのかなあと思ってね。

鈴木 これが、スリルなんだよ。

岡田 新人なんかプロデュースすると、まずプロテクトがすごいのね。何されるんだろうって。で、ある時点で心開くのがわかる時があるのね。そういうのに近かったね。それは新鮮だった。20年つきあってても、あるんだ、これが（笑）。今あ、慶一は今心開いたとか思うわけ。今回は、それが楽しかった。

――お2人とも機械には強いし、やはりベーシックはほとんど機械で、たとえばスタジオでリズムどりやってかぶせをやってという作業は少なかったんですか。

鈴木 今回は、極端に少ないね。

岡田 僕の場合は、デジタルのレコーダーに全て入れてあるから、その上に良明のギターを重ねていくぐらい。

鈴木 ちなみに、かしぶち君は（プレイヤーとしては）なんにもしてないよね。

岡田 コーラスが一個ある。フーちゃん（鈴木博文）も、コーラスだよね。

鈴木 だから、うちの弟（博文）は1日しかスタジオに来てない。俺も行ったのは歌入れの日だけだったから、10日も行ってないんじゃないかな。

岡田 だから、一番特徴を表わす生楽器、くじら（武川雅寛）とか良明はけっこう需要があったよね。

こんだけ愛を連発したアルバムは少ない

――今回、詞に関してはトータルなテーマってあるんですか。

鈴木 全部詞を見て、トータルなテーマが思い浮かびます？

――漠然となんですけど、90年代という世紀末観とか、そこでの愛の形とか、そんなことかなと。

鈴木 多分そう感じるのは、僕が今日に生きてたからでしょう。オン・タイムでその瞬間を詞にぶち込んでいくから。だから、その日その日のドキュメントだよね。まさにポップ・ミュージックの歌詞は、そうでなくちゃいけないっていう。

岡田 今回は直接的に愛って歌詞を、慶一が30回ぐらいいってんだよ。こんだけ愛を連発したアルバムはない。珍しいよ。

鈴木 ハハッ。だから、さまざまな愛の形を考えなきゃいけないんだ。

――そして当然のことかもしれないけど、今という時代もずいぶん歌い込まれてる。

鈴木 それは、僕は愛のオタクじゃないからさ。家にこもって愛の言葉を考えてるわけじゃなくて、世界も動くし日本も動くし、自分も動く。そしてそれは、完全にミックスされてしまうでしょう。

――「幸せの洪水の前で」という曲の歌詞カードに〝紙の言葉〟という一節があるんですけど、神の間違いではないですか？

鈴木 それは、それでいいんです。そういう質問を待ってたの（笑）。

――紙の言葉ってことは、新聞とか雑誌とか、つまりジャーナリズム、マスコミの言葉ってことかなと。

鈴木 うん。文字にすると紙なんだけど、聞くと絶対GODに聞こえる。それは日本語の上でのダブル・ミーニング。

――で、タイトルなんですけど、これは10年ほど前に盛んに使われた、アダルト・オリエンテッド・ロックでいいんですか。

鈴木 そうとられてもいいけど、アダルト・オンリー・ロックンロールだね。

――なるほど。でも、多分一般にはいわゆるAOR、つまり耳ざわりのいいソフトで聴きやすいロック、と思われそう。

岡田 今回は一見の客を拒否しないっていうか、裾野を広げるっていう意味でね。

――そう思われてもいい？ まあ、実際1曲目はそれっぽいし。

鈴木 そうだよ。一見の客用にできてるでしょ。今まで、一見の客はお断りするってとこあったからね。

――で聴くうちにどんどん、いわゆるAORじゃなくなってくる。

岡田 そうそう。だから7曲目あたりでなんちゃって路線が始まるの。で、ラストにいってまた1曲目に戻るっていうね。

――最後はまた、スローで聴きやすい曲ですもんね。

鈴木 だから、非常に計算されたアルバム。しかも、余裕がかいま見れるという感じでね。非常によくできてますよ。

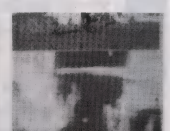
MOON RIDERS DISCOGRAPHY（ALBUM）



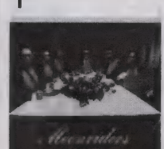
I



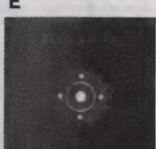
E



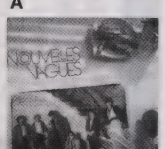
A



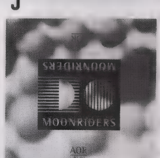
J



F



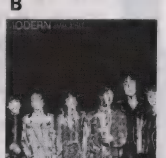
B



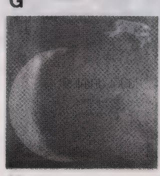
K



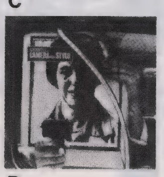
G



C



H



D

1976. 1.25 『火の玉ボーイ』（鈴木慶一とムーンライダーズ）〈ワーナーパイオニア〉
77. 2.25 『MOON RIDERS』〈クラウン〉
10.25 『Istambul mambo』Ⓐ〈クラウン〉
78. 12.25 『NOUVELLES VAGUES』Ⓑ〈クラウン〉
79. 10.25 『MODERN MUSIC』Ⓒ〈クラウン〉
80. 8.25 『カメラ＝万年筆』Ⓓ〈クラウン〉
82. 9.25 『青空百景』Ⓔ〈徳間ジャパン〉
12.15 『マニア・マニエラ』（ＣＤのみ ＬＰは86年発売）Ⓕ〈徳間ジャパン〉
84. 8.21 『AMATEUR ACADEMY』Ⓖ〈ＲＶＣ.ディアハート〉
85. 10.25 『ANIMAL INDEX』Ⓗ〈キャニオン〉
86. 11.21 『DON'T TRUST OVER THIRTY』Ⓘ〈キャニオン〉
91. 4.26 『最後の晩餐 ～christ, who's gonna first?』Ⓙ〈東芝ＥＭＩ〉
92. 9.30 『A.O.R』Ⓚ〈東芝ＥＭＩ〉

21日、ＬＰ『アニマル・インデックス』リリース

1986
2月27日、ＬＰ『マニア・マニエラ』リリース
3月21日、シングル「花咲く乙女よ穴を掘れ」リリース
6月7日、シングル「夏の日のオーガズム」リリース
13日、仙台モーニングムーン
15日、恵比寿ファクトリー
16日、ＦＭ東京ホール
19日、福岡市民会館
22日、札幌キャンパス21
24日、25日、名古屋ハートランド
30日、大阪近鉄劇場
7月1日、神戸チキンジョージ
9月5日、CD『THE WORST OF MOONRIDERS』リリース
11月21日、『DON'T TRUST OVER THIRTY』リリース
12月8日、9日、15日、日本青年館

1987
5月25日、シングル「ちょっとツラインダ」リリース
10月13日、鈴木博文、渋谷ライヴ・イン。ムーンライダース全員が老人の姿で登場。この年、全員そろったのはこれ一回。

1988
12月10日、渋谷公会堂「ムーンライダース・オフィス・プレゼンツ」にムーンライダース、この年一度きりのステージ

1989
1月21日、野田幹子『蒼空の一滴』プロデュース

1991
4月11日、日清パワーステーションにムーンライダースとしてライヴ
26日、5年振りのアルバム『最後の晩餐』リリース
5月24日、NHKホール

1992
9月30日、『A.O.R』リリース

MAGIC

TAKASHI KAMISAWATSU:Lead Vocal & Harp/KENICHI YAMAGUCHI:Lead & Gallopin' Guitar, Banjo/NORIAKI YATABE:Slap Bass/HIROSHI KUME:Drums & Percussion

テレビ朝日系 TVタイムマシン エンディングテーマ曲

GOLDEN SUMMER

COUPLING WITH

CRAZY FOR YOUR LOVE

■CDS:MEDR-10024 税込定価¥930(税抜価格¥903)

NEW SINGLE NOW ON SALE!



ロカビリーならコイツら!



アンジーのとっておき

ALBUM・NOW ON SALE!

RARE TRACKS

「鋼の腕時計」(パワーポップ・バージョン)や、幻の名曲「青のバラード」「天花粉」など未発表テイクを中心に16曲をセレクション!
アンジーのとっておきCD、完全秘蔵盤があなたの手元へ届きます。

1 鋼の腕時計(パワーポップ・バージョン)
2 祈り(ライヴ)
3 徘徊〈ライオンのうた〉(ライヴ)
4 ラヴ ジェネレーション
5 天花粉
6 毒々新聞(オリジナル・バージョン)
7 青のバラード(未発表曲)
8 ペダルをこいで
9 ロックンローラー
10 天井裏から愛を込めて(シングルバージョン)
11 奈々
12 サラバ列車で行こう
13 笑い者(ライヴ)
14 でくのぼう(ライヴ)
15 マグマの人よ(ライヴ)
16 君が忘れた大きなもの(NHKみんなのうた)

■CD:MECR-30030 税込定価¥3,000(税抜価格¥2,913)

●NOW ON SALE



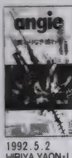
活動休止記念ALBUM
「渦」
■CD:MECR-30027



BEST ALBUM〈2枚組〉
「雲をつかんだ日」
■CD:MECR-38001 2
(16SONGS)



CD・SINGLE 4枚組
CD・SINGLE MEMORIAL COLLECTION
■CDS:MEDR-30001~4
(4set)



1992.5.2
HIBIYA YAON・LIVE・VIDEO
「終わりなき終わり」
■VHS:MEVR-38003(60分)

アンジーのDr.藤井雅彦(がちゃ彦)が、'70sのアメリカン・ロックを中心に、彼とその仲間達で創り出す全曲カバー曲による陽気で心地良い、バイカーズ・ロック・アルバム

10.21発売!ALBUM「太陽の男」/藤井雅彦 HIS FRIENDS

収録予定曲:Take It Easy(イーグルス)/Claudie, Caroline(ステイタス・クォー)/Ballad Of Easy Rider(バーズ)/コットンフィールズ(CCR)
Sister Anne(MC5)/South Bound(シンリディー)/Mississippi Queen(マウンテン)/Free Bird(レーナード・スキナード)/Did I Tell You(ダグ・サム) カッコ内はオリジナル・アーティスト名
MUSICIANS:藤井雅彦/奈良敏博/大谷令文/森純太、小林雅之(トイズファクトリー)/山川のりを(ディープ&バイツ)/JACKie〈ニューロティカ〉(コロムビア)/キース/中山魅/池上久(JETZT)/RED'S〈AURA〉(キューン・ソニーレコード)/他
■CD:MECR-30031 税込定価¥3,000(税抜価格¥2,913)

アンジーのラスト・ドキュメンタリー・ブック「LAST SHOW」¥1,600(JICC出版) NOW ON SALE

meldac

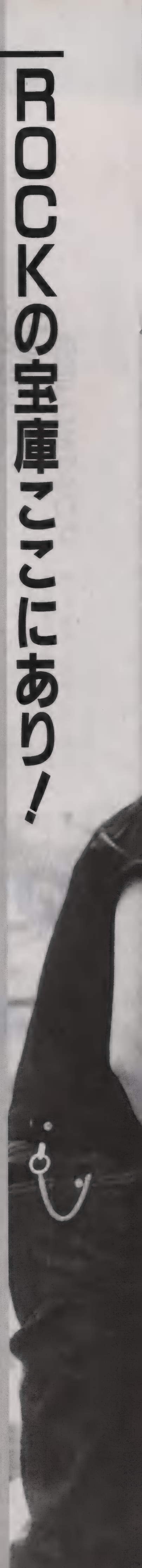


ROCKの宝庫ここにあり！

「違ったスタンスでの『HANDS UP』みたいな気がする」（森山達也）

THE MODSの、あの3部作に続く新作がついにリリースされる。プロデュースは旧友・土屋昌己。タイトルは『F.A.B.』。そこには、狭い意味でのロックの概念をぶち壊す広がりと、キャリアが生み出す深みがつまっている。

インタビュアー／星野京子　撮影／植田　信



芸術という名の大洋に浮かぶ孤島、ロック・アイランドは本当はとても大きい。そこにはR&B大通りがドンと横たわっていたり、パンクという賑やかな廃墟がずうずうしく幅をきかせていたり、サイケデリックという果物がたわわに実っていたり、マージー・ビート・モーターサイクルがブンブン飛ばしていたり、ロカビリーという名前のハイスクールが騒がしかったりする。船から望遠鏡をのぞいて見ている以上に、地図を眺めている以上に、上陸して自分の足で歩くとそこに様々な魅力があるのは、言うまでもない。それだけ奥が深いのだ。そんな魅力の細部に至るまでを熟知していて、裏路地やビルの屋上をスルスルと我が物顔で自由自在、行き来出来る連中を私は知っている。彼等はそのグループ名をTHE MODSという。

9／25にリリースされるTHE MODSの新作『F.A.B.』は、彼らの持っているロック・アイランドの細部に渡る情報や魅力が盛り沢山に披露された、まさにロックの宝庫のようなアルバムだ。『NAPALM ROCK』から『REBEL』までの3作を自ら3部作と呼び、メッセージ色の濃い、意図的に的を絞った作品作りに励んで来た彼等。また少しラフなスタイルで、ロック・アイランドを自由自在に歩き回り始めたという感を私は受けた。

今回のレコーディングには、プロデューサーとして、現在ロンドン在住の土屋昌己が参加している。彼は3枚目『LOOK OUT』などもサウンド・プロデュースを手掛けている、THE MODSにとっても気心が知れたアーティストである。

＊

さて、久しぶりに4人揃ってのアリーナ登場である。あまり取材は得意ではないとお見受けするが（笑）、またひとつ自信作を仕上げた充実感からか、メンバー全員生き生きとしている。テーブルの上に何げなく置かれている出来たてのアルバム・ジャケット―モノトーンにアンティークなパステル・カラーを乗せた渋いヤツ―を横目でチラチラ眺めながら、インタビューはスタートした。

＊

――ジャケットのビジュアルからしても、前作とはまた雰囲気の違ったアルバムになったと思うんですが、『NAPALM ROCK』以降り3部作からここに至るまで、どんな気持ちの変化がありましたか？

森山　その前にかなりゆっくりした時間があって。奇しくも『NAPALM ROCK』作る時期にロック・シーンにも世界的にも色々な状況の変化っていうのがあったでしょ。それと同時にTHE MODSがもう一度、硬質な尖ったスタンスで、精力的にスピーディーにライヴをこなした。その時点でアルバム3枚分くらい歌いたいことがあったからね。『REBEL』までは必然的に3部作となった。で、その後にどうしようかってなった時に、大袈裟ではないけど、一度それまでのものを断ち切ったよね。テーマを絞ったやり方には自分達としても充分やったという満足感があったし。で、そろそろこの4人以外の人を入れたレコーディングをしてみよう、新しい血を注ぎ込んで見直したり楽しんだりしてみようってことになった。そうなると、だいたい知ってる人自体そんなにいないからすぐに土屋さんの名前が上がったし、彼は数年前からイギリス市民になっていて、興味があったし、久しぶりに会いたいとも思ったから。だから、このアルバムは、どういうことをやろうっていうことよりも、そこからスタートしてる。

――あえて、挑発的な質問なんですが、『REBEL』までで、あまりにも的を絞ったテーマを追求し過ぎて精神的にきつくなった部分もあったんではないか、と。

森山　いや、あの路線のアルバムだったらあと1枚作っても大丈夫。ただ欲求の部分で単純に、もうこれだけやったんだから、次にチャレンジしたい、背中合わせのもうひとりの自分がなんで戦争の歌ばかり歌ってる？って言うこともあったし。THE MODSがアジテーターとして提示していくべきこと、俺達だからこそ歌える世界っていうのは、わかってるつもりだし、ひとつのミュージシャンとしてどうプレイするか、エンジョイするかっていう、そういうことをふまえて楽しみたいっていう気持ちがあったね。

――ところで。土屋さんも忙しい方だと思うけど、スケジュール的にもOKで良かったですね。

森山　もう事務所通さず国際電話の通話料金気にしながら（笑）自分で土屋さんに電話して。そしたら、すぐOKもらえたからね。もう初めて会った時のような仕事上での関係というラインは取っ払われてるね。

――今回はレコーディング前にしっかりと合宿したと聞いてますが、久しぶりの共同生活はどうでした？

森山　かなり規則正しかった。土屋さんがヘルシーで朝が早いから、昼頃にはスタジオに入ってたし。だから、夜もやるだけやったらそれぞれの部屋へ帰って寝るという。ツアー中と同じと思う。

苣木　東京へ出て来てすぐに共同生活して。それから10年くらいたってるけど、いざ一緒に暮らしてみるとそんなに時がたってるような気がしなかったし。レコーディングっていう作業があまり好きじゃないけど、合宿の前日はウキウキして、みんなになんか楽しくない？なんて聞いてみたりしてた（笑）。スタジオに入ってからは、1日やったテープを部屋に持ち帰って聞いて。土屋さんのやり方っていうのは、構成とか曲を作るっていうだけじゃなく、せーの！でやった音を出来るだけそのまま録れるようにって、リハの段階から完成が見えるようにバランスとかにも細かく気を配ってたから。

北里　森山・北里組は部屋に戻っても、酒飲んでてテープ聞かんかったけど（笑）。

梶浦　と言いつつもキーコとかも努力家だから、食事の時間にちょこっとスタジオにこもってたりすることがあって、そういう時には自分も一緒に入って細かいところのチェックしたりね。曲作りのために時間かけて合宿したのは初めてだったから、俺自身もかなり細かいアプローチまで気を配れたのは良かったと思う。

――本来ギタリストである土屋さんに、どんな影響を受けましたか？

苣木　アプローチのし方は全く違うタイプの人だから、直接的な影響はなかったけど、いい意味での触発はされたと思う。結局は色だな、と。

――このレコーディングでは、改めてロックというものを見直したところがあるんじゃないですか？

苣木　特にロックとはなんぞやっていう話はメンバー間では全くなかったよ。そういう話は博多時代に死ぬほどしたような気もするし、一度もしなかったような気もするけど。ただ、THE MODSがなんでこのバンド名なのかっていうことが見えたような気がする。久しぶりに『さらば青春の光』とか見ると、今回のジャケットに小さくクレジットされているFELLOWS AND BULLETSという言葉、その大切さっていうのもわかったし。女以上に着飾るような美学を持つ男っていう部分、パンクのまだなかった時代に一番パンキッシュだったモッズ・ビート、そういうものを自分達は形にとらわれない表現方法でアプローチしてるんだってことが。

――今回特に、1曲ずつのタイプが違っていて、自分達が持っている沢山のロックに関する引き出しをふんだんに活用したという感じがありますね。

森山　やっぱりロック好きな大の男が5人集まって楽しんでみようってガチャガチャやったら、自然にどんどん色々な音楽的要素が出て来るよね。みんながそれぞれ音楽聞き始めてから20年以上のキャリアを持ってるわけだから、そこらへんのポットと出のバンドとは違うわけよ。その深さは。同じようにロックという巨大なテーマでアルバムを作ってもジャズのエッセンスもあれば、パンクもあれば、ストレートはR&Rもある。また、出来上がってみて思うのは、違ったスタンスでの『HANDS UP』みたいな気がしてるね。

北里　根が深いっちゃんね。例えばね、カバーしたりする時にラモーンズと同じルーツが俺達にはあるわけよ。ハーマンズ・ハーミッツ聞いてみたり、ノスタルジックなモータウンにしても、なんで出て来るかっていう理由も知っとうしさ。

――節々にクーッと来ちゃうようなフレーズが散りばめられてますよね。

苣木　だって、俺達自身そういう感動とかがあったから、仕事にまでしてしまったわけだからね（笑）。それをやりたかったんだもん。

――じゃ、歌詞の部分では？

森山　ずっとインターナショナルな目標で歌詞を書いてきて、今回はその視線をもっと自分の足元とか内面に向けたいなと島国的な叙情じゃなくて、常にインターナショナルな発想で自分とか自分達とかっていうもの書くことを目指した。

――もちろん外へ向かってメッセージを発するTHE MODSにも物凄く逞しさを感じるけど、ロック・ヴォーカリスト森山という部分では、そういう内面をロックのアプローチで表現させたら、希に見る魅力がありますよね。

北里　（急にふられて、ニヤリと笑う）

森山　そうありたいとチャレンジし続けてるね。

――ところで、タイトルの『F.A.B.』ですが、これには聞きながら色々と想像させられました。

森山　これはエンジニアのルパートに、スラングまでいかなくても、イギリスの若い連中が好んで使ってる〃いかした〃っていうような意味の単語はないかって聞いたら、どうやらFABULOUSが語源らしいけど、FAB！っていうのがあるって教えてくれて、それはカッコイイばいってことで。ただ、もっと色んな意味も持たせたかったら、文字の間に点々入れたんだけど。面白いでしょ？

――〃古くて新しくブリブリだ！〃の頭文字だ！なんて。

森山　いや、ファック・アンド・ブルシットよ（笑）。

――作品が、聞きながらこの3つ並んだ文字を眺めて、イマジネーションを広げられるようなものだからこそ。

森山　そうやって毎回誉めてたら次からも大変よ（笑）。

――そうだけど。沢山のTHE MODSフォロアーが登場してるけど、渋公のライヴにしてもアルバムにしても手にするたびに、これを追い越す奴ってまだいないって、ファンとして実感するもの。

森山　ファンの中にはひとつのTHE MODSでいて欲しいと思ってる奴もいるだろうからね、これを聞いてがっかりする奴もいるかもしれない。だけど、音楽って色々あるからミュージシャンの欲としては、出来ることは全部やりたい。昔みたいにファンのことだけを考えて自分達を縛りたくないしね。

こ…これが
全212ページ ミュージシャンの素顔なの??
笑いすぎてアゴがガクガクにならないように、
十分注意してください。



第1部▶ロックンロール"酔いどれ"座談会
出席者＝HIDE、橘高文彦、SUGIZO

第2部▶ロックンロール日記「総集編」
犠牲者が続出!!

第3部▶ロックンロール"セックス"座談会
出席者＝レディースルーム

第4部▶92年6月、狂乱の日々…
読んでるだけで二日酔いしそう(笑)

第5部▶ロックンロール"のんびり"座談会
出席者＝PATA, JOE, JIMMY

第6部▶ロックンロール日記「番外編」
まだあるんですかぁ?

第7部▶素顔のミュージシャンたち
ま…もう、こうなるとボロボロでんな…

第8部▶ロックンロール"詐欺師"座談会
出席者＝菅野秀夫、亀山哲哉、高橋恵美

第9部▶ギョーカイ裏話

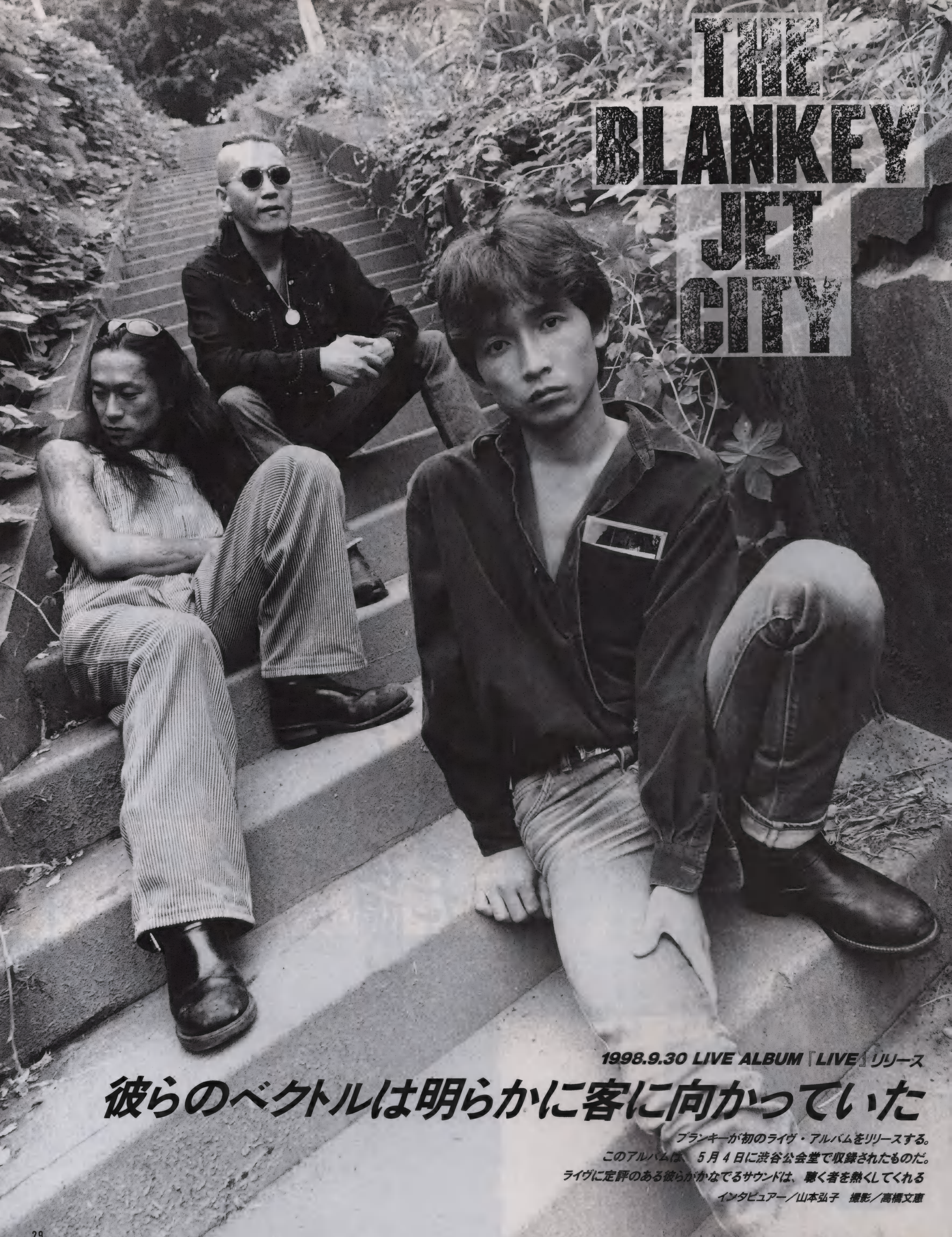
発売前、キョーフにおののきながらL・Aへと飛び立った方々、本屋さんの前は目を伏せて足早に立ち去る方々、まだ何も知らない方々etc…世の中、さまざまデス。

ついに暴露本、登場か!?(笑)

あなたの期待にこたえて(笑)、好評発売中!!

定価●980円(送料260円)

発行＝音楽専科社
〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F ☎03(3574)0201



THE BLANKEY JET CITY

1998.9.30 LIVE ALBUM『LIVE』リリース

彼らのベクトルは明らかに客に向かっていた

ブランキーが初のライヴ・アルバムをリリースする。
このアルバムは、5月4日に渋谷公会堂で収録されたものだ。
ライヴに定評のある彼らがかなでるサウンドは、聴く者を熱くしてくれる

インタビュアー／山本弘子　撮影／高橋文恵

5月4日、渋谷公会堂。もちろん一夜限りのスペシャルなステージを収録した内容だ



今さら言うまでもないことかもしれないがブランキー・ジェット・シティはやはりライヴだ。人間、あまりに凄いものを見たときは言葉を失くしてしまうものだが、新宿パワーステーションで初めて彼らのステージを見たときは呪文のように声にならない声で〝カッコイイ〟と繰り返すだけで茫然とその場に立ちすくしてしまった。ほとんど金縛り状態になってしまったのである。

その後、彼らのライヴがあるといそいそと足を運ぶようになったのは言うまでもないが、パワーステーションで渋公で一度として同じブランキーに出逢ったことはない。精神状態、体調、テンション場の空気、全ての要素が作用するライヴならではの一触即発の緊張感とストイックだがきわめてクレイジーに昇りつめていく快感……。彼らが演奏するのはいつだって今日の「BABY BABY」であり「ディズニーランドへ」である。当然、3人のバランスが方向を見失い、失速するときもあるが、ロック・バンドが平均的で予定調和的なステージを毎回、見せてくれるのなら、いちばん良いテイクを録っただろうスタジオ盤を家で聴いていたほうがずっとましだ。昇りつめていくときのブランキーは〝奇跡〟を起こす。一夜限りの特別な演奏を聴かせてくれる。鳥肌が立つ……。その日のライヴがどんなふうになるかは、演奏が始まるまで想像もつかないから、当然、ドキドキして開演を待つことになる。そういう意味を含めてブランキー・ジェット・シティはやはりライヴなのだ。

さて、前置きが長くなったが9月30日にブランキー初のライヴ盤『LIVE』が出る!! 5月4日、渋谷公会堂。もちろん一夜限りのスペシャルなステージを収録した内容だ。そこで3人に当日のことをふりかえってもらおうと思ったのだが、瞬間燃焼型の3人はすでに次のアルバムのことで頭がいっぱいなのであったトホホ……。

—えー、ライヴ盤が出る、ということで渋公はちょっと前の話になりますが。

浅井「忘れちゃったぁ」

—忘れちゃいましたか。

浅井「少しずつは覚えてるけど」

—特に印象に残ってることとか…

浅井「印象に残ってることは別に、全部が印象に残ってるから」

中村「あのときのライヴはSEを作って出だしも考えたし、まぁライヴ盤には入ってないけど、いつもやらないアンコールもやったし……。自分たちの気持ちをわりとコントロールできたライヴだったんじゃないかな」

照井「(ボソッと) オレは固かったな」

—緊張したってことは?

照井「緊張したんだよな。やっぱりツアーの最初って固くなっちゃうからさ。そのあとライヴを繰り返して、だんだんリラックスしてくる」

—こういうライヴの音源ってあとから聴くと冷静に聴けるものなの?

浅井「冷静に聴けるのはいつまでたっても聴けるし、聴けないのはいつまでたっても冷静に聴けない」

—へえ。聴けないのはどういうの?

浅井「MCで、へんなことを口走っちゃったりしてるのとか」

中村「ギャハハハハ」

浅井「それは何回聴いても、もうアワーッと(顔をおおう)なる」

中村「それはあるな」

浅井「それはもう抹殺したくなる(笑)」

中村「ホントのこと言うと、このライヴ盤でもちょこっとMCが入ってるんですけど(「BANG!」の前のMCなので要チェック)ちょっとワーッ!! て感じかな」

浅井「別に気にすることないと思うよ」

中村「突然、突如子もないこと言っちゃったからさぁ」

浅井「そういう突拍子もない人なんだからいいんじゃん(笑)。そのほうがカッコイイが」

中村「うーん(と悩む)。もっと意味ありげに〝BANG!〟につなげていこうと思ったんだけど途中から何言っとんのかさっぱりわかんなくなっちゃった」

浅井「じゃ、それが印象深いことじゃん」

—浅井クンの〝よお兄ちゃん、よお姉ちゃん〟のMCも印象深いけどね。

浅井「ちょっと前から、そういう言葉が流行っとったから」

中村「〝よおエロ姉ちゃん〟とか(笑)」



「ライヴ録音してわざわざ出すんだからイイ奴じゃん？オレたち（笑）」中村達也

――この東京、名古屋、大阪でやったツアーはブランキーにとってどういう時期に当たるんだろう？

照井「いい状態だったと思うよ。精神的にもいいツアーだったし。『殺しにきたぜ～』あたりから調子がいい。個人的にも自分をいじめなくなったし……」

――いじめなくなったって？

照井「それまで人と人とのつきあいにしても何にしても自分をいじめとったからさ。外歩くのも勇気がいるし……。ライヴにしてもちょっと自分の理想と違うとダメだって思った時期があってさ、自分のベースの音にもすっごいイライラしてさ。人に当たったりとか……。そういうのがなくなったのかなぁ。それまでは完璧を求めすぎとったんだわ。客になめられたくなかったし」

――じゃあ何かふっきれた時期だと……。でもライヴっていうのは曲のテンポひとつとっても微妙に違うわけだし、スタジオ盤とはまた全然違う楽しみ方ができますよね。

中村「そうそう。ライヴ録音してわざわざ出すんだからイイ奴じゃん？　オレたち（笑）。（ブランキーの）ライヴは全然違うから来てくれっていつも言ってるから……もちろん今まで出したCDとは全然違うし、まぁわかりやすいんじゃないかな。ライヴ・ビデオも併用して見ていただけると（笑）。レーザージュークにも入っとるしな」

――ホント!?　何の曲!?

浅井「BABY　BABY」

中村「オレ、居酒屋とか行ったときは必ずかけるよ。カッコイイよ」

浅井「あれはいいよなぁ」

中村「ライヴ盤以外にEMIも海賊盤とか出すと面白いのに。オレたちのスタジオ・テイクを集めたりさ」

浅井「あと、ギャグ特集!!」

中村「オレたちのギャグをまとめてちっちゃい本にして出すの（笑）。ワニの本とかさ」

浅井「CDより売れたりしてね」

中村「売れるかなぁー」

――でもブランキーのライヴって本当にコーフンするよね。

中村「（何の脈絡もなく）2日ほど前にレコード聴いたんだけど、やっぱりCDよりレコードのがいいわ。CD爆音で聴くのとアナログ爆音で聴くのと全然違う」

浅井「へえ」

（ここからアナログ盤を出したい、という話でがぜん浅井と中村が盛りあがる。使い捨てプレーヤーつきのアナログ盤だの、メンバー自らが営業も担当し、ネズミ講形式で売るだのアイディアが出るわ出るわ）

浅井「よし!!　3rdではレコードも出そうっと!!　そういうふうに書いといて」

――あのー、ライヴの話なんですか……

（全然、聞いてない）

何か心はすでに次のアルバムに行ってるという感じですね。

一同「そりゃそうだわ」

浅井「来週からレコーディングなんだわ」

――もしかして、ライヴの話なんかしてる場合じゃない、と言いたい？

浅井「しとる場合じゃないんだわ、はっきし言って（笑）」

中村「だってライヴやったのすんげえ前じゃん!?　そのときに聞いてくれればいいのにバッカ、って感じ（笑）」

浅井「（うつむいて嬉しそうに笑う）」

――何、笑ってんの？

浅井「次のアルバムもバッチシだよ!!原爆が落ちてもバッチシだぜ!!」

中村「バリバリだで」

浅井「戦争が来てもUFOが来てもバリバリだって書いといて」



林田健司

精神を全開放した新しい世界

～Mini Album 『VOX』 Preview～

構成/角野恵津子

デビュー以来何度か、彼の話を聞く機会があったが、改めてその時々の彼の言葉を思い返してみると、折りにふれ「開放」という言葉が、頻度高く彼の口をついて出てきていたように思う。

昨年の7月に、シングル「ｓｈｅｒｒｙ」でデビューして1年数ヵ月、その日々は、彼にとっては少しずつ、そしてどんどん加速をつけて自分を開放していく、過程だったのではないかと思う。内にこもっていたものが、だんだん外に向かって開かれていくその様子は、ファーストの〝僕の部屋〟、セカンドの〝林田健司と音楽茶屋〟という、ふたつのコンセプトからもうかがうことができる。

「1枚目は僕の部屋のコンセプト通り、自分だけのグループ感を求めて作ったんだけど、2枚目はいろんな人の力をもっと取り入れて、もっと広がった音作りをしようと…」

林田健司と音楽茶屋というのは、言いかえれば、お店開きした林田健司ということで、制作過程でより回りの人間に心を開いた彼が、出来上がったものに関しても、自分だけのものにせず開放して、多くの人の耳に触れさせたい。そんなニュアンスが、音楽茶屋という言葉には含まれているようだ。

彼のデビューからの道のりは、厳しいミュージック・シーンにあって、順調といってもいいものだと思う。しかし、そのデビューに行き着くまでの道のりは、決して平坦なものではなかった。アマチュアでやっていたバンドの仲間との、音楽的な方向性のズレ。そして一人になり曲作りを始め、いわゆる業界の人々に聴いてもらったものの反応ははかばかしくなく、順調に行くかと思えたものがダメになるということも経験して、人間不信にもなった。そんな中で、今とは逆にどんどん心を閉じていく時期もあったようだ。

だが、デビューが現実のものとなり、ようやく彼の心は外に向かい始め、5月にリリースされたセカンド・アルバムのレコーディングに至っては、とても明るい雰囲気の中で行われていたようだ。もちろん、そのアルバム・インタビューでの彼もとても快活で、テンションは高かった。

「10代のバンドやってたころは、全部自分でイニシアチブをとってガンガンやっていくタイプだった。それがいつの間にか頭を叩かれつぶれてしまった。だから、元来持ってた自分のところに戻ったっていうのはありますね。レコーディングも楽しまなきゃ楽しまなきゃって、だから終わった時には、明るいヤツになってましたね」

おしゃれで都会的で、ソフトなイメージもある彼だが、決して2枚目気取りですましているような人物ではなく、意外と下町的であけすけでさっぱりした部分も持ち合わせていて、インタビューの時にも、けっこうふざけておかしいジョークをかましてくれたりする。それも、やはり開放の成果なのではないかと思える。

そして彼が、「自分を全開状態にしてどこまでやれるかっていうとこを、自分でも見てみたい」といっていたデビュー後初のライヴ・ツアーが、6月に行われた。そのファイナル、6月24日の東京・渋谷、クアトロのステージ、本人は緊張しているを連発していたが、固さやぎこちなさは感じられず、会場をぎっしり埋めたファンの前で、彼は林田健司という人間の丸ごとで、彼の音楽を届けた。女性が中心かと思われた客席には、男性ファンの姿も多く、改めて彼の人気の幅広さを実感した。セクシーで、アクティブで、飛び散る汗さえも美しく感じさせてしまうステージ、それは音だけでは伝え切れなかった部分を、よりはっきりと聞き手に伝えたように思う。

2枚のアルバムをリリースし、ライヴを終え、彼の活動にもひと区切りがついたといってもいいかもしれない。しかし休むまもなく、彼はまたもやレコーディングに突入、10月21日には4曲入りのミニアルバム『VOX』がリリースされる。VOXというのは、VOICE、つまり声という意味で、文字通りこのアルバムでは、彼の歌声を堪能してもらおうと、楽曲はミディアムとバラードでまとめられている。年末には再び、ツアーも予定されている。精神を全開放した彼が、今後どんな世界を見せてくれるか待つ日々もまた、ファンにとっては楽しいのではないだろうか。





今、目覚める瞬間(とき)……
Now On Sale New Single
日本テレビ系土曜グランド劇場「まったナシ!」挿入歌
(毎週土曜日21:00〜21:54)
篠原利佳/輝く瞬間(とき)
C/W:バスルームの地球儀
TEDN-222 ¥1,000(税込) ¥971(税抜)
2nd Album 11月発売予定
Rika Shinohara
Now On Sale
UPRIGHT
TECN-30128 ¥3,000(税込) ¥2,913(税抜)
篠原利佳ファンクラブ「Can」
入会希望の方は、62円切手同封の上、
〒150 東京都渋谷区神宮前4-1-23 オフィス岩田第2 201号
㈱メリーランド Tel:03-3497-9555
篠原利佳テレフォン・インフォメーション
03-3593-1491
TOTAL INFORMATION
CONTINENTAL 03-3506-8702
HEARTLAND 03-3470-3692
*篠原利佳レギュラー・パーソナリティー
●TVK「別冊MUSIC TOMATO JAPAN」
(毎週日曜日15:00〜15:55)
●BAY-FM「スパークリング ファクトリー」
(毎週火曜日20:30〜21:00)
Continental

YOSHIKI

重大発表!!「Xは近く大復活して、世界進出します!」

1992・7・30 日本武道館 YOHIKI TOLK LIVE



この日、日本武道館にはいれたファンは本当にラッキーだった。なんと、あのウワサの大作「ART OF LIFE」を世界で一番最初に聴くチャンスにめぐまれたのだから……。おまけにおまけに、Xの他のメンバーにも会うことができたのだから。その幸せを、読者のみんなにも分けてあげよう!!

取材／[illegible]智典　撮[illegible]／[illegible]



「ART OF LIFE」に感動の嵐!!!

時は7月30日。この日の日本武道館の前には、Xのコスプレに身を包んだ沢山の少女達が、約半年ぶりに憧れのお姫様に会う為に、この地を訪れていた。円陣を組んで『気合入れよっ!』『オゥ!!』と、気持ちに活を入れてる少女達。はやる気持ちを抑えきれずに、会場の入口まで駆け出す少女達。女の子達に多少気後れしながらも、精一杯お洒落してやってきた男の子達。そうそう中には、浴衣姿の女の子もチラホラと伺える。もう、それぞれが、それぞれのXに対する想いを抱きながら、この日、日本武道館で行われる『YOSHIKI TALK LIVE』へと、思いっきりおしゃれをしながら訪れていた。僕自身も、そんな少年少女達の素直に自分達の感情を表現している姿を見て、半分羨ましいなと思っていたのも確かである。



さて、この日はYOSHIKIの単行本である『NUDE』と『ART OF LIVE』の発売を記念してのトークライヴであった。とはいえ、常に何をしでかすかわからないXのことである。しかもこの日は、その中でも特に常識を超越した男YOSHIKIがメインのイベントだもの。やはり、単なるTALK SHOWでは終わらなかった。と言うわけで、何が起こったのかとワクワクソワソワしている読者の為にも、この日のイベントを順を追って紹介していこうと思う。

*

巨大なカーテンに覆われたステージの前に、チョコンと設置された3つの椅子とテーブル。そして会場にはクラシックが悠然と流れている。そんなクラシックの音色が一際大きくなったかと思いきや、椅子の彼方の後方の壁が真ん中からパーッと一つに割れて、今回『NUDE』の本を出版した編集長である羽積氏と『ART～』の編集長である市川氏が現れた。

羽積と市川氏の本製作秘話&裏話の2人トークで始まったこの日のステージ。とはいえ2人のしゃべり声も、場内の『YOSHIKI!!コール』の大合唱にかき消されて殆ど聞こえない。さすがの2人も、「こりゃあYOSHIKIを呼ぶしかないね」という事で、遂にYOSHIKIを呼び入れた。

やがて場内を震撼させるほどの大声援に迎えられて登場したYOSHIKIと、羽積氏&市川氏による3者トークがスタート。その時の会話というのも、市川氏の『ART～』は彼の人格毎に分けて取材を始めたんですが」という話に、いきなりYOSHIKIが市川氏に向かって、「僕は一人なんですけど、勝手にこの人が分けたんです」と切り返したり。「YOSHIKIの言う気合とは、一体どういう気合なの」という質問に対して「絶対に自分に負けないというか～自分に勝てない人が他人に勝てるわけないし」等々。時間にして約10分くらいだろうか、様々な会話が続けてられていく。



YOSHIKI



とはいえ3人の声は、場内の熱狂的な歓声に掻き消されて殆ど聞こえてこない。もうこの壮絶なる絶叫に辟易した羽積氏&市川氏の2人は、ならばと言うことで、場内にいるファンからのYOSHIKIに対する質問コーナーを設置。

さて、場内のファンから出てきた「コスプレをする人達をどう想いますか」という質問に対して、YOSHIKIは、「僕も小学生の頃にKISSのコンサートを見に行って、そういう人達に憧れましたし。だから真似してくれる人達がいるのは嬉しいです」答えたり。「生島ヒロシに『ヨシキちゃん』と呼ばれてむかつきませんか」という質問に対して「何と呼ばれても構わないんだけど、でも少しは頭に来る」とチラッと本音を覗かせたりと、場内のファンからの質問に、次々と答えていくYOSHIKI。

そんな和気あいあいとした場内だが、そろそろ時間という事で、YOSHIKIは退場。そんな、去り行くYOSHIKIを見送りながら、場内は除々に明くなっていく。やがて自然と沸き起こる「アンコール」の大合唱。とはいえ、YOSHIKIのことだもの、このまま終わるわけがない。そのまま多少のインターバルを置いて、再び場内が暗くなったかと思いきや。それまでステージ上を覆っていた巨大なカーテンが開いて、中から大オーケストラが現れた。やがてオーケストラによる「ラルゴ」の演奏にノセて、再び衣装を着替えたYOSHIKIが登場。そしてステージ中央に置かれたピアノに座ったと想いきや、彼はマイクを握り一言「今までの人生を託した曲です。この曲を今日は現曲に近い形で演奏します」と呟いた。やがてスタートした曲は、なんと、あの幻の楽曲『ART OF LIFE』だった。

壮大なクラシックの弦の音色にノセて、ドラマチックに繰り広げられていく『ART～』。まるで『ROSE OF PAIN』や『SAY ANYTHING』のような、胸の涙腺を刺激するメロディアスでドラマチックな泣きの旋律が、YOSHIKIのピアノのフレーズとオーケストラの演奏にノセて、壮大に奏でられていく。しかも演奏は組曲的に幾つもの物語を描きながら進んでいく。



時には優しく雄大な広がりを感じさせたり。時には悠久の調べを想い起こさせたり、時には情熱的に激しい音色を奏でてくれたりと、幾つものドラマを描き出していく『ART～』。YOSHIKIもまた、時には優しくピアノと触れあったり、時には全身を使って思いっきりピア





YOSHIKI



ノを叩きつけたりと。そのピアノの一音一音に、自身の感情の全てを託していく。時間にして約33分、まさに30分を越す大作である『ART～』は、まだまだ未完成ながら、遂にその姿を僕らの眼前へと叩きつけてくれた。

やがて力尽き、ぐったりした身体を引きずるかのように退場していくYOSHIKI。そして再び場内には耳をつんざくばかりのアンコールの声が沸き起こる……と、スポットライトが照らし出されたかと想いきや、なんと登場してきたのは髪の毛を下ろしたまんまのTOSHIである。「ふと武道館の前を歩いてたら、立ち寄ってしまった」というTOSHIは、「お姫様が登場するまでの繋ぎ」と言いながら舞台に登場。しばし、「おめ～ら元気かよ」と、観客達と話しあった後。

「あんまし一人でしゃべるのは良くないんで～さっきジャックダニエル片手に猫を可愛がっていた奴がいたんで～」と、今度はPATAを呼び出した。しかもPATAとの軽い会話の後に、「無言激という写真集を出した人も～」と言って、続けざま今度はHIDEを呼び出した。



やがて3人による軽いトークショーが終わり、TOSHIの「みんなが呼べば出てくると思うけど」という声に呼応するかのように、場内全員による『YOSHIKIコール』に答えて、再びYOSHIKIがステージ上へと現れてきた。



実は、この後Xのメンバーによる重大発表がみんなの前で行われた。その時の模様を、要約した形として、誌面でその一部始終を紹介してみたいと思う。

TOSHI 「何か8月24日にNYのロックフェラービルという世界で一番有名なビルで記者会見があるそうだけど」

YOSHIKI 「今度は5人揃って(ここがポイントだね)活動を開始します。(記者会見の内容は)活動を再開することと、世界進出です」

TOSHI 「と言うことは世界のレコード会社と契約したってことですね」

YOSHIKI 「そうです・・・とにかく近いうちに必ずXは大復活します」

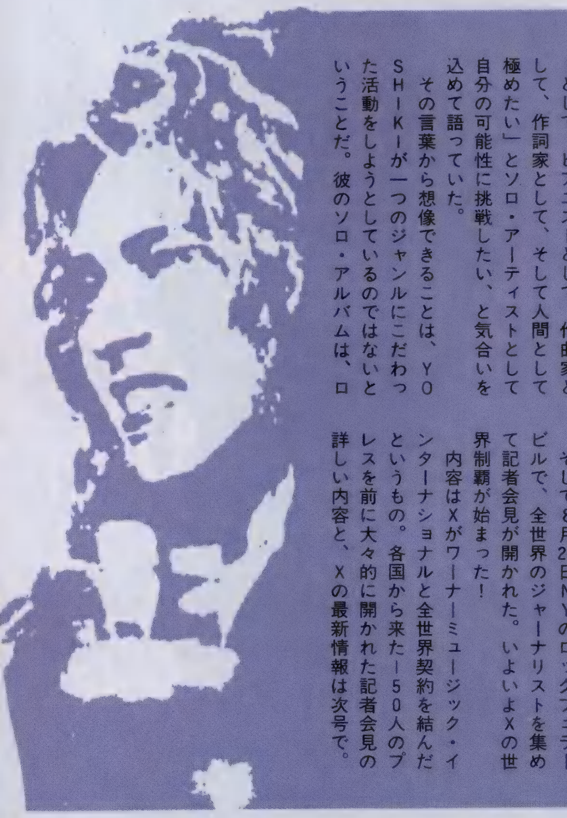
そう。遂にXが動きだす。しかも今回のターゲットは世界進出。再びブレーキを外したFIマシンのように、止まることを知らずに頂点へ向かって疾走し始めたX。その辺の具体的な内容は、今後また時期を追って紹介していこう。

と、まさに衝撃的な発表を終えた彼らは、最後にオーケストラをバックに従えて、Xのメンバーによる『ENDLESS RAIN』を演奏してくれた。

TOSHIの熱唱に合わせて、誰もが自然と一緒に歌を口づさんでいく。やがて場内を包んでいく『END～』の大合唱。そして大サビの部分で、お馴染みのTOSHIと場内の観客による♪ENDLESS RAIN～♪の掛け合いによる大合唱が始まった。TOSHIはと言えば、ふとサングラスを瞼に押し上げたりと、憂いを込めた仕種をするのだが、その仕種を見てしまうと、僕ら自身も「またかよ」と想につつも、何故か胸にグッと込み上げてくる熱い想いを感じてしまう。そう、このXと僕ら自身が一つに溶け合って、心をさらけ出しあえる素直な感動があるからこそ、僕らはXを求めてしまうんだよな。そんな熱い想いを半年ぶりに感じながら、僕は瞼に熱い水を浮かべながら、ジーッとこの日のステージを見ていた。きっと、この日、この会場に訪れた人達も、僕と同じように言葉では現しきれない想いを抱いてたんじゃないだろうか。観客達の、これまでの想いを全て歌と声に託した『END～』での大合唱を聞いてると、僕にはそんな風に思えてしまった。

やがて演奏は終了し、メンバーはオーケストラが奏でる『SAY ANYGHING』の演奏に合わせて退場していく。またその演奏に合わせながら、ステージ後方に設置させられたスクリーンには、これまでの彼らのライヴシーン等が次々と映し出されていく。そして最後にYOSHIKIからのメッセージ『大復活する』の文字がクッキリと映し出された。

そうXの復活は既に秒読み体制に入っている。君達も、しばし復活の時を待て！



YOSHIKI、華麗なる記者会見！

先月号でも速報でお知らせした通り、YOSHIKIが東芝EMIとソロ契約を結んだという記者会見が7月23日に行われた。

それがどういう形のソロ・アルバムになるかは、具体的には発表されなかったが、その1週間後我々はとんでもないものを観てしまった、いや、聴いてしまった。もちろんそれとは、ここでレポートしている「ART OF LIFE」のオーケストラ・バージョンだ。



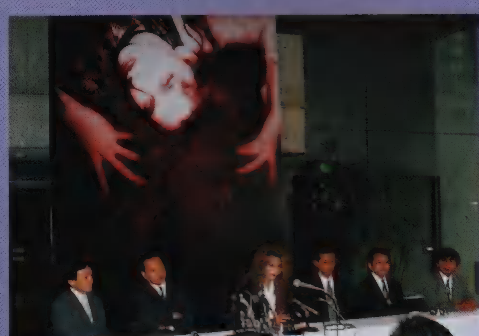
今まで、この未完の大作「ART OF LIFE」は〝X〟の作品として知らされてきた。もちろん詞もついている。ところが、ここにもう一つ「ART OF LIFE」の歌詞なしのオーケストラ・バージョンが存在したわけだ。ということは、オーケストラ編は、YOSHIKIのソロということにならないか？もちろんそれが全てであるはずがない。記者会見でもYOSHIKIは「ドラマーとして、ピアニストとして、作曲家として、作詞家として、そして人間として極めたい」とソロ・アーティストとして自分の可能性に挑戦したい、と気合いを込めて語っていた。

その言葉から想像できることは、YOSHIKIが一つのジャンルにこだわった活動をしようとしているのではないということだ。彼のソロ・アルバムは、ロックとかクラシックとか、音楽のさまざまなジャンルを越えたものになるのではないだろうか？

Xは今アメリカに渡っている。それはXの海外進出のための英語バージョンによるセレクション・アルバムのレコーディングと、Xのニュー・アルバム、「ART OF LIFE」の完成、そしてYOSHIKIのソロ・アルバムのレコーディングと盛りだくさんの内容となっている。

そして8月24日NYのロックフェラービルで、全世界のジャーナリストを集めて記者会見が開かれた。いよいよXの世界制覇が始まった！

内容はXがワーナーミュージック・インターナショナルと全世界契約を結んだというもの。各国から来た150人のプレスを前に大々的に開かれた記者会見の詳しい内容と、Xの最新情報は次号で。



Photo／NOV MATSUZAKI

YOSHIKI





De+LAX LIVE'92 Our Favourite Roads

9.21 渋谷公会堂

チケット発売/ チケットぴあ03-5237-9999 チケットセゾン03-5990-9999 丸井チケットぴあ03-5385-9999

主催/ディスクガレージ 企画・制作/ユイ音楽工房 後援/フォーライフレコード 協力/TYO 問い合わせ/ディスクガレージ(平日15:00〜19:00 03-5704-3200)

10.14 名古屋ダイヤモンドホール

チケット発売/ 問い合わせ/サンデーフォークプロモーション 052-202-9100

10.15 大阪御堂会館

チケット発売/ 問い合わせ/グリーンズ 06-454-8834

De+LAX

WANTED!! D+X・F・C

De+LAXオフィシャルファンクラブ会員募集!! 〒112 東京都文京区小石川2-5-7 佐佐木ビル5F ㈱八曜社内 D+X・F・C入会係 PHONE.03(3814)2108(月〜金 11:00〜18:00)

De+LAX TV ROCK CIRCUIT

— Tonight おまえに会いに行く —

10/1(木)24:30〜25:25 TVH「まる音KIDS」、9/末(木)24:35〜25:35 TBC「A・HA・HA」、9/29(火)24:50〜25:50 NT21「MM CLUB」、10/上旬 TVK「LIVE TOMATO」、9/5(土)24:20〜25:20 TVO「BEATザウルス」、9/5(土)22:00〜23:00 サンテレビ「BEAT マガジン」、10/上旬 TKU, TXN「ミュージックぶんぶん」、10/末 NCC「Junk Box TV」、その他GTV「J-POP」、名古屋、石川、広島など現在進行中。

※上記のテレビ局でDe+LAXのスペシャルPVクリップ集やスタジオスペシャルライブが放送されます。

De+LAX

ニュー・アルバム『Our Favorite Roads』92・9・18リリース!!

5人が一つの塊になった時、何かが――!!

インタビュアー／今津甲
撮影／今井俊彦



De+LAXの新作『Our Favorite Roads』に収録された作品群は、彼らにとって、全く新しいスタイルで作られた。作詞作曲のクレジットは個人名でなく〝De+LAX〟である。5人が一つの塊となって音楽シーンに叩つけた本作品は聴く者のハートを圧倒的なパワーでリアルにつきさす!!

『Our Favorite Roads』。これがDe+LAXのニュー・アルバムのタイトルだ。オレ達のお気に入りのやり方―たとえばそんな和訳がうかぶ、ニコヤカなネーミング。そこにはある種のリラックスした気分すら感じてしまう。ここで耳に出来る真っすぐなR&Rサウンドにしても、その背後に余裕や太さといったものを漂わせている。

一見、彼等のキャリアの自然な流れの上に打ち立てられたかのような作品。けれども実際のところは、バンドとしてのスタンスを徹底的に再チェックすることから始まった1枚なのだという。アルバム作りに至る前に一体どんな気持ちがあり、それをどんな形で具体化してゆくひとで作品は完成をみたのか？　アルバムが完パケた直後の5人にインタビューしてみた。

＊

―聞くところによると今年の頭、3ヵ月という長期のオフをとったそうだけど。

鈴木　ま、デビューしてから4年間、時間に流されてワーッと来ちゃったからネ。

―時間に流されて、というカンジだったわけ？

鈴木　ある意味では、特に去年のツアー中はそう感じた。

榊原　例の3DAYSとか、ほんと色んなライヴやりましたからネ。

―De+LAXって、基本的にはライヴ好きのバンド、だよネ？

鈴木　それはバンドのメンバーにもよると思うけど（笑）。とにかくさァ、去年のツアーの為のリハの時だったか、オレ、「ちょっと休みたい」って言ったんだよネ。バンドとしての4年間を整理したいっていうのがあったし、その4年の間に出すものを出しちゃったから次のステップの為にも準備期間が欲しかったたし。

―で、実際に休みをとって、どういう方向性を選ぶことにしたの？

鈴木　今までは〝個の集合体がDe+LAX〟みたいな見方をしてきたんだけど、「それってなんか違うな」って思い

何が彼らの方法論を変えたのか？
「一回、全部ボツにして、5人で一緒にスタジオに入って作るところから始めたんだ」
（鈴木正美）



だしたんだよネ。もちろんバンドから一歩はなれればどのメンバーも〝個〟なんだけど、バンドとしている時はもっと1つの固まりに持っていきたくなった。その形で新しい作品を提示したくなったわけ。それで、休みの間に各々が作ってた曲もあったと思うんだけどそれは1回全部ボツにして、5人で一緒にスタジオに入って作るっていうのをやろうとしたの。

―これまでそういうことしなかったの？　リハーサル・スタジオでセッションしてくうちに曲が出来る、ということは。

高橋　それ、まるでなかったんですよ。

―意外たなー。曲によってはまさにそういう状況で生まれたかのような質感、感じてたんだけど。なんでセッションで作るような事、しなかったの？なにか方針があったわけ？

鈴木　それは単純に、各々が曲を作れちゃうバンドだったからだと思うよ。そういうことが可能なのに、その才能を削除してまであえて皆んなして何かを持ち寄ろう、とは考えなかった。でもさぁ、いつものスタイルで曲が出来て、それでツアーも出来てっていうことを繰り返してくうちに、不安にもなってきたわけ。

宙也　オレもそうだった。特に休みに入ってからは。皆んなともぜんぜん会わなかったから、1人で「これからDe+LAXはどうなっていくんだろう？」「自分はどう突き進んでいくんだろう？」って考えて。ボーッとした休みだったけど、それだけは常に考えてた。でも答えは出なかったんだよネ。1人だったから。休みが終わって、5人で集まってやっと見えたカンジ。

―休みが終って、5人で曲作りを始めたの？

京極　うん。曲作り、というより曲の素材になるものがとにかく沢山欲しかった。で、単純に「これがやりたいんだけど」っていうモノを各々が出していって、そこに皆んなが肉づけしていくっていうやり方して。

―各々がやりたいコトを持ち寄って？

京極　コレをこうしてこうやってバンドでやりたい、とかいうんじゃなくてネ。もっとシンプルな形だけを持って行った。

高橋　オレとかも自分で叩きたいリズムっていうのがあるわけですよ。シャッフルだったりふつうの8ビートだったり。まず、それだけ叩いて、そこに他の奴が音をつけて、みたいな。

──そういうやり方って、1人で作曲していくのとはまるで別物だった？

榊原　全然ちがいましたネ。家で1人で作ってるとどうしても自分にハマってきて「暗れーなー」ってカンジになってしまう（笑）。そこをバンドでやると同じ素材に対して5つのパワーが集まる。それって今までになく刺激的なことでネ。

──5人のセッションはどのくらい続いたの？

高橋　ひと月ぐらい。

榊原　そこで見えた素材を今度は（鈴木）正美さんがまとめる作業に入った。その間、ボクらは詞を作る方にまわって。

鈴木　今までってレコーディングに入っても詞が出来てること、ほとんどなかったんだよネ。詞は歌入れ直前に完成、ってカンジで（笑）。でも本当は詞も出来上がってからレコーディングにのぞむのがベストなわけじゃない？　で、今回はそうすることにしたという。結局セッションで23～24個ぐらいの素材が出来たんで。

高橋　その1つ1つに全部テーマと詞をつけようとした。そこまでやった方があとでどの曲を採用するのか決める時に判断しやすいから。

京極　いちおう全員が詞もテーマも考える、ってことだったんだよネ。といっても1曲に対して何人もが書いてきたものもあれば誰も書きたがらないモノもあって、後半は「コレ、オマエが書け」「コレはオマエ」ってなっちゃったけど（笑）。

──1つの曲に対して何人もが書くとなると、それぞれの個性がモロに出そうだネ。

鈴木　だから大変だったわけよ。最終的にはそれを1つにまとめないといけないから。いま考えると、テーマからして不明瞭なモノが多かったし。



高橋　〃明るい〃とか（笑）。

鈴木　（高橋）マコッちゃんが考えた〃ねじれた愛〃とか（笑）。でも、事前にテーマを決めといて良かったと思うのは、イメージが広がりこそすれハズれてるものがそんなになかったこと。今回のアルバムっていうのは、詞に関しても曲に関しても5人にとって納得てくモノを作る、ということだった。だから1つのテーマの元にやりとりしていく、って方法は良かったなぁ。皆んなが書いた詞を曲とつけ合わして、また皆んなに戻して、さらに考えて、とかしてたしネ。

──すっごくたんねんなやり方、とったんだネ。

鈴木　おかげで1ヵ月半ぐらい、ほとんど寝るヒマもなかったけど。

高橋　寝ててもオレが起こしに行ってたから（笑）。

鈴木　そう。オレが朝の9時に寝ようが10時に寝ようが、かならずマコッちゃんが昼の1時に来るの（笑）で、頭ボーッとしたまま公園に行ったりすると、そこでマコッちゃんが色々となごやかな話をしてくれて（笑）。

──入念に下準備をした分、レコーディング本番はスムーズだった？

宙也　うん。バンドに対しても、曲に対しても確信もってのぞめたから。

高橋　詞と曲のことがちゃんと分かってると、やっぱりやりやすいですよネ。

──そして完成したアルバムはR&Rなものだったネ。今まで以上にその感が強かった。

鈴木　R&Rも含めてアートって、社会のシステムに組み込まれた人から見たアコガレの姿だったりすること、あるよネ。そういう人に仮体験させる為の音楽、みたいな。でも、オレ達がDe＋LAXというバンドを続ける上では非現実を売りにはしたくなかった。スタジオに入ってバーンとやった音がこれだ！　っていう所で自信の持てる内容にしたかったんだ。

ARENA 37°C 創刊10周年記念キャンペーン第3弾!!

('93年1月〜6月)

シマあつこ『8ビートギャグポスターカレンダー』応募者全員プレゼント!!《3号連続購読者特典》

8・9・10月号



VIVA ROCK、SHOXX誌上でおなじみのシマあつこ『8ビートギャグ』がA2ポスターカレンダーとなって登場!!
　8月号・9月号・10月号(本号)の3号連続ご購読者より応募者全員にプレゼント致します。数多くの人気アーチストがシマあつこ独特なタッチで描かれるファンタジック・ワールドです。二度と手に入らない貴重なカレンダーです。

株式会社 音楽専科社 Tel. 03(3574)0201 Fax. 03(3574)8548

▶応募方法

下段についている応募券、3号分を一口にして、郵送料(切手260円分)を添えて封書で『8ビートギャグポスターカレンダー』係までご応募下さい。
※応募〆切＝10月20日(当日消印有効)
※申し込み先＝〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F 株式会社音楽専科社『8ビートギャグポスターカレンダー』係
※8ビートギャグポスターカレンダーは11月中旬より発送致します。
※年間購読者にはもれなくプレゼント致します。
担当：岩井・高杉

応募券
ポスターカレンダー
A-10

KAZZ

7／22にシングル“夏の扉”でデビューしたKAZZ。
でもまだそれだけしか彼のことを知らない人も多いはず。
KAZZって誰？KAZZってどんな人？
KAZZが彼自身の言葉で自分を語ってくれた。



From KAZZ

Written by KAZZ



ほんの数時間前、初めてのアルバムの、最後の曲のトラック・ダウンが終了した。上京して3年8ヵ月、シングルとアルバムのレコーディングが始まって5ヵ月、ようやくスタート地点に立った気がする。

本名・川上和之。広島出身。24歳。こうして、自分のプロフィールを改まって文字にするのは、なんだか照れ臭いけど、まずはキチンと僕の事を皆んなに知ってほしいので、自分の言葉で書きたいと思う。

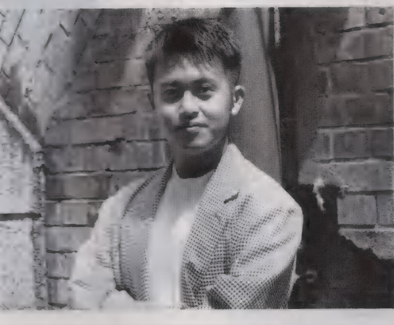
とにかく小さい頃から歌をうたう事が大好きで、キッチンのテーブルの上や、近所のおばちゃんの前や、幼稚園など、どこででもうたいだすガキだった。それも童謡じゃなく流行歌。かなりマセたガキだ。そのせいか、意味も解からず、いろんな言葉を知っていたようだ。

小学校にあがっても、何かの行事には必ず歌で参加し、かなりの目立ちたがり屋でもあった。この頃はニューミュージックと言われるジャンルが、少しづつ出始めており、7つ違いの兄が聞いていたユーミンやハイファイセットを「大人だなぁ」と思いつつ隠れてこっそり聞いていた。

洋楽に触れたのは、高学年になってからで、やっぱり兄の持っていたアバやカーペンターズ、エルトン・ジョンだったと思う。その中でも、ポップス性が強く、歌謡曲的感覚で聞けるものが好きだった。

中学に入ってからは、FMの影響で、ビルボードのチャートを毎週チェックして、TOTOやジャーニーなどいろんなものに手を出した。が、中学2年の時にTVで、ダイアナ・ロスのセントラルパークでのライヴを見てからは、モータウン系のアーティストに心動かされるようになり始め、リアルタイムではないが、ジャクソンズやスティービー・ワンダー、スモーキー・ロビンソンなどを逆上って聞いていた。

聞くのと同時にうたうことも相変わらず好きで、中学2年の終わりに受けたヤマハのヴォーカル・オーディションがきっかけで、ヤマハのコンテストに出るようになった。まだ、この頃は、他の人の楽曲をもらい、ヴォーカリストとして参加していたんだけど、少しづつうたいたいメロディーが固まり始めて、高校2年の頃からオリジナルを作りだした。そうやって、毎年コンテストに参加するうちに、プロとしてやりたいと思う気持ちが強くなり、とうとう高校卒業後には、プロを目指して上京してしまうのだ。したからと言って、他のコネがあった訳でもないので、他のミュージシャンを目指す人と同じ様にバイト生活をして、チャンスを待った。この間、ソロである僕は、特にライヴをやることもなく、たった2曲のデモテープを持って、いろんな人に聞いてもらった。広島にいた頃にくらべて、人前でうたうことは、無いに等しいくらいで、時々、音楽から遠去かっているんじゃないかと不安にもなったりしたけど、上京してからの3年8ヵ月は自分にとっての音楽をしっかり見つめることの出来た時間だったと思う。



音楽やバイトを通して、いろいろなジャンルの人と出会い、今まで知らず知らずのうちに出来ていた僕の「自信」が、どんなにもろい「自信」だったかという事に気づいた。周りの人から見れば、〝たかが音楽〟だったりするけれど、僕にとっては、〝やっぱり音楽なんだ〟と強く強く思えるようにもなった。

多くの出会いの中には、良くない別れ方をした人達もいるけど、ここ1年ぐらいから、出会えた全ての人に感謝したいと思えるようになり、そう思えるようになってからは、気持ちもシンプルになり始め、ひとつひとつの出会いが良い方向に広がり始めた。その中のひとつに、今のプロデューサーとの出会いがあり、レコーディングがスタートした。

7月22日にリリースしたシングル「青空に追いついて」と、秋リリース予定のアルバムで、スタート地点に立つまでのいろいろな「思い」や「出会い」を現在の僕なりにまとめる事が出来たと思う。これを読んでくれた人には、やはりこのアルバムを聞いてほしいので、今日完成したばかりのアルバム全曲を、来月号で解説しよう。

1 名前
川上和之

2 出身地
広島県広島市

3 生年月日
1968年5月20日

4 血液型
O型

5 子供のころの夢は？
歌手

6 男に生まれて良かったと思うときは？
トイレに入った時

7 女に生まれ変わるとしたら誰になりたい？
黒人女性ヴォーカリスト

8 心底ホレてるミュージシャンは？
ルーサー・ヴァンドロス

9 今まで見た最高のライヴは？
5年くらい前、広島で見たスティービー・ワンダー

10 今までのアルバイト歴は？
八百屋、引越し屋、洋書屋

11 ミュージシャンになってなかったら？
考えた事がないのでわかりません

12 自分を動物にたとえると
タヌキ

13 クセは？
タバコ

14 スランプ脱出法は？
仲の良い友達を1晩中引っ張りまわして遊ぶ

15 女が強いと感じるところは？
別れた後の気持ちの切替え方

16 女らしさを感じるところは？
だまって微笑まれた時

17 男にとって女は…
頼られ、守れる人

18 もし映画出演するなら相手は？
鉄骨飲料のCMの人

19 よくやるスポーツは？
水泳

20 自分で買った最初のレコードは？
岩崎宏美さんの「ロマンス」

21 絶対に許せない人のタイプは？
人の痛みのわからない人

22 新聞はどこから読む
スポーツ

23 自分の性格で好きなところは？
ついつい場にぎわせ役になるところ

24 自分の性格で好きなところは？
物事をうまくまとめようとするところ

25 好きな酒は？
杏露酒

26 酔うとどうなる？
とにかく明るく、うるさい

27 今までの人生で後悔してることは？
忘れました

28 レコーディングは好き？
大好きです

29 好きな食べ物は？
新宿「おんまキッチン」の〝勝手にビビンバ

30 嫌いな食べ物は？
ないです

31 信じているジンクスは？
ジンクスは破るものだと思いますので、なし

32 ファーストキスはいつ？
小学校5年

33 尊敬する人物
身近な人なので言えません

34 今までで一番高い買い物は？
レーザーディスクプレーヤー

35 一人暮らしで苦労することは？
役所関係の手続き（保健など）

36 10年後ってなにしてる？
うたってます

37 KAZZのチャームポイントは？
安全そうな目（…と言われる）

38 好みの女性のタイプは？
男から見ても尊敬できる、考え、生き方の人

39 男らしさって？
守るべきもの（人）を守る

40 今一番大切な人は？
僕に関わる全ての人達

41 寝る前に考えることは？
明日のこと

42 自分をスケベだと思う？
思います

43 最近見た夢は？
スペインの街中を飛んでいる夢

44 ベッド派 or 布団派？
布団

45 今行きたい外国は？
真っ青な海が広がる国

46 恋愛に欠かせないものは？
大切に思う気持ち

47 子供のころのニックネームは？
ZOO君

48 もし願いが三つかなうとしたら？
旅行、引越し、ひとりでも多くの人にKAZZを知ってもらう

49 自分自身にエールを！
もっともっと自分を開放しろ！

50 読者に一言！
一緒に気持ち良くなろう!!



Report／NAOKO ISHIKAWA
Photo／MASAYO KANAMARU

PINK SAPPHIRE

夏休み特別企画
"夏といえば湘南・鎌倉"

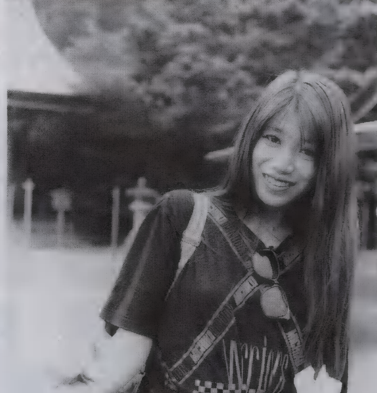
この夏、皆さんどうお過ごしでしたか？
我々ピンクサファイア取材班は"夏といえば湘南、鎌倉"
という何のヒネリもない思いつきで
夏の海へと遊びに出かけたのでした。













「今月は、鎌倉にでも行こうかってことなんですけど」
編集さんからそう電話でお話が来た時、仕事という観念は頭からぶっ飛んで、
「え!!どこらへん回るんですか〜?」
と思わず声がうわずってしまった。そう、今月のPSは鎌倉からお送りします。7月上旬にデビューしてから初めての大型連休をもらったメンバー、その話を絡めつつ、鎌倉の海をバックに撮影なんかいいですね〜とマネージャー氏からのプッシュもあったらしい。つまりは、取材とカコつけて、みんなで遊びに行っちゃいましょうかーという、ただ、それだけの企画だったわけですけど。

夏といえば湘南・鎌倉(基本)

8月某日、渋谷駅前にメンバーと取材スタッフは集合、鎌倉へ出発。この日の天気は、どんよりとした曇り空。ぱらぱらと雨も降りだし、そういや西の方から台風がやって来るっていってましたよね〜と取材班が同乗した車の中では一瞬だけ、深刻なムード。荒れた海の前で撮影ってちょっと怖いかも、でもま、それも面白いですかね、と他人ごとのようなあいまいな打ち合わせが進み、大仏も見たいし、江ノ電も乗りたいけど、あまり時間もないし、今回は鶴岡八幡宮と、江の島近くのあまり人気がない海岸にしましょうと、なんとなく決定。さっそく車は鶴岡八幡宮へと向かったのでありました。

いや〜、ハト。
鶴岡八幡宮はすべてハトにもっていかれましたね。
正面から入り、いつも縁日が出て賑やかなはずの(この日は出ていなかった)本堂に向かう石畳をてくてくと歩いていくと、そこにはたくさんのハト(鳥が嫌いな人にはたまらない)。ここのハトはすごく人間に慣れていて、手のひらに乗って餌を食べるという、まさしく『手のりハト』。それを見て、早速4人は餌を買い込んだ。ここで、いちはやく手のひらにハトをのせることに成功したのはTAKA。それを見たMIKI、
「何で、私のとこに来ないの〜」
と、ふたたび餌を買いに行きハトに接近。TAKAからテクニックを伝授され再度挑戦すると、今度は2〜3羽が一気にMIKIの手に。
「うわ〜い」
これに気を良くしたMIKI、両手一杯にハトの餌を買って来て、
「おいで〜」
その頃にはすでに立派なハト使いになったMIKIの肩や手にはたくさんのハトが。その次の瞬間、ハトが一斉に飛び立ち、屋根の上に立ち上がった。それはそれは壮観な風景。MIKIはここで思わず、
「いや〜、ここのハトも見せるね」
と感心の一言。
この後ひいたおみくじでは、MIKI、TAKA、AYAが吉、HARUMIが末吉と、いまいちの盛り上がり。さて、本堂にお参りに行かなきゃ、と、結構ハードな石階段を上がっていき、お賽銭箱にお金を投げ、手を合わせてそれぞれにお願いをしていると、ここでMIKI、
「鎌倉って金がかかるな〜」
とぽつり。ここで、AYAの突っ込みが入った、
「餌ばっかり買ってるからだよ」
そうでした、MIKI、納得(笑)。
鶴岡八幡宮を出て、ちょっとその辺りで一休みしましょうか、と近くの喫茶店へ。かき氷やら、くずきりやらを頼んだあと、そういえば7月上旬のオフって何してたの〜と、PSの夏休みの話を聞くことにした。しかし、この時TAKAが食べてた「あじさい」っていうかき氷、えぐかったなあ。お店の人に人気あるんですよ、と言われて「つい頼んじゃった(笑)」といってたけど(笑)

夏休みの思い出

—オフはどうしてたの
HARUMI(以下H)「なんにもいいことはなかった〜」
AYA(以下A)「どこにも行かなかったの?」
H「行かな〜い、実家には帰ったんだけど」
—海外に行きたいとかっていってたよね?行った人は?
A「いないんだな〜それが」
MIKI(以下M)「いないんだな〜」
H「行きたいのはやまやまだったんだけど、一人で行くにはちょっとだし、友達みんなが一緒に休みになるわけじゃないから、誰も行く人いないは実家に帰ったはいいけど、友達に会ったくらいで、何もなかった(笑)」
—え〜、じゃ旅行らしい旅行した人は?
A「はい(元気よく手を上げる)。伊豆に一泊。そんなとこ週末に行けって?(笑)」
M「私は、ずっと教習所に通ってた」
A「MIKIちゃん、オメデト〜(パチパチ)」
—あ、もう取れたの?
M「昨日、卒験合格して。取ったのは400(cc)まで乗れるやつだから、トラクターとかも乗れるんですよ、小型特殊みたいなのは(笑)。だからこれで、自分の持ってるバイク、乗れるかなって」
—TAKAは?
TAKA(以下T)「けっこう昔の友達と遊んだかな。ライヴ見に行ったりとか」
—そうか。休みに入る前は、海とかキャンプとか計画はたくさんあったのにね〜。
T「予定はあったんだけどね。でもみんなオフの時に遊べなかったから、この前九州の方にライヴ回った時、結構遊んだ」
A「遊んだね〜」
T「鹿児島の時は、夜海岸で遊んだりとかね〜」
H「そ、夜中に花火」
A「狂乱の花火大会(笑)」
H「最初はあんまり花火を買い込んでなかったんだけど、向こうのレコード店の人とかが気を使ってくれちゃって、いつの間にすごい買って来てくれちゃって(笑)」
M「で、ローディーが真っ裸で花火をもって走りだして」
—よく口にドラゴン花火とかくわえて走る人いるけど。
M「そいつは○○にはさんで走って行った(笑)」
—みんながやたらせたんじゃないの?
M「いや、彼は自主的にやったんですよ」
A「ほら海って真っ暗でしょ?何にも灯りのないところで脱いで入って行ったもんだから、海から出て来た時にパンツがどこにあるか見えないの(笑)、こっちに来るな!とかいわれてそのままうろうろしてて」
一同「(爆笑)」

という案外地味〜な夏休みを過ごした4人。
「こんなもんですよ、ハハハ」
と、笑ったHARUMIの声はどこかもの悲しげだった(笑)。
鶴岡八幡宮を出て江の島近くの海岸に着いた頃は、ちょうどうっすらと夕焼けが見える時間。遊泳禁止の、サーフィンをやる人達だけしかいない海岸なのと、肌寒いせいか人もまばら。海岸に着くとだだーっと波打ち際に走って行く四人。波が打ち寄せてくると、かなり真剣な顔つきで逃げる。『ぎりぎりまで待って逃げる』、これがかなり手慣れた様子。これが撮影の時にも幸いした(笑)。波打ち際に立って、ポーズをつけていても、波が足下まで来ると、軽やかな足付きで、ささっとよける。よけきれなかったのはカメラマンK女史だけだった(笑)。
湘南の海といえば、波打ち際を大きな犬を連れて散歩という、絵に描いたような図が、本当に様になる場所。撮影終了後、読者プレゼント用に、4人に貝がらを拾ってもらっていた時のこと、バウバウと嬉しそうに犬がやって来た。まずはTAKAとMIKIが接近。するとワンちゃん、飼い主が投げたボールをバシャバシャと海に入って取ってくるという技を見せる。ほえ〜、すごいな〜と感心している四人。ボールをくわえたワンちゃんは得意げな顔をして、飼い主とまた、散歩の続きへ出かけて行った。
「いいね〜、今度は夜来てここで花火したいね〜」
と、うっすら暗くなりはじめた海を後にしてTAKAがぽつりといった。こうしてPSの鎌倉・江の島の一日は暮れた。
「明日からはまたレコーディングと、9月20日の新宿パワーステーションでのライヴのリハがあるんです」
と、最後には10月にリリースされるシングルの話もちらほらと出ていた。その話は来月号でのお楽しみということで、それにしてもこういう企画っていいですね。今度はPSで北海道とか沖縄とか。どど〜んと太っ腹な企画を立てましょうよ、ね(笑)。

●ピンクサファイア写真集『ガール・バイ・フォー』発売中！詳しくはP50を見て！

ピンクサファイア
初の写真集

デビューから2年、
輝き続ける4人が初めてベールを脱ぐ!!

NOW ON
Sale

PRICE
2000YEN（税込）

発行●音楽専科社
〒104 東京都中央区銀座5-1-7
数寄屋橋ビル5F
TELEPHONE・03-3574-0201



PINK SAPPHIRE is keeping on running after their dream.They are shining because they go forward to achieve the goal which They can't find.This book is the first picture book of PINK SAPPHIRE. The photographs express how the four girls are pure and strong. We are happy that you can come near PINK SAPPHIRE,and you can find your dream.

PINK SAPPHIRE
PEACE OF MIND　SPOT LIGHT　INSIDE OF ME　BURNING DESIRE
GIRL by X4

▼確実に手に入れたい人は下の注文書に必要事項を記入し、書店に予約して下さい。

（キリトリ線）

雑誌注文書

●書店（番線）印	●受注　　月　　日	●部数	●担当者
	●書名　アリーナ37℃ 7月号臨時増刊 ピンクサファイア写真集「ガールバイフォー」定価2000円（税込）6月19日発売		
	●あなたの住所　〒		●TEL
	●あたなの名前		
	●出版社名　㈱音楽専科社　〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F ☎03(3574)0201 FAX03(3574)8548		

※この注文書はコピーでもかまいません。

THE DEAD P★P STARS

“死ぬ覚悟はできている”



―さっそくですが新バンド結成という事で！

C.D.N.KENchan（以下K）　またここまで帰って来たぜという感じ。俺は一年前ファンと約束した。気合いのはいったバンドでもどって来る。さよならは言いません、これからもよろしくってね（笑）そして帰ってきた。次はお前達が歓迎する番だ。

―結成まで演説会やアンチフェミニズムそしてS・N・Fなど幅広い活動で動いていましたが今後は？

K　口に出さなくても俺が一番やらなければいけない事はみんなも知っていると思う。もう死ぬ覚悟はできている。一年前流した涙があるかぎりぜったいやってやると…。

―7月20日の記者会見についてですが？

K　関係者にCO_2まくなんていないでしょ？やっぱりマスコミだからハイハイっいってられない。それでアナーキストレコードというのを設立しました。現段階ではっきりいって資金8万ぐらい！FAX買ったら終わりというぐらいだけど将来は若手のバンドも育てたいと思う。そこから11月21日発売で「THE DEADPOP4DRUGS」というアルバムを発売する。だから取材の人達からにげようと山の中へ逃げます（笑）ツアーは11月ごろにはやりたいんだけれど、いろいろと個人的にあって動けない事もあるんでそういう問題を解決してからね。すぐにでもやりたいのでみんな待っていてくれってとこかな。

―どんなバンド、サウンドになるの？

K　時代に反比例したいなあなんて思う。今さら頭がデカイなんていないでしょ？過激でむちゃくちゃそんなバンドにしたい。サウンドは「DEADPOP」です。

―では最後に一言。

K　50％は意地かもしれない。みんなが泣いてくれた、俺はそいつらのためにやると決めた。今俺にパワーをくれ。倍のパワーをかしてやる。約束する。簡単に俺の気持ちがわかってたまるかといつも感じているんだ。

《メンバー右からHIROMI（G）、AKI（Vo）、C.D.N.KENchan（Dr）、SEIGO（B）。》

●今回はけんchanの希望によりいつもの「けんやる」とは違う構成となりました。来月からはもとの「けんやる」に戻ります。

月刊レディース

暴露話満載特別座談会 その2

今だから話せる事件の後編

前号でもお届けしました特別座談会の続編!!
あるわあるわの笑える話の数々
本当にレディースくんたちっておかしい!!

責任編集／大島暁美

先月号に引き続き、今月号も没ネタ大復活特集。インディーズ時代の、彼らの今以上のメチャクチャぶりをお楽しみください。

●大根汁いちゃもん事件

GEORGE インディーズでツアーしてるときは、高速のパーキングエリアでなにかを食べるのが趣味だったのね。熊本でライヴやって、ライヴが終わったあとすぐに出発したときのこと。ライヴのあとだったから、疲れてて機嫌が悪かったんだ。それで、本州に入ってすぐのとこで食事をしようと思って、カレーを注文したのね。そしたら、3秒で出てきたんだよ。たった3秒だよ。それで、「なんで、こんな早いんじゃぁ!」って怒って、コーヒーカップが汚かったから、「なんじゃ、ボケェ!」って怒って。新しいのを、持ってこさせた。

百太郎 そんなこと、あったっけ?

GEORGE あった。俺、ハムカツ・カレーを食ったの、覚えてる。

百太郎 高速の食堂で、年中、文句ばっかりいってたよね。それで、ライヴの疲れを発散してた(笑)。

GEORGE どこかで、けんちん汁を頼んだらさ。なかに、具が大根しか入ってなかったんだよ。それで、店員を呼んで、「こっちのほうでは、こういうのをけんちん汁っていうんだ。うちのほうでは、こういうのは大根汁っていうんだよね」って、嫌味いった。そしたら、新しいのに取り替えてくれたんだよな。

NAO そりゃ、普通、取り替えてくれるよ。GEORGEが文句いったら。

JUN とりあえず、迫力あるからな〜。

NAO ありすぎだよ(笑)。



●メモ帳ブラザーズ

百太郎 ツアーのとき、俺が運転して、GEORGEが助手席で、NAOとJUNがたいてい後の席に座ってたのね。

GEORGE それで、メモ帳ブラザーズって、いわれてたんだよ。

百太郎 だって、こいつら、何にも知らないんだもん。何も知らなくて、俺とGEORGEが話していることを、必死にメモして覚えてたから、メモ帳ブラザーズ(笑)。

JUN ざけんなよなぁ。

GEORGE ツアーのときに、しょっちゅう、俺と百太郎は言い合いしてたんだよ。歴史のこととか、数学のこととか。黙って運転してればいいのに、ムキになって討論してるの。

NAO 突然、「あんときは、藤原のなんたらがど〜のこ〜の……」とか、いいだすんだよ。「あんときは」って、おめーは生きてたのかよ(笑)。

百太郎 いちばん驚いたのは、俺とGEORGEが三角形の話をしてたとき、後から「そういえば、三角形の面積って、どうやって出すんだっけ」っていう声が、聞こえてきたとき(笑)。普通、知ってるよね。

JUN 運転中に、三角形の話なんかするなよな〜。

NAO 二人して、マジにムキになってるんだよ。

JUN それで、俺らは「わかんね〜な」って、首を傾げてた。

GEORGE 知らね〜んだろ、おめーら。

JUN 俺らがわかんなかったのは、あなたたちがなぜ、ツアー中にそんなことでムキになってるかっていうことだったの!(笑)

●野沢直子遭遇事件

GEORGE 俺たちが、昔、「へビメタ虎の穴」っていうテレビ番組に出たとき、その司会が野沢直子だったんだよ。

JUN 「バンドの女」ね(その番組のなかに、そういう名物コーナーがあった)。

GEORGE それで、すごい驚いたことがあってさ。俺たち、すごい狭い楽屋に、ギュウギュウになって座ってたんだ。そしたら、いきなり入ってきて、「はい、ごめんなさい」とかいって、テーブルに座るんだよ。それで、両手をあわせて、「いただきます」とかいって、弁当を食べ始めちゃったんだ。

JUN あのときは、どうしたらいいのかわからなかったよね。

GEORGE 仕方ないから、俺は煙草を消して、なんとなく見てたんだよ。それで、食べ終わったら、また手を合わせて、「ごちそうさま。お百姓さん、ありがとう」とか、いってんの(笑)。

JUN まぁ、そこまではいってなかったけど(笑)、それに近いノリがあったのは本当だよ。

NAO でも、普通、全然知らない人のところに入っていって、弁当は食えないよな〜。

GEORGE でも、芸能人なのに、全然、タカビーじゃないんだよ。荷物とか、マネージャーじゃなくて、自分で持ってたしさ。あれは、ビックリしたよ。俺、テレビの人間は、みんな偉そうなしてるのかと思ってたからさ。

百太郎 なんか、素朴な感じだったよね。

GEORGE でも、知らない人の楽屋で、弁当食えちゃうんだもん。やっぱ、大物かもしれないな(笑)。





真夜中の診察室

百太郎さんはセックスなど教えてくれるというけど本当!?

Q. 皆さんは、今はバンドで食べているわけですが、バンドをしてなかったとしたら、何になってたでしょうか?
（ジュテームNAO）

GEORGE 食えてないよ!

NAO 俺は、普通のサラリーマンのような気がする。

百太郎 俺には、サラリーマンはできないな。憧れるけど、ちょっと無理だと思う。

GEORGE NAOは窓際族で、部下の女の子がお茶いれてくると、「なんだ、このお茶はぁ!」って、文句いうサラリーマンっていう感じがする。

NAO 人のことはいいから、自分のことをいいなさい（笑）。

百太郎 俺は、作家! それで、直木賞をとって、篠ひろ子と結婚してるでしょう。

NAO そっちのほうが、今よりずっといいじゃん（笑）。

JUN 俺、俳優か刑事（笑）。

GEORGE 俺は、ウーおじさん。近所のガキを「うーっ」っていって、追っ掛けてる（笑）。

Q. 黒木香のような脇毛を見せてる女を、どう思いますか?
（13才の若い女）

NAO 俺は、イヤ。

GEORGE そのときによりけり。

百太郎 いいんじゃない?

JUN 俺も、いいと思う。

百太郎 でも、脇毛があって、マン×がないほうが、興奮するな（笑）。

Q. 百太郎さんは「セックスとか、ディープ・キスとか教えてやるよ」っていうけど、立候補する人がいたら、本当にやってくれるんですか?
（秦野市の斉藤梨江ちゃん）

GEORGE 全員、やってしまいます。

NAO 誰でも構わず。

GEORGE 見境なくやってしまいます（笑）。

NAO 容姿を問いません。

百太郎 人に来た質問に、勝手に答えるなよな。俺が判断して、みんなを派遣する。まず、体重60キロ以上で、パイオツカイデはJUN。マン×そってる子は、NAO。

NAO やめてくれよ。俺、普通の子がいい。

百太郎 赤道を越えてる感じはGEORGE。俺は、肩書きのついてる女がいいな。

Q. JUNさんに楽屋でもらったっていうドラム・スティックを、10万円で売り付けられそうになったんですけど、楽屋でファンの子にあげたことありますか?
（今治市　真弥）

GEORGE なんだ、それ（笑）。

JUN そんなこと、あるわけねぇ～よ。でも、もしかしたら、メンバーがこずかい稼ぎに売ったのかもしれない（笑）。

Q. わたしは足が短いんですが、短いとセックスがやりづらいですか?
（SEX MAYUMI）

百太郎 JUNとなら、大丈夫です。

JUN JUNも短いから（笑）。

JUN なんだとぉ～。いちばん短いのはお前だろ（笑）。だけど、そんなのは関係ないと思う。

百太郎 人間、大切なのは足の長さじゃない。心の広さだよ（笑）。

Q. 百ちゃんは、いつも左手の薬指にでっかいリングをしてるけど、なにか意味があるの?
（百ちゃんを愛するとぴよ子）

百太郎 これ、やたら高いんだぜ。本物のダイヤとプラチナなんだから、馬鹿にしないでね（笑）。

GEORGE みんな、見栄をはってるんだから。

百太郎 ただ高いからしてるだけ。せっかく持ってるのに、しなきゃもったいないだろ。

Q. GEORGEさんとJUNさんの刺青は、超デブになったら皮膚と一緒にのびてしまうんですか? あと、刺青をしてて得したことと損したことを、教えてください。
（あやちん元気かすぎさんより）

GEORGE デブになったら、刺青も一緒にのびちゃうんじゃないの。

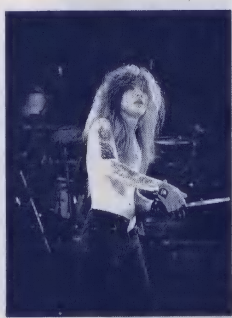
JUN それは、そうだよな。

GEORGE 得したことは、街で道をあけてもらえること。海に行くとまわりに誰も行かなくなって、プライベート・ビーチになること。損したことは、ゴルフ場とか温泉とか、入れないところがいっぱいあること。でも、あんまり、損してるっていう感じはしないな。

JUN 損したことは、暴力団と間違われて、近所から苦情が不動産屋にいって、不動産屋がうちに来ちゃったこと。こんな長い髪したやくざが、いるわけないのにな～。得したことは……あんまり、思い浮かばないな。

今月のトピックス

GEORGEとJUN、突然、海に行く



8月上旬のある日、GEORGEとJUNは、突然、思い立って海に出かけた。最初は、百太郎も一緒に行くはずだったのだが、風邪をひいて欠席。日帰りだったのだが、一日中たっぷり日光浴して、二人ともこんがり小麦色くんになっていた。

百太郎 同じ人間とは思えないな。この肌の色の違い。土着民族と英国貴族って感じだな。

GEORGE 自分が風邪ひいて行けなかったもんだから、ひがんでんの。やだね～。

JUN 朝早くに出たから、9時か10時ごろには海に着いてた。それで、夕方までずっといたから、一日ですごい焼けちゃったよ。

GEORGE それで、あんまり早い時間に帰ると、道が混むから「そんごくう」っていうメシ屋で飯を食って帰ってきたんだ。

JUN 中華料理屋だったけど、おいしかったよな。

GEORGE その店のおじちゃんが「兄ちゃん、刺青入れてんだ。見せて」っていうから見せたら、「うちの女の子も、入れてんだよ」って（笑）。二人女の子がいて、二人とも「××命」って入れてんだよ。それも、なぜか二列になってるんだ。

JUN でも、すげーまぶい女の子でさ。今回、海で会ったなかで、いちばんまぶかった。

GEORGE あんまり可愛い子がいなかったもんな。とにかく、アベックばっかりで頭にきた。あとは……スッポンポンの女の子供が、いたくらいかな（笑）。

JUN でも、楽しかったよな。

百太郎 くっそーぉ。次は、俺も、絶対、行くぞ。

LADIES ROOMとLUNA SEAの対決のその後

誰が一番スケベか本誌で決着!?

8月号のこの新聞で、GEORGEと百太郎が「LUNA SEAは、俺たちよりスケベ」と発言したことについて、15通以上ものお便りが届いた。「誰がいちばんスケベなのか、順番をつけて教えてください」というものから、「わたしたちの夢を壊さないで!」というものまで、内容は千差万別。さて、そのお便りに対しての彼らの反応は……。

百太郎 他のバンドの足を引っ張って、俺たちって最悪（笑）。

GEORGE 男でスケベじゃないやつなんか、いるわけね～よ。

JUN GEORGEと百太郎がいったことなんか、いちいち真面目にとるなよな～。

大谷 「ノー・コメント」にしたほうが、いいんじゃない?

NAO そのほうが、余計、意味深なんじゃないの?

百太郎 じゃ、次はZI:KILLの話題にしようか（笑）。

GEORGE あ～あ。こうやって、俺たち、どんどん嫌われ者になっていくんだよな……。

編集後記

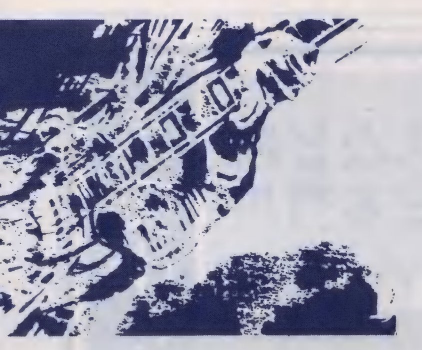
GEORGEとJUNが海に行った日は、最初、この新聞の取材をする予定になっていた。ところが、マネージャーの大谷氏から、前日の夜に電話がかかってきた。「NAOを除く3人が海に行きたいっていうから、取材を来週の月曜に延ばしてくれない?」というのだ。仕方なくOKしたんだけど……。実は、わたし、翌日の火曜日から、LAとNYへ出張に行くことになっていたのだ。しかも、レディースくんの取材は夜の6時半からだって! 結局、最後の編集後記を書いている現在は、火曜日の朝4時。あ～、これから荷物をパッキングして、一睡もせずに成田に向かわなくちゃならないんだわ……ったく、もぉ。

でも、その出張から帰ってきたら、すぐにレディースくんたちとタイに行くんだ! これは、昨年に引き続き、ファン・クラブ主催の旅行に同行するため。今回は、場所をサイパンからタイのパタヤ・ビーチに移し、またまたファンと一緒に楽しく過ごそうという企画なのだ。ということで、来月号ではタイのビーチで遊び狂うレディースくんたちの様子を、しっかり皆様に報告するから、お楽しみにね!

原稿募集!!

"真夜中の診察室"は引き続き、悩み事、疑問点などを大募集!! どんなことでもメンバーが暖かい気持ちで答えてくれます。特に女性の皆さんは写真付きでね!! 宛て先➡〒104東京都中央区銀座5－1－7　数寄屋橋ビル5F ㈱音楽専科社アリーナ37℃"月刊レディースの真夜中の診察室"係までドーゾ!!

■速報!! '92ツアー第2弾決定!! 10／14（水）名古屋勤労会館、18（日）日比谷野外音楽堂、27（火）大阪サンケイホール（チケット発売は9／15全国一斉）



大好評熱血連載⑫

中島和之の『俺はヘアメイク稼業』

今回のスランプは自分を見つめ直すいい機会だった。やっと新しい第一歩が、踏み出せる。

　ここ2ヵ月程、人生最悪の状態だったオレ。今、読み返しても、暗い文章が続いた。でも、ここにきて、やっと何とか打破できそうなフンイキが漂ってきた。ま、精神状態も復活の兆しがでてきた。ポジティブな人間になってくると、実にネガティブな自分が見えてくるものである。今回の落ち込みも、自分を見つめ直すいい機会だったように思う。

　Xというスーパースターのヘアメイクを担当することによって、オレにとって本当に考えさせられることが多かった。ただの美容師であるオレが、Xを担当したのは3年前。当時は無我夢中にやってきたし、共に成長していこうと努力してきた。が、オレは、Xのあまりに早い成長ぶりについていけなかった。つまり、Xのヘアメイクという肩書きに負けてしまったのである。彼らを担当する前は、ただただ自分の腕を磨くためだけのことしか考えていなかったオレ。

　ところがXをやるようになってからというもの、気がつくとXオンリーになっていたのである。すべてがX中心に回り、美容師としての自覚が除々にうすれていっていたのである。ロンドンやNYといったヘアメイク先進国の新しい情報にも、うとくなり、いつしか、オレは髪を立てることしか出来ない男と思われてもしょうがない状況になっていった。

　しかも、イヤなことからは、つい逃げようとしていた。でも、オレはやっと気づいた。Xのヘアメイクとしてのオレに負けないためには、もっと自分を高めることしかない。美容師として、そして人間として……。本来の目標をもう一度、見つめ直し、前向きに生きていこう。そして、ちゃんと自信をもって花を咲かせてやろう。そんなことを今、考えている。

　もしかしたら、自分を磨いていく過程の中で、また何か別のものをつかむかもしれない。もちろん、ヘアメイクとしてのこれまでの実績をふまえた上で、それを基盤に幅広い視野をもっていきたいと思っている。

毎日を精一杯に

　そしてもうひとつ、人間的にも反省することが実に多かった。その最たるものが、まわりに気を使えなかったこと。日本語はムズカシイ。言葉使いっていうのは、ほんのちょっとのことで、災いを生む。例えば、オレ自身は悪口を言ってるつもりはなくても、相手には、悪口としてとられるケースも多々ある。おそらく誰もが一度は経験のあることかと思う。人間っていうのは実にデリケートな動物だと思うから、人によっては驚く程、細かいことで傷つく場合もある。一言がまねく大事を、気づかないうちにやってしまっていたような気もする。

　例えば、その相手が好きになった人の場合、その言動は、さらに増す、好きな分、相手にたいして望むことも多くなり、ついつい悪いところばかりが目につくようになる。そして、好きだから、つい言



中島和之（ヘアメイク・アーティスト）1966年9月17日生。東京出身。目黒に美容院「RETOUR」を経営するかたわら、X、ラウドネスのヘアメイクを担当。腕や胸のTATOOがご自慢(笑)。趣味はサーフィン、スキー、ドライブ。特技は爬虫類と熱帯魚の飼育。好きな言葉は?『蘇生』――生き返る、生まれ変わるという意味で、いつも新たな気持ちでいたいから。ちなみに、お店の「RETOUR（ル・トゥール）」とは、フランス語で「蘇生」の意味。



葉に出して伝えてしまう。また、逆に、そんなに知らない相手に対しては、何か言われた一言に対してカチンとくることもあった。そんな様々な対人関係に、いちいち腹を立てていたオレ。でも、やっとわかった。何よりも大事なことは、人を思いやる気持ちだということだ。好きな人に対しては、その人自身の存在を認め、自分を押しつけてはいけない。カチンとくる相手には、ムキにならず、まずは、じっくりとその人を観察すること。そうすれば、自ずと、不適当な言葉は出て来ないハズである。きっと、このことを全部ひっくるめて、到達できた時に、初めてオレっていう自分が完成するんだと思う。

それが、たとえ60才、70才になったとしても自分自身が、目標をもって生きていううちは、毎日が精一杯、生きていられるんだと思う。やるのもやらないのも自分次第。自分のことは自分の力で乗り超えなければならない。カベはいつどんな時にも、おそってくる。でも、そのカベをひとつひとつ、しっかりと乗り超えてこそ開けてくるものだということが、今、ひとつのカベを乗りこえた時点でわかった。

そんな意味もこめて、オレはマジで外国に行こうと思っている。外国で大らかな人々に接するのもいい。人に干渉せず、日本人に較べ余計な飾りたてた言葉もない彼ら。そんな外国人に接することによって、他人に対しても常にハッピーな気分で接していたい。今、そう思っている。オレは、この2ヵ月間、こんなことを、本当にいろいろと考えてきた。

オレにとっては、いい時期となったが、こんなオレをだまって見守ってくれていた店のスタッフや仲間たちに心から感謝している。

生まれ変った店

今回、こういったゴタゴタの中、店長以外のスタッフが変わった。店長も、もう自分で店をもってもおかしくない腕をもっているし、オレからも、もう何も教えることもない。本来なら店長も、あたたかく送り出したい気分だが、一度に全員かわるのは、ちょっと淋しいし、いろいろと困るのである。

やめていったスタッフというと、一人は、特殊カットを中心に勉強してもらったが、美容師としてやっていくには、それでは片寄ってしまうので、子供やお年寄りもできるようにとキッズ専門の美容室に移っていった。もう一人、インターンの娘は、オレが丁度、忙しい時期だったこともあって、あまり技術を教える時間がなかった。カリキュラムを組んで教えてあげる程の余裕もなかったのである。たまに見てあげると、まったくの自己流。オレは、それを直してあげるのが精一杯だった。まったく、経営者としては失格だ。だから、彼女には、申し訳ないと思う気持ちで、基礎からしっかりと学べる美容室で、一から勉強してもらうことにした。そして、そんな彼女たちに代って、今度、我〃ルトゥール〃に入ってきてくれた新しいスタッフを、ここで紹介しておきたいと思う。すでに入ってきた人は2人。そして、9月にもう一人、入ってくる。

1人は、ヘアメイク志望。6年間、美容師として働いていた実績のもち主である。仕事も早いし、もちろん技術もある。そこで、彼女には、今後、ヘアメイクとしての現場を学んでもらいたいと思っている。もう一人は、インターン。彼女はシャンプー、脱毛、マッサージ、全身美容といったトータル美容の店にいたため、そのすべてをマスターするまでに異常に時間がかかっているということから、オレのところに相談にきた。つまり、あまりに学ぶ時間が多すぎて、自分自身でも不安になっていたようだ。そこで、うちの店で、美容師としての勉強をしてもらうことにした。

そして9月に入ってくる娘は、まだテストしかしていないが、有名美容室で働いている、まさに経験者である。彼女は、実は、うちの店とは縁がある人だったのだ。アリーナでヘアメイクを募集し、届いた履歴書を見ていたら中に、どこかでみた名前が出てきた。店長にきいたところ、店のオープン当時に毎週、通ってた客だったという。その時は、お客さんとしてしか見ていなかったが、すっかりダマされていたのだ。まさか美容師だったとは……。しかも有名美容室で働く人が、うちに転職してくるとは思いもよらなかった。もちろん、オレは一つ返事でOK。だって、昔からのうちの店も、オレのことも知っている人、オレ自身の勉強にもなる。彼女は、今勤めている店をやめるのに2～3ヵ月かかるという。9月には、2年ごしでやっとうちのスタッフになる。

オレは、3年後には、もう一店舗オープンしたいと考えてる。そんなこともあって、一人の女性を、オレの先生のもとで修業してもらっている。今のオレには、ハッキリいって教える自信がない。だから先生に頼るしかない。そして、3年後には、彼女を中心に新たな展開ができればと思っている。

何しろ、新たなスタッフにも囲まれ、自分自身の気持ちにも整理がつき、やっと新しい第一歩が踏み出せた気がする。もし近くまで来たら、新しく生まれかわったオレとオレの店を見に、立ち寄ってくれ！

●〃俺はヘアメイク稼業〃の中島和之さんにはげましのお便りを出そう！　あて先は下と同様。

♥中島さんのお店でヘアカットをしたい人は次の電話番号へ→『RETOUR』☎03(3779)6554　東京都品川区上大崎2-18-14 生井ビル3F

Z-BACK BODYプレス

歯ぬけのユウウツ

9・18アルバム『二枚目』リリース

〝今回のアルバムはすごく自信があるんだ〟と満面に笑をたたえる。

連載4回目にして最終回であります。最初っから4回って決まってたんだけどさ、プチプチ。と、内情をバラしたところでどうしようもないので、連載続行を切に願う方は、編集部あてにガンガンハガキを出しましょう!! 以上。

というわけで、最終回のテーマは、9月18日にリリースされるZ-BACKの2ndアルバム『二枚目』です。煮詰まりまくった末、産みおとされたこのアルバムには、インディーズ盤『Wee-Wee Number9』より「雨の町」「MILK SHAKE」「春望」の3曲を収録しているほか、同時発売のシングル「東京City インディアン」、萩原平祐作詞・作曲・ヴォーカルの「だんだん」、全編九州弁で歌われる「なしかわからんけど今日は上機嫌」などを収録。

情景としては〝九州を歌っている〟昔の曲と〝東京を歌っている〟新しい曲の二通りある。時正なりの折り合いのつけ方は、あるのだろうか。「最初から『Wee Wee～』の曲は、早く消化しようと決めてたんですよ、あれに入っとる曲を1st、2nd、3rd…に入れようと。アレンジとかいじりたくなってくるし…それに責任は絶対とっていかなきゃなんない。前はね、メッセージ的な責任から逃げてたような気がするけど、今回はちゃんとしっかりメッセージだっていえる。

前の曲を入れるってことで、今回、いちばん悩んだのが「春望（作詞・作曲／源之助）」。源之助さんは、昔からの僕の師匠の師匠なんですよ。一年に一ぺん、日本のいろんなところで〝命の祭り〟っていうのやってて、日本じゅうのヒッピーの人が集まるんですけどね。とにかく人間的にすごく影響を受けてるひと。この曲を初めて聴いたのは小学校5年の時なんだけど…すごく気持ちよく歌えるうた。毎回毎回じゃなくても、ずっと遣やり続けると思う。年々トシ追うごとに歌声もプレイも変わってくるやろうけど、それが大事なうただったら、年老うたかんじでも全然かっこいいと思う」



COMIC／萩原平祐（Z-BACK・G）



以前、インタヴューで時正はこう言った。「不良の中の優等生でありたい」。ライヴをみていて、アルバムを聴いていていつも感じるのが「この人はワルにはなりきれない人なんだろうな」ということ。正直、そこが歯がゆくもあった。だから「しゃあしいガキ共／ぼてくりこかすぞ」と九州弁で歌い飛ばす「なんかしらんけど今日は上機嫌」という曲を聴いたとき、「やったな」と思った。潔さが気持ちよかった。

「ワルには…なれん。親がまだ生きているから（笑）。どこかでライン保ってないと、どこまでも飛んでいきよる（笑）。本名で出てきて、プロでまだ2年。その前に生れて育てられた年数んのほうがずっと長いじゃないですか。まだまだですよ」

飽くなき向上心。Z-BACKはまだまだいくよ、どこまでも。アルバム発売後、10月中旬からは全国ツアーも予定されているので（P112～113参照）、こちらもご期待ください。

さあ、最後ということで、時正からメッセージをみなさんに…。

「読んでくれたみんな、ありがとう。いつかまた会いましょう。バイナラ」

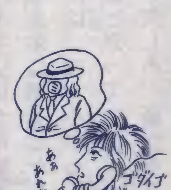
チャンチャン

発行所　東京都中央区銀座5-1-7数寄屋橋ビル5階
Z-BACK BODYプレス東京本社
電話03(3574)0201

構成／高橋厚子
イラスト／高杉よしみ

よいどれ天使

おととい（8月2日のこと）野音でのライヴ（田中一郎氏、ジュンスカほか出演のイベント）のあと、昭雄さん（exベルズ）、宮田さん（J(s)W）、岡本さん（exアンジー）の4人で飲みに行った。最後のシメにおでん屋に行こうと思ったら閉まっていたので、○○○○ピーチ（下北通ならわかるよね）に行き、あと1時間で閉店だというのに「一杯だけ飲ませてくれ」と言って2時間ねばった。そこで出た話を…。



僕がモンゴルから帰ってきたときのこと、母親から電話がきて、受話器を取るなり「ゴダイゴが、ゴダイゴが…」。ミッキー吉野が薬で捕まって動揺したらしい。という話をそこでしたら、みんな同じらしく、尾崎のとき、バクチクのとき、母親から電話がかかってきて、まさかお前は…」「それだけはやめてくれ」って言われたって。子を思う母の気持ちは、どこも同じ、と。

今月の感動

「僕は東京で生きていくんだ」って発言をしたときに、「トキさんはもう九州を捨てたんですか」みたいなハガキをもらった。そうじゃないんだって言いたいんだけど、いい言葉が見つからない。そんなある日、○○ロフト（2軒しかないっつーの）で高橋さん（フォーライフレコードのZ-BACK担当、女性プロモーターさん）と語り合ったとさ。そこで高橋さんが言った言葉。

「生まれた場所は生まれた場所、生きていく場所は自分で選ぶもの」

「これだ!」と思った。生まれた場所は生まれた場所で大事にしたい、いつまでも。でも生きていく場所は東京、それは自分が選んだこと。今までずっと探していた言葉がこれだった。ありがとう、フォーライフ! ありがとう、高橋美佐子さん!



時々日記

〔前説：前回の取材後、時正は異例の長期休暇をとった（といっても3週間くらい。でも他のメンバーはリハの日々だったというから…涙）。たしか「メキシコかバリに行こうと思う」と話していたような覚えがあるけれど、バリひとり旅。これまでにも中国やロンドンなど、海外ひとり旅を何度か経験している時正氏ではありますが…てなわけで、バリ編

○月×日　ヒンズー教って、長男、二男、三男…と生まれた順番に同じニックネームがつけられるらしい。町なかにはサミーやハリーやアリがいっぱいで、誰が誰やらわからん。

○月×日　こっちの日本語学校に行ってる人と知り合って、家に泊めてもらう。メシも食わせてもらった。決して豪勢ではないんだけど、自分が食いようパンを半分わけてくれる感覚が、たまらんうれしい。今回バリにひとりできた目的に、自分を試したいってのがあって…言葉の違うところで、どこまでフラットな関係でひととつきあえるかってこと。フラットで人を愛せて、フラットで人を信用できたときって、人に裏切られたことがない。

○月×日　ギター持っていって、バリの人と歌った。インドネシアの国歌をうたってくれた。日本の歌手では長渕、五輪真弓、ワタナベ「ナベサダ?」が有名。「乾杯」はやはりバリの人の心にも染みるようだ。

編集後記

最後ということで、私事を書くことをお許しください。'92年前半は、私にとって〝激動の〟半年でした。たとえそれが他人にとっては取るに足らないことであっても。どんなつらいことも悲しいことも時が解決する、といわれます。まんざら嘘でもないな、と最近気付きました。生きていたいです。死ぬまで生きていたい。また会いましょう。

★ライヴ・スケジュール＝10／26(月)日清パワーステーション、11／6(金)大阪アムホール、29(日)福岡都久志会館。○問Z-BACKインフォメーション☎03(37-6)4000

川村かおりの連載エッセイ

4

GROOVY DAYS

ツアーが始まった。息がつまる程最高なんだよ。

落ちこんでない、迷ってない、立ち向かおうとしている自分が今、唄っている。

物心ついて、人にすすめられず自主的に歯科へ行くのは、初めてだった。その痛さは、幼い頃ペンチで抜歯した以上のもので、私は昼も夜もいたたまれなくなっていた。ツアー直前だというのに。ノドの手術の後は、これか…。
きっと毎日が幸せすぎて、親も兄弟も仲間も夢も五体満足な体も持っている私へ、神（いるとしたらだが）が与えたちょっとした、十字架でしかない、と言いきかせた。
機械の音が無くて、R&Rを聴ければ、もっと早くに行っていたのに…。
そうこうしていたら、ツアーが始まってしまった。Sign of VoyageIIIは7月30日よりSTARTした。
久しぶりに集まるBIG FAMILYは、変わりなく騒がしくしていた。飯は、食べれなかった。入るすきまがないほど、息がつまっていた。震える。びびる。白鳥に変えられた兄達の魔法を解くために、話せない娘の様に、声は出るのに出せない状態だった。しかし、時間は、かまわず過ぎて行く。着替える。さっきまでの、優しいスポットライトを思い出す。マイクスタンドが分身である事を考える。ステージへ呼ぶ声がする。声をたどりながら、歩いて行く。
薄いカーテンの向こうに、彼等がいる。ギターが鳴り出すと、頭の中は蒼白になる。気づくと私は、唄って、話をしている。
日常では、肩をいからせ、クールにごまかし笑ったりする。1人で、いろんな物を抱えては、悩んだり、見失ったりする私も、ステージの上では、1つになる。たくさんのピースの川村かおりが、時間になると帰る子供の様に、きれいにはまって1つになる。だから、とてもリラックスし、息をし、自由になり、自分が自分になりきってるがため、神経をとぎ澄まし、緊張している。何とも説明の仕様のない話だな。最高なんだよ。だから、私には、酒も薬も必要ない。
BMGに、今回のツアーでは、B・セッツァーをかけている。私が、普段、心を震わせたい時に、かけている。楽屋でも流し、唄を口ずさんで用意をしている。1stは、いいよね。ツアーを始めてから、見失ってきた自分が少しづつ、見えてきて、好きじゃなかった自分を好きになってきて、今の顔がとても気に入っている。落ちこんでない、迷ってない、立ち向かおうとしている自分が今、唄っている。良かった。嵐が過ぎて。
クツずれだの痣（あざ）だのつくりまくってます。
相変わらず、打ち上げ後は、コンビに行っては、アイスやジュースやマンガを買ってます。
相変わらず、寝起きは悪く、ブツブツ言いながら、ホテルを出ます。重い荷物を下げて。次々と、街を訪ね回ってます。
入り待ちや出待ちをしてる彼等を頼もしく思ってます。私も昔、していたから（今もしてるぞ。時々）、とても気持ちが分かるから。
全国、回ってる彼等をとても心配してます。お金や、宿泊先、親と何の問題もなければいいけど。
そして、少し自分の年を気にしながらも、一緒に唄ってくれる方達を、嬉しく思います。そう、音楽に年齢制限はないのだから。そして、来れなかった人達が、いつか会いに来てくれる事を願って、今日が過ぎます。

＊　＊　＊

近頃の私は、分身である本を出しました。『ボリューム』というタイトルで、並んでます。あるかな、とチェックしては、あると照れたり、ないと口をとがらせたりして本屋に寄っては、1冊、また1冊と買ってしまってます。発売日は、岡山から東京駅に着いたその足で原宿に行き、ラフォーレの5Fで、見つけてドキドキしてました。現実だー。と1冊買って、エレベーターの中でニソニソしてた。私の心が今までよりほんの少し奥が見えればいい。
休みの日は、ドラマだけは、ちゃんと見てる。『逃亡者』と『親愛なる者へ』だけだけど。
その他はめったに会えない友達に会う。むかつく奴や笑わす奴、安心する奴、色々いるけど、夏のせいか、みんな、あかぬけていて、変だ（笑）。私は、太ってGパンがきつくなって、ガーンとしているのに、太った事を喜ばれてしまう。別のサイズで気に入るGパンが見つかればいいけど、なかなか見つからず、焦っている川村。やせろって（笑）。簡単なのにねぇ、太るのは……あー、話がずれてしまった。
家で猫を観察してます。あいつら妙。踊り出したり、しゃべりっぱなしだったり。
最近、クジラの声のCDがもらえたので、部屋の天井に波を写す照明を買って、暗くして、ぼうっーとしてます。なかなかグーだよ。『アクアファンタジー』￥3800。しばらくなかったヒット商品。おすすめ。
リフレッシュして、次のステージの私は、どんな声を出すだろう。どんな顔するだろう。毎日が、楽しみです。

Photo/Nov Matsuzaki



＊このページに関するご意見、ご要望、かおりへのはげましのお便り待ってます。
あて先は〒104東京都中央区銀座5-1-7
数寄屋橋ビル5F音楽専科社アリーナ37℃
かおりのGROOVY DAYS係まで


話題騒然！絶賛発売中!!
HIDE
無言激
奇才HIDEの天才的感覚が作り上げた
ヴィジュアル＆ハードショック写真集
無言激
キミ達を驚愕の世界へと誘う
HIDEの書き下しエッセイ付
定価2800円（税込）〈送料310円〉
●お求めはお近くの書店もしくは小社販売部までお申し込み下さい。
■発行：㈱音楽専科社
〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F ☎03(3574)0201 Fax 03(3574)8548



要注意!!
バックナンバーは品切れ号が続出してます。

9月21日発売!!

発行：音楽専科社

緊急告知!!

93年度版HIDEカレンダー 夢想暦（むそうれき）独占発売決定!!

9月21日発売の「SHOXX Vol.12」誌上で予約開始!!

エックスのHIDEが自らプロデュースとタイトル考案した、初のソロ・カレンダーは音楽専科社が独占販売。ハードショック写真集『無言激』で世間を騒がしたHIDEが、さらに衝撃的なヴィジュアル・コンセプト（コンピューター・グラフィック処理）に挑戦！その大きさだけでなく、"9枚つづり"という変則的な枚数に、何故なっているのか……その目で確かめよ！

THE MAD CAPSULE MARKET'S

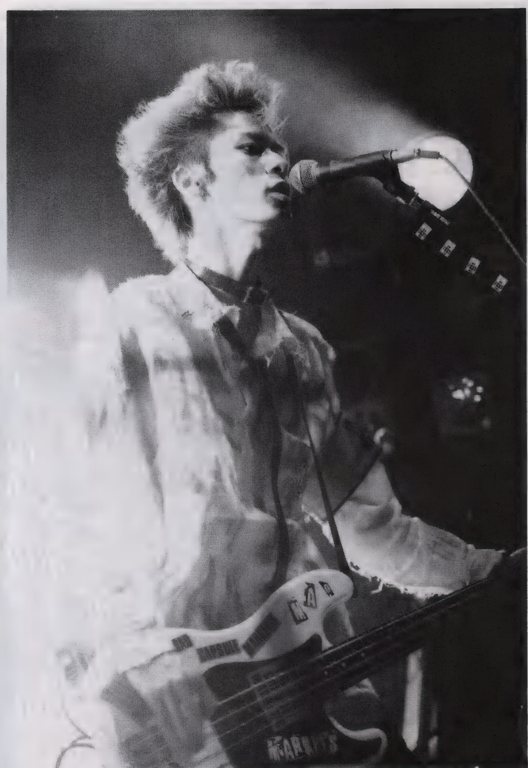
1992.8.14 SHIBUYA CLUB QUATTRO

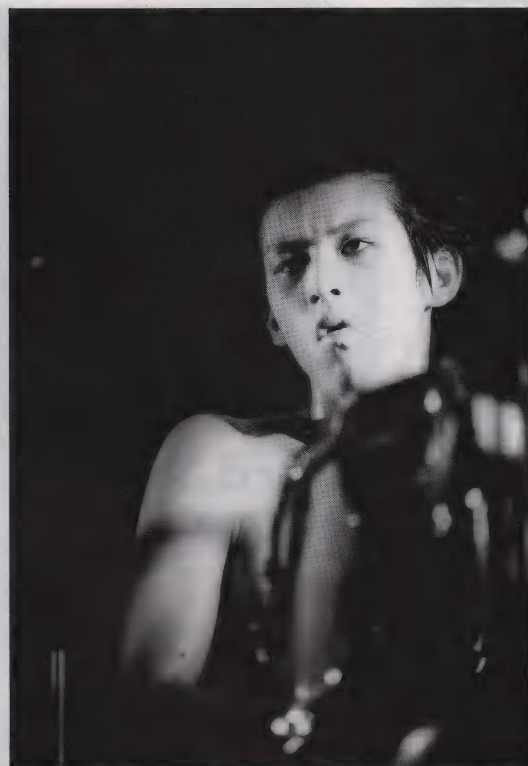


Xやバクチクのメンバーも絶賛し、
噂が噂を呼んでいるマッドが敢行する半年ぶりのライヴ!!

レポート／安達文子　撮影／金丸雅代







はじめてマッド・カプセル・マーケッツを知ったのはいつだっただろうか。

たしか、某誌でライヴハウスのコーナーを連載していた時だったと思う。担当編集者が「マッドなんとかってバンドからプロモーションがあったんだけど。安達さんの好きそうなパンクっぽいルックスしてるからさ、良かったら載せてあげてよ」と手渡してくれたのが、インディー盤の『HUMANITY』だった。ハッキリ言って期待してなかった、と思う。どうせまたクラッシュの真似事か、アナーキズムという名目の音楽性も精神性もない単なるバカか。…だけど一瞬にしてブッとんだ。〝そこの窓から飛び降りるのさ〟〝狂え狂え狂ってしまえ〟〝俺はオマエが嫌い〟そんな、せせら笑いが聞こえてきそうな悪意に満ちた歌詞に？すべての音がぶつかり、攻めぎ合う圧倒的な音の洪水に？否。すべてが歪んでいる…その感覚の虜になったんだ。そして私はすぐさまアリーナ編集部にＦＡＸを送る「今度マッド・カプセル・マーケッツというバンドがデビューします。是非とも私にインタビューさせて下さい」と。初めてメンバーに会った時の印象は最悪だった。全員サングラスをかけたまま。何を聞いても「べつに何も考えてない」「どう思われようと関係ない」「とにかく媚びたくない」の３点張り。大嫌いな青臭いハッタリ…そう思って、テーブルをひっくり返して帰ろうかと思った（笑)。でも、後で思った。すごく正直な連中なんだって。質問にスラスラとカッコ良い回答をしてくれる優等生アーティストに慣れて感覚が麻痺してるのは自分の方じゃないのかって。

それから１年がたつ。シングル３枚同時リリースでデビュー。ファースト・アルバム『P•O•P』をひっさげての全国ツアー。ミニ・アルバム『CAPSULE SOUP』の発売。その度にインタビューをし、ライヴ・レポートを書き、パーソナル・インタビューも試みてきた。だけど、私はまだ一度もマッドについて語りきれたと思えたことはない。彼らの凄さを説明しようとするとき襲われる、どうしようもない不毛感。マッドのサウンドに理屈をこねまわしてみても、本人たちは「やりたいことをやってるだけ」と飄々と笑ってみせると思うし、結局のところアルバムを聴き、ライヴで感じること。そんなバカみたいに当たり前なことでしかマッドは理解しえない。これを言っちゃおしまいなのはわかってるけど、これが１年間マッドとつき合ってきた上での素直な気持ちだし、それがこのバンドの〝らしさ〟だから。

で、ようやく本題。

クラブ・クアトロ東名阪ツアーのファイナル、８月14日の東京公演である。Ｘやバクチクのメンバーも絶賛し、噂が噂を呼んでいるマッドが敢行する半年ぶりのライヴとあって、その期待感は凄まじい。500枚の前売チケットはもちろんソールド・アウト。当日も発券されたものの、それでも入りきれないファンが続出したそうだ。マスコミ関係席も賑わっている。しかし、この日を誰よりも心待ちにしていたのは他ならぬメンバー自身だろう。

「ライヴやりてぇーよぉ」とかなり鬱積していた様子の彼らを思い出し、こりゃあもう今日は気合い入りまくりだな、とほくそ笑んでしまう。

７時10分。ＳＥが鳴り響く。赤いライトに照らしだされたステージにメンバーが現われると、極限状態にまで高まった場内の興奮がギュッと凝縮され、やがて一発目の音とともに弾ける。この瞬間はいつだってゾクゾクするほどカッコ良い〃圧倒的な密度と強靭さでたたみかけられる音塊に、観客が身をよじるようにして荒れ狂う。この日の構成はインディー時代から現在に至るまでのマッドを網羅したものであり、例えばこれを音源で並べたかなり散漫なイメージになってしまうのだろうが、ライヴではそれが１つのカラーに染め上げられてしまう。あきらかにアルバムに息づくマッドとは異なる側面がライヴで生じているのだ。思考を停止させ、そして脳髄を掻き回してくる狂気的なエナジー。まるで強姦のようなサウンドに、場内は被虐的な快感で包まれる。スピード、パワー、テンション、すべてが見事に昇華した１時間。エレクトロニクスを導入してきたものの、その感触はあくまでもプリミティヴ。強力無比な〝ロック・バンド〟のステージは凄まじく美しかった。

アルバム、ライヴの両面において、はやくも第１期を越えたと思わせるマッド・カプセル・マーケッツ。これから問われるレベルはますます高くなるが、自分たちのやりたいこと、やるべきことを明確に見据えている彼らだけに、私は安心してその結果を持ちたいと思う。



《8・14 CLUB QUATTRO》
①セルフコントロール②３秒間の…③ＭＡＤ中毒④ハリネズミと××⑤ギラギラ⑥ＨＵＭＡＮＩＴＹ⑦Ｇ.Ｍ.Ｊ.Ｐ⑧ＬＩＦＥ ＧＡＭＥ⑨新曲⑩あやつり人形⑪ＪＥＳＵＳ ＩＳ ＤＥＡＤ⑫ＹＯＵＲＳＥＬＦ ＬＯＯＫ〃⑬ＧＯＶＥＲＮＭＥＮＴ ＷＡＬＬ⑭People is DESTROY OF MIND⑮ラ・ラ・ラ（僕がウソつきになった日）⑯だんだん ●アンコールⅠ ギチ●アンコールⅡ タイトルなし

けっこうスピッツってカッコイイじゃん

スピッツ

3rd Album『惑星(ほし)のかけら』9/26 ON SALE

取材／松浦靖恵
撮影／大西 基



スピッツ、早くも3rdアルバム登場である。オーケストラを導入したミニ・アルバムとはまた違ったバンド・サウンドを聞かせてくれるアルバムだ。

ニューアルバム『惑星(ほし)のかけら』をリリースするスピッツ。ひと足早く発売されたシングルの「惑星(ほし)のかけら」では、グイングインのギターで幕開けするバンド・サウンドを奏で、今までよりもグッとROCKに近づいていた彼ら。アルバムではその〝ROCKしているスピッツ〟がはたして存続しているのか⁉

――シングルを聴いた人がアルバムを聴くと〝やっぱりな〟っていう反応と〝こうきたか〟っていう反応があると思う。今までのスピッツがまるっきり失くなったわけじゃないから。

草野 「うん。たぶんそういう反応はあるだろうね。きっと1曲目から4曲目くらいのアップテンポのたたき込むような並びには、〝おぉ!!ROCK!!〟って感じの反応かな(笑)。」

――〝おぉ、ROCK〟ねぇ(笑)。これまでのスピッツからは、またしても想像つかない(笑)。っていうか、草野マサムネの口から〝ROCK〟なんて言葉が出てくるとは。

草野 やっぱり驚かれますかねぇー。

――それにしても、スピッツって昨年3月デビューで、アルバム3枚とミニアルバム1枚を発表してるんだよね。どうもイメージだとゆっくりしたペースのバンドのような気がしてたんだけど…。

草野 時代の流れは早い(笑)。20世紀中に30枚くらいはアルバムを作れるんじゃないかってぐらいの勢いだな、これは。

――スピッツはリリースするペースが早いバンドだと考えていいのかな。

草野 やりたいことをやってたら、このペースだったって感じ。まあ1stはアマチュアの時の集大成だし、ミニアルバムは特別な形(オーケストレーションを取り入れた作品)だったから、今回のアルバムは2ndみたいな感覚に近いかもしれない。

――『惑星のかけら』は、新曲ばかりが収められてるでしょ？

三輪 ライヴで演ってた曲も入ってるけど、大昔の曲は入ってない。

草野 新曲でいくしかなかったと言うか、古いネタはやっぱり食えんぞ、と(笑)。自分たちの中では、どんどんやりたいことをやって、今の欲求を満たしたいから。どうしても昔の曲を引っ張ってくる必要性を感じられなかったしね。

電気的、なおかつ刺激的な音

――シングル曲が1曲目を飾って。この曲はやっぱり今回のアルバムの象徴的なものなの？

草野 うん。それはあると思う。

三輪 電気的な音だしな。

草野 刺激的とも言うぞ。

田村 やっぱり1曲目でかまさないと。

崎山 ドカン！とね。

草野 12曲収録されてて、その1曲目をSF映画の幕開けを意識してみたんですよ。アルバムをひとつのSF映画に見たててみることもできなくはないな、と。

――あ、だからラストの曲をインストにしたの？

草野 エンディングって感じで。キャスティングの名前がズラーッと出てくるみたいでしょ？ そうすると1曲目の「惑星のかけら」のイントロのところで、悪者がジャジャーンって登場してそうだし。

――ふむふむ。っていうと、コンセプトとして、映画のサウンド・トラック的な要素は考えていたわけ？

草野 いや、そういうことはなんとなく考えられるかもしれないぞって。やっていくうちにつながっちゃった。

――曲間が短いような気がしたんだけど。

田村 長くしようと言うよりは、短くしようっていうていどかな。曲の感じもあるかもしれないけど、アップテンポの曲を次から次へとテンポよく続けて聞かせちゃおうっていうのは思ってたよな。

崎山 長いよりも、短い方が曲を生かしてくれるしね。

草野 4曲目までは特にたたきこんでるよね。自分で聞いててもアッもう4曲目にきちゃったって思うもん。

――曲順は悩んだんじゃない？

草野 悩んだぁー。

田村 迷ったよね。どれを入れて、どれをはずすかとか。

――収録された12曲以外の曲もあったんだ。

草野 シングルの「マーメイド」(カップリング曲)を入れるか入れるのをやめようかとかね、

――アルバムの聞きどころはズバリどこだと思う？

田村 そうだなぁ。ぜんぶだな。

――おぉ！自信作発言。

田村 そうそう(笑)

――軽く言わないでよォ(笑)。

田村 気に入ってるアルバムだからね。自分でもすごく好きだし。

草野 オレはね、1曲目のイントロがおどろおどろしい感じとかするかもしれないけれど、どの曲もオモチャっぽいと思ってるんですよ。ギターにしてもオモチャのように扱ってると思うしね。ロックをオモチャにしてるっていうのかなぁ。子供がピストルやらロボットで遊んでるように、大人がエレキギターで遊んでる。

――楽しんでるっていう感じ？

草野 うん。

――それは聞き手にも伝わってると思う。今までは、私の個人的な意見なんだけど、歌詞などは特に深読みを思わずされてもおかしくないような詞だったと思うんですよね。表向きはこう書いてあるが裏には何かあると思わせる詞だったし、現実っぽくなかったし…。

草野 うん。それはあったと思う。

――でしょ？ 今回の詞はとてもわかりやすいもん。で、そのかわりと言ってはなんだけど、詞よりも音が優先されてるアルバムになったでしょう。

草野 そうそう。今はそっちの方がやりたいんですよ。

三輪 たくさん音を重ねずに、余分なことをしなかったんだよね。

草野 そのぶん本筋が一本ガーンと聞かせられるんだと思うよ。

三輪 時間がなかったのがオレにとっては良かったみたい。レコーディングに入ってから苦しんだ曲は多いんだけど、そうすると余計なこと考えなくなるでしょ。できるだけ歌を邪魔しないように、なおかつ印象に残るように弾ければいいなって、いつもレコーディングでは思ってる。あんまり頭で考えずに、その場でパッと出てきたものもいいけれど、今回はまわりからの意見も取り入れて作ったんだよね。

草野 今回って今までいちばん音楽的なところに時間を費した。

ハードロッカーの素質を持っている

――音楽的ねぇ。今まではどんなところに時間を使ってたんだ。

草野 機材のトラブル(笑)。

崎山 ひとつひとつのフレーズをていねいに考えたし、音質も考えたし。たぶんそのせいもあってそれぞれのフレーズがよく聞こえてくるんじゃないかな。

――なぁーんだ、スピッツのメンバーって、こういう音が好きだったのねって。

草野 ハードロッカーの素養を持ってるんですね(笑)。

――ハードロッカー!!

草野 そんなにウケないで下さよォー。

――スンマセン。

草野 ロックじゃなくてもいいって言ってた人間だから、そういう反応があっても仕様がないか(笑)。

――そうそう。他に聞きどころはある？

崎山 パーカッション・ダビングが個人的にはとても楽しかった。

草野 床を叩いたりしてたよね。

崎山 床の木を一本一本叩いて、この木の音はいいとか、これは違うなとかやってた。

草野 二番目の木がベストじゃない？なんって言ってたんだよな。

崎山 コーヒーを飲んでたコップも叩いてたんだけど、ボコボコになっちゃった(笑)。ボコボコになると音が変るんだもんなぁ。

草野 崎ちゃん、ホントに楽しそうだったよ。

崎山 あっ、やっぱりそうだった？(ちょっと照れ笑い)

草野 今回は、なにがなんでも歌、歌が絶対的な主役じゃなくちゃいけないっていうのがなかったの。さっき歌を邪魔しないように、なんて言ってたけれど、少しくらい歌を邪魔したって何もかまわないと思ったし、楽しけりゃいいよっていうのがいちばんだった。

――歌ももちろん大切だけど。

草野 そう。

田村 レコーディングはアッという間に終っちゃったんですよ、オレ。

――調子イイってこと？

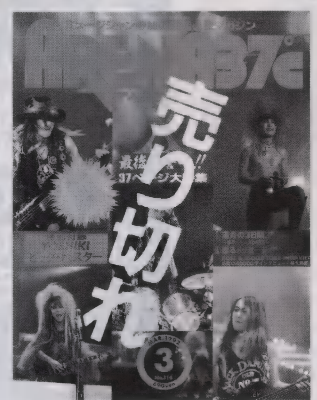
田村 いや、違うんです。自分のやることが終った方が楽しくて調子良かった(笑)。自分の出番のあとにゆっくり曲を聞けて、第三者っぽく〝この曲いいなあ〟なんて思ってたんですよ。楽しい曲が多くて、スタジオから帰る時に、いつも今日はイイ曲ができたって満足気に帰っていったんですよ。けっこうスピッツってカックイイじゃん、なんて。

――よし、この発言をタイトルにしよう！

ARENA37°C 年間購読者募集
創刊10周年記念キャンペーン

期間

9月1日〜12月末日まで

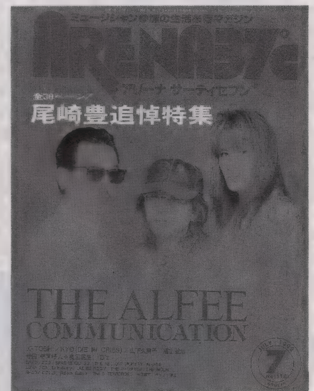




好評につき第2回年間購読者募集キャンペーンを実施いたします。この機会にお早目にお申し込み下さい。

三大プレゼント!!





こんなに得する

①年間購読をこの期間にお申し込みになると、もれなく新作、当社オリジナル・テレホン・カード(50度数)をプレゼント。
②人気絶頂の8ビート・ギャグ・ポスター・カレンダープレゼント。
③送料は、すべて当社負担で、直接あなたの自宅に直送されます。
④特別定価の時も、そのままの定価でOK。
⑤当社オリジナル・ステッカー・プレゼント。





■お申し込み方法
ARENA37°C(定価620円)12号分=7440円を現金書留又は郵便小為替で、下記申し込み用紙に必要事項を明記の上、下記宛先までお申し込み下さい。
■〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F
(株)音楽専科社・経理部「ARENA37°C年間購読」係まで。

--- きりとり線 ---

ARENA37°C　年間購読申し込み書

期　間	ARENA37°C　92年　月号〜93年　月号まで		
住　所	〒		
名　前	㊞	電　話	
保護者氏名	㊞	同封金額	
好きなアーティスト	①	②	③

Can You Take a Message?

Are you going to leave or have ?

ファンのファンによるファンの為のファンの情報!!

☆プッシュ/ダイヤル回線どちらでもok.!!

Useful Noise
ユースフルノイズ

この番組はアーティストファンのための情報ネットワークです。貴方もファンとしてのメッセージ残したり、聞いたり、情報交換の場としてルールを守り正しく、このユースフルノイズをご利用下さい。

アーティストファン同士の会話に参加してみませんか!!

5001 あぶらだこ	5152 河村かおり	5203 シーナ&ザ・ロケッツ	5254 チェッカーズ	5305 パール兄弟	5356 マルコシアス.バンプ
5002 荒木真樹彦	5153 嵩門達夫	5204 SHOW−YA	5255 CHARA	5306 HARLEM JOCKERS	5357 松任谷由美
5003 安藤秀樹	5154 かまいたち	5205 詩人の血	5256 CHAGE&ASKA	5307 HARRY JANE	5358 THE 真心ブラザーズ
5004 ALCARD	5155 KAN	5206 SHADY DOLLS	5257 CHIKA−BOOM	5308 THE BARRETT	5359 MALUTI−MAX
5005 AION	5156 KAMIKAZE	5207 SECRET GOLDFISH	5258 TWIGGY	5309 ピチカート・ファイブ	5360 MR.CHILDREN
5006 ANTHEM	5157 KIX−S	5208 16TONS	5259 辻仁成	5310 PANTA	5361 THE MINKS
5007 AURA	5158 THE KIDS	5209 SISTER' S NO FUTURE	5260 DECAMERON	5311 PEARL	5362 ムスタングA.K.A.
5008 ARB	5159 COLOR	5210 GENDA×BENDA	5261 TMN	5312 BEGIN	5363 本木雅弘
5009 UP−BEAT	5160 GALAPAGOS	5211 G.D.FLICKERS	5262 T−BOLAN	5313 B♯	5364 森川美穂
5010 EARTHSHAKER	5161 鬼頭径五	5212 GYMNOPEDIA	5263 電気グルーヴ	5314 B' z	5365 MESCALINE DRIVE
5011 THE ALFEE	5162 吉川晃司	5213 The shamrock	5264 DEEP	5315 VisioN	5366 THE MODS
5012 THE YELLOW MONKEY	5163 GWINKO	5214 ZINGI	5265 D' ERLANGER	5316 THE ピーズ	5367 森田浩司
5013 THE RC SUCCESSION	5164 筋肉少女帯	5215 Z−BACK	5266 Der Zibet	5317 P.J.	5368 MOJO−CLUB
5014 THE WILLARD	5165 楠瀬誠志郎	5216 ZIGGY	5267 De−LAX	5318 PAN PAN HOUSE	5369 MORRIE
5015 THE WELLS	5166 久保田利伸	5217 JACKS' N' JOKER	5268 東京スカパラダイスオーケストラ	5319 P−MODEL	5370 山下達郎
5016 井上陽水	5167 窪田晴男	5218 JUSTY−NASTY	5269 東京ヤンキース	5320 VENUS PETER	5371 山下久美子
5017 忌野清志郎	5168 KUSU KUSU	5219 JUN SKY WALKER(S)	5270 徳永英明	5321 Bonnie Duck!?	5372 矢野顕子
5018 泉谷しげる	5169 グラウンド・ナッツ	5220 陣内大蔵	5271 DOVE	5322 B−FLOWER	5373 YAPOOS
5019 稲垣潤一	5170 GRASS VALLEY	5221 ル・ド・レイ	5272 TOY BOYS	5323 VIBRASTONE	5374 憂歌団
5020 石川よしひろ	5171 CRACK THE MARIAN	5222 THE SILVER DOGGS	5273 TOPAZ	5324 氷室京介	5375 游佐未森
5021 今井美樹	5172 GRAND PRIX	5223 SILVER ROSE	5274 To Be Continued	5325 平松愛理	5376 UNICORN
5022 えび	5173 グルーヴァーズ	5224 ZOO	5275 TRACY	5326 Billy & The Sluts	5377 UNI−SEX
5023 江口洋介	5174 THE GREAT RICHIES	5225 SKAFUNK	5276 Dreams Come True	5327 THE PILLOWS	5378 妖花
5024 エレファント・カシマシ	5175 黒沢光義	5226 すかんち	5277 NIGHT HAWKS	5328 PINK SAPPHIRE	5379 吉田栄作
5025 X	5176 GEN	5227 杉山清貴	5278 永井真理子	5329 フイッシュマンズ	5380 米川英之
5026 E−ZEE BAND	5177 幻覚アレルギー	5228 THE STAR CLUB	5279 中島みゆき	5330 FAIR CHILD	5381 ランキンタクシー
5027 INGRY' S	5178 KENZI	5229 スチャダラパー	5280 中西圭三	5331 FENCE OF DEFFNSE	5382 LOUDNESS
5028 INFIX	5179 小泉今日子	5230 STALIN	5281 Nav Katze	5332 福山雅治	5383 LAUGHIN' NOSE
5029 M−AGE	5180 児島未散	5231 STILL ALIVE	5282 長渕 剛	5333 THE BOOM	5384 Little Creatures
5030 EDITION DE LUXE	5181 子供ばんど	5232 THE STREET SLIDERS	5283 中村あゆみ	5334 THE PRIVATES	5385 RIO
5031 L.L.BROTHERS	5182 GO−BANG' S	5233 THE STREET BEATS	5284 NEWST MODEL	5335 FLYING KIDS	5386 RABBIT
5032 尾崎 豊	5183 小比類巻かほる	5234 Strawbelly field	5285 ニューロティカ	5336 THE BLANKEY JET CITY	5387 THE RYDERS
5033 小田和正	5184 COBRA	5235 THE STRUMMERS	5286 人間椅子	5337 Flipper' s guitar	5388 remote
5034 大江千里	5185 米米CLUB	5236 SPARKS GO GO	5287 NOKKO	5338 THE BLUE HEARTS	5389 りんけんバンド
5035 大沢誉志幸	5186 THE COLLECTORS	5237 SUPER BAD	5288 NORMA JEAM	5339 PRINCESS PRINCESS	5390 LINDBERG
5036 岡村孝子	5187 GONTITI	5238 関口誠人	5289 野村義男	5340 HEAVEN	5391 Luis〜Mary
5037 岡村靖幸	5188 Zard	5239 聖飢魔II	5290 BY−SEXUAL	5341 BABYS' BREATH	5392 LENA SEA
5038 奥野敦士	5189 PSY・S	5240 SEX	5291 BA−RA−VA−LA	5342 THE BELL' S	5393 麗蘭
5039 織田裕二	5190 サザンオールスターズ	5241 Sepia' n Roses	5292 BAKU	5343 ベルゼルブ	5394 RUKES
5040 織田哲朗	5191 坂本龍一	5242 SOFT BALLET	5293 BAKUFU−SLUMP	5344 BOØWY	5395 REG
5041 オルケスタ・デ・ラ・ルス	5192 SAKANA	5243 Z.O.A.	5294 BUCK−TICK	5345 BO GUMBOS	5396 Re−selve
5042 OUTRAGE	5193 佐久間 学	5244 谷村有美	5295 PERSONS	5346 THE POGO	5397 Resistance
5043 THE ORIGINAL LOVE	5194 さくら さくら	5245 DIAMOND YUKAI	5296 THE HEART	5347 布袋寅泰	5398 Replica
5044 横道坊主	5195 佐野元春	5246 Die in Cries	5297 BAD MESSIAH	5348 ホッピー神山	5399 ROSY ROXY ROLLER
5045 カブキロックス	5196 サディスティック・ミカ・バンド	5247 たま	5298 バビロン大王	5349 THE POTATO CHIPS	5400 Les VIEW
5046 カステラ	5197 さねよしいさ子	5248 高野 寛	5299 BARBEE BOYS	5350 本田恭章	5401 LADIES R♂♀M
5047 KAI FIVE	5198 しいもんきい	5249 高橋幸宏	5300 バブルガム・ブラザーズ	5351 町田町蔵	5402 LONG VACATION
5048 KATZE	5199 Zi:KILL	5250 竹内まりや	5301 浜田省吾	5352 松岡英明	5403 渡辺美里
5049 KATSUMI	5200 SION	5251 高木 完	5302 浜田麻里	5353 槇原敬之	5404 WILD FLAG
5050 GARGOYLE	5201 SIGHTS OF LOVE POTION	5252 大事MANブラザーズバンド	5303 HOUND DOG	5354 THE MAD CAPSULU MARKET' S	5405 WILD THING
5051 自分のバンド紹介	5202 私のお薦めニューアーティスト	5253 私のお薦め新曲紹介	5304 バンド仲間募集	5355 私この楽器買います。	5406 私の楽器売ります。

☎0990−349−919 → 発信音の後に アーティストコード ○○○○を押す。 → 伝言を聞く人 **3** を押す。 → 伝言を残す人 **7** を押す。

この番組は6秒10円の情報料＋通話料がかかります。地域によっては遠距離通話料が加算されますので必ずＮＴＴの料金ガイダンスで確認して下さい。

ユースフル ノイズ
渋谷区桜ヶ丘30−7 TEL 3589−6918

※他のアーティストの悪意に充ちた抽象を入れたり、プライバシーにかかわる事を入れてはいけません。アーティストの肖像権・著作権に関する売買は法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。尚、このユースフルノイズはアーテイスト公認のファンクラブとは無関係です。



THE SILVER DOGGS

緊急決定!! JUMP ON THE WILD TRAIN TOUR

10/14(水)日本青年館

OPEN 18:00 START 18:30 ¥3,605 <全席指定・消費税込>

9・12 SATよりチケット一斉発売開始

チケットぴあ03-5237-9999

チケットセゾン03-5990-9999

丸井チケットぴあ03-5385-9999

(問)バックステージTOKYO 03-3226-7312

アルバム緊急発売決定!!

10.21 Release!

BODY distributed by COLUMBIA RECORDS



LUNA SEA

LUNA SEA DEBUT TOUR 1992

IMAGE or REAL

7・26日比谷野外音楽堂

レポート／大島暁美　撮影／松崎信彦

SEA

この日のライヴは、これからLUNA SEAを語るうえで忘れることのできない大きな足跡になった

グだったわけでもない。しかし、そんなことはどうでもいいと思えるほど、彼らのステージには勢いがあった。彼らがステージを去るまでの約2時間、まるで映画を見ているような不思議な感覚の連続だった。ステージ全体、メンバー個人個人、そして、観客……そのどこを見ても、まるでオーラを発しているようだった。それは、売り出し中のバンドだけがもつ魔力とでも、いったらいいのだろうか。

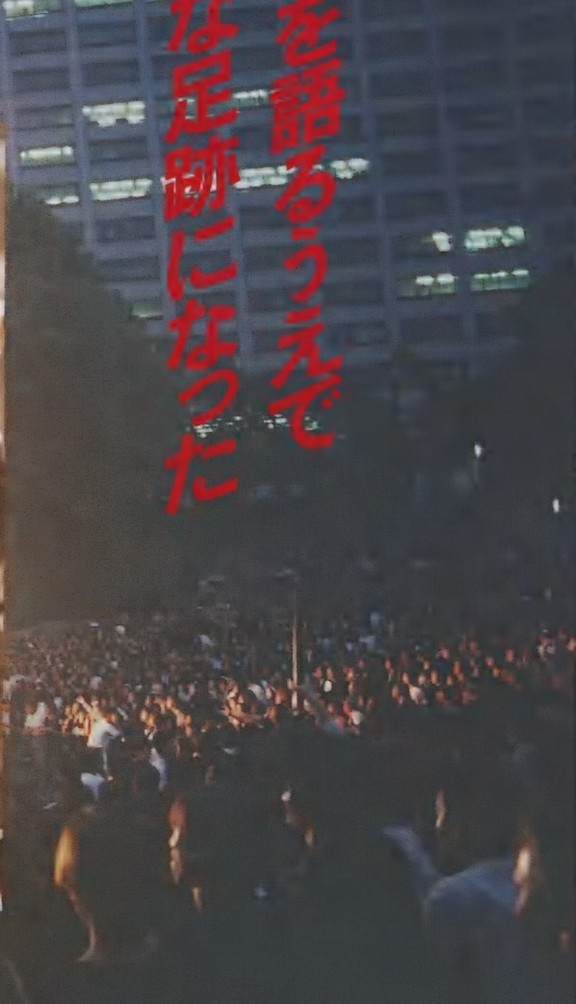
ライヴとは正直なもので、そのときのバンドの調子が如実にステージに出てしまう。それは、ベテランであろうが新人であろうが、テクニシャン揃いであろうがそうでなかろうが、まったく関係ない。とくに、バンドが充実しているときはそのバンドのもてる力を十二分に発揮でき、観客もそれに敏感に反応する。この日のLUNA SEAは、バンドの勢いが多くの観客を巻き込んで、圧倒的なステージを見せた、いい例といえよう。

終演後、汗びっしょりになった観客は誰もがとてもいい顔をしていた。メンバーがステージから去っても、感動を噛みしめる人が、会場のあちこちにたたずんでいる。この日のライヴは、これからLUNA SEAを語るうえで、忘れることのできない大きな足跡になったと思う。しかし、それは決して伝説ではない。なぜならば、彼らの物語は、まだ始まったばかりだからである。











LUNA

長くうっとおしかった梅雨が終わり、関東地方は、猛暑の日が続いていた。この日も、昼間は最高気温33度を記録。太陽が西に傾き始めても、気温は一向に下がる気配がない。しかも、湿度がかなり高い。日比谷の街を歩く人々も、この異様なまでの暑さにうんざりとした表情を隠せない。そんななか、日比谷の野外音楽堂へ向かう少女たちだけが、生き生きとしている。目を輝かせ、期待に胸を膨らませているのが、傍目からもよくわかる。

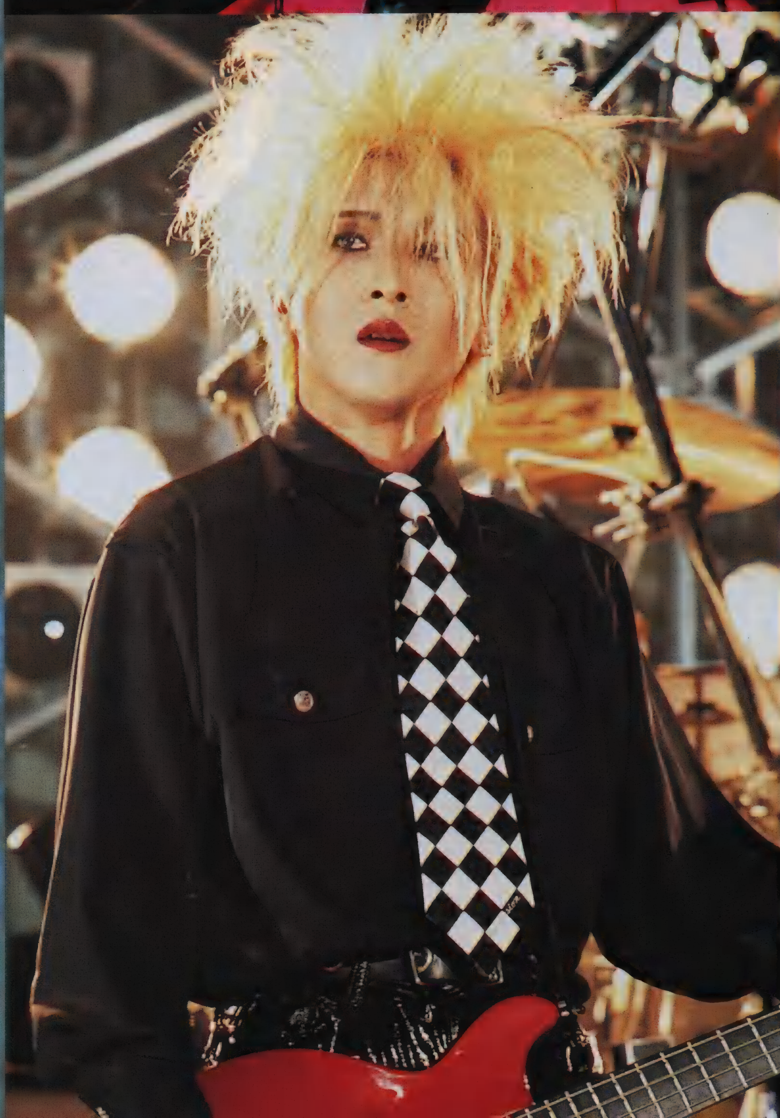
開演予定時刻の、午後6時半。日比谷野外音楽堂の客席は、黒一色に染まっていた。別に、この日は「黒服限定ギグ」だったわけではない。しかし、集まった観客のほとんどが、黒い衣服を身にまとっている。それは、これから始まる約2時間を、彼らがLUNA SEAと共有しようという意気込みの表れなのだ。ステージ上のアーチストと同じように、自分たちも着飾ることによって、コンサートに参加しようという意気込みが、会場中に充満している。それは、子供にも大人にも[illegible]人にまで、伝播していた。誰もがこの日を待ち望み、指折り数えて楽しみにしていたに違いない。

開演時間を15分過ぎた頃、場内を流れていた音楽が、ケイト・ブッシュに変わった。途端に、それまで微風ひとつ吹かなかった客席が、大きく揺れた。観客が、立ち上がったのだ。口々にメンバーの名前を叫び、まだ誰もいないステージを見ようと背伸びをする。その大歓声のなか、薄暗いステージにメンバーがひとりずつ、登場した。ゆっくりと自分のポジションにつき、楽器の準備を始める。高まる歓声が最高潮に達したのは、ヴォーカルのRYUICHIがステージのセンターに立った瞬間だ。まるでひとつの大きなうねりのようになった歓声を聞き、RYUICHIがほんの少し微笑む。その次の瞬間、演奏が始まった。

LUNA SEAは、オープニング・ナンバー「Dejavu」の最初の一音を出した瞬間から、観客全員の魂をとりこにした。たった一瞬で、メンバーと観客はひとつになってしまったのだ。ステージと客席、演奏者と観客、そんな見えない垣根は消え去り、会場全体がひとつの空間に統一されたのだ。きっとこのコンサートが行なわれていた約2時間の間、会場のなかの密度はどこも同じ濃度だったろう。

RYUICHIの「お前ら全員がLUNA SEAだ」という言葉通り、この日のライヴには観客全員が参加していた。あの空間はバンドだけで作り出せるものではなく、観客だけで作りだせるわけでもない。その両方が同じテンションで、同じ方向に向かっていたからこそ、生み出せたものだと思う。そして、そのテンションは最後まで変わることはなかった。

「あの曲のここが、どうだった」とか、「あそこで、××はこんな動きをした」などということは、この日のライヴではほとんど記憶にない。決して、満点の演奏だったわけでもなく、満点のステージン





DIE IN CRIES

DIEIN CRIESの新作が到着した。
ツアーを経て一回り大きくなった彼らを感じることのできるアルバムだ。
今回はYUKIHIROとTAKASHIにレコーディング全般の話を、
KYOとSYNに詞と曲の話を、それぞれ聞いた。

ALBUM『NODE』9.23 ON SALE
SINGLE『My Eyes～僕の瞳よ～』9.23 ON SALE

NODE



取材／荒川れいこ　撮影／植田信

Part I
YUKIHIRO & TAKASHI

―今回のレコーディングは1ヵ所です?

TAKASHI　今回はバラバラ、4ヵ所で。

YUKIHIRO　一応マイ・スタジオ、マイ・ルームも付け加えといて（笑）。リミックス（「PRAPTURE THING」初回特典ボーナスシングル）のやつで。

―全部自分の部屋でやったの?

YUKIHIRO　そう。自分の部屋であげて、スタジオに持っていった。

―ずいぶん安上がりな。

TAKASHI　いや、その分僕の精神疲労と肉体疲労が入ってるから高いかもしれない（笑）。

―レコーディングの雰囲気はどんな感じだったの?

TAKASHI　別にみんなでたのしくワイワイとっていう雰囲気じゃなかったね。誰かが録ってる時は任せっきりで、出来上がったよ!っていう時にみんなで聴く、みたいな。

―前回の時もそうだったの?

TAKASHI　前回の時は、誰か録ってると必ず誰かいたね。今回は俺録り終わって、ブースから出てきたら誰もいなかったとかよくあった（笑）。でもドラム録ってる時は多少いないと。聴いて絡ませたいところとか出てくるから。そういうのはしたけど、あとは別に。

―リズム隊として、前作とやり方は違ったの?

YUKIHIRO　まず、曲を録る前にプリ・プロがあるっていうのから違った。そこで曲が出来上がるから、それからフレーズなりを考えなきゃいけない。そこから違うし、僕の場合だと、プリ・プロで決まったやつに合わせてやっていく感じだから、新鮮なんじゃないかな?考え込んでやってないから。

TAKASHI　前のアルバムってわりと元々あったのを録ってった感じだった。アレンジの細かいところは変わったけど、今回は最終アレンジが決まったのがレコーディング当日だったから。

―2人共、もうちょっといじりたかったんじゃないの?

TAKASHI　そうでもない。

YUKIHIRO　このアルバムはこれでいいんだよ。このやり方で。

―もっと複雑なのかと思ってたんだ、聴く前は。結構ストレートな印象を受けたから。

YUKIHIRO　ストレートっていうかね、絡むところとか、自然に出来たっていう部分でストレートに聴こえるようになったんじゃないかな? 前は作って絡ましてたっていう感じだったけど、今回はこうきたから、こういく!みたいなところが大きいから、ストレートになったって聴こえるのかもしれない。

わざとらしくなくなった。

―前のと比べるとやってることが変わったっていう程でもないの?

TAKASHI　うん。

YUKIHIRO　まぁ基本的にやってる人が一緒だから。

TAKASHI　何をやってもそんなには、素直にはならない!みたいな（笑）。でもね、わざとらしくなくなったよね。

YUKIHIRO　そうだね。

TAKASHI　だから、最終的なアレンジ決まってからもドラム録って、またドラムのオカズとかに合わせて変えてったりとかもあったから、ホントに録る直前まで分からない状態で。

―そういう作り方ってライヴの時に困らないの?

TAKASHI　あとは練習するしかないんじゃないかな（笑）。まぁ、アルバムで出来たんだから出来るだろう、みたいなところもあるかな。

―2人の関係っていうのは、ライヴをやってどう変わったの?

YUKIHIRO　合ってきたっていうのかな。

TAKASHI　前のレコーディングの時は会ってから半年もたってない。1月の中旬に初めて会って、録り始めたのが年末だったから。

―気分的には違った?

TAKASHI　全然違う。

YUKIHIRO　あがったテイクを聴いて、リズム隊かな（笑）、と。



前のはどっちかって言うと、ドラム、ベースって感じだったけど。

TAKASHI　ひとつのリズム隊になったんじゃないかな。前ってどういうのを叩くのかも把握してなかったし、俺がどういうのを弾くのかも分からなくて、けっこう手探り状態でやってたから。ワン・ツアー回ると、こういうフレーズはちょっとあとノリになる、とかそういうことが自然と分かるから、今回はそれに合わせたりとかね。

—お互いけしかけ合っていくじゃないけど、楽しかった部分があったんじゃない？今回のレコーディングは。

YUKIHIRO　けしかけ合っていくとね、凄いことになっていくから。

TAKASHI　（笑）

YUKIHIRO　あんまり考えない方がいいみたい、けしかけ合う部分は。

TAKASHI　とんでもない方向にいくからね、だんだん。

YUKIHIRO　どこまで速く弾けるか？状態。どこまで間を持てるか？状態もあるし。

—それがおもしろいんじゃないの？

TAKASHI　そうですね、行き過ぎて戻してみたいなのってよくあったから（笑）。

今回のテーマは“潔し”

—KYO、SHIN組は2人の作業をどう見てたの？

YUKIHIRO　僕とかTAKASHIくんはスタッフ側からは、大人しくしろ！的な要求が多いですよ。

TAKASHI　大人しくっていうかね、もうちょっと素直でもいいんじゃない？って。それで考えて、ここはそうだね、って思えるところと、いや、そうじゃない！っていうところで形を作っていく。

YUKIHIRO　今回の僕のテーマはね、これどこでも言ってるんだけどね、“潔し”。

—TAKASHIくんには、そういう個人テーマはあったの？

TAKASHI　僕は別にそういうのはなかったけど（笑）、でも前よりもね、けっこう“勢い”だったな。ファーストの時の方がテイク多かったもん。でも基本的にテイク重ねるのって、あんまり好きじゃないんだ。わりと最初の方のテイクが良かったりするから、勢いがあって。それと、ヘッドフォンからクリックって出てるでしょ？ドラムとのリズムがたまになんだけど、微妙にズレてたりする訳。そういう時にクリックをシカトしてドラムに合わせたりするのが面白かった。それってグルーヴになるんじゃないかな？クリックって元でしょ？人によって、それに合わせるタイミングって違うからね。

—微妙なズレが何かを生み出していった？

TAKASHI　そう。そういうのが随所にちりばめられている。まぁ、聴いてもわかんないかな？

YUKIHIRO　大袈裟に1拍ズレるとかだったら分かるかもしれないけどね（笑）。

—やっぱり2人で練って練っていじくり回して作りたい！っていうのがあるんじゃないの？

TAKASHI　ないなぁ。

YUKIHIRO　今回プリ・プロ前にスタジオ入っていろいろやってるわけ。ドラムにしてもベースにしてもギターにしても、でもアレンジが変われば当然変わってくるでしょ？そういう部分で前に考えて作り込んだフレーズを捨てるっていう部分の潔さっていうのがある。

TAKASHI　もっといっぱいフレーズあったけど、曲の構成を考えた上で、気に入ってたものを捨てるとかね。

YUKIHIRO　あとは0から考えるっていう潔さっていう“潔し”だから。

—ツライぜ！って思った部分あったんじゃないの？

YUKIHIRO　そんなにはないな。だってねぇ、まだ他に考えられるんだから。やっぱりメンバーだけでやってると頭かたまってきちゃって曲に合ってない！って分かっててもコレおしちゃうってあるでしょ。

—そういう意味でもプロデューサーの意見は大きかった？

YUKIHIRO　大きいんじゃないかな。

TAKASHI　第三者で、パッと聴いて、その印象で意見を出してくれるから。こっちは曲を何回も聴いてるから、もうかたまってるでしょ？それをといてくれる、みたいなね。

YUKIHIRO　今回、僕としては地味にいったつもりなんですよ。地味っていうか、上の2人を支える的な感じでいったつもりなんですよ。上の2人がいろいろ出来ればいいなぁ的な感じで録ってたから。

—だからといって2人のサポートに徹したとかそういうのじゃないんでしょ？

TAKASHI　別に我慢してる訳じゃないですよ。

—我慢してるとは思わないけど。

TAKASHI　だって、出てるところ凄い出てるでしょ？

YUKIHIRO　そういうところの駆け引きがうまく出来たかな？上2人っていうのは僕らにしてみたらのっかりものでしょ？でも曲を全部聴けばそっちがメインなんだけど、その部分で、もっとのびのび出来るような感じにしたかな。

—何でそういう気持ちになったの？

YUKIHIRO　それはね、録り始めてからかな。それが僕にしてみれば“潔し”なんですよ。

—そう思います。歌とかに挑戦してるようなドラムっていう印象もあったんで。

TAKASHI　歌と闘ってるドラムってよく言われてたよね（笑）。

YUKIHIRO　っていうかさ、ありきたりになるのが嫌だったからね。ある部分での一応の成功例って感じかな、バンドの中では。ただこれで終わっちゃう訳じゃないしね。

TAKASHI　新たな楽しみ？じゃないけど、フレーズ作ってのっけていくのも面白いんだけど、けっこうシンプルに後ろを支えてて、後ろがグルーヴしてるとそれも気持ちいいなってあるよね。

Part II
KYO & SYN

—アルバムでもなく、ミニ・アルバムでもない今回の「7 SONGS ALBUM」って作った意識はアルバムに近いの？

KYO　意識的にはアルバムとは違うかな。アルバムだったらもうちょっとこういう感じの曲って計算しないといけない部分があるんだけど、ミニ・アルバムを作るっていう気持ちで接したから、わりと単純にライヴのこと考えて作れた。フルで考えると1つのおさらの中での情景描写とか、もっと考えなきゃいけない部分があるから。フル・アルバム作るっていう精神性とは全然違う。

—ライヴで必要な曲を入れてみたっていうのを聞いたんだけど。

KYO　うん。凄いリアル・タイムでツアー回って、単純にあるじゃない？曲並べて……まぁ1枚でホール回ったからキツイっていうのが1番大きかったんだけど、ここであとこういう曲があればなぁ、ライヴの組み立てでラクなのに、ってやっていく内に感じてきて、いわゆるそういうものを集めたアルバムにしようって。

アンコール・ライヴ・アルバムって感じかな

—凄くバンドっぽくなったっていうか、作り込んでないっていうか。

KYO　作り込んでないね。

SHIN　結構それが大きいと思う、このアルバムは。

KYO　ライヴっぽいっていう言い方をすると間口が広いからあれなんだけど、比較的ライヴやったままのテンションで録ったよね、今回は。ノリ重視っぽいところがあるから。それって前進だと思うんだ。最初はガチガチに作り込んでいくところから始まったでしょ？音にしろ、イメージにしろ、ライヴのやり方にしろ。やっぱりそれって窮屈な部分も多少はあるしね。作り込むものが嫌いな訳じゃないし、それはそれでカッコイイと思うから、そういうやり方で今後もあるだろうけど、今回はツアー回ったすぐ後で、欲求不満って言うと言いすぎちゃうけど、感じてた部分をそのままパッケージにしただけだから。アンコール・ライヴ・アルバムって感じかな（笑）。

—前のアルバムと比べて、作曲する時の気持ちっていうのは？

SHIN　全然違う。前の時っていうのは見えない訳でしょ？組んだばっかりのバンドだし。色とか方向性とかが見えない。で、どういうのが全員の好みが一致するか？とか試行錯誤の部分はあったと思うけど、今回の方はそういう気持ちは少なかった。どっちかって言うと素直に、本来の自分っぽい作曲の仕方が出来たかな。

KYO　これが欲しいから、これが書きたいんだ、みたいな。

SHIN　そうそう。

KYO　考えて作るとダメなんだよ、煮詰まって。そういう曲が不採用になる方が多いもん（笑）。

SHIN　自然とポカーンと作ってきた方が採用になる（笑）。

—じゃあ、心構えとしては？

SHIN　リラックスして出来た。あと合宿っていう態勢がとれて、カンヅメになったんだけど、窮屈じゃないカンヅメ状態でいられたっていうのは大きかった。

—合宿ってどの位行ってたの？

KYO　2人で行ったの、1週間。結構ね、放っておくとハマっていくタイプなんだ、室姫深として。分かるのね、考えてることは。でも無理するのね、そうするとハマっていくんだ。そういうところで、だいぶツアー回って性格も分かったし。ツアーの前のキャンペーンでも1番長い時間一緒だったから、なんとなく読める。だから最初から、これは抜こう、とかもうちょっと煮詰めた方がいいんじゃない？って話をして、煮詰められる曲は煮詰めた、その場で2人で。これは絶対に時間がかかるからっていう曲は潔くやめてたね、YUKIHIROの潔さじゃないけどラフにやった。アレンジ考えようーって考えるんじゃなくて、2人で風呂入って、“あっ、こういうのいいんじゃん？”ってねる

SHIN　で、ダーッとMTRまで走っていくっていう（笑）。

—合宿に行ってたとは知りませんでした。

KYO　やっぱり、もの作る時に環境変えないと。ツアーから帰ってきてすぐレコーディングでしょ？同じ場所にいるとキツイからね。

SHIN　気持ち的なものの整理が出来ないし、ツアーから帰ってきて、目の前に洗濯物のぶるさがってる中でとかって、けっこう発狂に近いっていう部分あるけど（笑）。

―作詞に関しては、ツアーやることによって得たものとか、言いたいことが増えたんじゃない？

KYO　素直になったでしょ？『V-SAGE』の時って、感触がない訳じゃない？ライヴやってデビューする訳でもないし、客とのコミュニケーションっていう部分での接点もなかった訳だから、比較的イメージに近かったよね。自分の思ってることを書いてた訳だけど、わりと場面を創造してとか、こういうこと思ってた時のことを思い出して、まず場面を作ってから書くのが多かったけど。今回はライヴやって、自分の目に映って思うことってあるじゃない？例えばステージやってて、"じゃあ、この曲で終わりか、こいつら可愛いからもうちょっといたいな"っていうような、そういうところから書いた。わりと自然になったね、っていわれるんだけど、無理しなかったかな？逆に詩にするのには今回時間がかかったんだ、7つの場面がちゃんとあったから。

―この『NODE』ってタイトルは誰がつけたの？

KYO　俺しかいないでしょ？こんなのつけるの（笑）。

―この言葉っていろんな意味を持つ言葉なんだけど、どういう意味を持つ言葉として使ったの？

KYO　わりと細胞的な中心部の意味とか、あと文節点とか、分かれるところにくっついているものとか。細胞っぽいっていうのは表面じゃなくて内面になってきたよね、バンドが。ツアーをやって大きかったと思うし、結局このツアーやって何にも生まれなくて、また同じようなことやってるんだったら、正直言って魅力なくなってたと思う。全員が、このバンドに対して。



―シングルの「My eyes〜僕の瞳よ〜」はタイムがアルバムより短いけど、それはどうして？

KYO　それは俺のこだわりでしかなかったの。この曲作ったのって元は俺なのね。て、どうしても歌から始めるものが欲しかったんだ。楽器なしで。まぁシングルだからバージョン変えたいね、って話になって単純にイントロをつけようってことになった。普通だったら短い方がシングルなんだけども、アルバムの中のヴィジョンで歌から始めるものが欲しかったから、どうしてもイントロのついたものをアルバムの中の1曲にするのは嫌だった。

SHIN　最初からアルバムの中に入るっていうヴィジョンだったからね。

KYO　今までないじゃない？そういう始まり方のやつって。でも肉声ってパワーがあるものだと思うから、自分の中では大きいのね。どうしてもそういうものが欲しかった。ライヴでも多分アルバムの方でやると思うよ。まだ1回もやってないからわからないけど、気分的にはそっちでやりたい。

―そのシングルのカップリング曲は前のアルバムに入らなかった曲だよね。

KYO　本当はね、なぜミニ・アルバム出すかっていう、本当の理由は、今年は無理してもアイテムを増やしたいっていうのが俺の中にあったの。1枚じゃライヴやるのキツイしね……、で前作『V-SAGE』を作る時にアルバムから「無口な夜」っていう曲がカットされてしまいましてね、でもそのままおいておくと出せなくなるし、出しておきたいっていうのもあったんだ。本当はそれを出す為のミニ・アルバム、それをミニ・アルバムの中に入れて発表する為のアルバムだったの。でも曲を作っていって、逆に新曲でアルバムのヴィジョンが見えちゃったのね。1番先に見えたのは多分俺だと思うんだ、曲もほとんど俺が選んじゃったし、こういうノリでいこう―みたいなところで。まぁ、皆もそういうのに近かったからこういう形になったんだけど、その時にどうしても入らなくなっちゃったんだ。

―うん、絶対に無理だと思う。

KYO　やっぱり前の流れの曲だから、入れると変なんだよね。だからヴィジョンをとったって感じかな？トータル性がある方が説得力あると思うし。

前へ進んだ足跡が形になっているだけ

―聴いてみて明らかに、今と前作の時のDIE IN CRIESは違うっていう感じだものね。

KYO　変わってきてるっていうか、前へ進んでるからね。歩いてるじゃない？その足跡が形になってるだけだから。

SHIN　自分の中では変わってるって意識は全然ないからね。いわゆるバンドになったんじゃないかな？

―なるほどね。前回のツアー観て思ったんだけど、DIE IN CRIESのライヴを観て、改めてアルバムを聴きたくなった人って多いと思うんだけど。

KYO　ある意味イメージ先行だったじゃない？このバンドもさ。ただ、俺、もうイメージ先行って言葉にはうんざりなのね。何年も言われてるから、またここでDERLANGERのことを出すのもなんなんだけど、やっぱりそれの悔しさを感じて1つの答えを出したじゃない？解散じゃなくて、ライヴで。そのやり方が分かってたから、逆にイメージ先行でもコワくなかったんだよね。今回は、ライヴやれば本質出せる自信があったから。それやってからのアルバムだから、凄く自然になったんじゃないかな。無理するとキツイんだよね。無理して作ってると面白くないんだよね。無理して作ってると面白くないとかじゃなくて、それが分かってるから無理したくないスタンスで動いてきてるじゃない？DIE IN CRIESは。最初のイメージ先行はしょうがないからさ、ライヴやってないんだし。ツアーやってもイメージ先行のままだったら、こんなアルバムは作れなかったしね。

BY SEXUAL



今やりたいことが一番表れている "4D Rocket" 9/18 on sale

本当に久し振りのBY-SEXUALインタビュー
悩んだり、苦しんだり、ぶつかったり、産みの苦しみの後に完成した4thアルバム "4D Pocket"。
デビュー4年、
今までとひと味ちがったBY-SEXUALを感じさせてくれる。

Interview/ YASUE MATSUURA
Photo/ TAKASHI SATO

BY-SEXUALのインタビュー取材をするのは、ホントに久しぶり。1月のNHKホールと5月の日比谷野音でのライヴ以外は、4人の姿を見ていなかっただけに、約半年ぶりの取材にちょっぴり私は緊張気味。

さて、彼らはといえばこの6ヵ月間をオフとレコーディングに費やしていた。9月18日にリリースされるシングル「DEEP KISS」と4thアルバム『4D Pocket』では、デビュー以来初めての長期オフをとった4人が料理した〝新しいBY-SEXUAL〟を思う存分に味わってほしい。

BY-SEXUAL流OFFの過ごし方

―お久しぶりです。そう言えばNAOだけは、いろんなライヴ会場で会ってるんだよね。

NAO　そうそう。2～3回くらい会いましたねぇ。

―おっ、また会ったねぇーって言っては世間話をしてた（笑）で、アリーナ37℃は約半年、BY-SEXUALのインタビュー取材をしていないので、とりあえず1月のNHKホール以降の話しから始めたい、と。オフだったんだよね。

DEN　オフ？　そんなのありましたっけ？　って感じ。

RY.O　新人バンドのような気分ですよ、今は。オレら今までと違うと思うしな。

―ほほう。なぜにそう思うのかしら。

RY.O　苦労したから。

―オフ中に？　それともレコーディング中に？

RY.O　両方。マジに曲書けんかったもんな。

―オフはNHKホールが終ってからしばらくあったって聞いてはいるけど。

DEN　まぁ、あったと言えばあったが、精神的にはあまり良くなかった。後ろ向





きで下降気味（笑）。

RY.O　（メンバーを全員）揃えようと思ったって絶対に集まらないと思ったから、バンドで集まることはなくて、勝手にじゃあ遊んでやるぜって遊んでた。もともとオレはバンドが遊びみたいなものだから、オモチャを取り上げられた子供になってしまって、普通のただの21才になってスロットの毎日。そして単車をいじくる毎日、と。そんなもんです。

―海外へ脱出とか旅行もなく。

RY.O　オレはそんなことしても、全然意味がないと思ってるし、わかりきってるから。バンドとったらオレはつまんない21才になってしまうって。

―DENは？

DEN　水泳選手!!

―ホントに！　だってオフ中はまだ冬とか春だよ。

DEN　温水プールっつうもんがあるでしょ。区民価格で450円!!

―休みに入ったらプールに行こうと決めてたわけ？

DEN　休む前は〝無人島に行く〟って決めてたんですけどね。

―じゃあ、NAOのオフは？

NAO　スキーに泊まりがけで行ったり、ライヴに行ったり、飲みに行ったり、ごくふつうのオフではないか、と。

DEN　あれ？　最初の話しだと海外へ行くって言ってただろーが。

NAO　そうなんだけどォー。あるモノを買って行けなくなった。

―なにを買ったの？

NAO　それは言えないな。

―あっ、分かった！　スキー板だ。

NAO　ピンポン。

―当たった!!

DEN　NAOは甘いな（笑）。

―SHOはオフは何してたの？

SHO　部屋ごもり。

―マジで？そう言えば、SHOって自

分の家にいるのが好きなんだよね。
SHO　そうそう。
DEN　高校時代の短パンはいているんだろ。
SHO　え!?　もうそれはヤメた。
―家で何してんの?
SHO　たまにDENさんと街中にブラブラと出たりするんですけどね。
DEN　プールも誘ったのに。
SHO　家にいた。
RY.O　もしDENが声かけへんかったら、きっとSHOやんはコケはえるでぇって(笑)。
SHO　くさってたかも(笑)。ビデオ見たり、ゴロゴロしたり。暗いですねぇ。
―ああ、21才の男子とは思えんな。
DEN　運動をしろ運動を!

リハのリハはリハビリのリハ

4D Pocket

1. GOOD LUCK!
2. IRON MAN
3. DEEP KISS
4. BLACK JACK
5. TRASH CITY
6. CRUSH
7. KID
8. PERMANENT VACATION!!!
9. HAPPY BIRTHDAY FOR ME
10. ADAM TO EVE

―体育会系だ、DENが!!　でね、いつ頃からレコーディングの準備がスタートしたのかな。
DEN　3月くらいから。
SHO　リハがあったんです。
―3月にはリハーサルしてたんだ。
DEN　リハーサルじゃなくて、リハビリのリハ。つらかったなぁ、あのリハは。
RY.O　何をやればいいのかを思い出すのも大変やったしな。
―その話、本気にしていいのかなぁ。
SHO　やっぱり4人揃って音を出すのは久しぶりだし、それぞれオフでボーッとしてたし…。
DEN　いやぁ、人間って忘れれば忘れられるもんなのねって思いましたよ。一生懸命に3年間かけて積み上げてきた積み木が、フッとひと息でドタドタと崩れていってしまうんだから。
RY.O　休む前はね、これは充電する休



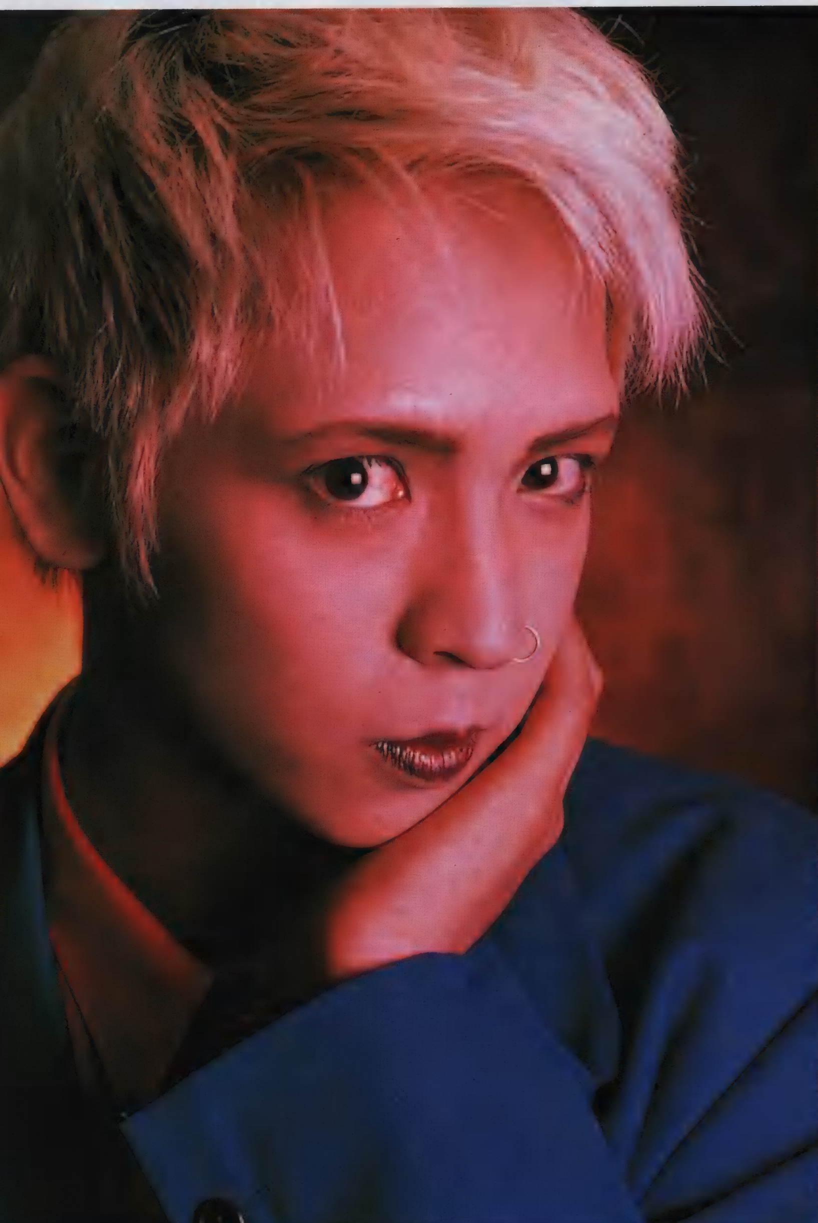
みなんだろうって思ってたけど、休みすぎたみたいやな。休んでてもどこか頭ん中で次のこととか浮かんでくるもんなのかもしれないと思ってたんだけど、ぜぇーんぜんダメ。何もできてなかった。
NAO　ホント、放電してた。
―リハビリをして、その間にもシングルやアルバムの話しは出てたでしょう?
RY.O　うん。
―と言うことは曲は少しずつでもオフ中に書きためていたり、なんとなく方向性は見えてたりしてた?
RY.O　ないない。
―ないのォ?
RY.O　曲を作ろうという気持ちはみんな持ってるんだけど、なかなか形にできなかったり、どういうアルバムにしようとか話しがまとまらなかったりでね。
―でもさ、今までだったらきっとRY.Oがメンバーを引っ張ってたはずだよ。
RY.O　うん。今までだとオレだったかもしれない。でも今回はヤメた。まぁ、ヤメたって言うか、長いオフの間にそういう役割りを忘れたとでも言いましょうか……。
―そういう状況ってマズイじゃない。
DEN　うん。あたふたはしてみるんだけど答えは出ない。うーむ、曲を作ればいいっていうのはわかってんだけど。
RY.O　そういう時にいちばん落ち着いてるのが、こいつ。(SHOを指す)
―へぇーっ。
SHO　そうらしい。
DEN　バンドをやってるってことを忘れてたりしてな(笑)。
―もしかして、今まで忙しすぎて休むってことを忘れてたから、長い休みをとったらなかなか元に戻れずにいたとか。
DEN　それは言える。
―でも、ちゃんとアルバムは完成してるんだから。いったいいつ曲を作ってたのやら。
RY.O　〆切り4日前!
DEN　〆切りも最初は4月の予定が…。
RY.O　3回も延ばした。
DEN　で、堪忍袋の緒が切れそうになった寸前の7月にようやっとできた。
RY.O　4枚目だからこうしようっていうのもなく、口ばっかりで7月。

DEN　休んだのがいけなかったのね。
――このままじゃマズイぞ、とは思ったでしょ。
RY:O　このままじゃいいわけないなっていうのはあったけど、じゃあどうすればいいのかなっていうと、曲はない。
――うーむ。不安でしょう？
RY:O　やっぱり、それはあったよ。ヘドが出るくらいの言い合いもしたしな。
――メンバー同志で？
RY:O　特にこの人。と言って恐そうな顔してDENにメンチをきる。って書いておいて。
DEN　じゃあね、そのメンチに対して決してRY:Oと顔を合わそうとしないDENって書いて。
――自らが状況説明をしてくれちゃうわけね。でもさ、これを文章にすると、結構キツイよ。仲が悪いとかさ。
NAO　ケンカするほど仲がいいってやつですかね。

BY SEXUAL

――ナルホド。で、プロデューサーに初めて佐久間正英さんを迎えてレコーディングが行われたけど。
RY:O　科学の先生みたいなルックスですからねぇ。ズシッとグサッと言うしな。
DEN　マジな顔してフツーの声してズキンとくることを言う。オレは苦労しました。こんなにゲッソリしちゃって(笑)。
――ネタが切れるのってツライじゃない？　メンバー自身がBY-SEXUALにあきちゃうというか……。
RY:O　うん。そういうところに入り込みそうにはなってたよな。
SHO　で、レコーディングしてて、こういうのもありだし、ああいうのもありだしっていうのにおもしろさを覚えていったアルバムかもしれない。
NAO　シンドラを使ったりしたのがオレはすごくおもしろかった。
RY:O　リズム録りのタイミングに馴れるまで音をのせにくかったけどな。でも





新鮮だったからOK、と。
――『4D Pocket』は〝4次元〟のことでしょ？
DEN　4枚目の〝4〟と〝フォーディメンションポケット〟を合わせてみたと。
RY:O　アルバムを作ってる気持ちが思い思いだったしね。
――そうそう。シングルって覚えやすいなあって思ってたのよ。歌える。
DEN　目指せ、居酒屋&宴会場。
RY:O　歌おう『DEEP KISS』やな。これでレーザーディスクに入らんかったらショック！
NAO　ロケ地はどこにする？
RY:O　都内!!
――カラオケもOKだね、この歌は。
DEN　歌ってもらいたいですねぇ。じゃんじゃんと。
SHO　メロディから作ったせいもあってオレも歌いやすかったよ。
RY:O　アルバムに関しては、オレら4人もそれぞれの思いで作ったし、ヘンにひとつにまとめようまとめようとしてないから、聞いてくれた人の受けとめ方は自由なんですよ。バラバラっていうのも、今回のオレらにとっては、今のオレらのやりたいことを、いちばん表わしているような気がする。今までにはなかったアルバムの性質を持ってると思う。

久しぶりの取材で、BY-SEXUALは今までとは違った一面を見せてくれた。悩んだり、苦しんだり、ぶつかったりしながら、ひとつの作品が完成した険しかった道のりを話してくれた。デビュー14年、4枚目のアルバムを作った4人のメンバーは、またあらためてBY-SEXUALをオモチャにして遊び始めたのかもしれない。彼らがいちばんおもしろがれるオモチャを。私たちもずっとずっと楽しみにしていたい。



NEW ALBUM 4D POCKET

PCCA-00394 3,000YEN(WITH TAX)

NEW SINGLE DEEP KISS

PCDA-00360 1,000YEN(WITH TAX) C/W:PERMANENT VACATION...


PONY CANYON
PREVIEW
LET'S PEEP THE 4D POCKET
You've been sucked into "4D Pocket"
Check out your record store on September 18th.
And discover "4D Pocket"
You over there reading ARENA37℃!! Listen up!!
4Dlive TOUR
9.22 (Tue.) 千葉県文化会館 全席指定¥3,500(with tax) 7.19発売 問:ディスクガレージ Tel.03-5704-3200
9.25 (Fri.) 浦和市文化センター 全席指定¥3,500(with tax) 7.19発売 問:ディスクガレージ Tel.03-5704-3200
10.6 (Tue.) 愛知厚生年金会館 全席指定¥3,500(with tax) 9.6発売 問:サンデーフォーク Tel.052-320-9100
10.24 (Sat.) 大阪厚生年金会館大ホール 全席指定¥3,500(with tax) 9.13発売 問:キョードー大阪 Tel.06-345-2500
11.15 (Sun.) 松本文化会館中ホール 全席指定¥3,500(with tax) 9.12発売 問:キョードー北陸 Tel.025-245-5100
11.17 (Tue.) 新潟PHASE オールスタンディング¥3,500(with tax) 9.12発売 問:キョードー北陸 Tel.025-245-5100
TOTAL INFORMATION: NON! 03-3497-9555
BY-SEXUAL
1992.9.18 ON SALE



Zi:Kill

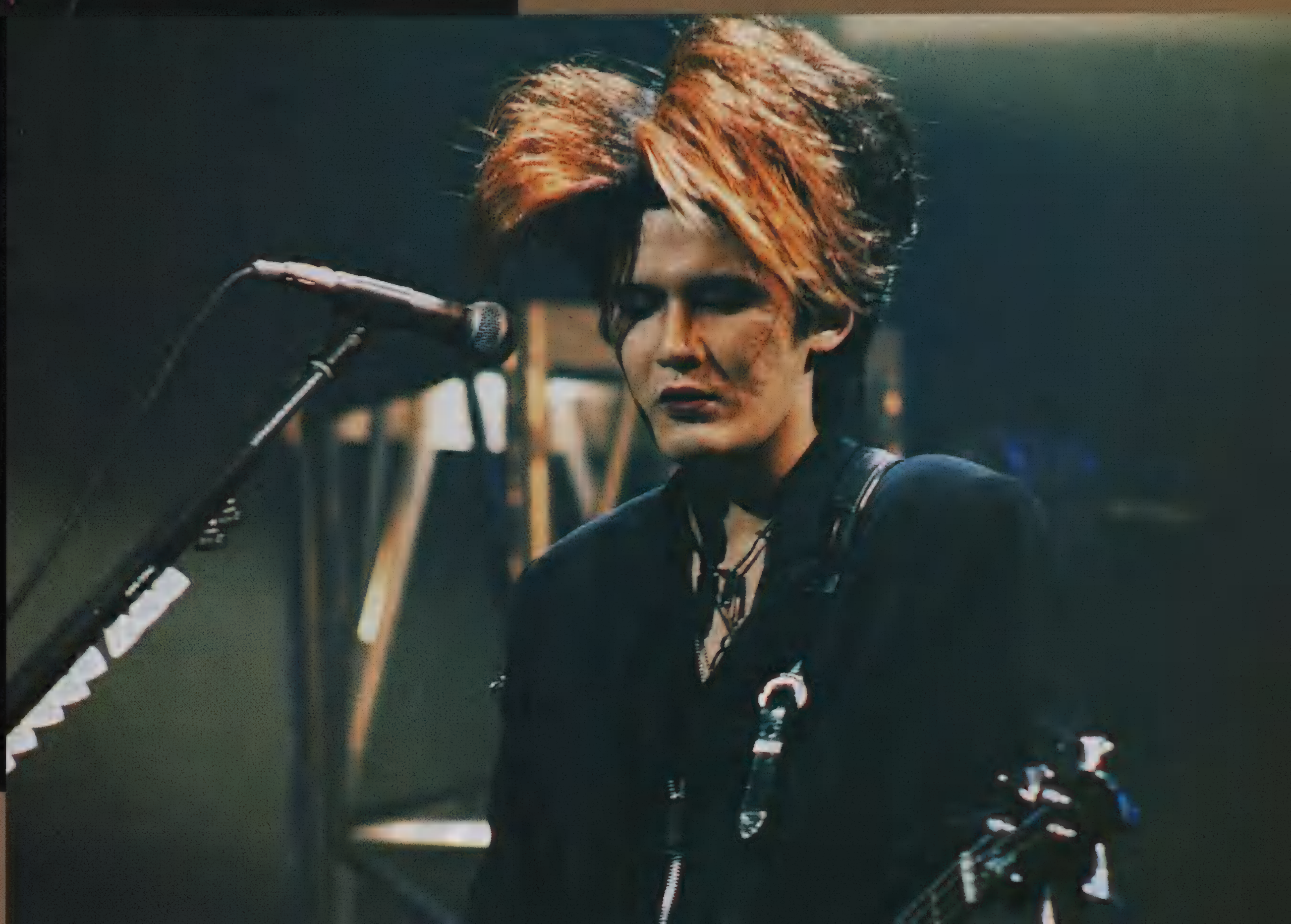
1992，7.30 NHKホール

鐘の鳴る日

レポート／大島暁美
撮影／大屋美和（本誌）

「やっとここに立つことができた。今まで待っててくれたみんな、本当にどうもありがとう」と、TUSKはステージでいった。オープニングの「華麗」から続けて4曲、緊張感あふれる演奏を披露し、最初のMCでマイクの前に立ったときのことだ。TUSKの声は、かすかに震えていた。ひとことひとこと噛みしめるようにゆっくり、そして、力強く言葉を続ける。「今日は俺たちにもやっと自由な場所が与えられたわけだから、気が遠くなるまでロックしようぜ！」彼はそう叫ぶと、超満員の会場をまるで瞼に焼き付けようとしているかのように、しっかりと見回した。

ZI：KILLがアクシデントに巻き込まれ、活動停止を余儀なくされていたことは、以前、本誌でもお伝えした。だから、この日は彼らにとって、実に約1年ぶりのライヴであった。それも、「どう





しても、ライヴがやりたい」という彼ら自身の希望で、半ば強引に決めたコンサートだったという。「とにかく歌いたい」「音楽をやりたい」という彼らの飢餓感は、極限にまで達していた。それだけに、この日、彼らの鬼気迫る気迫は、他の何をも圧倒するものがあった。オープニングSEで鐘の音が流れ、メンバーがステージに登場しただけで、会場の空気がさっと変わる。約1年のブランクの間に、彼らはどんなふうに変化したのだろう。新しいドラマーを迎えて、彼らはどんな音を創りだすのだろう。期待と不安が入り交じって、複雑な気持ちが胸をよぎる。

しかし、すべての邪念は、彼らが音を出した瞬間に消え去った。演奏を始めた途端に、彼らはZI:KILLがZI:KILLであることを、瞬時にして証明したのである。そこには、もう、過去のトラブルやら、メンバー・チェンジやら、長いブランクなどの形容詞は必要なかった。ただ、ZI:KILLがそこにいて、熱い想いを胸にステージでプレイしている。そして、その演奏を心から楽しんでいる4千人の観客が、いるだけだった。もし、「ZI:KILL復活」という思い入れがまったくない、何も知らない人がこのコンサートを見たとしても、彼らの圧倒的な存在感に感動したと思う。まして、この会場に集まった観客は、苦労してチケットを手に入れたZI:KILLを愛している人ばかりである。観客が異常なほどの盛り上がりを見せ、最初から最後まで興奮し続けていたのは、当然のことだろう。

しかし、ZI:KILLの4人は、ステージが進むにつれて、少しずつ変化してきたように感じた。最初は緊張と気合いで固かった彼らの表情が、だんだんと優しくなってくる。ときには笑顔を見せ、満足そうにうなずいてみせる。そして、最後は自信と感動で、すっかり輝いていたのだ。きっとこの日、彼らは「音楽をやっていて、諦めないで、本当に良かった」と、思っていたのではないだろうか。そんな彼らの心の動きが、客席にまで伝わってくるようなライヴだった。

この日は、ホッピー神山さんがプロデュースした彼らのニューアルバム『IN THE HOLE』(10/28発売)の曲も、数曲プレイされた。このアルバムのレコーディングは、既に終了しているという。また、9月には大都市、秋には全国ツアーの予定も決まっているらしい。いよいよ、彼らがまた動きだすのだ。この日、NHKホールに響きわたった鐘の音は、ZI:KILLの新しい明日への出発を祝福するためのものだった。彼らの未来は、今、明るく輝いている。





インタビュアー／今津甲
撮影／加藤正憲
スタイリスト／忍田透
衣装＝温故知新 ☎03(3713)1262、
渋谷フロンティア☎ 03(3464)4579

音で視る映像叙情詩、脳髄で聴くボディ・ビート!!

『愛と平和』に続く
SOFT BALLETの
最新作／ビクター移籍第一弾の
『MILLION MIRRORS』が完成した。
発売は来月10月21日だが、
いち早くアルバム取材を敢行。
聴きたい気持ちを、
さらにじらしてあげよう！（笑）

10月21日、ソフトバレエのニュー・アルバム『MILLON MIRRORS』がリリースされる。

本誌のこれまでの取材に対して、過去のソフトバレエ（とそれを取りまくイメージ）への決別、メンバー自身の解釈を織り込まない作品作りへの転換、などを口にしてきたメンバー。新作は当然、そういう発言を受けたモノとして完成されたハズだ。

果たして、『MILLON MIRRORS』とは、その言葉通りの内容として登場した。ポップス的な、あるいはお定りのR&Rのような表現の仕方とはまるで異なるボキャブラリーを持つアルバム。何をどう読むかは100パーセント聴き手にゆだねられた作品。今回紹介する3人の言葉は、収録曲にふるルビの様なものとして活用してもらいたい。

※

FRACTAL

森岡　藤井クンにドラム関係の音を手伝ってもらった以外はボクが作りました。

藤井　といっても今回は誰がどの曲を作ったか、分からないかもしれないけど。

森岡　ま、この曲はただのお絵描きなんですが、でも、1曲目に持ってきたかった。なかなか遠藤クンの歌が出てこないんだけど、曲の最後に中心となる部分を歌ってほしかったんで。こういう構成にしました。曲のテーマは、“人は変わらない”っていう事。アクター（役者）として、ネ。

遠藤　詞は森岡さんが書いた散文詩みたいのを参考にさせてもらって、書きました。“ONE WAY”“ONE DREAM”“I'M ACTOR”っていうのは彼の言葉。人間誰も演じてるのかな？っていう歌。

森岡　です（笑）。ちなみに英詞の部分の意味をどうしても知りたい人は、自分で訳して下さい。

※　**アルバム製作中にメンバーが口にした数々のコメントといやでも照合してしまうナンバー。微妙な曲構成がリスナーに判断を迫る。**

WHOLE THE WHOLE

森岡　これはボクの“子供の時の記憶”をモチーフに作った曲。

遠藤　詞は最初、森岡さんが書く予定だったけど、結局ボクが作ることに。ちなみに詞の中の“エイリアン”というのは単なる地球外生物のことではありません。タイトルと詞の関係ともども、ジックリ考えて下さい。（笑）。これは他の曲にも言えてることなんだけど、今回の詞は戦



争とかなんとかいう現実面とはあんまり関係ない所で作ってる。もともと自分の中にあった世界の表現。それを言い表わすためには一生かかる、という位のモノかもしれないんですが。

※　エイリアンに向かって「抱いてくれ」と歌う様は強烈だ。喰いちぎられることが分かっているのだから。そこに、一見完ぺキな存在に身をまかしてしまうことの危うさと誘惑を感じる。

A SHEPHERD'S SON

森岡　「FRACTAL」とこの曲は自分のイメージを絵に描いて、それを元に作りました。こっちの方はちょっと"性の妄想"ってカンジの絵を元にネ。サウンドは、ロンドンでイアン・カーティスとフィル・ハーディングが加わったことで地に足がついた、と言えるかもしれない。曲中のブラスの音とかは彼等のアイデアです。

遠藤　これは詞を書いたのもロンドン。今回はけっこう多いんですよ。向こうで作詞したり歌入れをした曲が。

※　ブラスが入り、リズムはハネ…。けれども歌は前曲同様、何かを受け入れる事の極限を口にしている。この音とこの詞の混合物は、最終的に砂塵の様に舞う逆回転音の中に消えてゆくのだろうか？

VIETNAM

藤井　これはスタジオに入って、とりあえず何をやろうかな？と思いつつギター・アンプを借りて、自分でギターを弾いてるうちに出来た曲です。タイトルになってるベトナムというのは、ギターの音を録音した時に思った印象。で、ヘリコプターの音も入れてみた。奇形の子供がいて、人がどんどん死んで…っていう情景をただ音にしたカンジ。

遠藤　題名を聞く前から「ああ、ベトナムだなァ」って思いましたネ。この曲は。詞はわりと情景をそのまま歌ってる。暑くて不快なんだけど、それを全部通りこした位の状態を示す言葉はなにかなァ？「ああ、剝製の陽が」って具合に。そういう状態の中で恋人と愛し合ってて、パッと見たら自分とは目の色が違ってた、という話です。

※　ノイジーなギターが演出する、人のものとも自然のものともしれない狂暴な明るさ。"剝製の陽"という言葉ともども強力な描写力が感じられる。

INSTINCT?

森岡　テレビの歌番組をみてたらコンセプトが浮んだ曲。フレディー・マーキュリーと尾崎豊に向けた曲、でもある。ここで言いたかったことって、ずっと昔から思ってたことなんだけどネ。今って極端なもの以外すごく生きにくい世の中なんだな、っていう。いつかこれをテレビでやりたいと思ってる。

※　森岡によると、本当に聴いてもらいたいのは歌の最後の一節だという。そこではこう歌われている。"CAN'T WE LOVE THE COMMON"そしてこの曲のタイトルの和訳は"本能？"だ。

HYSTERIA

森岡　アルバムのレコーディングをはじめたばかりの頃に藤井クンが作ってきた曲で、すごく気に入ったのがあった。で、その曲にインスパイアされて1曲作ってみた。作って、その藤井クンの曲と合体させたのがコレ。2人で、ただ音で遊んだってカンジです。

藤井　スタジオで、お互いの機材を2つ並べてネ。一晩かな？　完成するのに要したのは。

遠藤　ここでも歌の主人公はアクターです。

※　耽美、ロマン…月的な光景、"時計台でMAZE"―その迷路のようなシンセの反復が頭の中を歌の世界に入れ替えてゆく。

FAIRY TALE

森岡　これはですネ、人は1人1人ちがう一緒にはなれないということをさとって作った曲です。

遠藤　これについては森岡さんが書いた物語があったんです。それに沿って詞を形にしていった。

森岡　物語といっても児童文章と呼ばれるぐらいのものでしたが（笑）。

遠藤　その物語の中ではまだ結末が書かれてなかった。

森岡　それは今後に期待ということで（笑）。いや、結末は一生ないのかもしれないな。それってなんにでも言えてることかもしれないけど。でも、まあ、アルバムの中で一番思い入れのある曲ではあります。

藤井　タイトルはボクが付けました。妖精の話だからといって"妖精物語"とかするのもなんなんで、英語にして。

森岡　曲中のオーケストレーションはイアン・カーティスに頼みました。ロンドンに行ってすぐ物語の内容を彼に話して、こういうサウンドが出来てきた。

※　アルバムで唯一のメジャー調のナンバー。ゴージャスで華やかなアレンジは森岡のお気に入りのアーティスト、マーク・アーモンドにも通じるものがある。音の発色が豊かで、しかもトータルとして悲しみが流れている所が美しい。

MEDDLER

藤井　これはボク版の「FAIRY TALE」。

森岡　だからこの2曲の並びにおもしろさがある。

藤井　これって今回のアルバムのために作った最初の曲なんです。曲のイメージは"羊水の中に浮んでいる子供"。アルバム『DOCUMENT』に入ってた「COMA BABY」の、もう少し意識のあるヴァージョンですネ（笑）。ここで言いたかったのは、"干渉しないで下さい"という事。ボクの中では、アルバムはこの曲で終っている。あとの2つはオマケで（笑）。

森岡　ボクは次の「THRESHOLD（Yellow-Mix）」まで入れてもいいと思うけど。

※　"個人"という所に強く意識を集中した曲だと思う。アルバム中でも飛び抜けた音色の整合感を持つサウンドも、その集中の成せるワザのような気がする。そうやって楽曲の内を固め、外に対してはMEDDLER＝おせっかいというタイトルを示す。そのつっぱり方にニヤリとさせられる。

THRESHOLD（Yellow-Mix）
THRESHOLD（White-Mix）

藤井　（Yellow-Mix）と（White-Mix）は2つ合わせて1曲、っていう考え方もありなんですけどネ。ま、（Yellow…）の方はこれまでのソフトバレエの音をイメージしてた人に向けたモノ、ってカンジで作ってはみたんですが。

森岡　今だったら（White-Mix）の方を（Yellow…）ってしても良かったかもネ。この手の音って流行ってるから。

※「THRESHOLD」とは"入口"とか"敷居"といった意味がある。そういう曲がアルバムの出口に置かれ、かつソフトバレエのパブリック・イメージに近いサウンドを持ってることを考えると、これは喰えないエンディングだ。特に10曲目の（White-Mix）は今やボディコン系からジャパニーズ・パンク系までに大人気のハードコア・テクノ仕立て。そういう意味でのポップさからの他の曲を振り返るのもおもしろい。



Speedstar
ロック・エンターテイメント大作戦!!

スピードスターの今後をになうニュースターたち!
みんなも知ってる通り、
ビクターからロックの新レーベル"Speedstar"が、6/21にスタートした。
ここでは、スピードスターのこれからをになう新人・5アーチストを紹介しよう。
また、おなじみのミュージシャン達の近況もバッチリ報告しよう!

文／則末敦子

スピードスターの５つの約束

①ロックは何でも音にします。チューインガムの味から世の中のタブーまで。けれどもどんな時にも聞いていて楽しい、それがやっぱり基本です。
②心からの気持ちや考えが歌になる。人肌の暖かみのない歌は、心の奥に染みません。ヒューマン・タッチな音楽をいつも届けます。
③モノクロから天然色まで。サウンドの色彩感は様々です。それぞれのバンドの筆さばきに個性を持たせて、カラフルな音作りを続けます。
④歌は人にうたわれて、初めて意味を持つもの。なのに長らく、日本のロックンロールに愛唱歌がありません。何気ない口癖に変わるようなロックの愛唱歌づくり、それを目指します。
⑤ロック・レーベル＝スピードスターは、レコード・レーベルの原点に立ち戻ります刺激的な音作りに専念します。そしてズバリ、名作主義をモットーに揚げます。

SPEEDSTARレーベルも新人だけど、ここに紹介する彼らも新参者。でも馬力があります。実力があります。そして何より魅力があります。明日のSPEEDSTARを担うのはズバリ彼らなんです。

源学

そこのけそこのけ、源学(ミナモトマナブ)がお通りだっ!



バンドとしてのGENから独立、ソロ・アーティストとして歩み始めた源学。普段の彼は"源ちゃん(げんじ)"の愛称で親しまれてるけど、漢字2文字で"源学"と表記されるとインパクトが強い。なんかスゴイ人みたいじゃないですか。でも実は名前の印象に負ける事なく、源ちゃんはホントにスゴイんです。彼は歌を大切にする人。どちらかというと悪声とも言える彼の歌声ですが、これが強いんですね。切なくもあるし、素朴でもある。そして妙に共感してしまう。きれいな声で歌われるより、多少かすれた声のほうが現実的に響いてくるから人間の耳って不思議なものです。さて、ソロになった源ちゃんがまず世に送り出すのがアルバム『帰れない二人』(10月21日発売)です。タイトル「オヤ?」と思った人も多いことでしょう。そうです、あの井上陽水さんの曲ですね。このアルバムの曲は全て井上陽水さんのカバーであります。しかも制作にはオリジナル・ラブのメンバーをはじめ、豪華ゲストが参加。これだけの人々が集まってしまうのも源ちゃんの人柄の良さに他なりません。しかし、実際に他人の曲を歌うというのはかなりのプレッシャーがあったハズ。これに関して源ちゃんは「プレッシャーっていうか、とにかく難しかったですね。歌い方も今までとは変えてみたり、色々勉強になりました」と、これまでとは違った面にトライしていたようです。そして「もちろん、このアルバムが僕の全てというわけではないですよ。でも今回は、今までと違う自分も発見できたのがおもしろかった」とさらに前向き。彼はその前向きパワーをもって、現在オリジナル・アルバムのレコーディングに入りました。レコーディングまでに、なんと30以上もの候補曲が上がっていたとか。どんな作品になるのか今から楽しみ。ちなみに発売は来年2月の予定。きっと強力インパクトのアルバムがお目見えすることでしょう。源学の快進撃はもう誰にも止められない……。

CHICA BOOM

恋すればサルサ、恋する心で踊りたい！



志村享子（V）、森村あずさ（Timbales）、石田みき（Conga、ch）、小野かほり（Bongo）、坂口かおる（B,ch）、山本智子（Trombone、ch）、柴草玲（Key）

チカ・ブーンのおかげで、日本でもサルサはずいぶんポピュラーになりました。折からのラテン・ブームもありましたが、ブームだけに終わらず、今やすっかり定着した感じです。聴いているだけで楽しくて、ついつい体が動き出す……それがサルサ・ミュージックの魅力。しかし、ただ踊るためにサルサがあるだけではありません。実は本場のキューバでは熱烈な愛のメッセージ・ソングでもあるわけです。キューバの人達にとって、恋することは呼吸するのと同じくらい大切な生活の潤滑油。人生やはり恋がないと楽しくない！ そう思う気持ちはチカ・ブーンも同じ。ツライ恋、楽しい恋、悲しい恋、色んな恋模様があるけれど、彼女達はそれをサルサのリズムに乗せて軽快に歌ってくれます。もちろん、歌詞は日本語。聴きながら〝そうそう！〟なんて共感を覚えつつ、心がキュンとしてしまうのです。ボーカルの志村享子（ことするちゃん）は「サルサっていうのは、カリブ諸国の歌謡曲だと思うんです。覚えやすくて歌いやすいの。おまけにダンス・ミュージックでもあるし、だから日本人の人には、結構受け入れやすいと思います」と分析。そういえば、昭和初期の歌謡曲にはラテンっぽい作品がたくさん生まれました。日本人って案外ラテンな民族なのかもしれません。さて今年1月にデビューしてから、とかく注目されてきたチカ・ブーン。デビュー盤を含む2枚のアルバムのリリース、さらに多くのテレビ出演やメンバー全員のキューバへの留学（彼女達にとっては3度目！）、夏は各イベントを精力的にこなしたりと、とにかく新人ばなれした活躍が目立ちました。そしてこの秋、11月には超強力なシングルをリリース予定です。これで日本全国、老いも若きも、男も女も、熱いサルサで盛り上がるのは必至。サルサを難しく考えてはいけません。とにかく一度チカ・ブーンに触れてみて！ 恋するリズムで踊りまくれば、絶対ハッピーになれるはず。

The 5 TEARDROPS

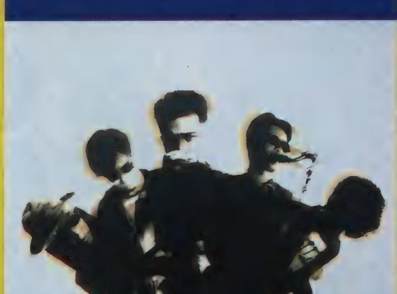
笑える、歌える、泣けてしまう。青春ド真ん中極上ポップス。



柳川知生（V）、山村智宏（G）、高橋享（G）、鈴木伸（B）、松島拓哉（D）

海辺を走り、夕陽に向かって叫ぶ。気分はまさに吉田栄作……想像しただけで赤面モノのシーンである。だが、実は誰の心の中にも青春願望というものはくすぶっているはず。甘くて、ちょっぴり切ない思いを忘れかけていると感じたら、その時こそ5TD'Sの出番だ。バンドのメンバーが愛するのは50年代や、60年代のサウンド。こう書くと安直に「あぁ、ロカビリーね」って言う人もいると思う。もちろん、その頃の音楽は5TD'Sがもっとも愛するものではあるけれど、彼らの要素はそれだけじゃない。甘く切ないラブ・ストーリーを良質のポップスにのせて歌い上げる、いわばスタンダードなラブ・ソングで胸を熱くさせてくれるのだ。それも確かな演奏力と楽曲のクォリティの高さあればこそ。時代を越えて歌い続けられる曲作りを目指しているのが5TD'Sなのである。さらに彼らがアマチュア時代からライヴで行っている〝ティアドロップス劇場〟では演劇的才能も発揮、多才振りを見せている。これまたサウンド同様、笑いあり涙ありの感動ステージ。思えば国民的支持を得るクレージー・キャッツやドリフターズだって実はミュージシャンなんだよね。これはもう、国民的アイドル要素が備わっていると言っても過言ではない。メンバー5人は栃木県は足利市出身。学生時代からの親友（悪友？）同志というチームワークの良さを誇っている。そのチームワークはハーモニーの美しさとなり、時に披露されるアカペラにもセンスの良さが光るわけなのだ。そんな彼らの魅力がギュッとつまった4曲入りCDが11月に発売される。タイトルは『TWINKLE☆TWINKLE』。そしてこのCDはギフト・コンパクト・ボックスというコンセプトで、クリスマスのプレゼントにはバッチリというわけ。11月5日からは渋谷クアトロを皮切りにツアーも始まる。まだ彼らのライヴを体験したことのない人は必見。思い切り笑って、そして泣いてくれ！

Speedstar最新情報



LÄ-PPISCH

7月にアルバム「フラワー」をリリースしたレピッシュは、9月いっぱい“VIRUS”ツアーで全国をコンサート中。年末にはビデオリリースの予定あり。お楽しみに。



THE MINKS

ヴォーカルのヨシアキはバイクの事故後、治療しつつ、ライヴの練習にいそしんでいる。もうすぐ元気な姿が見られるぞ。



SHEENA & THE ROKKETS

いつも元気バリバリのシナロケは、9月19日にららぽーとにて、Bay-fm「Bay Factory」ライヴの公録がある。この番組のオンエアーは10月5日。



UP-BEAT

UP-BEATは秋から学園祭を中心に全国をまわり、熱いライヴを見せてくれる。来年1月には待望のシングルがリリースされる予定。

浜地たけし

感じる、感じる、Hな気持ち。ハイトーンボイスのキモチ良さ。



浜地たけし。まだまだ知らない人も多いのではないだろうか。もっとも8月26日にシングル「WHOSE BIRTHDAY TODAY」とアルバム『WHOSE BIRTHDAY』でデビューしたばかりだから、なじみが薄くても無理はない。しかし、彼の強力なハイトーン・ボイスは一度聴いたら絶対に忘れられない。そして何と言っても歌がウマい。ボーカリストなんだから歌はウマくて当たり前なのだが、妙にハッとさせられるくらい印象的だ。もしかしたら、歌のヘタなシンガーが増えたのか、はたまた同じような歌い方をする人が多いのか。とにかくハートで歌う人が少ないな、というのが昨今のボーカリスト事情なのではないかと思う。しかも最近のブラック・ミュージックばやりで、ファンキーさを打ち出した男性ボーカルは増えているのに、ロック・ボーカリストという存在にはなかなかお目にかかれなかった。浜地はそういう状況の中、ロック・スピリットを掲げて燦然と登場したのである。もちろん、彼は突然現れたわけではない。大阪出身の彼は地元で、地道にバンド活動を続けていた。バンド名はサティスファクション。アマチュアながら、関西地区ではかなりの動員を誇っていた。そして、バンド解散後に彼はソロとしてのキャリアを歩み始めたというわけなのだ。浜地の歌の魅力の秘密は、これまでの彼自身による多くの学習にあるようだ。学習といっても別に机に向かって勉強していたわけではない。古いアーティストについても、かなり掘り下げて聞き込んでいたという。様々なアーティストの影響を受けながらも、しっかり自分の血や肉とし、個性的なボーカル・スタイルを確立した浜地。ホントに久し振りに、気持ちの良いボーカリストに出会えた。彼のハイトーン・ボーカルは聴くものの気分も高揚させる。そんな気分を味わえるのは……アノ瞬間だ！ High tone+Heatful-ボイスでHigherな気分になろう。

SOY SAUCE SONIX

バカの一念。醤油サウンドにこだわるバカテク集団



木村さとる（V）、石井ひとし（G）、小林まさる（B）、久嶋よしろう（D）

バカであるということは強い！ なにが強いかって、とにかく有無を言わせぬ迫力が潜んでいるからなのである。〝バカほどこわいものはない〟とも言われるように計り知れないパワーを持っているのがバカの特徴なのだ。そんなとてつもないヤローが4人集まって結成されたのがソイ・ソース・ソニックス。決して彼らのアタマがワルイと言っているのではない。彼らは音楽バカなのだ。なんのこだわりもなく、好きな音楽であればジャンルを問わず、屈託なく取り入れてしまうという無謀さが強みってワケなのだ。オイシイ所は、どうにでも料理して自分達の物にしてしまうこの逞しさ。これぞ日本人のなせる技である。そう、ソイ・ソース・ソニックスのメンバーの体には、まぎれる事なくお醤油の血が流れているのだ！ さらにバカな彼らは、演奏面においてもそのバカテクぶりを遺憾なく発揮している。これがまた、シニカルな歌詞によくハマる。確実な演奏力とバカの一念に貫かれたハチャメチャなライヴも圧巻。もちろん、5月21日にリリースされたデビューアルバム『NUDEZILLA』を聴けばそのスゴさは体験できるはず。彼らのサウンドは何々風とかいう言葉では到底表現できないが、こだわるのは日本人であるという意識。結局ミクスチャー文化の日本である。うまくアレンジして食べた奴の勝ちってことだ。その味つけにかかせないのは醤油感覚。それはソイ・ソース・ソニックスの原点である。海外旅行からから帰ってきた時、久々に味わう醤油に「やっぱ日本人だなあ〜」と妙に感動するあの気持ち。アレが大事なのだ。ここで彼らの最新バカ情報をお届けしよう。11月にはメンバーのバカな?私生活も垣間見られるビデオが、そして12月、明けて1月、2月には3ヵ月連続のシングルをリリースする。シングルには、それぞれ〝日本人を見直そうキャンペーン〟が掲げられ、正月やら豆まきやら雛祭りがテーマになっているとか。本当にバカな奴ら！

Speedstar最新情報



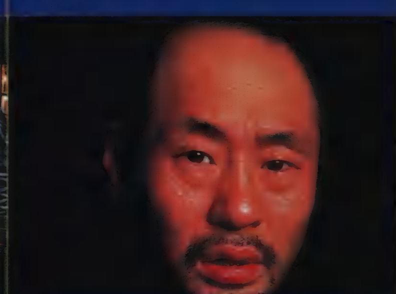
The ピーズ

現在ピーズのメンバーは釣り、野球、マージャンにいそしむ毎日(笑)、その合い間に曲づくり中(笑)。12月7日渋谷ON AIRのライヴには、みんな行くように!!



THE STAR CLUB

7月にアルバム『アナーキー・イン・ザJAP』をリリースしたスタークラブ。現在ツアーも終了し、新作のレコーディング中。オリジナル・ニュー・アルバムは11月21日発売予定。



泉谷しげる

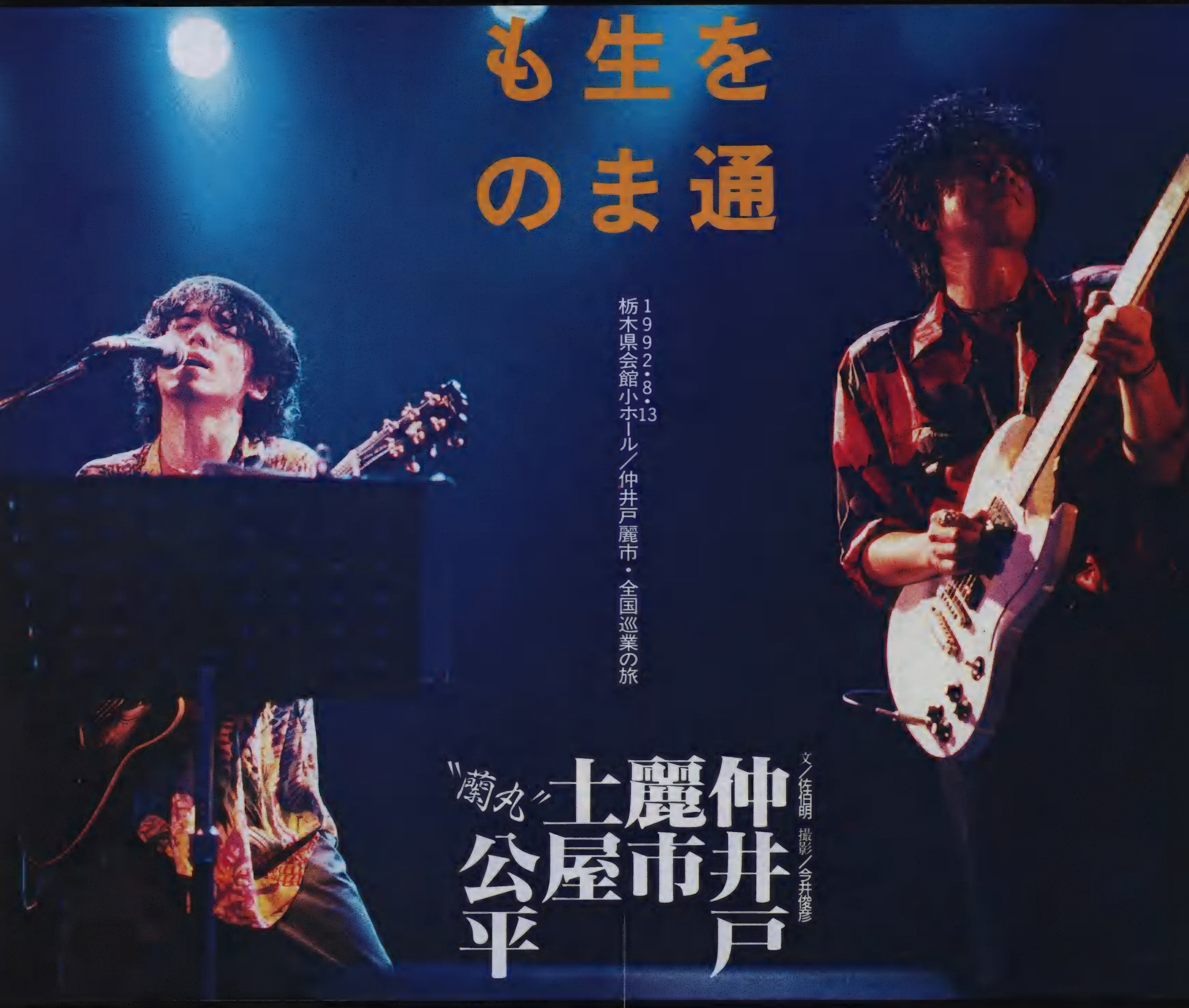
現在泉谷しげるはニュー・アルバムのレコーディング中。シングルは11月初旬、アルバムは11月21日発売予定。



MARCHOSIAS VAMP

10月30日渋谷公会堂で「TOUR DE MIRAVAL ファイナル」決行。マルコシアス・バンプが企画主催するマーク・ボラン追悼イベント「グラムロック・イースター」が9／12大阪ウォホール、9／16新宿パワーステーションで開催される。

麗蘭を通じて生まれたもの



1992・8・13 栃木県会館小ホール／仲井戸麗市・全国巡業の旅

仲井戸麗市 土屋"蘭丸"公平

文／佐伯明　撮影／今井俊彦



東京駅のホームは帰省客でゴッタ返していて、いつ人が線路に落ちてもおかしくない状態だ。涼をとるためにホームの真ん中に置かれた氷が、人に囲まれてどんどん溶けている。すばやく新幹線に飛び乗った。

栃木会館小ホールの楽屋には無骨なデザインのソファが置かれており、そこに腰をおろすなり、SGの音がした。

蘭丸のサウンド・チェックはすでに始まっていた。空調のきかない楽屋でカメラマンの今井氏と、ギターのアタックを聴いている。湿気のある音だ。

しばらくして蘭丸がSGを抱えて楽屋に入ってきた。〝久しぶり〟と挨拶を交す。

(佐)「最近はサウンド・プロデュースでスタジオに通っているんだってサ」

(蘭)「そうなんだよ。」

(佐)「ギターを持たずにコンソールの前に立ってると?」

(蘭)「うん。ギターを持たずにスタジオに通うのは初めてのことだよ。」

(佐)「何か妙だね。」

(蘭)「そこがキツイ。」

蘭丸はそう言って苦笑した。

「おっ、久々の顔ぶれだね」

薄茶色の夏っぽい帽子をかぶったチャボさんが現れた。

(土)「法隆寺行っちゃうぞ（笑）」

めいめいに麦茶やアイスコーヒーの入った紙コップを持ってしばし談笑した。

(土)「蘭ちゃんと佐伯くんが法隆寺に行ったすぐあとぐらいにボヤを出した奴がいたでしょ？最初、新聞の見出しおなんかを見た時、二人が居残ってやったのかと思った（笑）。」

(佐)「そりゃあまたアブナイ（笑）。」

(蘭)「そんなにまでしなくても…（笑）」

その日は、終わりに近づいた仲井戸麗市〝ポエトリー・リーディング&LIVE〟ツアーに土屋公平が（神戸チキン・ジョージに続いて約一カ月ぶりに）友情出演する日である。

二人はめいめいにギターを抱えてステージに出て行った。

リハーサルはとても入念におこなわれた。二人のギターだけで既発表のチャボの曲も麗蘭のナンバーも演るわけだから。二人の音を定めなくてはならない。もちろん悪戦苦闘するわけではないけれど、気軽にプレイして終われるものでもない。

〝ドリームランド〟――本編のポエトリー・リーディングは、この頁から始まった。PAが少し大きかったものの、チャボさんの声によって〝身体〟を得たポエットは、大小の波となって客席に打ち寄せてくるようだった。

「本棚の歌」「ある詩人への散文」「ある日の雑記帳から」……このあたりで、僕は眼鏡をはずしたくなった。眠くなったわけではない。もっと詩の中へ入っていきたくなったからだ。詩に取り巻かれたくなったと言ってもよいだろう。チャボさんの、特に若かりし頃を綴った詩には醇（じゅん）な熱気団のようなものがあって、

「だんぜん、ブライアンだった」

などと語気強く言われると、その熱気団を頭上に感じたりするのだった。そして、抗（あらが）った詩はもちろん荒らぶっていた。

ポエトリー・リーディングが終わり、十分間ほどのインターバルがあって、「クロスロード」が流れた。

「二部はいろいろと曲もやるからねー。」

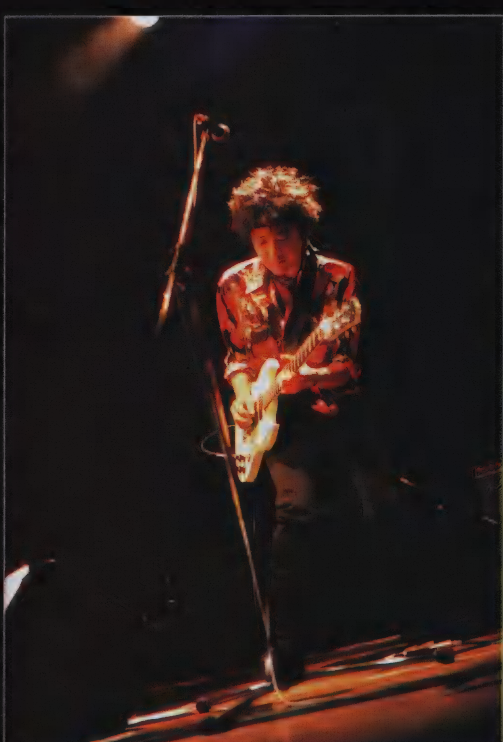
一部とは打ってかわった仲井戸麗市だった。新曲の「ツユ明け」、ブルースをゆっくりと飲み干した「飲んだくれジョニー」、張りのあるリフで刺すように歌う「フリー・タイム」など、一人でもピンと背筋の伸びているチャボの横に、七曲目から蘭丸が立った。

「顔」「ハイキング」など麗蘭のナンバーはもちろんのこと、「カビ」や「ギブソン」等、チャボの愛曲が蘭丸との〝蓄られた〟コンビネーションによって、弾（はず）みがついていくさまを僕は注意深く聴きとった。そして、麗蘭が決してタイミングだけで成立したユニットではなかったことを改めて感じたのである。

「こんばんはー。麗蘭でーす。やっぱりこの音は麗蘭だぁ」

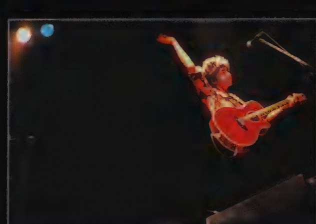
チャボがこう言ったのは象徴的ですらある。現在のチャボにある一種の勢いめいたものは麗蘭を通じて生まれたのだと思うが、それはカンフル剤のような一時的なものではなく、〝根の張った音楽〟によって生まれたものなのではないか？

蘭丸がステージから去って、セミアコを持ったチャボの「さらば夏の日」が、確然としていたことは言うまでもない。









スライダーズ採集家・佐伯明と
土屋〝蘭丸〟公平の3年半にわたる、
追求とわがまま、遂に単行本化！

「らんまるのわがまま」

三年半近く。僕らは一度取り離した何かを掴み返していた。
バンド・サウンドを黙読するように、
時に焼きつけられた印象を噛み直したりもした。
うたの影を結い、昼と夜の衣をまとう日もあった。
彼のギターを持つ手首と僕のペンを握る手首は交差しながら、
ある風景と思いの周りをグルグルと旋回していたのかもしれない。
「らんまるのわがまま」は僕と蘭丸の〝自乗の書〟なのです。
佐伯明

平成四年十月二十二日発売予定
予価一五〇〇円
予約受付開始



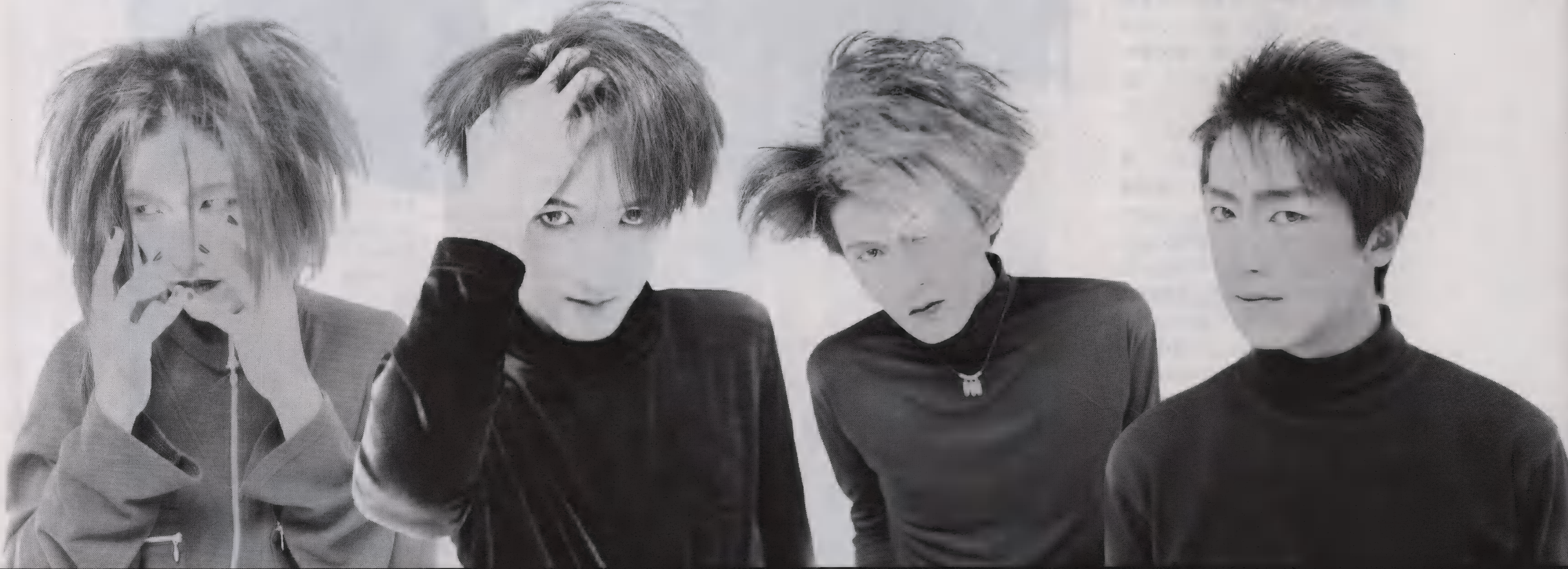
（キリトリ線）

書籍注文書

●書店(番線)印	●受注　　月　　日	●部数	●担当者
	●書名 「らんまるのわがまま」　予価1500円(税込)　10月22日発売予定		
	●あなたの名前	●TEL	
	●あなたの住所 〒		
書籍扱い	●出版社名 ㈱音楽専科社 〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F ☎03(3574)0201 FAX03(3574)8548		

※この注文書は切り取らないでコピーしたものでもかまいません。

Zi÷Kill



キングレコード新レーベルよりリリース。

NEW SINGLE **SLOW DOWN** **10・21 RELEASE**
C/W **IN THE HOLE** ●KIDS-114・税込¥900

NEW ALBUM **IN THE HOLE** **10・28 RELEASE**
●KICS-244・税込¥3,000

●CLUB CIRCUIT 1992

9・20(日)・21(月)：東京・C SOLD OUT CITTA'川崎 問キョードー東京(03)5237-9000
9・24(木)：名古屋・CLUBダイヤモンドホール 問ジェイルハウス(052)936-6041
9・29(火)・30(水)：大阪・W SOLD OUT OL 問キョードー大阪(06)345-2500

●OFFICIAL FAN CLUB "ZI:KILL STARDUST"

入会希望者は住所・氏名・電話番号を明記の上、62円切手を同封して下記の住所までお送り下さい。
〒150 東京都渋谷区恵比寿西2-2-6 EBIS-FIVE BLDG 407 "ZI:KILL STARDUST" (03)3780-7079
INFORMATION KING RECORDS KMW事業部(03)3945-2112

KMW

Interviewer／角野恵津子

陣内大蔵

〝新作『TWIN』で、俺と聴く人との距離が縮まってくれれば、それで大成功だ〟

ここ１～２年の陣内大蔵って、ライヴを見てもアルバムを聴いても、上昇気流がそこに渦巻いているのが手に取るようにわかる。油がのってきたな、これからオイシイぞって感じなのだ。もちろん新作『TWIN』を聴いても、そんな興奮を感じてしまう。要チェック・アーティストのひとりだ。



──ここんとこ上昇気流の中で、確実に階段を上がってる感じがするね。

「『Big Deal』（前作）出したぐらいから、これからって一個一個大事だなとは、思ってたかもしれない。去年青年館やった時、すごくよかったんですよ。で、しばらく考えたら、何かあの時が、俺が陣内大蔵だ、陣内大蔵が俺だって、そういう俺が俺がっていう、一方通行のライヴはこれで終わりだっていう、終焉のような感じがしたんですよ。今年の６月に同じ場所でやった時は全然気持ちが変わって、またひとつ始められるっていうリフレッシュした感じがあったんです。さあ、次に行かなくちゃって。それで、今回のアルバムなんですけど」

──うん。どんなふうにしてできていったの？

「デビューしてこれまでの曲をバーッと聴いてみると、ある方面はすごく磨いてきたなと思うんですよ。でも、まだ磨き忘れてた原石もあるよなと思って、今回の『TWIN』の表現方法なんかは、僕の磨き忘れてた所を磨いて、あえてバランスを変えたかもしれないなと思ってる」

──その磨き忘れてた所って？

「たとえば単純にいっちゃうと、今回ラヴ・ソングの割合が多いじゃないですか。女の子がこれを聴いてどう思うかわからないですけど、スタッフの男達は、誰もが１曲や２曲は身に覚えがある詞が並んでるというかね。詞に関しては、今回は僕プロデュースを自分でしないで、プロデューサーを立てたんですけど、僕はこういうことを伝えたいためにこういう詞を書いたんだけどわかるかなあって、プロデューサーに相談したりとか、今回の共作の山中っていう人にも、いいたいことは伝わってるかって相談したり。そういうことって今までしたことなかったんで、僕なりの新鮮さはあった。それに俺にとってみれば、あることを伝えるためにラヴ・ソングの詞を書く方法論ていうのは新しかったから、それが刺激になってがんばったってところもあった」

──プロデューサーとは、他にもいろいろ相談して？

「うん。曲をピック・アップする段階から、プロデューサーのとこに夜ばいのように行って。そのために４月に免許とったんですよ。でも、夜ばいの先が男でつまんないっていいながら（笑）」

──今回も、ここ数年ソングライターの陣内が他の人に提供してきたようなポップなナンバーもあるんだけど、それがただの気持ちいいポップに終わらず、どこかいい意味でひっかかりを感じさせるのは、シンガー陣内の魅力かなと思うんだけど。

「そこが、僕の最後の砦ですよね。僕は今まで、自分のシンガーの部分をなめてたかもしれないなって思うんです。でも、曲や詞で右往左往したって、最終的に守ってくれるのは声かもしんないよって思うようになった。で、今回に関しては、その辺がっちりできてるような感じはするんですけどね」

──歌を最後に届けるのは、シンガーの部分だもの、なめちゃいけないよね。もちろん、楽曲もよくないといけないけど。

「うん。で、今回プロデューサーとか最初に考えたのは、カッコいい歌とか、面白いアレンジとかいうことより、いい歌を優先しようって。すんなり歌が耳に入るものをって。で、そうやって始めて、タイトル決める頃に、僕は今回こういう曲を書いて、いったいどんな気持ちだったのかなって考えた時に、今回はわりと聴く人に身近に感じてほしかったっていうのが、大前提にあったんだなと思った。それで、タイトルの『TWIN』に結びつくんですけどね。だから今回は、俺と聴く人との距離が縮まってくれれば、それで大成功だなとは思ってるんですけど」

──このアルバムが、次に行く大切なステップになるような気がする。

「僕はデビューして４年間ずっと遠いとこばっかり見てまだまだだと思ってたから、意外と４年間もやれてたことに気づいてなかったんだけど、青年館でひとつの終焉って気持ちを感じた中に、ここまでやれたんだってことと同時に、今時４年もかけて野放図にやらせてもらったんだという、感謝の気持ちもありましたね。僕、ずっと新人の気持ちでいたんだけど、もう新人じゃないですよね」

──うん。もう中堅の入り口にいる。

「そうですよね（笑）。やっとそういう感覚が自分の中にも出てきたかもしれない。で、これからどうしようかっていう、心境の変化はここ１年ぐらいにありましたね。このアルバムが出て、どういう浸透の仕方にするのかは僕はちょっとわかんないですけど、これが出て、今度の渋公（11月８日）の時に、また起承転結の結が来るんだろうなと思うから、それは自分でも楽しみにしてる」

Report／大畑幸子
Pix／高橋文恵

福山稚治

8・5の中野サンプラザで、彼の真摯なスピリットをまざまざと見せつけられた

8月5日、東京・中野サンプラザで行われた福山稚治の〝WE'RE BROS TOUR-Hello I'm Here!〟コンサート。ＪＲ中野駅を降りて、人ごみをかきわけるように、足早会場に向かった。すれちがうたびに、ダフ屋のおじさんの「チケットあるよ」の声。とにかく、ダフ屋が多いこと、多いこと。そういえば、前回、2月にやった日清パワーステーションの時、福山がダフ屋の存在を知って、自らダフ屋を覗きに行った（本当かどうか定かではないけれど…）なんて話を思い出しながら、ダフ屋を横目で見つつ、「福山も人気が上がってきたなぁ」と、妙なところで感動していた自分に思わず苦笑してしまった。

そんなことはさておき、この日のコンサートは、彼にとって、初のホール・ツアーのファイナル。前回のライヴが、いい意味でラフに肩の力を抜いたステージで、福山らしさがうまく引き出されたものだったから、今回、どんなコンサートを見せてくれるのだろうと、実は密かに期待に胸ふくらませていた。その上、以前、取材の時に、本人が「バッチリよ。期待しててよ」と余裕の顔（内心はどうだったのだろう？）で、そう言ってたことも手伝って、私を会場へと急がせたのである。

結果、その言葉通り、福山の潔さんが身を結んだ、パワフルなステージだった。内容は、3rdアルバム『BROS.』を中心に繰り広げられたんだけど、途中、ギターの中村修司と福山のギターバトルがあったり、ステージ狭しと動き回る福山のエネルギッシュな姿も見られたりして、充分に楽しめるものだった。気心の知れたバック・メンバーたちとがっちりタッグを組んだ、味わい深いホップでワイルドなステージは、前回以上に弾けていたことは確かだ。

ただ、中盤あたりのＭＣには笑えた。ついこの前、初めての海外、アメリカ（ルート66を車で横断した）に行った土産話やら、人気ロッカーと評されて、週刊誌に載ったスキャンダルの話やら、近所のコンビニのお兄さんの話やらを、照れながら話すんだけど、これが、どれもおもしろい。とはいえ、ちょっと長かったような気がしたのは、私だけだろうか？　でも「お〜い、どこまで行くんだよぉ」的な長さが、話し出すと止まらない彼の性格をほうふつしていて、つくづく〝福山稚治って男は、憎めないヤツだ〟と思ってしまった。つまり、音からも歌からもＭＣからも、どこか親しみやすいヒューマンな匂いを醸し出しているからだ。

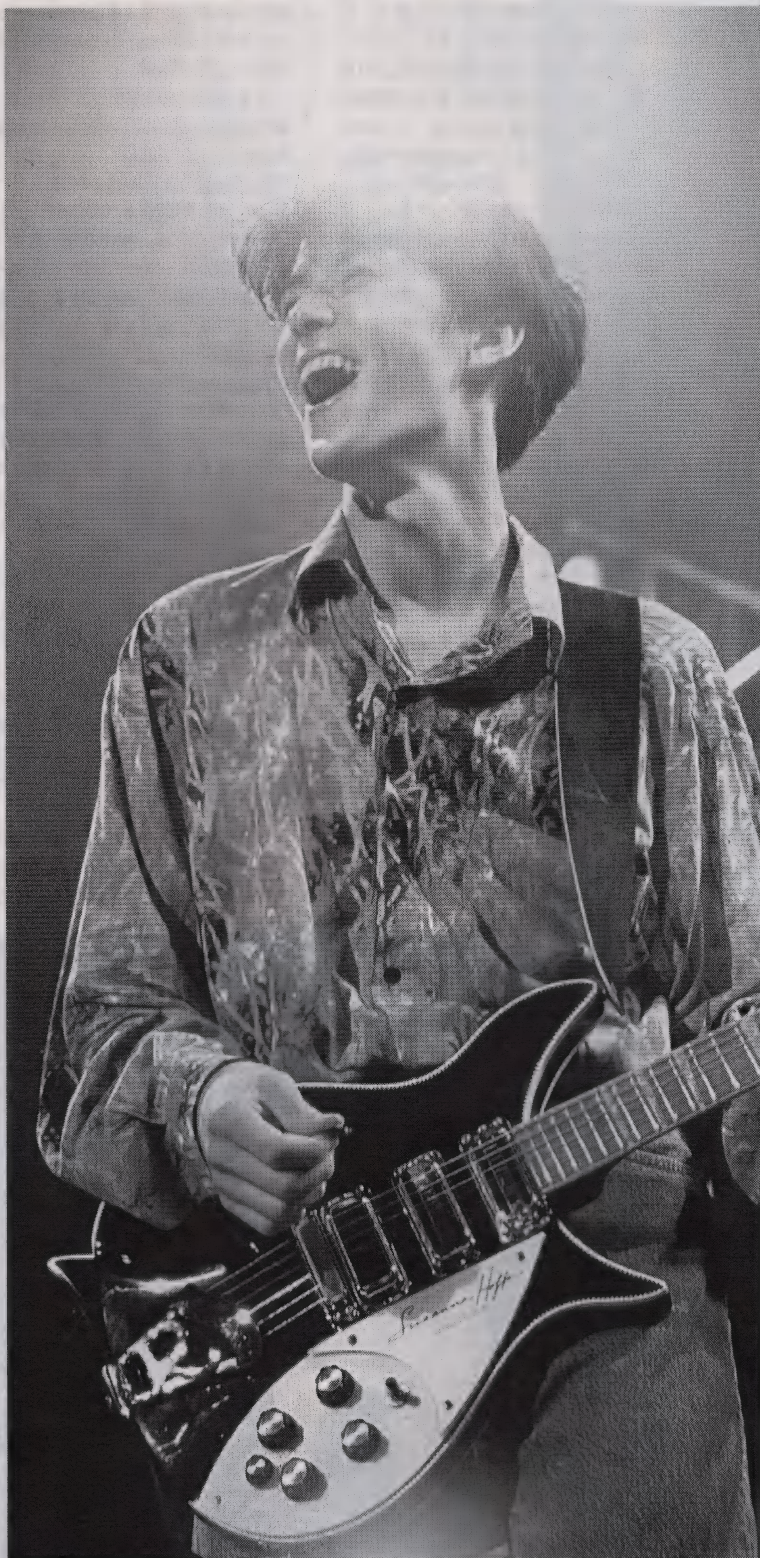
オープニングは、「太陽はふたつない」。ステージ中央の階段の上、赤いライトを浴びて、福山のシルエットが浮かび上がる。ゾクっとするほどの緊張感。会場に響き渡る歓声をすり抜けるかのように、福山の声が真っすぐと胸に飛び込んで来た。なかなか堂にいったオープニングだったので、私のはやる気持ちは、その時点で落ち着きをみせていた。そして、中盤は「ただ僕がかわった」「かなしみは…」「Good night」の3曲のバラードを披露。福山のナイーヴな一面を覗かせたシーンだった。後半は、「DEAD BODY」「WOW WOW」など、勢いよいナンバーでたたみかける。アンコールは弾き語りで「もっとそばにきて」、メンバーを交えての「ひとりきり歩いてく帰り道」「雨のメインストリート」の3曲で、コンサートは幕を閉じた。

今回のツアー・タイトルで示されているように〝俺はここにいる〟と自己の存在を確めながら、力強く、時に優しく歌った福山といい、すべてが終了した時に見せた、開放感に満ちたすがすがしい笑顔といい、何だか彼の真摯なスピリットを見せつけられたようで、またひとつ福山に期待せざるをえなくなった。

これほどまでに人間的なアーティストはいないんじゃないかと思えるほど、自分をさらけ出した今回のステージ、今まで地道に音楽活動を続けてきた彼への答えが、こんなにも多くのファンに見守られたこの日のステージにあったような気がする。それを彼自身が、どう受け止めたかはわからない。だが、これは、あくまでも通過点にしすぎない。たぶん、彼はこの先も、模索しながら自分の音楽を捜し続けていくだろう。

さて、今、福山は、ニュー・アルバムのレコーディング真最中。このアルバムは、11月21日にリリース予定で、その前にシングルを10月21日に発売する。その上、学園祭も控えているという忙しさ。

福山稚治の快進撃は、まだまだ始まったばかりだ。



Report／斉藤ユカ

JUSTY NASTY

新たな伝説が生れた 8／2、日比谷野音ライヴ

野音は不思議な場所だと思う。日比谷公園の中に設けられたこのライヴ・スペースは緑に囲まれてはいるが、実は街の真ん中にある。実際に一歩外へ足を踏み出せば、そこは紛れもなく東京という大都会の喧騒に満ちあふれた、現実の世界なのだ。これからここで行われることは、現実でありながらちっとも現実味を持たない、ライヴという夢なのである。だからこそ、野音はその歴史の中で、数多くの伝説を刻み込んできた。ステージの向こうを見れば鉄筋がむき出しの建設中のビル、右側にも大きなビルが建っている。ふとよそ見をした時に悲しく入り込んでくるその現実が、よりいっそうオーディエンスの気持ちを頑なものにするのだろう。大好きなアーティストと共有できる短い時間が作られた幸せだということを、誰もが知っている。知っていても、歌の中では誰もが主人公になれるから、その小さな幸せのために、遠くからやって来る人だっているのだ。何度ここへ来ても、ライヴが終わって外へ出ると、自分がまるで夢でも見ていたような、そんな気分になる。そして、待ち続けたライヴが過ぎてしまったことの空しさは、いつもより断然大きい。それでもみんなここへやって来るのだ。雨が降れば降ったなりに、気持ちを最高値へ引き上げてくれる野音は、いつもチケット代以上の想いをお土産に持たせてくれる。

8月2日。日曜日だというのに、東京は朝から降ったり止んだりの悪天候。バッグに傘をしっかり入れて日比谷公園へと向かう。昨日までの暑さがまるで嘘のように肌寒く、詰めかけたファンの半袖の腕が寒そうだ。何度となくポツリポツリとやってくる雨の様子を眺めながら〝伝説のライヴになるかもね〟という関係者の声も聞こえる。そして、去年の渋谷公会堂以来、半年以上もライヴを待ち続けたファンの列が、足早に会場へと流れてゆく。開演予定時刻を少し過ぎて、スモークが客席にゆっくりと流れ込む頃には、もうスタートまでは秒読みだ。ライヴがはじまる直前のこの複雑な気持ちが、いつも少しはがゆい。でもこの感覚が欲しくて、誰もが足を運ぶのかもしれないとも思う。そして客電が落ちる、というよりはまだ空が明るいので、ステージがライトに煌々と照らされ、ライヴはいよいよ始まりを告げる。そしてそれは同時に、新生JUSTY NASTYと、そのツアーの始まりでもあった。

1曲目は先日発売されたばかりのアルバム『RAIN』から「ROSE is a LOVE」。ここで誰もが予想していなかっただろう特効が光を放った。そして一瞬のざわめきと歓声。始まったばかりだというのに、ここですっかり全体がJUSTYのペースになる。違和感があるんじゃないかと、少しだけ心配だったサポート・ギタリストの一戸のプレイも上々、華やかな曲をより盛り上げてくれた。もちろん、音自体にかなりの変化はあるものの、それが逆にプラスになっている部分も多い。去年暮れの渋谷公会堂のライヴから半年以上も待ち続けたファンはもちろんだが、なによりもメンバーがひどく楽しそうで、その空気が会場全体を一気に引き込むのだ。藤崎は最初のMCで「ありがとうの一言です」と言った。その時の笑顔にJUSTYの完全なる活動再開を確信した人も多いんじゃないだろうか。そしてメンバーの内にあるそんな気持ちの全部が、ちゃんと音になって伝わってくるんだから不思議だ。ライヴも中盤にさしかかると、空はすっかり暗くなっていた。いつもそうだ。気がつくと闇の中にステージだけが浮かび上がっている。曲はテンポよくつながっていく。この日は何度も何度も藤崎の「騒いでください」という言葉を聞いた。ここにいるファンはずっとこうしてJUSTYの曲で体を揺らす日を待っていたのだ。ただ、ステージングは思ったほど派手じゃなく、それは逆に地味だったともいえる程だった。その原因はメンバーそれぞれが、1曲1曲をとても大事そうに演奏していたことにある。久しぶりのライヴだったせいか、それとも敢えて聴かせることに徹していたのか、なんにせよ、これが新しいJUSTYのスタイルなのかもしれない。そしてライヴは終盤。「盗まれた瞳」「ジェラシー」「ROOM#13」の3連発で、ファンをクタクタにさせ、再び特効の光と、そして蛍光で緑色のピストルの弾みたいなオマケが客席の後方まで飛びかう中、ステージからメンバーが消えた。と、思ったら、その緑色に光る物体を振りかざしながらのアンコール。この日はなんと3回も、JUSTYはファンの呼びかけに答えてくれた。最後の〝REVEL ON THE RUN〟を演り終えた時、彼らはバンドの新しいスタート・ラインを踏みだしたのだと思う。そういえば、絶対に降ると思っていた雨も、結局みんなの肩を濡らさなかった。しかし雨の力を借りなくとも、ひとりひとりの中には十分に、この日が伝説のライヴとして残っているのだろう。そしてこの夏の夜、野音の歴史にまた、JUSTY NASTYの名が刻まれた。



★5ティアNEWS★ 5ティアがただ今ANAのCMに出演中/TVで5ティアをエアチェック!!それから7/22のビデオに続き、11/6には4曲入り企画アルバムもリリース予定。こちらもチェック!

Report／松浦靖恵
Photo／金丸雅代

The 5 TEARDROPS

5ティアとボウリングデート♡ 唄のプレゼントにファン涙(?)

The 5 TEARDROPSのメンバーと、ボウリングデート!! 全国レコード店の店頭(たぶんレジの近くあたり)にさりげなく置いてあるビクター音楽産業が発行元となってる情報ペーパー〝i-Cube(アイ・キューブ)〟が企画したボウリング大会に便乗しちゃおうというアリーナ37℃、新しい5TD担当のN嬢は、どうやらビクター宣伝マンとのかけひきに乗ったらしい。(実はメンバーとファンの楽しい集いとは別口で、ビクター VS アリーナ37℃の熱い戦いも計画されてたのだった…)

さて、記念すべきボウリングデートが行われたのは、夏休みに突入したばかりの7月23日。某ボウリング場にはスケートリンクもあり、猛暑の中のテクテクと歩いてきた汗だくの身体には冷え冷えー。すでに今日メデタク選出された5チーム(各3人ずつ)は到着していて、ゲームの説明を受けていた。みんなのチームにメンバーが各1名加わり計4人で1チームとなって、Let's Playだ。

胸元に〝名前〟やら、〝年令〟やら〝イラスト〟やら思い思いのメッセージを書いた名札をつけてから、クツとボールを選んでいる。メンバーはあとで華々しく登場するらしく、まだ控え室に待機中。まずは予選を行い、1人1人フレームを投げて3人の合計ピン数によって順位を決定したのち、メンバーがみんなの大きな拍手の中を登場。メンバーも1フレーム投げたピン数で、ファンの人たちとの組み合わせが決まるわけだ。

ピーッ。まずは1ゲームスタートだ、なぜかビクター VS アリーナ37℃もまぎれ込む。なにやらアリーナ37℃が勝てば5TDのページがどーんと用意されるとか、ビクターが勝てば今日の私たちのゲーム代がタダになるとか、怪情報が流れ飛ぶ。

いやぁー、メンバーもどうやら久しぶりのボウリングらしく、舞いあがってるぞ。ポーズはいいがボールが曲がりまくってたり、すでにマジになることをヤメてギャグに走ってたり(さんそん)。おーっと、伸クンと拓哉クンは結構ウマイぞ。ガッツポーズ連発だ。ん!? おいおい智生クンよーっ、ずっこけてる場合じゃないぞォ。あっちのレーン、こっちのレーンとスコアを見に行ってると、折り返し地点で、ファンの人たちの足を引っ張ってたのは、とっきんだったようだ(笑)。

1ゲーム目が終了。スコアは①拓哉(124)、②智生(110)、③さんそん(106)④伸(104)⑤とっきん(92)。しかあーし、人生は甘くない。メンバーだけの実力でとれたスコアではないのだ。女の子たちの足を引っ張ってるのがメンバーだったりする。おーい、しっかりしろよォ…。お互いのスコアを気をしながらも2ゲーム目に突入だっ。

コツをつかんだと思いきや、おっと早くも疲れが出てきたようで、1ゲームの勢いはどこへやらの、拓哉チーム。それに引きかえ、とっきんチームの猛反撃がスゴい。ギャグに走ったさんそんは自滅!! 智生チームはどうやらノリノリの絶好調に。伸チームのマイペースさもあなどれない。というわけで、最後の最後まで集計結果が出ないと勝負の行く末が見えなくなった。というワケで、トータル集計を行い、順位発表デス。①智生(合計251)②伸(231)③とっきん(230)④(217)⑤さんそん(197)

なかなかのもんでしょ? そうそう、この日のためにボウリングシャツをオーダーしたチームもいたのにはビックリ。かななかみんなオシャレにキメてくれてるでしょ。

レーンをあとにして控え室に向い、1位のチームにプレゼントを渡す。2位以下には何もない……っていうんじゃ5TDの名がすたるってんで、みんなにアカペラを披露。目の前で歌ってくれる彼らに感激してくれたかな? いやぁー、それにしてもアリーナ37℃チームは5TDにページをドーンとプレゼントしなくちゃね。つまりビクターに大敗さっ。シュン。



ボウリング成績

		(1ゲーム)		(2ゲーム)		(TOTAL)
1位	Tomoo	110	+	141	=	251
2位	Shin	104	+	127	=	231
3位	Tokkin	92	+	138	=	230
4位	Takuya	124	+	93	=	217
5位	Sanson	106	+	91	=	197



◀Shin構えはピッチャーだけど…



▶投げるときは普通&ライン越え反則の決定的瞬間!



Interviewer／角野恵津子

アン・ルイス

アンのロックが帰ってきた 1年半振りのアルバム『K-ROCK』リリース

アンのロックが、帰ってきた。ハデに休養宣言していたわけではないけれど、1年間のお休みを経て、元気に帰ってきた。アン流歌謡ロックが、また楽しめるんだ。元レベッカの土橋安騎夫をサウンド・プロデューサーに迎えた新作『K-ROCK』は、ギター小僧にも、体を揺らしながら聴きたいお嬢さん方にも、多分気に入ってもらえると思う。

──どうしてお休みしてたの？
アン　もうずっと喉の調子の悩みがあってイライラしちゃって、登校拒否もやりたくなるような感じになっちゃって、それでお休みさせてもらったの。でも、その間にベスト盤が出たりしたから、あんまりハデにお休みしてますって感じにはならなかったけど。
──お休みはどうでした？
アン　もう、ビューティフルな生活だった（笑）。美勇二を産むのに1年何ヵ月か休んだ時は、やりたくてイライラしたけど、今回は一滴もおもわなかった。
──でも、帰ってきてくれてうれしい。で、今回のアルバムが『K-ROCK』っていうんだね。
アン　うん。休んでる時に新しい会社を作って、その名前がK-ROCKだったの。で、アルバム・タイトル考える時に、ああ、いいんじゃん、K-ROCKでって。
──ROCKはわかるけど、Kって何のこと？
アン　歌謡。だから、歌謡ロックってこと、単に（笑）。で、パっと見K-ROCKってかわいいじゃない、なんか。じゃあ、それでいいじゃんて。
──で、その『K-ROCK』なんだけど、大ざっぱにいってしまえばずっとやり続けてきた、いわば、アン・ルイス・サウンドに変わりはないよね。
アン　そうなんですよ。でも1年休むと、みんなイメ・チェンするんじゃないかとか、考えるじゃないですか。それが、嫌なの。だから、戻ってきても一緒だぞ、何も変わんないぞって、安心させるみたいなね。でも、何が違うかっていったら、ミディアム、バラード系がちょっと多いかなあって思うけど。
──曲は、どうやって選んでいったの？
アン　今回は、海外の人のも聴いてみようよって、いっぱい送ってもらって、何やかんやで60曲ぐらいあったかな。で、イントロ聴いただけでうわっ、（テープ）先送り！とか、1行聴いてダメ！とかって。かと思うと、「夢の果てまでも」何ていうのは、デモ・テープの段階でゲイリー・ムーアのようなギターが入ってて、あ、こういう曲書いてきてくれる人もいるんだって、うれしかったんだけどね。だから、アレンジもそのままにしたの。
──土橋さんとは、どういういきさつでやることになったの？
アン　うちのスタッフがどうかなって。で、私はレベッカってそんなに詳しくは知らなくてね。でも、聖飢魔IIのプロデュースもしたことあるって、それを聞いてほっとしたのね。あそこんちも似たサウンドだしね。で、音はわかったと。後は人間性だねということで、御飯食べに行って。いいヤツだなと思って。やっぱり、40日間一緒に生活するでしょ。人間性は、音楽的なことよりも大きいと思うよ。で、土橋君とデカパン（アンのバンドのギタリスト）も入れてプリプロきちっとやったから、ロスでは何の問題もなくてスムーズだった。
──やるならロスで、しかも今回のメンバーというのは、もう決まり？
アン　『RUDE』（前作）から、そうなっちゃったかなって感じなんだけどね。ジェイク（G）なんかそんなに弾くはずじゃなかったんだけど、すごい歯切れがよかったから、あれにも入れたい、これにも入れたいって。パウリーニョ・ダ・コスタ（per）のタンバリンにも感動しちゃって、最初1曲だけのはずだったのに、あと2曲ぐらい入れちゃった。パウリーニョって、笑うと歯が真っ白でさ、サンコンてアダナつけちゃって（笑）。みんな本当に音楽的にも技術的にも、私の好きな人達だから、うれしかったし楽しかった。
──詞も、スムーズにそろったの？
アン　うん。詞はもう、書いてもらう人決めてるから。でも今回（森）雪之丞が、ちょっと久しぶり。昔遊び友達だったんだけど、この間布川の結婚式の披露宴で席が一緒になって、今度書かしてよ、今の俺の詞はアンに合うと思うよとかいわれちゃって、そういってくれるならってやてもらったの。
──レコーディング、久しぶりだなって感覚はあった？
アン　何となくあったよ。で、レコーディングっていう作業が一番好きだから、すごい楽しかった。ジェイクが「Middle of Eden」がエクストリームっぽくてやだっていい出した以外は、事件もなかったんだよね。



──ツアーも決まってるね。
アン　そうなの。この間夏のイベントを一発やって、ずっとやってないから心配だったんだけど、1時間半ちゃんとやれて全然平気だった。だから、あ、まだ大丈夫だと思った。

Interviewer／角野恵津子
Photo／松崎信彦

TERRE PIERCE

平野健多(Ｂ)パーソンル・インタビュー
野山と田んぼと昆虫と

クールに毅然として弦を弾くステージの姿からは、とても彼の子供時代の姿など想像できない。しかし、人は意外な過去を持ってるものだ。それも、とても素敵な。今回ここにいるのは、ベーシスト平野健多ではなく、一人の生き物好きの少年だ。



──もれ聞くところによると、すごい生き物が好きなんですって？

平野　そう。何から話そうかなあ、いっぱいありすぎちゃってね。ちっちゃい頃はもう、昆虫。夏休みの自由研究っていうと、昆虫採集だった。でも、カブト虫とかクワガタとかがいるとこって、必ずハチが群れをなしてるの。巣があってそれをまず何とかしなきゃいけないっていうんで、うちはよろず屋だったんでキンチョールをうちから２本くらいちょろまかしてきて、あと竹の棒か何か持って、３人ぐらいで行くの。で、３人が一方向から行くとそろって餌食になる可能性があるから、竹の棒持ってるヤツとキンチョール１号、２号って感じで３方向から攻めて、竹のヤツが最初に巣を落とすんですよ。そしたら、ハチがドーッと出てくる。て、キンチョール持ってガーッとかけるんだけど、全然かなわなくて、そのうちみんなくるっと身をひるがえして、３方向にそれぞれワーッで散っていくわけですよ。で、10秒ぐらいすると、ハチに刺されたりとか、イバラの中に転んじゃったりとかで、ギャーッとかワーッとかいう叫び声が、山の中にこだまするの（笑）。俺も背中に20匹ぐらいハチしょって、バンバンに刺されてね。

──すごい！

平野　あとね、道で蝮だと思うんだけど、出くわしたことあるんですよ。ウッソー！　ついに出ちゃったのね、みたいな感じで。怖くて、足とかすくんじゃって。何もしてないのに俺の方に向かってかま首カッと上げて、するするとにじり寄ってくるの。で後ろは崖っぷちでね。やばい、やられる！　って。小学生だったから、異常な緊張感でね。こいつに勝たないと俺は死ぬんだ、くらいの気持ちになっちゃって。近くにあった石をパッとつかんで投げたら全然当たんなくて、向こうはよけい怒っちゃって寄って来るから、もうそこらのものを手当たりしだい投げつけたら、その中の一発が頭に当たったんですよ。で、ぐたっとなっちゃったんで、勝ったかなと思って近くに寄ってって、よくテレビでアマゾンの特集とかやってるの見てると、首ねっこを持ってるでしょ。ああいう風に持てばもし生きてても怖くないと思って、うん！　て気合い入れて持って、おーっ、勝った！　って。毒蛇って、２本キバの大きいの生えてるでしょ。それがどうしても見たくて、口をうーんてあけて、ある！とか思って（笑）。これは自慢だってもう勇者気取りで、自転車の籠にそのヘビ入れて帰ってね。でも、それだけでえらい怒られましたけどね。何あぶないことやってんのって。

──そりゃそうだ。腕白坊主だね。

平野　でね、多分農業用水用の貯水池で、僕らはとんぼの池と呼んでた池があって、そこは亀もいてね。ある日その亀の横に、円いコンクリートの固まりが刺さってるのに気がついたんですよ。それに、鉄の棒が生えててね。何だろうと思って、友達に手を持ってもらって、うーんて手を伸ばして水の中に手を入れて、それを引っ張ったんですよ。そしたらズボって抜けて。それ、池の栓だったの（笑）。で、水が用水路にガーッと流れ込んでね。うわあ、池の栓抜いちゃったあ！　って。でも、これで水位が下がったら、魚とか取り放題だと思ってしばらく待ってたの。そしたら、畑の方からおじさんが走ってきて、きさまあー っ、たんぼが水浸しだ！って（笑）。だから、だいたい近所で怒られたのは俺でしたから。また健ちゃんかって。ウチは両親が先生だったから、平野先生とこの息子はっていうのが、お決まりのフレーズだった。で、首ねっこつかまれて、近所中謝って回って。

──10代の頃はどんなだったの。

平野　あのね、これはいきなり飛んで高校生の時なんだけど、学校に遅刻しそうになって自転車とばしてたら、用水路の真ん中で鳶が紐かなんかに絡まって動けなくなってるんですよ。でも、助けてたら遅刻しちゃうと思って、俺が帰ってくるまでがんばって生きてたら助けてやるからって、心の中で思いながら学校に行って。でも、１日中その鳶のことが気になって。急いで帰ると、端の方には自力で寄ってたんだけどぐったりしてたから、助けあげて連れて帰って。で、飼い鳴らして鷹匠みたいに腕に捕まらせたかったんだけど、それは幼稚な発想だ、やっぱり自然に返してあげようと思って、２階のベランダの手すりに捕まらせて、しばらく眺めてたんですよ。そしたら、置き土産に、尻尾をぴゅっと上げたと思ったら、ダーッと人んちのベランダに糞尿を撒き散らして帰っていきました。ウソだろとか思いながらホースで洗い流してね（笑）。でも助かったからいいやと思いながら。

──いいとこあるじゃないですか。

平野　まあ、昔そうやってたくさん採集したりした反動っていうか、今はなるべくゴキブリとかでも、殺してほしくないみたいなのはある。

Interviewer／石川直子

シャ乱Q

新作『炸裂!!へなちょこパンチ』のタイトルに込められたシャ乱Qの思い

9／23にリリースされるシャ乱Qの1stミニ・アルバム『炸裂!!へなちょこパンチ』、前回のデビューシングル『18ヶ月』のインタビューでの「つねに裏切っていきたい」、この言葉がぴったりとくる作品になった。賛否両論、一筋縄でいかない、聴けば聴くほど錯乱状態、でもどこか可愛いい、シャ乱Qはそんな小僧たらしいバンド（笑）かもしれない。

──コンセプトはあったの？

はたけ「コンセプトってある程度イメージが固まってる人が出来ることだと思うんですよ。僕らとしてはつかみどころのないのがイメージみたいなところがあるので特に決めたりとかは…。僕らとしてもね、アルバムとか聴いた後で頭の中で〝?〟がぽわーんと出てきたらいいなっていう。何にも残らないんじゃなくて、次にどんなかなって期待感とか、もっと知りたいとか。一曲に関してもね、わからないなりにも何角形かの面があって、その面をわかりやすい形で表現したら、このアルバムになったってかんじですね」

つんく「今回は、先まで考えたとすれば、オードブルかなっていう。でもそれでけっこう店の趣旨は決まってくる、手、抜くなよっていうのあるじゃないですか。「はい付き出しね」って時に、それが凝ってると、いい店だなって思えるみたいなね。そのへんじゃないかなと僕は思うんですけど」

──アルバムタイトルはどこから？

つんく「アマチュア時代からやってきて、大阪ではそれなりになんだかんだとシャ乱Qってバンド名が通ってたかもしれないけど、全国的にはまだまだじゃないですか。こっちに（東京）に引越ししてきて、まだ大阪で確立したものの段階までいってないんですよ。そのへんで、ドウシテもみんなへなちょこって思ってるんだなって、どうしてもなめられてるってとこで、その逆手をとって、じゃあそれで開き直っていっちゃうよっていうね、そのへなちょこっていってる奴に、今度アルバムを聞かせてやって、パンチでも炸裂させてやれって、そういう気持ちを込めて（笑）。例えばいじめられっ子がメチャクチャに手をぐるぐる回して叩くパンチがあるじゃないですか。そのパンチがふと当たった時に鼻血が出て、あ、痛え〜、へなちょこパンチでも炸裂すると痛いよみたいな（笑）」

──シャ乱Qってそのまま行けば2の線でいけるのに、わざわざ3枚目にしてる気がするんだけど。カッコ良さをストレートに出すのが恥ずかしい、シャイな人達なのかなあとか？

つんく「ああ、そういうところってあるかもしれない。ま、俺達が大阪人だからってくくられてしまえばそれまでなんだけど、笑いのおいしさとか、カッコ良いおいしさってあるんですよね。僕が好きなのが、江川（卓）さんなんですけど、巨人に入った瞬間なんて嫌われたじゃないですか。ずるい入り方してアイツは悪い奴なんだみたいな。けどその後にぽっと一言冗談を言ったりするとあ、江川さんって実は好い人だったんだ〜っていう、そのへんかなって思うんですけど。宝塚劇団でもなければ、吉本新喜劇でもない、松竹新喜劇かなっていう」

はたけ「人生泣き笑い（笑）」

つんく「でも最近笑いもひねくれて来てて（笑）、ストレートに笑ってもらうより、ふんって鼻で笑われたほうが快感になって来たっていうかね（笑）。笑いの中、言葉一つにしても二通りのいい訳っていうか、アーティスティックな答えと面白い答え一つ出来ないとって思うんですよ。一応笑いをとっといて、何でこうなの？　って聞かれたら、こうこうこうなんだよ、そっか、なるほど〜みたいなね。たとえばタイトルで外してみたりね」

──1曲目の「ラーメン大好き小池さん」なんてまさにそう。なんだよこれ？　って思って聞いてみたら、いきなり黒っぽいかっちょいい音が聞こえてきたりしてて……。

はたけ「やっぱりそこは僕らの守りたいアーティスティックなところだしミュージシャンだから単に面白いだけじゃなくて、いろんなことが出来るバラエティさっていうか。それも裏切りなんですよね」

──でもこう裏切られると、視聴者は次を予想して、それが当たったら「ほらざまあみろ」って思うかもね。

はたけ「僕達は負けませんよ（笑）」

つんく「みんながこう来るだろうって予想がつきそうな時は、みんながこう思ってると思ったからこうしました、って出す前にいっちゃうような気がする（笑）。次はみんなの期待通りで〜すって、ほら来たっていわせない（笑）」

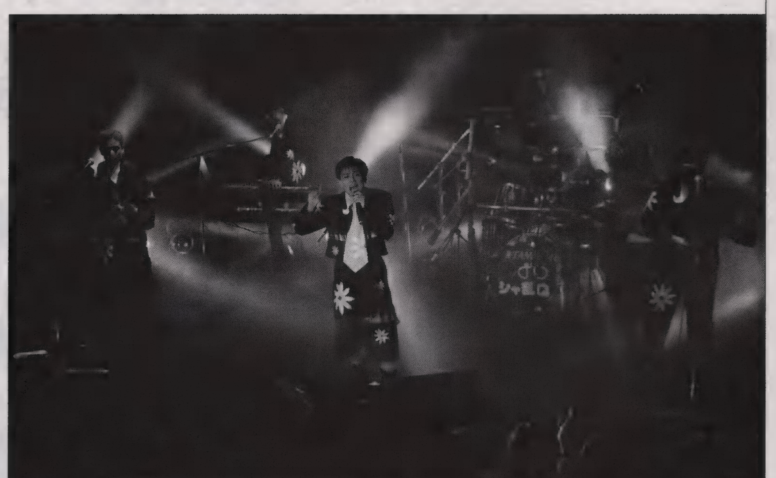
──けどシングルだけじゃよくわからなかったシャ乱Qってバンドが、アルバムを聞いたらよけいわかんなくなっちゃった（笑）

つんく「そうでしょうね。シングルを聴いて、いいなと思ってアルバム聴いたら、全然とんちんかんで、馬鹿野郎って思うと思うんですよ。でも、そういうことを繰り返していって、あ、これがシャ乱Qなんだ、って、もう少し時間がかかると思うけど、そう思われるようになりたいですね」

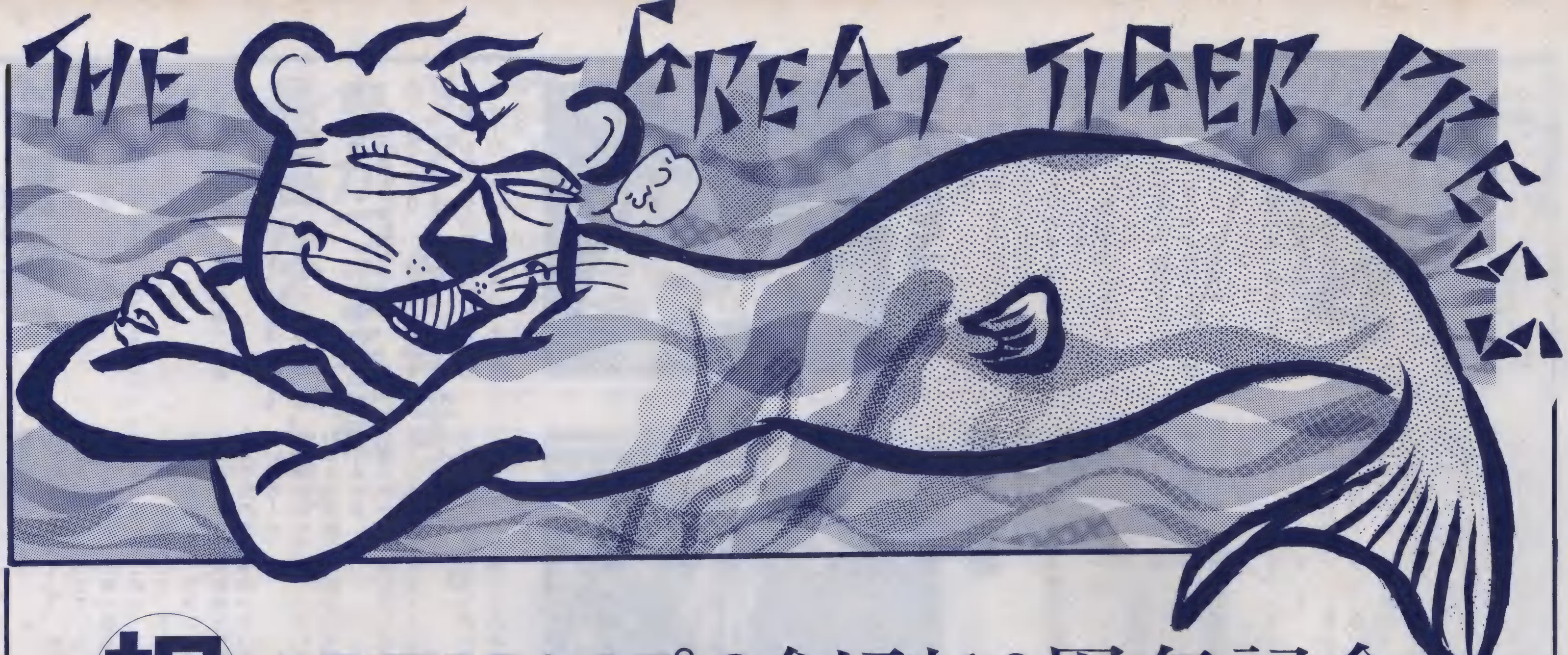


シャ乱Q DEBUT LIVE at ウォーホール，8／4

「シャ乱Q」て言うヘンテコな名前のバンドのデビューライブがあるっていうんで大阪のウォーホールに行ったんですが、会場に着いてみたらデビューライブだというのに会場ぎっしりに女の子が入ってて、これはあなどれないなと思いつつ開演ベル。バンドのメンバー登場。オープニングに合わせつんく(Vo)とたいせー(Key)がダンスで会場を盛り上げる。一曲目はNHK BSヤングバトルでグランプリを獲得した時の楽曲「ラーメン大好き小池さん」彼達独特のサウンドとパフォーマンスでステージと客席はすでに一体化してしまった。MCのコーナーでは寸劇でみんなを笑わすことも忘れず、後半も決してサウンド的には乱れを見せず、ノリのいいステージを観せてくれた、アンコールでは、アコースティックサウンドも披露、今後の活動に期待したい。



シャ乱Qライヴ情報● 9／21インクスティック鈴江（問・03-3770-8899）● 9／30大阪MUSE（問・06-361-9900）● 10／20名古屋クアトロ（問・052-320-9100）



㊗ARENA37°C創刊10周年記念

BIGアンケート第1弾!!

①あなたは10年前(1982年・昭和57年)何をしていましたか?
②あなたは10年後(2002年)何をしていると思いますか?
③10周年を迎えたアリーナ37°Cに対して一言お願いします。

表紙から目次から何度もしつこく言ってるけど、本誌は創刊10周年を迎え、今月から11年目に突入しました。そこで日頃お世話になってるミュージシャンの方々から、お忙しい中アンケートをもらいました。今月と来月の2回に分けて、ドドド〜ンとお届けします。

アリーナ創刊号の表紙はアン・ルイスさんだった!!



アリーナ37°C創刊号(1982年10月号)の表紙は、アン・ルイスさんだ。このイラストは、アンさんにとっても気に入ってもらった。アンさんも当時を覚えていてくれて——「これ創刊号なの? それ(創刊号の表紙になったこと)はうれしい話だ。これはうちで切り取ってあるの覚えてる。この頃ってまだ段カットの時代だったんだね。ワン・レンなんていやしない。これは、「ラ・セゾン」の頃の髪型だよね。26才ぐらいの時って、やっぱ女として一番よかった時だったんじゃないかな。美勇二が生まれてお休みしていた期間が終わって、仕事を始めた頃で、やるぞっていいながら、やだなと思った時(笑)。だって、仕事はするわ、帰ってお母さんするわ、ダンナはいるわみたいな、超グショグショの時だもん。

アリーナという雑誌は、いまだにあってすごいなあ。いっぱい消えていくのにさ。今は、ロック・バンド的アイドル雑誌になって、明るい感じになったんじゃないの。」

ちなみに創刊号に登場する他のアーチストは、山下久美子、佐野元春、RCサクセション、スターリン、土屋昌己、ルースターズ、南佳孝、高橋幸宏、パンタ、チャー、森山達也、萩原健一、陣内孝則、遠藤賢司などでした。

TOSHI

①高2ですね。バレーボール三昧(ざんまい)の日々でバンドにあけくれ、勉強にあけくれてました。文武両道を地でいってました。

②まったく見当がつかないな。いろんな可能性があってワクワクしてます。2000年を超えて、世の中がおもしろい方向に行くと思うんですよ。世紀の変わり目に生きていられるってことを、期待しつつ楽しみに思ってます。

③創刊10周年おめでとうございます。自分が高校時代からロック少年としてミュージシャンをめざしていた頃、その当時アリーナを本屋で見つけては買っていた雑誌に自分が出るということは、とてもうれしいね。これからも、20年30年めざして、一緒に生きていきましょう。

吉川晃司

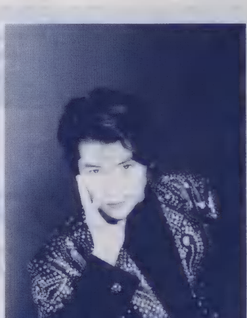


①10年前っていったら、東京出てくるか来ないかの直前だね。国体が9月にあって、それを最後に学校をさっさと辞めて、最後のサヨナラコンサートっていうのを広島で500人ぐらい集めてやったんだ。ちょうどその時期だったと思うな。

②同じように歌うたっていたいですね。10年後は小林旭になってるっていう話もありますけど(笑)、やっぱりずっと歌をうたっていたいな。

③これからもどんどん音楽を若い人たちに紹介していって下さい。10年って素晴らしっすよね。で、11〜12年目ぐらいに無くなったりして(笑)。ボクも出させてもらったし、これからもひとつよろしくお願いします。

筋肉少女帯



●大槻ケンヂ

①映画と本と深夜放送とプログレを心にたたきつける毎日でした。

②生きていたら世界をバックパックしょって旅してみたい(子供みたいですね)

③おめでとうございます。レコード発売の時はプロモーションよろしくお願いします。

●橘高文彦

①バンド活動

②生きていられればLUCKYかな。

③アリーナ37°Cが私が初めての取材でした。(9年前位)いつまでも共にがんばりましょう。

●本城聡章

①有頂天というバンドでライヴを演りながら女こいてました。

②変わらないでいたい。

③いつもお世話になってます。これからもヨロシクお願いします。

●内田雄一郎

①筋肉少年少女隊というバンドを組んでちんたらしてた。

②さあ。

③苦節十年!されど十年!

●太田明

①背を伸ばすため、毎日しゃもとカルシウム剤を食べまくっていました。

②今と同じ様な事をしているんじゃないでしょうか。

③筋少も10周年!!お互いにこの先も存在し続けましょうね。



SPARKS GO GO

●橘厚也
①高校生でミュージシャン。
②キース・リチャーズになってる。
③V－VA!!

●橘哲也
①高校生でSEX。彼女の家で童貞喪失。
②フィルコリンズになってる。
③せいいっぱい、池中玄太して下さい。

●八熊慎一
①初恋の彼女にふられた。
②子供がひとり、いるような気がする。
③創刊当時にやっていた男泣きのコーナーどこにいってしまったのだろうか？



PINK SAPPHIRE

●HARUMI
①勉強もしないでフラフラしたり、コンサートに行ったりしてました。…そういわれてみると当時アリーナを立ち読みしていた…。
②海の近くに住んで毎日をのどかに暮らしている。
③これからも楽しい企画を沢山やって、50年でも100年でもずっと面白い本を作っていって下さい。

●MIKI
①中学1年の夏休み、初潮が来たころです。友達と原宿に遊びに行ったり…あっ、夏休みは毎日熟通いでした。
②アマチュアかプロかわからないけど、きっとバンドをやってる。
③私が12才の頃からずっと一緒に育ってきたんですね。これからもたくさんの人達のためにがんばってください！

●AYA
①中学1年生になって、初めてのセーラー服に心踊らせていた…かな？丁度このぐらいの時に音楽誌を毎月4～5冊買いはじめた。
②幸せな結婚をして、子供も産んで、子守り歌ももうベテランの域に達していると思う。毎日家を綺麗にして、夫と子供の帰りを待っているんではないだろーか。
③10周年おめでとうございます。これからも素敵な雑誌でいて下さい。

●TAKA
①最近ボケてて覚えていません。
②とりあえずのほほ～んと暮らしているでしょう。
③10周年おめでとうございます。これからもうれし楽しくおかしく頑張ってください。



UNICORN

●手島いさむ
①大学1年で音楽クラブに入りたてでした。
②きっと子供がいるでしょう。
③本当におめでとうございます。そして、ありがとう。

●奥田民生
①高校でラウドネスと子供ばんどをコピーしていた。
②CSAにいてラウドネスと子供ばんどをコピーしている。
③すばらしいです。これからもヨロシク。はやくパチンコ取材やって。

●西川幸一
①川西隆一という名前でアリーナに出てた。
②西川隆一という名前でアリーナに出てる。
③まだ10才です。やっと小学生になれたんですね。これから花の未来がまってます。がんばって下さい。日本のアリーナから世界のアリーナになってください。

●堀内一史
①バンドを始めた頃です。そしてアリーナ37℃でよくARBの記事を見ていました。
②歌って撮れるおとうさん。
③これからも人々に夢を与えてがんばって下さい。

●阿部義晴
①高校生で寮生活をしていた。
②おいしい生活。
③時代に流されない雑誌にして下さい。



THE DEAD P☆PSTARS

●C・D・N・KENchan
①まじめな高校生で、女の子としゃべることもできない人間でした。
②城をたてて札束を街行く人にくばっていると思います。
③10周年おめでとうございます！これからもいっしょに、ぶっ飛びましょう。



THE BLANKEY JET CITY

●浅井健一
①どえらいかっこ悪いカッコウをして歩いとった。
②いっぱしの男
③よかったね。

●中村達也
①オキシドールというバリバリのバンドをやっとってみんなをびびらしたった。
②F・O・A・D　警察警視総監。
③なつかしいーなぁ。

●照井利幸
①リーゼントヘアーで車の整備士をやっていた。
②モヒカンヘアーで今と同じ。
③ごくろうさま。



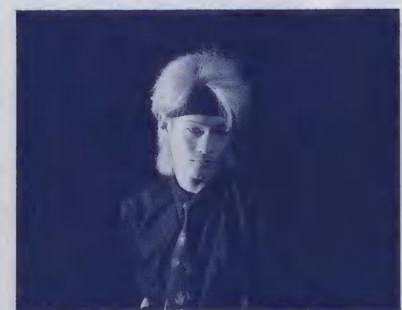
DIE IN CRIES

●TAKASHI
①中学生。
②オジサン。
③おめでとうございます。これからもがんばって下さい。

●YUKIHIRO
①いろいろな事にがんばっていた。
②いろいろな事にがんばっている。
③37周年を目指して下さい。

●SHIN
①アナーキーのコピーバンド。
②死んでる。
③20周年に向けてガンバって下さい。

●KYO
①中学生
②1999年に地球はなくなる。by ノストラダムス。
③おめでとうございます。これからもがんばっていきましょう金子さん!!



ARENA37℃ 次号予告　92年11月号（10／9発売）

ミュージシャン参加の生活必需マガジン
ARENA37℃ アリーナ・サーティセブン

■巻頭大特集
布袋寅泰
本誌久々登場！布袋寅泰。布袋ワールドの秘境に挑むロング・インタビュー！

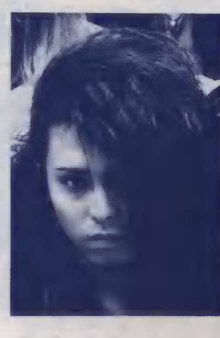
■第2特集
TOSHI
LA取材による最新フォトとアルバムインタビュー＋最後のオールナイトニッポン追っかけ取材！

■第3特集
X（エックス）
ニューヨーク発！X全世界進出記者会見完全詳報！＋X最新情報！

■第4特集
LADIES ROOM
日比谷野音も決定、レディース君お待ちかねの特集だ。ニュー・シングルのお話もドーゾ！

■BAKU…ラスト・ライヴ●UNICORN…阿部君イベント●M-AGE…ロンドン取材●DIE IN CRIES…新宿パワステ

LADIES ROOM



●百太郎
①ラグビーしてました！
②ハーレム完成。
③SEX。

UP-BEAT

●嶋田祐一
①バイトをしながらUP-BEATをやっていました。
②わからない。
③10周年おめでとうございます。デビュー時からUP-BEATを応援していただいてありがとうございます。僕らも10周年を迎えたのでこれからもお互いにがんばりましょう。

●岩永凡
①高校2年生。「岩永凡グループ」というBANDをやっていた。
②ギタリスト。
③10周年おめでとうございます。これからも日本のロックを盛りあげて下さい。ヨロシク。

●広石武彦
①UP-BEATを結成して北九州で活動してました。
②UP-BEATで海外でも活動してたらベスト。
③継続する事には、強力な意志とパワーが必要です。10年間も続けてきたアリーナのスタッフには心からおめでとうとありがとうを言いたい気持ちです。これからもがんばって下さい。



川村かおり



①モスクワにいました。捨てられた白プードルをひろった年だった。
②歌を唄ってるか、ホーボーになってる。
③おめでとうございます。読者が驚く企画などガンガンやって下さい。

THE PRIVATES

●延原達治
①R&R BAND
②R&R BAND
③立派なことだと思います。もう10周年じゃなくて、まだ10周年という気持ちで、今後もがんばってください。

LUNA SEA



●RYUICHI
①ひかれたレールだとも知らずその上を歩いていた。
②今、ある姿でない事はたしか。
③これからも〆切りのための消化ではなく、たくさんの人たちに夢を見せてください。

●INORAN
①忘れました。
②分かりません。
③おめでとうございます。これからもがんばって下さい。

●J
①小学6年生
②死んでる。
③これからもがんばって下さい。

●真矢
①そんな昔のこと忘れた。
②そんな先のことわからない。
③おめでとうございます。

●SUGIZO
①ロックに目覚反抗期だった。
②地球と共に滅亡しているでしょう。
③10年後も輝き続けて下さい。



LA'-PPISCH

●マグミ
①戸塚ヨットスクールにいた。
②息。
③バラボラ！（3のみ上田現）



THE ALFEE

●高見沢俊彦
①10年前はちょうど所沢航空記念公園で初めて野外コンサート！をやった。ハード・アルフィー誕生。頭はパンクヘアで、かなりつっぱっていた。
②21回目の夏の野外コンサートを決行。もちろんアルフィーにいます。
③Fight！



これが本誌創刊当時の表紙だ!!



●ARENA37℃の意味は

最近よく「アリーナサーティセブンってどういう意味ですか」って聞かれるので、ここで改めて、自己紹介しよう。

「ARENA」っていうのは、体育館や球場などのアリーナ席のこと。客席が一番アツくなる所ですネ。「37℃」はそのものズバリ「微熱」でビョーキの前兆というワケ。この2つを合わせて、「ミシナ（37）がアリーナに熱中（℃）する」って意味になる（笑）。なかなか、こってるでしょう！

G.D.FLICKERS

サウンドプロデュース&アレンジに土屋公平氏を迎えてしまったG.D.のニューアルバム10/21発売の「I WISH YOU WOULD」。4曲カバー2曲新曲というミニアルバム。今までにはないG.D.のノリを感じる一枚です。



LADIES ROOM

レディース君から新曲が届いた。『READY TO KISS ~Baby in my eyes~』10/1リリース。10/18(日)には日比谷野音のライヴも行う彼ら。そのときまでにシングル聴き込んでおくように。

中島文明

星空レコード第1弾強力シングル、中島文明の『Na-Na-Na』が8/5にリリースされていることはもう知ってるかな?いよいよアルバムが10/7リリースされる。タイトルは『Girl Like You』。中島氏のパワフルでストレート、かつうっとりするほどきめ細やかな声を十分に楽しめる一枚です。

HARD MAN FI DEAD

日本初のレゲエ・ワンウェイ・コンピレーション・アルバム『HARD MAN FI DEAD』が10/1にコロムビアよりリリースされる。いつかくる、絶対くると言われつづけていたレゲエブーム、いよいよ到来か?

稲垣潤一

彼の曲がTBS系ドラマ『ホームワーク』の主題歌に決定!出演は唐沢寿明、清水美砂、福山雅治と今をトキメクメンバー!ドラマは10/16の21時から、曲は10/28のリリースです。もう少し待っていよう。

LORAN

ローランの7thシングル『明日が輝く場所へ』がなんとVictoriaの'93イメージソングに決定!オンエアは10月初旬より、日本中でローランが聞けるってワケ。しかもカップリングは坂本九の名曲「見上げてごらん夜の星を」。オススメシングルです。

GIMMICK

10/1TRIADより超ゴーカインディーズオムニバスアルバムがリリースされる。ローゼンクロイツ、ヴェルヴェットアンドロア、ティラノザウルス、アンチフェミニズムetc.計10バンドによる『GIMMICK』。秋の夜長にロックの宝石箱を…。

ROCKヴォーカリスト募集

ROCK歌わせりゃ日本一という君に耳よりな情報。まず10月31日までにプロフィール、写真、1、2曲入ったカセットを送る。SDRが「こいつはスゲー」と思った人には11月15日までに連絡。

〈応募先〉〒151渋谷区千駄ケ谷2-32-2㈱サウンド・デザイン・レコードS・D・R

(問)03(3425)0485

Jリーグ オフィシャルソング

やっぱりこれからはサッカーでしょうってことで各チームのチームソングがSONYよりリリースされる。すでにリリースされている「名古屋グランパスエイト」「鹿島アントラーズFC」(ジーコ!)他、9/21には「東日本JR古河サッカークラブ」「読売サッカークラブ」(カズ!)もリリース。これであなたもサッカー通。

Pizzicato Five

が、3代目ヴォーカリスト野宮真貴が加入して2枚めのアルバムとなる「スウィート・ピチカート・ファイヴ」を9/21、コロムビアからリリースする。今回のアルバムのテーマは、ズバリ、"キャッチー"という言葉。全8曲入りで、全曲シングルカット候補だというこの自信作は聴き逃せないね!

FLYING KIDS

が、ミニアルバム「DANCE NUMBER ONE」を8/26にリリースした。何でもこのアルバムのテーマは、"踊れるフライングキッズ"だそうで「天国まであと3歩シリーズ」と銘打った92年のフライングキッズ、ミニアルバムシリーズの第二弾にあたるもの。これを聴かずしてフライングキッズは語れない!

コルベッツ

8/16渋谷エッグマンでのライヴを好評の内に幕を閉じたコルベッツ。10月にはシングルをリリースする彼らを楽しみに待っていよう!

NOBODY

本誌と共に、結成10周年という目でたい(笑)ノーバディが、3年という沈黙を破り、シングル「SUCH A SHAM」で活動再開!11月にはアルバムもリリースする予定というノーバディに、10周年を向かえた本誌とともに(笑)目を離すな!

STALIN

は現在、岡野ハジメと吉田仁という強力な二人のプロデューサーに、元ファントムギフトのギタリスト、ナポレオン山岸を加えて、レコーディング真ッ最中!アルファレコードより11月下旬リリース予定というこのアルバムは期待大。

町田町蔵+北澤組

がニューアルバム「腹ふり」を9/25、徳間ジャパンからリリースする。また、ライヴも10/15新宿パワステ、11/11名古屋クアトロ、12日大阪クアトロ14日高知ゼオと、精力的に活動する彼らに気をつけろ!

ZELDA

ゼルダがアルファレコード第一弾アルバム「LOVE LIVE LIFE」を10/21にリリースする。このアルバムは日本のロックバンド初のジャマイカレコーディングで、現地の有力ミュージシャンも参加した完全ジャマイカ仕上げ!ファンならずともこのアルバムは聴き逃せないね。

RD

という名の新ユニットが誕生した。メンバーは諸岡ケンジ、神力裕の2人。9/26発売のシングル『DEAD OR LOVE~薔薇と銃声~』はキリンコープランドCMイメージソング。カップリングにはCMバージョンも入ってる。要注目ユニットだ

ね。



FISHMANS

ヴァージン・ジャパンがメディア・レモラスに社名変更して第1弾のリリースがこのフィッシュマンズの『KING MASTER GEORGE』。それだけに気合いも入ってる。(かな?)ヴァージン時代も第1弾リリースを飾ったためでたい彼ら。商品番号MRCA-10001の名にかけても(笑)ひとつどかーんといってもらいたいね。

古賀森男

レベッカ、フェビアンと渡り歩いてきた古賀森男が待望のソロデビュー。まず、10/26にシングル「SCOOTER」をリリースし、11/25にアルバム「古賀森男図鑑」を発表する。"メロディーのあるロック"をポリシーとする彼に期待しよう。

Cutemen

のビデオ「CM SONGS」が9/23、ビクターからリリースされる。このビデオはロンドンで制作した"I'M HERE"のビデオクリップや、ロンドンのクラブでのライヴ映像3曲プラス、レコーディング風景も入った盛り沢さんの内容となっています。ファンは即買いだね。



ZOO

"ZOO JAPAN TOUR'92「YA-YA-YA」"がスタートする。11/4(水)大宮ソニック、9(月)仙台サンプラザホール、10(火)青森市文化会館、12(木)郡山市民文化センター、14(土)北海道厚生年金会館、17(火)福井フェニックスホール、19(木)新潟市体育館、30(月)福岡サンパレス、12/2(水)熊本市民会館、21(月)大阪城ホール、22(火)名古屋センチュリー。※12月中旬に東京・日本武道館でコンサートを行う予定。チケットの発売は地方・9月20日全国一斉で、東京・名古屋・大阪は10月下旬です。

佐藤聖子

彼女のファーストライヴが決定した。日程は、11/18(水)東京CLUB QUATTRO、20(金)名古屋CLUB QUATTRO、25(水)大阪ミューズホール。詳しくはフォーライフレコード☎03(3406)6951まで。

LUIS~MARY

10月21日に3rdシングル「DRIVE ME MAD」をリリースする。力作なので聴いてみてネ!!

PSY・S

今秋、公開される映画「きらきらひかる」のイメージソングをPSY'Sが提供する。曲はライヴベスト盤「TWO SPIRIT」に収録されていた「青空は天気雨」。映画共々、よろしくね。

安藤治彦

がシングル「ありったけの愛をこめて」を9/26ポリドールからリリースする。この曲は1stアルバム「LOST ANGEL」に収録されている「ありったけの愛をこめてKISS」のリメイク。聴き比べてみるのもいいかもね。

GALBO

8/27オンエアの中山美穂主演ドラマ『アイシテルと描いてみた』の主題歌&音楽担当をやってしまったガルボ。その曲「きっといえる(愛してる)」が10/21リリースされる。来年早々には2ndアルバムもリリースする予定なのでお楽しみに。

Les VIEW

先月号のオトイレ中コーナーで紹介したレビューの4thアルバム、その話はもう少しおいといて今は10/10のシングルをチェック!作詞・曲、甲斐よしひろのこの曲『安奈』は25才になったメンバーの男気を感じられる一曲。是非聴いてみて欲しい。

KOZIMA

ミディアム・ロックで歌も音もじっくり聴かせてくれるKOZIMA。ドラムの布川が抜け、4人となってからの初リリースが10/1『君だけ愛してる』。今までになくストレートなラヴソングに思わずジーン。アルバムもただ今オトイレ中。お楽しみに。

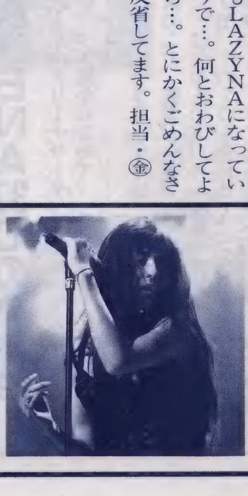
S・F

先月号のストロベリーフィールズのパーソナルのタイトルの福井くんの名前をまちがえてしまいました。正しくは祥史です。ごめんなさい。あと、LEZYNAもLAZYNAになっていたそうで…。何とおわびしてよいやら…。とにかくごめんなさい。反省してます。担当・㊎

鈴木彩子 日本青年館
すがすがしい感動を呼ぶライヴ

14才の金メダリストは、夢に向って戦い続ける姿の美しさと爽やかな感動を与えてくれた。そして、鈴木彩子のこの日のライヴも見終えた後、同様の勘当を心に残してくれた。彼女にとっては4回目となる全国ツアー「夢の行方」。以前から彼女のライヴを観る席に、「スポーツの試合を観ているみたいだ」と思っていた。時には、ハラハラしたり、興奮したり観る側も決して「気が抜けない」的なムードが漂い、最後に清々しい感動が生まれる。この日も彼女のステージに対する姿勢は真剣勝負そのもの。だが決して、独りよがりではなく、客席との一体感がそこにはある。精一杯両手を拡げ、客席を包みこむかのように歌う姿に、聴く側との距離が縮まっていく。なにより、パワーが増したことに驚かされる。デビュー以来一貫して歌い続けている「愛」や「優しさ」のメッセージも決して押付けがましくなく受け入れられる。ロックを始めるきっかけになったという仙台のアマチュアバンドの曲を今回のツアーで披露。夢に向う戦いの原点がそこにあった。「夢の行方」、彼女はその奉公を自分自身でこの夜、確かに感じとった。

(仙寿院 麒麟)



今年もやったぜ!ロックンロールオリンピック!!(8/9)
オーケンのパンツを脱いでの熱唱に観客も大歓声!!





今年はバルセロナで4年に1度のスポーツのお祭り騒ぎってやつが開かれたけど、こちらとらそーんなケチなことは言わない。毎年やるのがこのR&Rオリンピックだっ。何と今回で12回目、これがなくっちゃ夏が来た気がしない。

だから、みんなが気になったのは棒高跳びの鳥人ブブカが失敗したことじゃなくて、九州から日本海に抜けた台風10号のゆくえ。なにしろ、当日東北に再上陸する可能性があったから。

でも、野外だって雨ごときで中止になるようなヤワじゃない。恒例の地元アマチュア3バンドに続いて、初出場のピロウズ登場。残念ながらホントに雨が降り出した。でも、そんなことはおかまいなしに走り回るカステラのトモの元気が会場にも伝わって、午前中から大盛り上がりだ。

コレクターズ、プライベーツと進み、ノブちゃんの「おまえらのおこないが悪いから雨が降るんだ!」という言葉と共に、あれあれ、晴れちゃった。こりゃあプライベーツの人徳?台風もブッとばすのがオリンピックのパワーなのさっ。

メスカリン、メンバー・チェンジで心機一転のシェイディー、爽やかなカントリーのケイコ・ウォーカー&ホットストリートバンドでちょっと一息ついて、さあ、ニューロティカの登場だ。昨年に続き今回も元ARBのキースが応援に駆けつけ、ルーフのシャウトにも力が入る。もちろん会場の熱気は最高潮。

その熱さのせいか、夏の解放感からか、やけにテンションの高い筋少。お〜っと、オーケンがストリップをやらかしてくれた。放送禁止だ。これでいいのかっ!? これでいいのだ。

伝説のサンハウス――その柴山が超強力バンド、Rubyをひっさげて登場。その貫禄にまけじと、今年一番の盛り上がりで対抗したのがニューエスト・モデル。前のめりでガンガンとばす。

ラストは6回目の出場となったシナロケ。いつだってシーナと鮎川サンの歌とギターは、熱いんだけど、夜空と私たちの心にしみわたる。ロックのスピリッツを体現しているステキなバンド、とびきりステキな夏の1日の締めくくりにピッタリ。

参加することに意義があるのはこちらのオリンピックも同じ。ロックが大好き、楽しむことが大好きな人なら、誰でも参加資格あり。さあ、来年はあなたも!

(写真・文/ますだりか)

UEDAND&ローリー寺西の『ロック馬鹿一代』
第2回大会!「今日は寺西一雄としてステージに立つ!」

前号でもお伝えした通り、シリーズ『ロック馬鹿一代』第2回大会が渋谷のラママで開催された。まずタイトルに注目してもらいたい。前回のVSが今回は&になっている。UEDANDもローリーも異種格闘技戦後、おたがいの健闘を称え共闘することを打ち上げの席上で決め、この4人がタッグを組みオーディエンスと闘う事を誓ったのであった。

前日、九州のイベントでの疲れも見せずリハ時間に現れるローリー。ミュージシャンの鏡だ。だが、ギターを持つといつもと違う。「今日はローリー寺西ではなく寺西一雄としてステージに立つ」と言う彼はどことなく目付きが違う。リハーサルでのギターを聞いていると、『すかんち』での彼と素顔の彼は同じ位のボルテージだがどこかジキルとハイドの様な二面性を感じた。

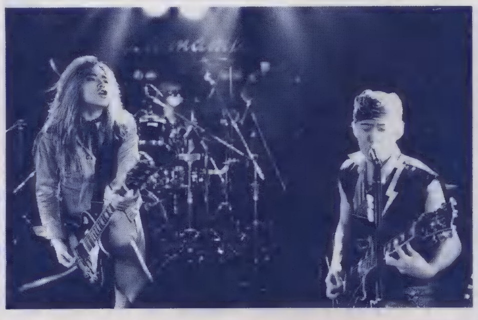
ニューアルバムに向けてのリハーサルも始まったすかんちのメンバーやラヴ・ミサイルの青木選手も会場に顔を見せた。

UEDANDのメンバーがステージに上がるといつもと様子が違う。8ビートR&R主体の筈の彼らがミディアムナンバーを連発しオーディエンスを驚かせたのであった。

徐々にUEDANDのサウンドにみんなの耳が慣れて来ると植田もスライド・バーを取り出して十八番のR&R大会だ。そしてドラムソロからなんと「恋のローラースケート」の替え歌で「恋のローリー寺西」。いよいよミスター寺西の登場だ。赤のGジャンGパンでナチュラルメイク、会場からは普段よりもカッコイイとの声も。

一曲目はベイ・シティ・ローラーズの「R&Rラヴレター」だ。スキン・ヘッドのベイ・シティっつうのも結構凄いものがある。寺西、植田ともにしいものがあるが、妙に懐かしいものがある。寺西、植田ともに客をあおるとツェッペリン・ヴァージョンの「サマータイム・ブルース」をカマす。マジだ、こいつら!ほんとに好き勝手やってくれる。アンコールを求める客にミスター寺西が楽屋から飛び出す!そしてこのユニットではお馴染みの「シンキッカー」から「ボニーモロニー」。途中、アドリブで「ジョニー・B・グッド」に行く余裕も見せ、新しい何かを予感させるこの日のライヴであった。

今後の内緒で「うゑだんち(仮)」を演るらしいので要チェックだ!また「お目当てのローリーが出て来るまでUEDANDのサウンドに耳を傾けるすかんちファンには好感が持てる」と植田が語っていた事も付け加えておこう。



撮影/榊原 泉

500人以上の署名を集めMAGIC宇都宮ライヴ

今、各地方都市ではロカビリーがブームとして、再び盛り上がりの様相を呈し始めている。とはいえ元来ロカビリーは、昔から各地方都市毎に、小さな火種をズッと燻らせ続けていたのだが。その小さく真っ赤な火種を、ロカビリー・ムーブメントという大きな炎に変えたのが、実は富山で起こったMAGICを中心としたロカビリーブームであった。

既に富山でのロカビリー再熱狂のブームは、多数のテレビ番組等でも紹介されているので、知ってる人も数多いことだろう。実際、富山のとあるレコード店では、ユーミンやサザンオールスターズ以上に、MAGICのCDが売れまくっている程である。そんな富山での熱狂に負けてなるかと思ったのかは定かではないが、今度は栃木県は宇都宮で「富山の奴らが自分達の手でMAGICを呼んだのなら、俺たちだって団結してMAGICを地元に呼ぼうじゃないか」と、数多くのロカビリーキッズ達が立ち上がり、MAGIC招聘の為の署名運動を開始。そして最終的には、なんと500名以上のライヴ懇願署名を集め、遂に7月18日に栃木会館にて、MAGICのワンマンライヴを、地元ロカビリアン達の手によって作りあげてしまった。

僕自身、富山の一件から、北陸や関東近県、そして中部地方辺りで、富山と似たような状況(MAGICのCDの異常な売れ行き、ピンクドラゴン系ファッションの流出、50'S系スタイルの模倣等々)があるとの情報は得てたのだが。やはり情報だけの浅はかな予備知識と、実際に宇都宮に行って目の当たりにした、モノホンのロカビリー現象の違いの大きさには、正直言って敬服の念を覚えている次第である。

さて、その肝心の栃木会館におけるロカビリー現象の模様を、早速レポートしてみよう。僕が会場に着いた頃には、ちょうど場内も開場している頃であり。ホールロビーには、皮ジャンにオールバック、ピンクドラゴン系ファッションにリーゼント、ボーリングシャツにダボダボのジーンズ、ポニーテール姿等々、もう見るからにロカビリー命ですというキッズが、大量に徘徊していた。また、ロビー正面には、今回MAGICを招聘するきっかけとなった署名用紙が、ズラッと貼ってある。そんなキッズ達の姿と署名の紙を垣間見て、僕は改めて栃木県でのロカビリーブームを目の当たりにしたという気にさせられてしまった。

そしてMAGICのライヴが始まるや否や、その熱狂の度合いは更にヒートアップしていく。彼らの奏でる「SLOW DOWN」や「ランブル・フィッシュ」「さらば青春の光」等の歌に合わせて、誰もが一緒に歌を口づさんでいる。しかも男は拳を振り上げ豪声を発し、女は黄色い声で熱狂的な声援を、ステージ上のメンバーへと送っている。当然、これだけフィーバーした観客を見ちゃ、メンバーだって熱狂しないわけがないとばかりに、予定外のアンコールを含む約1時間半に及んだコンサートは、終始熱狂の渦の中、グリースの匂いとMAGICの奏でるロッカビートにノセてドラマチックな様相を呈していた。さすが栃木のロカビリアンは熱いぜ!

(長沢智典)



E.D.セジュリック、尾上一平、そしてE NIGHT

意識的であれ無意識のうちにであれ、自分の考え方が、たまたま聞いた人の話や、出会った本や映画といったものにインスパイアされるというのは、よくあることだ。ことにアーティストと呼ばれるような、クリエイティブな仕事に従事する者にとっては、それはことさらに大事な経験だと言っていいだろう。多様な刺激を受けることで、その人間の思考の幅が広がるならば、結果、生み出される作品にも、それだけ深みなり奥行きといったものが増していくという可能性があるのだから。

たとえば一冊の本があるという。

「3年くらい前かな。30年代に、アンディ・ウォーホルのアングラ映画の看板スターって言われてた、E.D.セジュリックっていう女の子がいまして。その子の生き方とか人間性みたいなものを、彼女にからんだ人たちが証言してるっていう本を読んだんです。あれは、ショッキングだったな…。当時のアメリカのハチャメチャな社会状況みたいなものも、浮き彫りにされててね。僕自身のメンタルな部分に、凄い刺激を受けた本でした」

当然のことながら、彼がその本で最もショックだったのは、そんな時代の流れに翻弄され身を持ち崩していく、E.D.セジュリックの壮絶な生き様だった。

「オレ、情緒の弱い人間に、凄い魅力を感じちゃうんですよ。どうしてだかわからないけど…。嫌だなぁ～と思いながらも、そういう人の心の中の葛藤みたいなものに、凄い惹かれてっちゃうんです。だから、マリリン・モンローとかシド・ヴィシャスとか、その手の人のノン・フィクションものは、大抵読んでます。『ロックンロール・バビロン』とかもね。なかでも最たるものが、E.D.セジュリックだったんです」

一時期、尾上の書く歌は、内省的で内を向いたものが多いと言われていたという。おそらく、前述したような本の影響が、かなり作品にも反映していたのだろう。それを彼も否定しない。

「オレの歌って、往々にして自分自身に対しての反省の歌が多いんですよ。たとえば、恋人同士のシチュエーションを歌ってたとしても、そこに自分の反省が込められてたりとかね。もちろん、すべてがすべてじゃないけど」

しかし、彼はそれを、あくまでも自己満足だけの歌には終わらせたくないともいう。

「確かに何年か前っていうのは、ものの見事に内を向いた表現でしか、詞を書けなかったんです。でも音楽をやっていく以上は、それじゃあダメだと思う。とにかくたくさんの人に聴いてもらって、わかってほしいから。そのためには言葉も探すし、それなりのやり方をしなくちゃなって思うんです。ほら、だってビートルズだってストーンだって、けっこう内を向いたような意味の歌を歌ってるのに、あれだけのポピュラリティーを得てるんですからね」

自分自身の心の底には絶えず様々な刺激を受けながら、そこに生まれる想いを、より多くの第三者に向けた〝作品〟へと昇華する。それもまた、アーティストの使命なのだ。

（村野弘正）



夏の終りの郷愁感
Nav Katze "The Last Rose in Summer"

ナーヴ・カッツェの第3作『The Last Rose in Summer』は、初めて大胆にゲストを入れた。出てきたものは、変わってないといえば変わってないし、変わったといえば変わっている。聴き手によって、その感覚は微妙に違ってくるように思う。しかし彼女達独特の、幻想的である種非現実的な心地よさを誘う世界観は変わらない。

――今回はゲストが入ったということが、やはりひとつポイントかな。

飯村・山口　それは、すごい大きいですね。

山口　ふたりでやるのがあたりまえだと思ってたんですけど、そういう垣根って、とっぱらっちゃうと簡単にとっぱらえて、しかもふたりでやって来たものがしっかりしてるから、人が入ってくるのを恐れることはなかった。かえって入ってもらったことで、自分達のやってることがよくわかったし、ずいぶん幅が広がったなというのは思いますね。

飯村　みなさん終わったあと、スカッとして帰っていかれるんですよ。楽しかったっていう感じで。

――今までのナーヴ・カッツェのイメージって、ピンと張りつめた線とか、点とかいう感じだったのが、今回は何か渦のような部分も出てきたかなと。

山口　うねりとかグルーヴとかね。やっとそれが出てきたかなって。それは、ドラマーの人達の力が大きい。

――ゲストでは遊佐未森さんも参加してる。

飯村　遊佐さんに初めて会ったのはデビュー前のイベント・ライヴで、そのあとラジオに呼んでもらったり、お茶飲みに行ったりしてて。

山口　で、やってくれる？　って聞いたら、いいよって伊豆（合宿レコーディング）に来てくれたの。

――曲作りはどんなふうでした？

飯村　もともと、わりとポップでコンパクトな曲を作ろうねっていうのはあったんですよ。

山口　あと、歌ものとしても聴けるっていうかな。でも、実際曲作り始めるとそんな意識はしなかったんだけど、作っていったら聴きやすいっていうか、コンパクトな曲が多くなった。

――詞に関してはテーマがあったの。

山口　あんまり意図したことはなかったんだけど、偶然発売時期に見合って、夏の終わりとか咲き終わりかけの花とか海とか、そういうイメージのものが重なりましたね。

――タイトルも、そんな感じ。

山口　アルバム全体を通して、なんとなく夏の終わりの郷愁感ていうかな、夏がフェイド・アウトしていく哀しさみたいな感じがすると思う。

飯村　そうだね。そういうふうに、全曲に何となく漂ってるのが、『The Last Rose in Summer』なのかなっていう気がする。

――基本的なナーヴの世界は変わってないと思うけど、多少軽くなった感じはするかな。

山口　リラックスしてる感じはするかも。でも、これまで3枚同じことをやって、意識も変わってないはずなのに、同じものは二度とできない。その時にしかできない音があるんだなって思いましたね。だから、一枚一枚がすごく大事だって気がする。

（角野恵津子）



ただいまオトイレ中！
ELEGANT PÜNK
入魂の2枚目！

トツゲキ隊長／カドノエツコ
PHOTO／オオヤミワ（本誌）

「前と比べると、ぶっ飛んでてアバンギャルドなものは思い切りそっちよりで、ポップなものはよりポップに、メロディーもしっかりしててちゃんと聴かせられるというように、はっきりふたてに別れた感じ」

というのは、エレガント・パンクのヴォーカル森早穂理。バンド名の通り、エレガントなものはよりエレガントに、パンクなものはよりパンクにというのが、どうやら現在オトイレ中の彼らのセカンドのようだ。

6月の頭からスタートしたレコーディングは、7月下旬のこの時にはTDの真っ最中。作業は順調に進み、あと数日で終了という段階だ。

今回はドラムの菅沼道昭も初めて作曲し、全員が曲作りに参加した。ギターの井筒好治によるインストもあって、また違う彼らも楽しめそう。

この日トツゲキしたのは中野にあるこじんまりしたスタジオだったのだけど、リズム録りは伊豆の川奈にあるスタジオで行なわれた。川奈といえば温泉町。もちろんスタジオも御多分にもれず、海の幸、山の幸のおいしい食事と露天風呂まであって、とても楽しくて順調なリズム録りだったそうだ。

「行く前は、今回のレコーディングはストイックになる、お酒は一切飲まないとかいってたのに、もう毎晩大宴会でね。スタッフもこんなに楽しくてラクで、ちゃんとやることが早い時間に終わるのは、エレガントパンクならではだよねとかいって。私も朝方の4時半頃に、今なら大丈夫だって、女子入浴中っていう札を下げて露天風呂に入ってね。すっごい気持ちよかった。夜明けまで飲んでても9時には起きて、海に行ったりとかね。健康的なんだかどうなんだかわかんないけど、楽しかった」

といいことづくめのレコーディングかと思ったら、たったひとつ彼女自身は、一手に引き受けている作詞に煮詰まって、けっこう苦労した。

「ちょうど生まれて初めてのスランプとぶつかったみたいで、何も書けないっていう状態が続いて、うつうつとした日々を過ごして、泣きそうだった。でも、それを抜けたらポコポコと書けるようになって、あ、よかったって」

苦しんだかいがあって、詞の内容もまた、今回ならではの世界が展開されそうだ。

「全部で13曲なんですけど、恋愛ものっていうのが2～3曲しかないんですよ。で、けっこう自分自身のことをとか、あと、全く違うとこに自分を置き換えてものとかもある。たとえば、私はひとりっこなんだけど、ちっちゃい時から弟に対するあこがれがすごい強くて、それで「岸壁の母」の姉版みたいな、弟思いのお姉ちゃんの歌とかあるんですよ。あとサビ以外は延々しゃべってる曲とか」

タイトルは未定。リリースの日にちもまだ未定だけれど、年内に出るのは確かなようだ。

「毎日その日の作業が終わると、テープに入れてもらうんだけど、それを毎日聴いてても、全然飽きないぞとか思って。入魂の2枚目を作ろうって、気合いの入れ方がそれぞれにすごかったんで、本当にいいものができあがるだろうと思います」

楽しさのお裾分けは、もう少しお待ちを。



●9／29渋谷エッグマンでライヴ決定！詳しくはP107参照。

SIONの新作『螢』は いろんな要素がつまっている

デビュー当時は、どっぷり重くて何かシケてて、聴いても憂鬱になるだけだと思ってたシオンの世界が、ずいぶん楽しめるようになった。楽曲に幅が出てきたし、サウンドのアプローチも多彩になってきた。今回の『螢』もジャズ、カントリー、ブルースなどのフレーバーがさりげなく漂ってきて、心地よさを生み出している。ライヴも充実。楽しいシオンは、いいなと思う。

＊

――レコーディングというと、ここんとこ、アレンジャーの松田文さんと二人三脚みたいなとこもあるけど、最初に方向性とかは話し合うの？

「ぼんやりしたことは伝えるけど、細かいことはまかせる。松田さんを信じてるからね。よっぽどのことがないと、はずさない。だからレコーディングの前にふたりでスタジオに入って、ギターなんかポロリンて私が弾いて（笑）、そしたらもう次はレコーディングなんですよ」

――今回最初に伝えたことは？

「生ギターが底でけっこう鳴ってることと、ちょっとあったかみのある感じがいいなっていうぐらい」

――ジャズ的な匂いっていうのは、ひとつ定着してきた部分かな。

「ジャズがやれるとは思ってないけど、ひたすらただ好きなの。今何聴いて一番楽しいかっていうとジャズだし、今はこのリズムとノリが全然自然で楽しい」

――今回の収録曲は、いつごろの曲。

「一番古いのは10年前で、一番新しいのが2月かな。「ホラ吹き野郎」っていうのが10年前。「チェッ」っていうのも、メロディーは10何年前ですね」

――そういう古いの入れるのは、10年たっても違和感ないから？

「ええ。あとは、自分ではとっくに終わってる曲なんだけど、松田のおじ様達にこれいいよっていわれて、あ、忘れてたけど本当だって。そういう生き返らしてくれる曲が、一回にたいてい一曲ぐらいはある」

――松田さんて鋭いとこついてくる。

「つき合い長いからね。「螢」を最初に聴いた時も、お前がここでお前っていっているのは、自分のことだろうっていわれて、口をつぐむしかなくなったんだけど」

――お前を連れていくって歌うと、恋人のことなんかだと普通は思うもんね。あと、今回ボストン・アコースティック・バンドの演奏で、おまけのシングルCDがつくんだね。

「たまたま彼らが日本に来てて、3時間ぐらい時間があるっていうんで来てもらった。あっと言う間に終わったけど、楽しかったですよ」

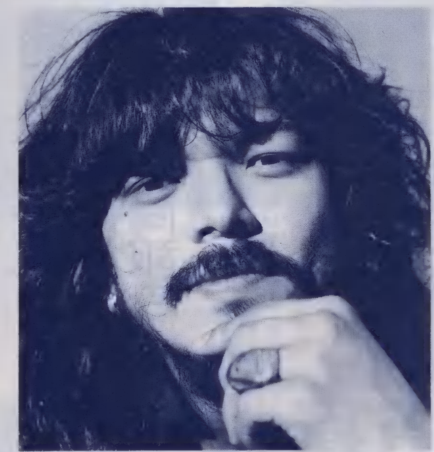
――レコーディングは嫌いじゃない。

「ゼンゼン、すごくしんどい歌もあるけど、リズムと歌を入れたらそれはもう終わりで、後はそれから何を入れたらいいかなって、すごい楽しい作業になる」

――シオンの音楽って、最近ある意味楽しく聴きやすくなったと思う。

「でも、昔から聴いてる人はとんがってたのはどこいったとか、厳しいんだから。でも、俺は楽しいときは楽しいことやるし、いつも怒ってなくちゃいけないわけじゃない。人の顔色うかがって、このようにいたしましたがどうでしょうなんて、無理はできない。体に悪いもん（笑）」

（角野恵津子）



ヒートウェイヴ第3弾『陽はまた昇る』「実は最高傑作だと思ってるんです」

ヒートウェイヴの音楽は、ひとりよがりのリスナーに対してとても優しく寛大だ。彼らのアルバム3作目『陽はまた昇る』が完成した。

「実は最高傑作だと思ってるんですけど。そういうことを自分で言うヤツ、僕はあんまり好きじゃないんで。ぜひ聞いてください、と」

山口洋は最初にそう言った。その通りなので、困ってしまう。

「作った時のこと？ 覚えてないんです（笑）。元旦も正月も何もなくて、レコード作ることしか何も考えてなかったです。レコーディングする時はいつも、そんな感じ。レコーディングに入るまでに、見たり聞いたりさわったり読んだりして吸収したものが、醗酵するまで待ってたんですよ。それが自分の中でやっとガスみたいになって、出さざるをえんような状態になって。そこから、アルバム作りを始めて」

コンセプトを決め、その方向に意識的に向かっていったわけではない。けれど、そこにはその時期の山口洋が凝縮されている。

「ある一時期に集中して作ったものは、なにがしか自分の推敲した結果であって、なにがしかの統一性が、結果的にタイトルなり一本の芯みたいなものとして出てくるだろうと思って。今回はそういうふうに作っていきました」

私小説にも近い、山口洋自身の姿がくっきりと投影された詞の世界。

〝自分のケツがふける範囲の歌しか歌えませんから〟と、言うけれど。

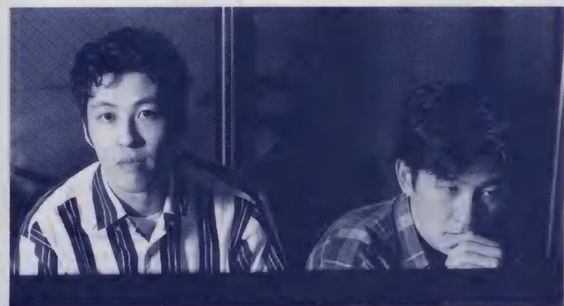
彼のごく個人的な世界に向かって、私たちは他人である自分たちを重ね合わせてみたりする。ライヴでのヒートウェイヴは、目の前にいる聴衆の存在があってこその〝歌〟を聞かせてくれる。このアルバムは、もちろん〝聴衆〟の見えないところで作られたものだけど……。

「前はね、レコーディングで歌ってる時に、何に向かって歌ってるのかよくわからなかった。でも今回は、マイクの向こうに伝えたい人とか伝えたい人の顔が浮かんでくるのを待ってて。その人の表情が見えてきたら、叫ぶ……というかしゃべるような感じで歌えたんですよ。伝えたい人っていうのは、特定の誰かだったりもするし、不特定の人だったりもするし……。聞く人も、オレの顔が見えてくればいいですね。で、顔が見えるだけじゃなくて、顔の奥に見える景色とか。そういうのを感じとってくれたら」

音と音のすき間に、空間がある。そんな感じ。そのすき間っていうのは、ものすごく余裕があるようにも思えるし。こわくなるほど緊張感に満ちているようにも思える。そこにすっと自分の体をすべりこませるようにして聞いたら、気持ちがいい。

「ぬり絵でもなんでもそうなんだけど。塗りつぶしてくのは簡単なんだけど、すき間があるのが好きなんですよ。で、すき間を残すのっていちばん難しいんじゃないかなって思うんです。だって、すきまの中に小さな息づかいとか……そういうのが見えてきて。人に何か伝わってく力も生まれてくと思うんですよ。思いのたけをびっしり書いて、全力で歌うって時よりも何か確かに伝わるんじゃないかなって思う」

（能地祐子）



早くも新境地を開いたか？ Bonnie Duck!? 2ndアルバム

ボニーダック!?セカンド・アルバム『カラー・バイ・ナンバーズ』が9月5日にリリースされた。デビュー・アルバム『ボニーダク男』の衝（笑）撃のファンファーレもまだ耳に響いているのにな。でもフルだし、ありがたーいってわけで、その中身は、

森本「新境地をひらきました」
川井「誰もわからないよ。まだ2枚目なんだから（笑）」
森本「いいの。何が基準かわからん中でも新境地は新境地！」
川井「でもとってもいい仕上がりになりました」

とにかくいい物が出来たってことを言っているようだ。

奥村「一度、レコーディングを経験したのでバタバタせず出来ました」
芝田「前回はやっぱ不慣れだから思うように進まないところもあったから。でも今回は本当に全員がやりたいように出来たと思う。歌詞も自分の気持ちに素直になって作れたし」

そう、芝田くんはみんなから書く資格（？）はないと言われていた初のラブソングも書いた。その心境は、

「人生いろいろありますから」

と、なぜか大テレ（笑）。

前川「それに曲も今の6人になってからのものなので、この6人で作りあげたという感じがありますね」
川井「音楽的にもいろんな方向に散ってるんですけど、そん中で自分で挑戦していけたのが有意義でした」

だからカラー・バイ・ナンバーズ。つまりカラーは6人それぞれの色。

そしてボニーのカラフルな音だ。

森本「1枚目の時はどんな音もこなしてるぞ、というのを見せたいバラエティさだったんですが、今回は同じバラエティでもそれぞれのエッセンスのパーセンテージが僕らの思うようになってます。前は全部を別の曲調にって考えでしたけど今回はそういうのもなしにしてやりました」
川井「いい曲を順番に並べていこうってしたんだよね」

「気負いも取れた」（森本）という分彼らのミクスチャーロックはさらに明確になり、楽しくなった。

森本「いくら融合って言ってても、結局イントロはハードロックでAメロはファンクってツギハギだったんです。ハードロックとファンクが同時進行するそういう意味の融合がしたかったから、それでいうと今回のほうが圧倒的によく出来てます」
奥村「ボサノバがGSになったりね」

それに、

川井「前回は歌詞や間にMCをはさむとか言葉で、わりと表面的な部分での笑いがあったんだけど、2枚目は中身で、もっと深いところでコミカルにしたって感じです」

これまでのようにライヴの中で曲を練り上げていくのではなくスタジオ作業で曲を仕上げていくのもボニーにとっては大きなことだった。

ヒロシ「今、ライヴでもこの中の曲をすでにやってますけど、これより数倍、聴きごたえもありますよ」
川井「カッコよすぎてゲロゲロよ」

「まず僕らの成長も感じて欲しいです」と、最後に前川くんがキメたところへすかさず森本くん、

「でもその成長を知るにはファーストも買ってもらわなくらべられんからなぁ。まだ持ってない人はセカンドと一緒にどーぞ（笑）」と、さすがはリ



ALBUM REVIEW
Written by／Tomonori Nagasawa

今月のお勧めCD

これで終わりだと思ったら大間違いだ!!
猛毒



インナーディレクツ
¥4635（税込）

久し振りにインディーズの香りを感じさせてくれる、常識をブッ飛ばした桁外れのバンドが登場した。奴らの名前は猛毒。その徹底した皮肉ぶりと、放送コードにひっかかりまくりのブラックジョークの数々にはブッ飛んでしまう。簡単に歌詞を紹介するだけでも、『川谷拓三フリークス』という曲で、いきなり♪奇形！♪と叫んだり。『～ガッ石松・・再び』に至っては♪えてこ～!!♪と来たもんだ。他にも郷ひろみをバカにしまくって♪リーリーリーアフロー億千万♪と歌ったり。横山やすしの歌では♪飲酒&バイオレンス～♪。北島三郎の歌では♪サブロー北島　レコード大賞組織票～いつまでたってもーさけ茶漬け～♪と、もう最初から最後まで、ブラックジョークを通り越した罵言雑言の嵐・嵐。しかもジャケット写真も、歌詞の中に登場している様々な有名人がコラージュされており、ジャケット&音源共々、日本では製造不可能となり、わざわざ海外に発注して完成させたほどの作品なのである。2枚組で全部で44曲、もう最初から最後まで差別ネタの連発に、頭も体もフチャンしちまったぜ。

DOMO
LAY-YA



FIELD WORKS
¥1500（税込）

なかなか骨太なハードロックを奏でる奴らじゃないか。楽曲自体は、バンヘイレンやデフ・レパード等に相通じるアメリカンハードロックの基本的なれど。自分達の姿勢や方向性がしっかりしてるからだろう、厭味なく、なるほどねと納得しながら聞けてしまう。ただし、LAY-LAらしさが何かと言われたら、？となってしまう所が、今後の課題とも言えようか。

DIVERT
JACK



Zazzle Records
¥2500（税込）

ジル・ド・レイのギタリスト、JACKのソロアルバムが10月10日に発売される。中身の方は、ジル・ド・レイの音と共通項がありつつも、どちらかと言うと、JACKの音楽的なルーツである70年代プログレミュージックや70年代ブリティッシュハードロック等の影響を色濃く配色した仕上がりとなっている。当然、ソロワークも注目だが、楽曲のマニアック度にも注目を。

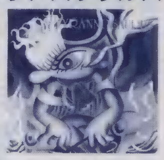
マーブル・ア・ゴーゴー!!
マーブルダイヤモンド



FIELD WORKS
¥1500（税込）

現代風GSとは、彼らのようなサウンドの事を言うのだろうか。とってもチープで、やすっぽい歌謡曲チックな歌とメロディ。三文役者的ないなせでチープでアングラな歌詞。演奏だって上手くはないし、際立った花があるわけでもない。でも、そんなガラクタのようなチープな音だからこそ、彼らの信条が生きてくるのかも知れない。奇妙なノスタルジーに浸りながらどうぞ。

LIVE AT GLAMKENSTEIN THEATER
ティラノスザウルス



ENGINE
¥2500（税込）

芳しきグラムロックの耽美敵な世界。グラム界の重鎮、ティラノスザウルスがリリースした新作は、甘美で切ない萌香漂わすグラムケンシュタイン劇場のR&Rショー。パーティルージュのきらびやかなレディが、残り香り漂わせ踊り狂い。カラフルトーンの端正な紳士が優しく手招きする。まさに『ロッキーホラーショー』真っ青の、耽美でグラマラスなライヴパフォーマンス盤だ。

L.R.P
LIQUID RANK POOL



FIELD WORKS
¥1500（税込）

なんて研ぎ澄まされた音をしてるのだろう。サウンドの方は、いわゆるポリスの模倣的な、カッティング中心の3拍子ビート。音数の方も無駄を省いており、かなりシンプルに、かつ直接的に胸に響いてくる。いわゆる薄暗いバーのカウンターで、バーボン片手に人生を語るという風景にマッチしそうな。アンダーグラウンドな雰囲気を醸し出す、シンプルなバンドである。

MANNISH GIRL
THE DISMATE



UKプロジェクト
¥2800（税込）

ネオモッズ・シーンを索引する若手バンド、ディーズメイトが1年半ぶりに2ndアルバムを発表した。当然、サウンドの方は相変わらずの、シャキシャキッとした、マーチングな60，Sモッズビート。しかも今回はホーンセクションを導入して、R&B色を強く配色したり。「渚のボードウォーク」「ギミ・サム・ラヴィン」等のカバーも行っている彼ら。正に意欲的な秀作だ。

星空とフランケンシュタイン
松田浩二



インディビジュアルレコード
¥1200（税込）

いわゆるシティポップス派の歌とでも言うのだろうか。スカッと爽やかなメロディライン。そして幼い子供に優しく語って聴かせるかのような、とっても童話的で詩的な歌詞。実際に歌ってる松田浩二自身が、小さな子供を持つ父親というだけあって。その言葉の説得力と、大きなハートで包み込んでくれる歌声には、なぜか哀愁さえ感じてしまいます。素敵なシングルだね。

MADE IN JAPAN
TRICKSTER



インナーディレクツ
¥1391（税込）

爆裂するハードコアテクノ・サウンド。遂に日本にもこれだけ恰好いいハードコア・サウンドを作れるバンドが登場したか。徹底して無機質なデジタライズ化された音にも関わらず、なぜか有機的に香を感じさせる表層音。しかもバックトラックのシークエンスビートが、徹底したハイスピードでシンクロしてくる為、かなりトリップした気分にさせてくれる。メチャ恰好いい。

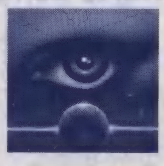
INDEPEDENCE
VA



EXPLOSION RECORDS
¥2300（税込）

今、再びインディーズの原点をという目標の元に作られたオムニバス盤が本作である。収録アーティストはTHE NEWS、POWER OF EMOTION、JULIUS ROSE、EDDIE HOUSE、RBUMMY、ACTOR、OUTSTABDING、くさびらの以上8バンド。基本的にはスラッシュ、ハードロック系のバンドが多く。意志薄弱な産業ロックがはびこる現状に於いての、硬派な奴らばかりを集めたアンチテーゼと言えよう。

THREE EYES JACK
THREE EYES JACK



T-SECRET
¥1400（税込）

アメリカンハードロック・サウンドをバックに、メロディラインの明瞭で聞きやすい歌を唄うスリーアイズジャック。いわゆる様式美やテクニック至上主義に走りがちなハードロック・シーンの中に於いて、彼らのようにテクニック的にも、そして楽曲のポップな完成度としても、ある程度のクオリティをもってると、すんなりと耳に馴染んでくる。なかなかの意欲作だね。

第3BSヤングバトル ブロック大会中間報告

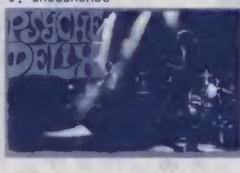
今年で3回目を迎えた『BSヤングバトル』。全国応募総数3007組という数字は、アマチュアバンドが激減し、数多くのコンテストがバンド難で苦しむ状況に於いては、かなり成績のよい数字と言えよう。実際、全国15ヵ所で現在行われているブロック大会に出場しているバンドも、各会場毎に超個性的な人達ばかり。軽くあげるだけでも、ファンクとラップを融合した東京代表のP．O．P。硬派なモッズバンドである北海道代表のSUZZY。ミクスチャーロックを奏でる中国ブロック代表のヘッドシーン。サザンロックの雄は東北代表のBRAW-BLO。アンダーグラウンドなビートルズと言われる関東甲信越・北ブロック代表のGreen等々、いづれもがメジャーシーンには決して存在し得ない超個性的なバンドばかりである。他にも代表には惜しくも選ばれなかったが、おっかけ女の子の心理をパンクにノセて唄ったセルロイドや、ワイルドでグローリーなR&Rバンド、THE FREAKS等々、一癖も二癖もある奴らはまだたっくさんいるんだなと、各会場を観に行ってる僕自身、痛感させられている次第である。

今や残る大会も、9月12日――秋田市民文化会館（ゲスト、ボガンボス）、9月15日――熊本県立劇場演劇ホール（ゲスト、大事MANブラザーズバンド）、9月20日――金沢・石川厚生年金ホール（ゲスト　谷村有美）、9月23日――千葉市民会館（ゲスト　KUSU　KUSU）、9月27日――奈良市史跡文化センター（ゲスト、16-TONS、かまやつひろし）を残すのみ。入場は全て無料だが、引き換え券が必用なので、希望者は最寄りのNHKへ連絡してくれ。またこの『BSヤングバトル』の模様は、衛星第2の方でも放送してるし、同系列の『がむしゃらMAP』という番組でもチェック出来るので、会場に行けなかった人はTVでしっかりチェックして欲しい。そして本コンテストの決勝大会が、11月8日にNHKホールで開催されます。ゲストも某スカット爽やか飲料のCMに関係のあるバンドという情報も入ってきているだけに、これはかなり期待出来そうな大会だね。

NEWS

■8月号で「PSYCHEDELIXのビデオが出てる」と誤った情報を載せてしまって大ヒンシュクの当コーナー（泣）今月は汚名挽回ってことで本当にリリースされたビデオを紹介。"PSYCHEDELIX MOVE ON TOUR STAGE Ⅰ" 4／8渋谷クアトロ4Days～5／2本牧アポロシアターまでのツアーの中から5曲をピックアップ。曲間にオフステージの彼らものぞけるドキュメンタリータッチの43分17秒。11月からはツアーも初まる彼ら、その前にこのビデオは是非チェックしたい。

収録曲
1．MOVE ON
2．LET ME TRY YOUR SHOES ON
3．RAINBOW SHOES
4．21st CENTURY BLUES
5．CROSSROADS



■キラキラレコードって知ってるかな？このちょっとかわった名前のインディーズ・レーベル。その歴史は以外に古く、今から何と13年も前に誕生していたという。現在アーティストはファッションバンドXX、ブラニガン・ジャグ、佐々木剛志の3組。これから先もっといろんな音を聴かせてくれると期待大でいていいんじゃないかな。

■これまたキョーレツなバンドばかり8バンドの曲を収録したオムニバスCD「OUTSIDE ROCKERS」がリリースされた。THE MODERN TIMES、THE REVOLT HEROIN ROCKERSetc. OUTSIDE ROCKERSも要注目レーベルだね。

■大宮フリークスが8／31をもって一時閉店となった。6年の間いろんなアーティストを父となり母となり育ててくれたフリークスに改めて感謝！また店は閉店だけどスタッフは今までどうり活動しているからまた何かやってくれるでしょう！と期待していよう。

■BOLD RAID（ボールドレイド）というバンドを紹介しよう。メンバーはREI（Vo）、JOKER(G)、KATSU(B)、CHARRY（Ds.）の4人。ハードな曲からロックンロール、ミディアムテンポ曲など、メロディーラインを大切にした曲がウリ。9／16には神楽坂エクスプロージョンでライヴも行う予定。詳しくは右のスケジュールを。

LIVE

■ジンクス
9／11㈮福岡Be－1
12㈯大分TOPS
14㈪大阪バナナホール
16㈬寝屋川ヴィンテージバー
17㈭・19㈯ 名古屋ミュージックファーム
20㈰神楽坂エクスプロージョン
25㈮横浜ゴーストウォール
27㈰町田プレイハウス

■幻覚アレルギー
9／24㈭渋谷オンエア
30㈬京都ミューズホール
10／1㈭神戸チキンジョージ
3㈯・4㈰ 広島ウッディストリート
6㈫ 福岡Be-1
8㈭・9㈯ 名古屋ハートランド
11㈰高松クラブハウス
12㈪岡山ペパーランド
14㈬大阪アムホール
16㈮金沢バンバンV4
17㈯長野J
19㈰新潟JUNK BOX
20㈫仙台ヤハマホール
22㈭・24㈯ 青森クウォーター
25㈰札幌メッセホール

■ディーキュセ
9／15㈫目黒ライヴステーション
10／3㈯目黒鹿鳴館

■ブルティッシュ・ブルドッグス
9／14㈪寝屋川ヴィンテージバー
15㈫大阪ロケッツ
16㈬名古屋ELL
23㈬三軒茶屋
28㈪下北沢シェルター

■ジル・ド・レイ
10／20㈬新宿パワーステーション

■シルヴァー・ローズ
9/13㈰名古屋ミュージックファーム
23㈬目黒鹿鳴館

■クール・アシッド・サッカーズ
9／12㈯下北沢シェルター

■ガーゴイル
9／26㈯・27㈰ 札幌ベッシーホール

LIVE

■BOLD RAID
9／16㈬神楽坂エクスプロージョン
10／4㈰横浜クラブ24
31㈯三軒茶屋ヘブンズドア

■セヴンスヘヴン
9／18㈮大阪ロケッツ

■ウェンディ
9／12㈯目黒ライヴステーション
15㈫大阪バナナホール

■『WILL』
10／3㈯川崎クラブタッチ
出演：ROSENKREUZ、L' Aro or Ciel,SILVER ROSE,MEDIA YOUTH, REDIEAN：MODE、妖花
OPEN 24：00、START 24：30
11／18㈮鈴江ファクトリー
出演：Arge Graie他2バンド
OPEN 18：00、START 19：00

■Eins：Vier
9／15㈫大阪ミューズホール
問06(211)3504

■PARTY ROUGE
9／11㈮・18㈮・26㈯ 大阪YANTA鹿鳴館

■the ハーレムQ
9／15㈫目黒ライヴステーション

■TYRANNOSAURUS
9／16㈬渋谷ラママ
23㈬福岡Be-1
24㈭広島ウッディストリート
27㈰大阪アムホール
28㈪名古屋ELL

■THE BODIES
9／27㈰横浜クラブ24

■THE★JIMMY★GUNS
9／27㈰新宿ロフト

■ヴィジョン99
9／21㈪目黒ライブステーション
24㈭大阪ロケッツ
10／5㈪目黒ライブステーション

シングル「私」でデビューした、鈴木ユカリの第2弾
田口俊/杉真理コンビの60's popsで到着!

2nd Single 10|7 Release!

ときどき電話して

Words by 田口俊/Music by 杉真理/Arranged by 杉山卓夫
Coupling With: Stand By You/ときどき電話して(オリジナル・カラオケ)
CD SINGLE: TODT-2928 Including-Tax ¥1,000

鈴木ユカリ

もしもし、試験どうだった?

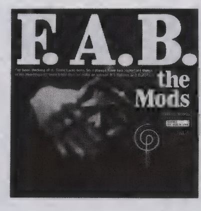


Yukari Suzuki

INFORMATION レギュラーDJ

CBCラジオ「スタジオC²スクエアー」(土)22:30〜23:00
FM愛知「風のハミング」(金)22:55〜23:00
「鈴木ユカリのハートフル・ウェイヴ」
FM香川(金)19:00〜19:30/FM福井(土)20:30〜21:00/FM宮崎(木)20:30〜20:55
FM新潟(月)19:00〜19:30/FM山口(金)25:30〜26:00/FM山形(木)20:30〜20:55

TOSHIBA EMI



F.A.B.／THE MODS

●徳間ジャパン　TKCA-30700　9月25日　￥3000（税込）
①RUMBLING IN THE JUNGLE　②Limousine Cowboy　③Vicions　④ロメオとジュリエット　⑤誰もが誰かを(Hey Hey Hey)　⑥Hey Mr.DRIVER　⑦Dynamite　⑧墜落のメロディー　⑨Long WAY　⑩(I wanna be a) GANGSTER　⑪Sad Memory　⑫DID I SAY

Fabulons.

（THE MODS）

アリーナ専売特許

ALBUM 自己紹介

♬♪♬♪♬♪♬♪♬

好き勝手に書いて
アルバム売れりゃ
ミュージシャン大いばり

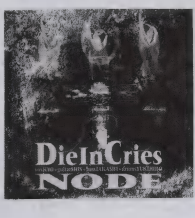


A.O.R.／ムーンライダース

●東芝EMI　TOCT-6676　9月30日(日)　￥3000（税込）
①幸せの洪水の前で　②ダイナマイトとクールガイ　③シリコン・ボーイ　④さよならを手に　⑤現代の晩年　⑥WOO BABY　⑦ONE WAY TO THE HEAVEN　⑧レンガの男　⑨無職の男のホットドッグ　⑩月の爪

一見の方 必聴

（ムーンライダース）



NODE／DIE IN CRIES

●BMGビクター　BVCR-2316　9月23日　￥2500（税込）
①MIND GARDEN　②殺シテモ殺シタリナイホドノ　③MY EYes～僕の瞳よ～　④言葉にならない…　⑤KOOL&MOONLIGHT　⑥LOVE ME　⑦グラデーション

DIE IN CRIES NEW ALBUM「NODE」

（KYO）



4D Pocket／BY-SEXUAL

●ポニーキャニオン　PCCA-00394　9月18日　￥3000（税込）
①GOOD LUCK!　②IRON MAN　③DEEP KISS　④BLACK JACK　⑤TRASH CITY　⑥CRUSH　⑦KID　⑧PERMANET VACATION!!　⑨HAPPY BIRTHDAY FOR ME　⑩ADAM TO EVE

暑さ倍増
はら立たしい
今日この頃
みなさんいかが
おすごしでしょうか。
やっと
ぼくらも冬眠
からさめました。
四人共々、
この急な暑さに
寝こむ今日
これいかに。
あ、そう〱
今年もいいぞ
のアルバム、おひとつ
いかが?。
・バイセク・

（BY-SEXUAL）



僕を呼ぶ声／町支寛二

●ソニーレコード　SRCL-2454　9月12日　￥2800（税込）
①さよなら、紺色のうさぎ　②君を 愛しては いけない　③失望のダンス　④カタコトノ夏　⑤悲しきアメダス　⑥Dawn　⑦あふれる 愛　⑧僕を呼ぶ声　⑨僕は走る　⑩Family Name

なすがママ、きゅうりがパパ

（町支寛二）

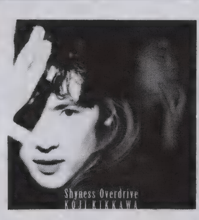


GUITARHYTHM Ⅲ／布袋寅泰

●東芝EMI　TOCT-6658　9月23日　￥3000（税込）
①MILK BAR PM11：00　②UPSIDE-DOWN　③DIRTY STAR　④さよならアンディ・ウォーホル　⑤DIVING WITH MY CAR　⑥PRECIOUS DEAL　⑦EMERGENCY　⑧ELECTRIC WARRIORS　⑨GUILTY　⑩I'M FREE　⑪LONE-LY☆WILD　⑫WILD LOVE　⑬MILK BAR AM3：00　⑭GUITARHYTHM

すべての若き
ロックンロール
ボヘミアンに捧ぐ

（東芝EMI）

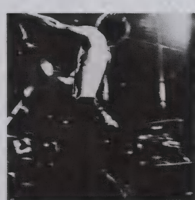


Shyness Overdrive／吉川晃司

●東芝EMI　TOCT-6671　9月9日　￥3000（税込）
①Brain SUGAR　②SACRIFICE　③ジェラシーを微笑みにかえて　④Dance with Memories　⑤planet M　⑥SEX CRIME　⑦Fall in Dream　⑧DANDY　⑨Baby NEW YORK　⑩RAIN BEAT　⑪星の破片　⑫FANTASIA　⑬Good Night

愛が何か知りたいだろう。
本当の夢を見るまでは
もう止まらない。

（吉川晃司）



LIVE／THE BLANKEY JET CITY

●東芝EMI　TOCT-6685　9月30日　￥2600（税込）
①絶望という名の地下鉄　②冬のセーター　③僕の心を取り戻すために　④Bang!　⑤TEXAS　⑥2人の旅　⑦不良少年のうた　⑧SOON CRAZY　⑨MOTHER　⑩ディズニーランドへ　⑪小麦色の斜面　⑫胸がこわれそう　⑬RAIN DOG　⑭BABY BABY

あの興奮のライヴを完全収録。
フルサイズ。
Special Price ￥2,600。

（東京ピストル）

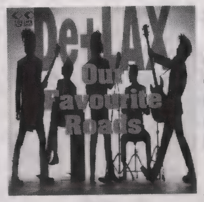


Lirkage/KATSUMI

●パイオニアLDC　PICL-1045　9月23日　¥3000（税込）
①Just Time Girl　②Fird your way　③Nobody Knows　④Future Man　⑤危険な女神　⑥YES, 抱きしめて　⑦Tonight Spend Together　⑧Shining is the Night　⑨Loving Yon　⑩It's my JAL　⑪Crossing Love　⑫Try－君がいるから　⑬ONE（We are ONE）　⑭For You

“全てが近くにある”という事を
感じて下さい。

（KATSUMI）



Our Favourite Roads/De-LAX

●フォーライフ　FLCF-30157　9月18日　¥3000（税込）
①WELCOME TO PARADISE ALLEY　②LET'S GO BANDWAGON(Live In Neve)　③MOVE ON UP　④SHA-LA-LA　⑤SUMMER NIGHT　⑥HELLO! MR,BROKEN HEART　⑦MY FAVOURITE BOOTS　⑧LIVE FOR NOW　⑨POWER　⑩TONIGHT

天才は、好きな事だけ
やれば良い!!
by De+LAX

（De-LAX）

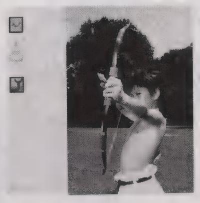


TWIN／陣内大蔵

●ファンハウス　FHCF-2020　9月2日　¥3000（税込）
①心の扉　②Why do I？　③Heavy days　④抱きしめたい　⑤I Know You　⑥Another Happy Birthday　⑦彼女のスピード　⑧First ending　⑨All night long　⑩遠くへ行こう　⑪新しい風

オリジナル6枚目になります。しぶといですねぇ～.
9/2リリース「TWIN」どうぞよろしくです。
今回は、少しでも身近に感じていただければ
陣内はうれしいです。

（陣内大蔵）



惑星（ほし）のかけら／スピッツ

●ポリドール　POCH-1148　9月26日　¥3000（税込）
①惑星のかけら　②ハニーハニー　③僕の天使マリ　④オーバードライブ　⑤アパート　⑥シュラフ　⑦白い炎　⑧波のり　⑨日なたの窓に憧れて　⑩ローランダー、空へ　⑪リコシェ号



（スピッツ）



Cosmic Love-LIVE ACT from Sleeping Gypsy Tour／山下久美子

●東芝EMI　TOCT-6692　9月30日　¥3000（税込）
①!BYE BYE　②Tonight～星の降る夜に　③愛すればこそ　④私を独りにしないでね　⑤Endless Love　⑥秋ラメきれないNight Movie～　⑦あなたが、いた夏　⑧バスルームから愛をこめて　⑨真夜中のルーレット　⑩Cosmic Love　⑪LOVE　⑫Happiness　⑬Sleeping Gypsy　⑭こっちをお向きよソフィア　⑮赤道小町ドキッ　⑯Sleeping Gypsy(Instrumental)

「バスルームから愛をこめて」から
最新シングル「真夜中のルーレット」まで
山下久美子の魅力がいっぱいにつまった
ベスト盤的ライヴアルバムです。

（東芝EMI）



CATCH ME ON D・N・A/CHARMY

●東芝EMI　TOCT-6674　9月9日　¥3000（税込）
①CATCH ME ON D・N・A　②GUNFIRE　③WALK MY WAY　④LUCY　⑤LOVE＋VIOLENCE　⑥WILD ROMANCE　⑦MEMORY　⑧FREE AT LAST

OK！
Let's Get hell out here

（CHARMY）

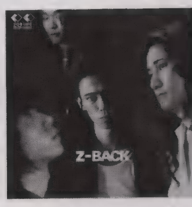


K ROOK／アン・ルイス

●ビクター　VICL-330　9月23日　¥3000（税込）
①いらいらさせないで　②Foolish Prisoner　③Mr.Rocker　④夜に傷ついて　⑤Poison　⑥消えゆくままに…　⑦夢の果てまでも　⑧ほっといてよ　⑨銀色の涙　⑩Take Me Back　⑪Middle Ot Eden

Let's Rock w/ K-Rock!!
アン xxx
'92

（アン・ルイス）

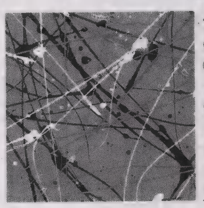


二枚目／Z-BACK

●フォーライフ　FLCF-30158　9月18日　¥3000（税込）
①OVERTURE　②雨の町　③EGOIST　④MILK SHAKE　⑤春望　⑥下北2丁目　風のバラード　⑦だんだん　⑧東京cityインディアン　⑨なしかしらんけど今日は上機嫌　⑩抱きしめたい　⑪ビロードの少年　⑫東京Cityインディアン（Reprise）

えっ！
T-BACKじゃないんですかい
ご隠居？

（うっかり八兵衛）



世に万葉の花が咲くなり／SOUTHERN ALL STARS

●ビクター　VICL-335　9月26日　¥3000（税込）
①BOON BOON BOON～OUR LOVE　②GUITAR MAN'S RAG（君に奏でるギター）　③せつない胸に風が吹いてた　④シャラバ★ラ★バンバ　⑤慕情　⑥ニッポンのヒール　⑦ポカンポカンと雨が降る（レイニーナイトインブルー）　⑧HAIR　⑨君だけに夢をもう一度　⑩DING DONG（僕だけのアイドル）　⑪涙のキッス　⑫ブリブリボーダーライン　⑬亀が泳ぐ街　⑭ホリデイ～スリラー「魔の休日」より　⑮IF I EVER HEAR YOU KNOCKING ON MY DOOR　⑯CHRISTMAS TIME FOREVER

世に万葉の花が咲くなり

（タイシタレーベル）



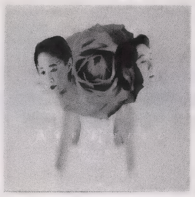
THE BOOM/THE BOOM

●ソニーレコード　SRCL-2471　9月21日　¥3000（税込）
①気球に乗って　②子供らに花束を　③そばにいたい　④星のラブレター　⑤なし　⑥釣りに行こう　⑦きっと愛してる　⑧おりこうさん　⑨中央線　⑩ひのもとのうた　⑪川の流れは　⑫からたち野道　⑬100万つぶの涙　⑭島唄

才能の14曲です

（THE BOOM）

The Last Rose in Summer／Nav Katze



●ビクター　VICL-334　9月23日　¥3000（税込）
①海　②FROZEN FLOWER　③マリリン　④不機嫌　⑤アルカディア　⑥子供の名前　⑦光の輪　⑧きらきら　⑨蒼い闇　⑩名残りの薔薇



薔薇と怪物



（Nav Katze）

蛍/SION

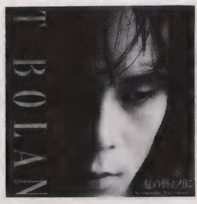


●テイチク　TECN-30190　9月23日　¥3000（税込）
①蛍　②AIN'T NOTHIN' I CAN DO　③当然のこと　④あと少し　⑤お手上げだ　⑥2月というだけの夜　⑦チュッ　⑧あっちへ行ってくれ　⑨ホラ吹き野郎　⑩早く帰ろう　⑪トタン屋根の小屋に住む老人　⑫さあ行かなきゃ

よろしかったらどうぞ
はん。

（SION）

夏の終わりに～Acoustic Version～／T-BOLAN

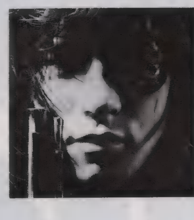


●ROCK IT ROCL-6003　9月22日　¥1800（税込）
①サヨナラから始めよう　②あふれでる感情　③遠い恋のリフレイン　④Teenage Blue　⑤Heart Of Gold　⑥夏の終わりに

T-BOLANからの贈り物

（ロックイットレコード）

SHADOW BROWN&BLACK PIRATEES/ダイアモンド・ユカイ



●MMG AMCX-4142　9月25日　¥2900（税込）
①誕生　②シャドウ・ブラウン&ブラック・パイレーツの冒険　③THE HOOKERS　④Lucky looking for blindmen circus show　⑤サンタモニカの想い出　⑥HALF 1／2　⑦Dr.モルフィーネ　⑧独裁者　⑨TAXI　⑩GENTRY OF FORTUNE

DIAMOND☆YUKAI'S ROCK&ROLL!!

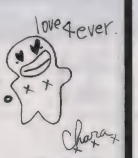
（ダイアモンド・ユカイ）

SOUL KISS／CHARA



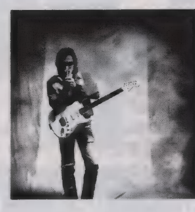
●EPICソニー　ESCB-1313　9月1日　¥2800（税込）
①SOUL KISS(Prologue)　②あの時計の下で　③大きな地震がきたって　④あれはね　⑤No Promise　⑥なぜ笑ってるのかな　⑦愛の自爆装置　⑧SOUL KISS xxxt　⑨Rain　⑩右手を私の右手の上に重ねて　⑪time after time

2ndアルバ
2ndアルバム「SOUL KISS」は
あなたの魂にキスをしたがっています。
だから大きな音で聴いてね
―やさしくなりたいあなたへ×××―



（チャラ）

RETURN／世良公則

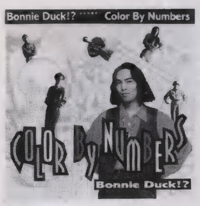


●MMG　AMCX-4143　9月25日　¥2900（税込）
①ストーンズが聞こえた街　②I）　③I'm cryng　④Love Way　⑤Fallin' Love　⑥Fine Thank You　⑦Boy　⑧きのう、君が失くしたもの　⑨Scrap　⑩Against The Wind

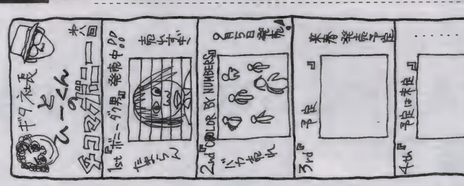
ソロ活動10周年を迎え、ロックの原点に帰りベストを追求した集大成作品

（世良公則）

Color By Numbers／Bonnie Duck!?



●トイズファクトリー　TFCC-88024　9月5日　¥3000（税込）
①感電ベイビー　②Do You Like Watching T.V?　③アナザーロード　④二人だけの渚　⑤Family Snapshot　⑥晴れた空と曇の色　⑦Changes　⑧ムーンサルトラブ　⑨パンク兄弟　⑩くせになりそで



（Bonnie Duck!?）

SPACE DRIVER／VENUS PETER



●ポリスター　PSCR-1058　9月2日　¥3000（税込）
①EVERY PLANETS SON　②ELECTRIC SEA　③SO WALK OUT　④SPLEND OCEAN BLUE　⑤THE SWEETEST NOTHING　⑥REFLECTION　⑦X'MAS WITH THE 3-D CARTOON　⑧RUNNING AWAY　⑨POURING RAIN IN A WINTER　⑩DAY AFTER TOMORROW　⑪SLIP INTO THE STREAM　⑫LIFE ON VENUS　⑬EVERY PLANETS SON(REPRISE)

ナメ猫パワー全開！
Venus Peter, Shuntaro Mino.

（VENUS PETER）

ROCK LOVE／TATSU



●BMGビクター　BVCR-97　9月9日　¥3000（税込）
①NOBODY KNOWS　②SCORPION　③TOO YOUNG TO KNOW TOO OLD TO OBEY　④HONEY CHILD No.2　⑤MIDNIGHT MASQUERADE　⑥HOUSE WORKER　⑦SHE IS…　⑧G-SPOT　⑨RAMBLING ROSE　⑩STRANGE NIGHT OF STONE

愛を…揺さブれ!!
Tatsu

（TATSU）

スーパー・プラトニック楽団H／ハミングス

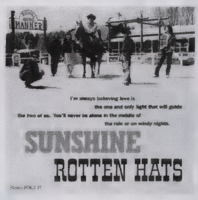


●ソニーレコード　SRCL-2461　9月1日　¥2800（税込）
①憧れの無遅刻・無欠席　②恋のショック　③シビレ・ブギー　④朝4時15分　⑤新聞勧誘員　⑥あのこはママ　⑦もっと　⑧本当ならいいのに　⑨月の上まで　⑩帰っておいでよ、今すぐ　⑪君はもう若くない　⑫扉を開けて　⑬君のことずっと待ってる人がいる

ハミングスの
ニューアルバム
究極のPOPs

（ハミングス）

ALBUM 自己紹介



SUNSHINE／ROTTEN HATS

●キューンソニー　KSC2-17　9月21日　¥2800（税込）
①WALK RIGHT IN ②LIMBO ③ALWAYS ④DRIVE ⑤ONE FINE MORNING ⑥T-BONE SHUFFLE ⑦ON MY MIND ⑧REMINISCENCE ⑨STARLIGHT ⑩STAY

Let the Sunshine in.
（名盤）

（Ki／oon Sony）



ブレッド&バターベスト'92奇跡のヴィーナス／ブレッド&バター

●ファンハウス　FHCF-2028　9月2日　¥3000（税込）
①奇跡のヴィーナス ②IF ③ワイオミング・ガール ④夏の影 ⑤君がいた夏 ⑥ばらけたイニシャル ⑦海岸線 ⑧センチメンタル・フレンド ⑨夢がとぶ ⑩あの頃のまま ⑪アンフィニ

奇蹟のベスト'92

（ファンハウス）



Tonpilipiaca Chocolate／GARLAND

●キューンソニー　KSC2-15　9月1日　¥2800（税込）
①夜のすべり台 ②うしろの正面 ③HOLE ④会いたい涙が止められない ⑤自爆～かもしれない～ ⑥うれしい約束 ⑦悲しみのワナ ⑧チャンネルGood ⑨トンピリピアカチョコレイト ⑩隣のバイエル

2nd Album「トンピリピアカチョコレイト」9/1リリース

（GRALAND）



VOICE of HEART／小野正利

●ソニーレコード　SRCL-2457　9月9日　¥2800（税込）
①ピュアになれ ②声・ロマン ③My Venus ④朝は窓にこぼれて ⑤You're the Only … ⑥Shining Forever ⑦Love and pain ⑧八月の夏 ⑨Believe Me ⑩See You Again ⑪Memory

1st 自信作!!

（小野正利）



炸裂!へなちょこパンチ／シャ乱Q

●BMGビクター　BVCR-2317　9月23日　¥2300（税込）
①ラーメン大好き小池さんの唄 ②お嬢様 ③現代の不良になれない少年達 ④18ヶ月 ⑤パパとイきたい!! ⑥どうして好きといえなかったの?

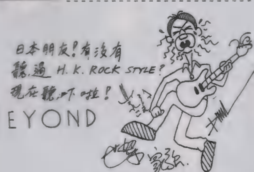
シャ乱Q入門編

（シャ乱Q）



超越／BEYOND

●ファンハウス　FHCF-2031　9月26日　¥3000（税込）
①THE WALL～長城～ ②リゾ・ラバ～international～ ③THE MORNING TRAIN ④風 ⑤孤独 ⑥GUILTY OF LOVE ⑦農民 ⑧HOME SICK SONG ⑨ONLY THE HEAVEN KNOWS ⑩刹那的混沌－INSTANT CRAZY－ ⑪手紙



（訳）日本のみんな!香港のロックを聴いたことがあるかい?
いますぐ聴いてみて!

（BEYOND）



プラチナのサカナ／Reepi Cheep

●コロムビア　COCA-10158　9月1日　¥2000（税込）
①嘘つき ②螺旋旅行者 ③風になれるまで ④Kiss in The Night ⑤虹を追いかけて ⑥いつか ⑦Sleep

風のにおい、空のおと…
すきまの美しさを聴いて下さい

（Reepi Cheep）

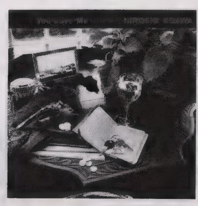


HOT JAM／E-ZEE BAND

●ROCK IT　ROCL-1003　9月9日　¥3000（税込）
①WOW WOW-Time of Bright ②Shining Lover ③BUT-Sherry My Love ④Shady Dance ⑤Ah愛しのBlondy Girl ⑥Boys meet Girls ⑦STAND UP!! ⑧それでも僕は、いっそう僕は ⑨PRIDE&LOVE ⑩JAMしよう

敵なし。
うそだと思うなら…. 聴いてみてね。生熊

（E-ZEE BAND）



You Love Me／小川博史

●MMG　AMCW-4140　9月10日　¥2900（税込）
①ハイウェイ ドライバー ②Second Blank ③I Love You ④コヨーテカフェ ⑤永遠になるために ⑥君は夕陽 ⑦12月のためいき ⑧Dead Old Days ⑨優しい人

まず、早速、とにかく、
やっぱり、
聞いてみて下さい。
小川博史です。
よろしく!!

（小川博史）



SPACE POLYPHONY／LOGIC SYSTEM

●アルファ　ALCA-369　9月21日　¥3000（税込）
①万葉伝説 ②Symmetry Dance ③Mongolian Rhapsody ④白い色は恋人の色 ⑤3.33… ⑥薄紅浪漫 ⑦Views&Visitor ⑧Voyager ⑨Marry Christmas Mr.Lawrence I ⑩花（すべての人の心に花を）

本当のTECHNOです!!

（LOGIC SISTEM）

CONCERT GUIDE

UNICORN

- 9/13(日) 三郷市文化会館①
- 18(金)・19(土) 京都会館㊳
- 21(月)・22(火) 神戸国際会館㊳
- 24(木)・27(日) 神奈川県民ホール①
- 29(火)・30(水) 渋谷公会堂①
- 10/1(木)・2(金) 静岡市民文化会館㊱
- 4(日)・5(月) 福岡サンパレス㉚
- 7(水) 新潟県民会館⑫
- 15(木)・16(金) 尼崎アルカイックホール㊳
- 18(日) 広島厚生年金会館⑰
- 19(月) 倉敷市民会館⑯
- 21(水) 松山市民会館⑯
- 26(月)・27(火) 渋谷公会堂①
- 29(木) 市川市文化会館
- 11/1(日) 群馬音楽センター㊻
- 4(水) 浦和市文化センター
- 7(土)・8(日) 名古屋センチュリーホール㉑
- 16(月) 石川厚生年金会館⑫
- 22(日)・23(月) 北海道厚生年金会館㉛
- 26(木) 青森市文化会館⑨
- 27(金) 岩手県民会館⑨
- 30(月) 山形県民会館⑨
- 12/1(火)・2(水) 仙台サンプラザ⑨

BY-SEXUAL

- 9/22(火) 千葉県文化会館①
- 25(金) 浦和市文化センター①
- 10/6(火) 愛知県厚生年金会館㉑
- 24(土) 大阪厚生年金会館⑬
- 11/15(日) 松本文化会館⑫
- 17(火) 新潟PHASE⑫
- 23(月) 東京NHKホール①

問 03(3497)9555

吉川晃司

- 9/28(月) 大宮ソニックシティ
- 10/1(木)・2(金) 中野サンプラザ①
- 14(水) 神奈川県民ホール
- 20(火) 山梨県民文化ホール
- 26(月) 千葉県文化会館
- 12/9(水)・10(木) 日本武道館①

DIE IN CRIES

- 11/21(土)・22(日) 渋谷公会堂①
- 12/21(月) 大阪サンケイホール①

LUNA SEA

- 9/27(日) 盛岡AUNホール⑨
- 28(月) 青森クォーター⑨
- 29(火) 仙台市青少年文化センター⑨
- 10/1(木) 渋谷公会堂
- 3(土) 新潟PHASE⑫
- 6(火) 水戸市民会館㊻
- 8(木)・9(金) 札幌ペニーレイン㉔
- 12(月) 愛知県勤労会館
- 14(水) 福岡ももちパレス
- 15(木) 熊本フィーリングホール⑭
- 16(金) 広島市南区民文化センター
- 18(日)・19(月) 大阪国際交流センター
- 24(土) 日比谷野外音楽堂⑦

SOFT BALLET

- 10/8(木) 相模大野グリーンホール①
- 14(水) 市川市文化会館①
- 15(木) 大宮ソニックシティ
- 23(金) 札幌厚生年金会館㉛
- 26(月) 栃木県総合文化センター㊻
- 27(火) 群馬県民会館㊻
- 11/3(火) 長野県民文化ホール⑳
- 6(金) 茨城県民文化センター㊻
- 13(金) 広島アステールプラザ
- 14(土) 福岡市民会館⑭
- 16(月) 高知県民文化ホール㉖
- 21(土)・22(日) 大阪厚生年金会館(68)
- 27(金) 新潟県民会館⑲
- 12/6(日) 名古屋市民会館㉑
- 10(木) 仙台市民会館㊴
- 13(日) 青森市文化会館(53)
- 15(火) 京都会館㊸
- 17(木) 静岡市民文化会館

BUCK-TICK

- 9/10(木)・11(金) 横浜アリーナ

米米CLUB

- 10/9(金)・10(土) 浦和市文化センター①
- 12(月)・13(火) 府中の森芸術劇場①
- 15(木)・16(金) 市川市文化会館①
- 19(月)・20(火) 九州厚生年金ホール
- 22(木)・23(金) 愛媛県民文化会館
- 26(月)・27(火) 鹿児島市民文化ホール
- 29(木)・30(金) 倉敷市民会館
- 11/2(月)・3(火) 北海道厚生年金会館
- 9(月)・10(火) 新潟県民会館
- 12(木)・13(金) 石川厚生年金会館
- 16(月)・17(火) 仙台サンプラザホール
- 19(木)・20(金) 郡山市民文化センター
- 26(木)・27(金)・29(日)・30(月) 大阪城ホール
- 12/3(木)・4(金) 名古屋レインボーホール
- 8(火)・9(水) 福岡国際センター

布袋寅泰

- 10/12(月)・13(火) 渋谷公会堂①
- 18(日)・19(月) 日本武道館①
- 22(木) 大阪城ホール⑮
- 11/17(火)・18(水) 名古屋市民会館㉑
- 12/19(土)・20(日) 横浜アリーナ①

THE ALFEE

- 11/28(土)・29(日) 横浜アリーナ⑤、
- 12/2(水) 静岡市民文化会館㉒
- 7(月) 仙台イズミティ21
- 9(水) 札幌厚生年金会館㉛
- 13(日) 長野県民文化会館⑳
- 14(月) 倉敷市民会館⑯
- 15(火) 福岡サンパレス㉚
- 17(木)・18(金) 広島厚生年金会館⑰
- 19(土) 岡山市民会館⑯
- 22(火)・23(水)・24(木) 日本武道館⑤
- 27(日) 名古屋レインボーホール㉑
- 29(火)・30(水) 大阪城ホール⑮

サザンオールスターズ

- 10/14(水)・15(木)・17(金)・18(土) 代々木競技場第一体育館
- 23(金)・24(土)・25(日) 真駒内アイスアリーナ㉛
- 31(土)・11/1(日) 金沢実践倫理記念会館⑱
- 7(土)・8(日) 大阪城ホール⑬
- 11(水)・12(木) 名古屋レインボーホール㉑
- 18(水)・19(木) 浜松アリーナ㉒
- 25(水)・26(木) 広島サンプラザホール㉞
- 12/1(火)・2(水) 新潟産業振興センター⑲
- 8(火)・9(水)・10(木) 愛媛県文化会館㉗
- 22(火)・23(水) 福岡国際センター㉟
- 26(土)・27(日)・29(火)・30(水) 横浜アリーナ⑩
- 1/12(火)・13(水) 仙台市体育館㊴
- 20(水)・21(木)・23(土)・24(日) 名古屋レインボーホール㉑
- 29(金)・30(土)・31(日) 大阪城ホール⑬
- 2/3(水)・4(木)・5(金) 日本武道館

LINDBERG

- 12/8(火) 倉敷市民会館㉞
- 9(水) 広島厚生年金会館㉞
- 11(金) 新潟県民会館(59)
- 16(水) 静岡市民文化会館㉒
- 18(金) 宮城県民会館㊴
- 20(日) 北海道厚生年金会館㉛
- 25(金) 名古屋レインボーホール㉑
- 1/4(月) 大阪城ホール㊳
- 8(金) 福岡サンパレス(50)
- 12(火)・13(水) 日本武道館③

JUN SKY WALKER(S)

- 11/13(金) 浦和市文化センター㉘
- 16(月) 市川市文化会館①
- 17(火) 八王子市民会館①
- 19(木) 姫路文化センター⑯
- 21(土) 和歌山市民会館⑯
- 24(火) 函館市民会館㉛
- 25(水) 北海道厚生年金会館㉛
- 27(金) 仙台市民会館(60)
- 29(日)・30(月)・12/1(火) 渋谷公会堂①
- 9(水) 神奈川県民ホール
- 10(木) 大宮ソニックシティ
- 11(金) 京都会館
- 15(火) 静岡市民文化会館㉒
- 19(土) 神戸国際会館⑯
- 21(月) 徳山市文化会館⑯
- 22(火) 倉敷市民会館⑯
- 24(木) 島根県民会館⑯
- 26(土) 福山市民会館⑯
- 27(日) 広島厚生年金会館⑯
- 1/9(土) 熊本県立劇場(演劇ホール)㉚
- 10(日) 宮崎市民会館㉚
- 11(月) 鹿児島市民文化ホール(第一)㉚
- 13(水) 大分文化会館㉚
- 14(木) 福岡市民会館㉚
- 16(土) 長崎市公会堂㉚
- 17(日) 佐賀市民会館
- 19(火) 高知県民文化ホール⑰
- 21(木) 松山市民会館⑰
- 22(金) 徳島市文化センター⑯
- 24(日) 高松市民会館⑰
- 27(水) 長野県県民文化会館㊵
- 28(木) 新潟県民会館㊵
- 30(土) 富山県民会館㊵
- 31(日) 石川厚生年金会館㊵
- 2/2(火) 福井市文化会館㊵
- 4(木) 浜松市民会館
- 5(金) 四日市市民文化会館㉑
- 7(日) 下呂観光会館㉑
- 8(月) 岐阜市民会館㉑
- 11(木) 郡山市民文化センター⑨
- 12(金) 岩手県民会館⑨
- 14(日) 青森市文化会館⑨
- 15(月) 秋田市文化会館⑨
- 17(水) 山形県民会館⑨
- 19(金) 茨城県民文化センター㊻
- 22(月) 宇都宮市文化会館㊻
- 23(火) 群馬音楽センター㊻

問 03(3352)3779

JUSTY NASTY

- 9/12(土) 広島ウッディストリート⑰
- 14(月)・15(火) 福岡Be-1(98)
- 17(木)・18(金) 神戸チキンジョージ⑮
- 20(月)・21(月) 京都ミューズホール㊸
- 23(水)・24(木) 金沢バンバンV4㊵
- 26(土)・27(日) 長野J(88)
- 29(火) 新潟PHASE
- 12/27(日) 渋谷公会堂③

LOUDNESS

- 9/27(日)・28(月) 渋谷公会堂(65)

忌野清志郎

- 11/27(金) 山梨県立県民文化ホール①

渡辺美里

- 9/13(日) 広島サンプラザ㉞

HOUND DOG

- 9/10(木) 赤穂市民会館
- 17(木) 久留米市民会館㉚
- 19(土) 長崎市公会堂㉚
- 20(日) 佐賀市文化会館㉚
- 22(火) 福岡サンパレス㉚
- 23(水) 九州厚生年金会館㉚
- 25(金) 日向市文化交流センター㉚
- 26(土) 宮崎市民会館㉚
- 28(月) 鹿児島市民文化ホール㉚
- 29(火) 熊本市民会館㉚
- 10/16(金)・17(土)・18(日) 大阪城ホール⑬
- 21(水)・22(木) 名古屋レインボーホール㉑
- 24(土)・25(日)・26(月) 日本武道館①

EARTHSHAKER

- 10/16(金) 大阪アムホール(68)
- 19(月) 名古屋クアトロ(58)
- 27(火) 川崎クラブチッタ(82)
- 30(金) 札幌ペニーレイン㉛

久保田利伸

- 9/10(木)・11(金) 神戸国際会館⑮
- 13(日) 上越市文化会館⑲
- 14(月) 新潟県民会館⑲
- 16(水) 福井フェニックスホール⑱
- 17(木) 富山市公会堂㊺

LÄ-PPISCH

- 9/10(木) 群馬県民会館㊻
- 14(月) 仙台市民会館㊴
- 16(水) 青森市文化会館(53)
- 17(木) 岩手県民会館⑨
- 24(木) 熊本県立劇場演劇ホール⑭
- 26(土) 石川厚生年金会館⑫
- 28(月) 長野市民会館⑫
- 30(水) 千葉県文化会館㉘

The Mods

- 9/12(土)・24(木) 渋谷公会堂⑤
- 10/5(月) 仙台青年文化センター㊴
- 8(金) 札幌市民会館㉛
- 11(日) 愛知県勤労会館(58)
- 21(水)・22(木) 福岡電気ホール㉟
- 24(土) 大阪サンケイホール㊳
- 26(月) 広島アステールプラザ㉞

筋肉少女帯

- 9/12(水) 東京NHKホール②

THE PRIVATES

- 9/11(金)・12(土) 名古屋ボトムライン㉑
- 14(月)・15(火) 新宿パワーステーション①

問 03(5704)6461

THE BLANKEY JET CITY

- 10/26(月)・27(火) 札幌ペニーレイン
- 29(木) 仙台青年文化センター
- 11/1(日) 愛知勤労会館
- 4(水) 福岡都久志会館
- 6(金) 広島アステールプラザ
- 7(土) 大阪厚生年金会館
- 9(月) 渋谷公会堂

問 03(3402)8395

SPARKS GO GO

- 9/13(日)・14(月) 札幌ペニーレイン㉛
- 22(火) 福岡都久志会館⑭
- 24(木) 広島アステールプラザ㉞
- 25(金) 大阪厚生年金会館㊳
- 27(日) 名古屋ダイヤモンドホール(58)
- 10/10(土) 日比谷野外音楽堂①

川村かおり

- 9/15(火) 日比谷野外音楽堂③

LADIES ROOM

- 10/14(水) 名古屋勤労会館
- 18(日) 日比谷野外音楽堂①
- 27(火) 大阪サンケイホール

Zi:kill

- 9/20(日)・21(月) 川崎クラブチッタ⑦
- 24(木) 名古屋ダイヤモンドホール㊱
- 29(火)・30(水) 大阪ウォホール⑬

槇原敬之

- 9/16(水) 札幌市民会館㉛
- 18(金) 宮城県民会館㊴
- 21(月) 富山県民会館⑱
- 28(月) 倉敷市民会館㉞
- 29(火) 高知県民文化ホール㉖
- 10/1(木) 高松市民会館㉕
- 3(土) 広島厚生年金会館㉞
- 5(月) 徳山市文化会館㉞
- 6(火) 松山市民会館㉗
- 9(金) 浜松市民会館㊱
- 10(土) 宇都宮市民文化会館㊻
- 20(火) 熊本県立劇場㉟
- 22(木) 福岡市民会館㉟
- 28(水) 静岡市民会館㊱
- 29(木) 東京NHKホール⑦
- 11/5(木) 新潟県民会館⑲
- 6(金) 長野市民会館⑳

問い合わせ先

①	ディスクガレージ	03(5704)3200
②	ホットスタッフ	03(3857)9999
③	フリップサイド東京	03(3770)8899
④	フリップサイド宇都宮	0286(33)1099
⑤	SOGO東京	03(3405)9999
⑥	SOGO大阪	06(344)3326
⑦	キョードー東京	03(5237)9000
⑧	キョードー札幌	011(221)0144
⑨	キョードー東北	022(223)2188
⑩	キョードー横浜	045(252)9999
⑪	キョードー名古屋	052(962)0511
⑫	キョードー北陸	025(245)5100
⑬	キョードー大阪	06(345)2500
⑭	キョードー西日本	092(714)0160
⑮	夢番地大阪	06(341)3525
⑯	夢番地岡山	0862(31)3531
⑰	夢番地広島	082(249)3511
⑱	FOB金沢	0752(32)2424
⑲	FOB新潟	025(229)5000
⑳	FOB長野	0262(27)5599
㉑	サンデーフォーク	052(320)9100
㉒	サンデーフォーク静岡	054(284)9999
㉓	アーリータイムズ	025(241)1444

11(水)名古屋市民会館㊱
13(金)金沢観光会館⑱
16(月)群馬県音楽文化センター㊻
26(木)茨城県立県民文化センター㊻
29(日)・30(月) 大阪厚生年金会館㊳
問03(3221)8521

SION
10/3(土)仙台BEEB㊴
5(月)名古屋ダイヤモンドホール㊱
6(火)大阪厚生年金会館㊳
14(水)札幌ペニーレイン24㊲
16(金)東京NHKホール①

BO GUMBOS
9/23(水)日比谷野外音楽堂⑤
27(日)大阪野外音楽堂㊳

KUSU KUSU
9/10(木)福岡ビブレホール⑭
10/3(土)日比谷野外音楽堂(65)
問03(3320)1041

高中正義
10/9(金)東京NHKホール⑤

稲垣潤一
11/10(火)・11(水) 日本武道館

町支寛二
10/22(木)名古屋勤労会館
24(土)宮城県民会館
29(木)札幌サンプラザホール
11/2(月)広島アステールプラザ
3(火)大阪厚生年金会館
5(木)福岡電気ホール
11(水)渋谷公会堂

J-WALK
11/13(金)渋谷公会堂①

平沢 進
9/23(水)渋谷公会堂(65)

寺田恵子
9/24(木)新宿パワステ⑤

たま
9/12(土)・13(日) 日比谷野外音楽堂⑤
17(木)中野サンプラザ⑤

PINK SAPPHIRE
9/20(日)新宿パワステ⑤

横道坊主
9/23(水)・10/25(日)・11/23(月) 新宿パワステ⑤

THE POGO
10/15(木)川崎クラブチッタ(82)

DOG FIGHT
9/21(月)広島ウッディストリート
22(火)福岡Be-1㉟
24(木)大阪ミューズホール㊱
25(金)名古屋ELL(58)
29(火)・30(水) 新宿パワーステーション①
10/7(水)前橋ラタン㊻
8(木)新潟JUNK BOX㊵
16(金)札幌ベッシーホール㉛
18(日)青森クォーター(53)
19(月)仙台BEEB㊴

カステラ
9/13(日)新宿パワステ㉙

Les VIEW
12/21(月)大阪ミューズホール㊳
22(火)名古屋ハートランド㉑
27(日)日本青年館

JACKS'N'JOKER
11/4(木)・6(金) 浜松町スズファクトリー

TATSU
11/5(木)浜松町スズファクトリー

メスカリンドライヴ
10/18(日)新宿パワステ㉙

THE YELLOW MONKEY
9/24(木)市川クラブGIO㉘
28(月)横浜クラブ24(70)

FLYING KIDS
9/26(土)大阪クアトロ㊳
27(日)名古屋クアトロ㉑
29(火)・30(水) 渋谷クアトロ②
問03(3400)4859

THE BARRETT
9/23(水)横浜ビブレ③
27(日)市川クラブGIO③
問03(5411)7488

NEW ROTEeKA
9/15(火)横浜クラブ24
20(日)市川クラブGIO
問03(3226)7328

THE MINKS
10/19(月)新宿パワステ

大事MANブラザーズバンド
9/10(木)大阪厚生年金会館
17(木)日本青年館

YAPOOS
9/15(火)名古屋クアトロ㊱
16(水)大阪クアトロ⑬
22(火)渋谷オンエア(65)

エレファントカシマシ
9/19(土)日比谷野外音楽堂①
10/20(火)市川クラブGIO①
21(水)横浜クラブ24①

NeWest Model
9/25(金)・26(土) 新宿パワステ㉙

Mr.children
9/26(土)名古屋ELL
28(月)・29(火) 大阪ミューズホール
10/4(日)新宿パワステ①

16TONS
10/16(金)・11/16(月)・12/16(水) 新宿パワステ①

佐久間 学
9/11(金)札幌ペニーレイン㉛
18(金)新潟JUNK BOX㊵
22(火)広島ウッディストリート[illegible]
23(水)福岡ビブレ⑭
25(金)大阪ミューズホール⑬
26(土)名古屋ハートランド㉑
10/3(土)新宿パワステ①

少年ナイフ
9/17(木)・18(金) 渋谷クアトロ①

久松史奈
9/21(月)新宿パワステ(65)

小野正利
9/10(木)福岡ビーベン㊱
18(日)札幌メッセホール㉛

フレデリック
9/13(日)横浜ビブレ(70)
16(水)市川クラブGIO㉘
23(水)新潟ウッディストリート(97)
24(木)前橋ラタン

フィッシュマンズ
9/16(水)京都磔磔㊳
17(木)大阪クアトロ㊳
11/10(火)新宿パワステ⑤

RIO
9/17(木)東京FMホール①

CHARA
10/29(木)渋谷公会堂①

LORAN
10/15(木)渋谷エッグマン㉙

INFIX
9/11(金)原宿ルイード⑩

Paint in Watercolour
9/25(金)渋谷クアトロ
30(水)新潟JUNK BOX
問025(222)2824

石川よしひろ
9/18(金)新宿パワステ①

GROUND NUTS
9/22(火)・10/16(金) 渋谷ラママ(80)
28(水)新宿ロフト(76)

THE BRICK'S TONE
9/10(木)大分TOPS
11(金)熊本イエロースタジオ
14(月)神戸チキンジョージ
25(金)横浜ビブレ(85)
16(金)北沢タウンホール②
24(土)新宿パワステ(77)

BATTLE MANIA
9/27(日)横浜クラブ24
問03(3352)3779

G.D.FLICKERS
10/22(木)大阪アムホール⑥
23(金)名古屋ボトムライン③
29(木)新宿パワステ⑤

DIAMOND YUKAI
10/4(日)川崎クラブチッタ(82)
21(水)渋谷公会堂①

ZARD
10/5(月)大阪クアトロ⑮
6(火)名古屋クアトロ㉑
20(火)新宿パワステ③

JACK KNIFE
9/15(火)渋谷エッグマン㉙

ACTION
10/29(木)・30(金) 渋谷エッグマン㉘

STALIN
9/15(火)原宿ルイード
16(水)名古屋ハートランド⑪
18 大阪クアトロ(68)

THE真心ブラザーズ
9/20(日)名古屋クアトロ
21(月)京都拾得
22(火)神戸チキンジョージ
23(水)大阪バナナホール

陣内大蔵
10/19(月)札幌ペニーレイン24㉛
21(水)仙台141スタジオ㊴
25(日)福岡ビーベン㉟
26(月)広島ウィズワンダーランド⑰
30(金)愛知勤労会館㉑
11/4(水)大阪メルパルクホール⑮
8(日)渋谷公会堂②

ヒートウェイヴ
10/14(水)新宿パワステ⑤

友部正人
10/10(土)・11(日) 日仏会館⑤

奥野敦士
10/5(月)新宿パワステ⑤

THE THRILL
10/24(土)渋谷オンエア⑤

ラヴミサイル
9/10(木)市川CLUB GIO(75)
18(金)大阪ミューズホール
19(土)名古屋ELL(91)
30 渋谷ON AIR
問03(5273)0173

KAI FIVE
10/11(日)・12(月) 東京厚生年金会館①
15(木)NHKホール①

AION
9/22(火)新宿パワステ③
10/4(土)岡崎カムホール
5(日)名古屋ハートランド㉑
7(火)京都ミューズホール(95)
8(水)神戸チキンジョージ⑮
10(金)博多Be-1㉚
13(月)長野J(88)
15(水)新潟JUNK BOX

Z-BACK
10/26(月)新宿パワステ①
11/6(金)大阪アムホール⑮
29(日)福岡都久志会館㉟

TRACY
9/21(月)札幌ベッシーホール
10/1(木)新宿アンティノック
28(水)長野J(88)
29(木)高岡もみの木ハウス
30(金)金沢バンバンV4(87)
11/1(日)京都ミューズホール(95)
4(水)岡山ペパーランド
5(木)大阪ミューズホール(94)
7(土)名古屋ELL(91)
15(日)川崎クラブチッタ(82)

スピッツ
11/14(土)仙台BEEB
15(日)札幌メッセホール
19(木)名古屋クアトロ㉑
30(月)福岡Be-1㉚
12/1(火)広島ウッディ⑰
3(木)大阪厚生年金会館⑮
7(月)東京よみうりホール③

ハミングス
9/14(月)大阪ミューズホール⑮

Sailin' shoes
9/20(日)・10/19(月) 渋谷ラママ(80)
11/29(日)横浜ビブレ(85)

ELEGANT PUNK
9/29(火)渋谷エッグマン(78)
10/1 代々木チョコレートシティ

THE STRUMMERS
9/16(水)・10/26(月) 新宿ロフト

NICKEY&THE WARRIORS
9/27(日)・10/17(土) 新宿ロフト

THE STARCLUB
10/3(土)・4(日) 新宿ロフト

藤井雅彦
9/13(日)横浜ビブレ(70)
16(水)市川クラブGIO㉘
23(水)新潟ウィディ
24(木)前橋ラタン㊻
11/5(木)渋谷エッグマン

中谷ブースカ
9/11(金)横浜クラブ24(70)
10/22(木)新宿ロフト

SOY SAUSE SONIX
9/15(火)川崎クラブチッタ(82)

梶原秀剛
10/22(木)名古屋ハートランド㉑
23(金)大阪ミューズホール⑥
11/6(金)渋谷クアトロ⑤

水谷 紹
9/11(金)新宿パワステ①

MANNA
9/16(木)渋谷クアトロ

THE KIDS
10/20(火)渋谷クアトロ①

THE SILVER DOGS
10/14(水)日本青年館㉙

ZELDA
9/10(木)新宿パワステ

COLTS
9/23(水)豊橋コンベンションホール
24(木)大阪アムホール
26(土)福岡ビブレホール
27(日)広島ジャンクション
29(火)広島ネバーランド
30(水)岡崎カムホール
10/14(水)・15(木) 新宿ロフト

佐々木和也
9/17(木)・10/16(金) 新宿ロフト

Gilles de Rais
10/21(木)新宿パワステ㉙

鬼頭径五&JUKE JOINT JUNK
10/2(金)渋谷エッグマン(78)
30(金)横浜ビブレ(85)

東京YANKEES
10/27(火)新宿パワステ㉙

幻覚アレルギー
9/24(木)渋谷オンエア㉙

JELLY
10/9(金)渋谷エッグマン⑤

㉔ミュージックギルド 022(222)2033
㉕デューク高松 0876(22)2520
㉖デューク高知 0886(22)4488
㉗デューク松山 0899(47)3535
㉘バックステージプロ 048(866)3888
㉙バックステージ東京 03(3226)7577
㉚くすミュージック 092(791)0999
㉛WESS 011(613)9000
㉜エムズ仙台 022(222)4000
㉝エムズ秋田 0186(34)8558
㉞キャンディプロ 082(249)8334
㉟BEA 092(712)4221
㊱ジェイルハウス 052(936)6041
㊲フェスティバル 011(251)8870
㊳サウンドクリエイター 06(361)9900
㊴GIP 022(222)9000
㊵サウンドソニック 0762(91)7800
㊶ユアソング 011(271)7301
㊷ユニオン音楽 082(247)6111
㊸J音楽企画 075(231)7776
㊹PMエージェンシー 0988(64)1616
㊺ビッグワンプロ 0764(92)4400
㊻アクト 0286(21)2241
㊼K&Mプロ 0992(23)7710
㊽ノースロード 0188(33)7100
㊾ピッツバーグユニオン 096(356)1808
㊿ブレインズ 092(771)8121
(51)アップライト 025(287)1358
(52)MSコーポレーション 022(222)4000
(53)コルクボード 0177(35)9999
(54)キョードーロッケン 048(648)1691
(55)スタック 075(721)4402
(56)スマッシュ 03(3444)6751
(57)ノースロードM 022(222)0700
(58)ジェットプランニング 052(937)6651
(59)サウンドアーティスト 0762(91)7800
(60)フライングハウス 022(297)6304
(61)KMミュージック 045(201)9999
(62)MAP 0985(27)1888
(63)スタッフギャング 03(3496)1196
(64)ブレーントラスト 052(263)9115
(65)ステージフライト 03(5489)2222
(66)ソールドアウトM 0886(22)3488
(67)CATKIDSクラブ 0888(72)5900
(68)グリーンズ 06(454)8834
(69)アーク 03(3321)8844
(70)たむとむスコープ 045(251)6848
(71)札幌ペニーレイン 011(644)1911
(72)青森クォーター 0177(77)4770
(73)前橋ラタン 0272(34)2365
(74)大宮フリークス 048(642)3315
(75)市川クラブGIO 0473(25)1588
(76)新宿ロフト 03(3365)0776
(77)新宿パワステ 03(3205)5270
(78)渋谷エッグマン 03(3496)1561
(79)渋谷クアトロ 03(3477)8750
(80)渋谷ラママ 03(3464)0801
(81)原宿ルイード 03(3403)0123
(82)川崎クラブチッタ 044(244)7888
(83)横浜クラブ24 045(252)4120
(84)横浜7thアベニュー 045(641)2484
(85)横浜ビブレ 045(314)1003
(86)新潟JUNK BOX 025(229)1494
(87)金沢バンバンV4 0762(23)7565
(88)長野J 0262(27)5599
(89)名古屋クアトロ 052(264)8211
(90)名古屋ハートランド 052(202)1351
(91)名古屋ELL 052(201)5004
(92)大阪アムホール 06(316)1777
(93)大阪ウォホール 06(649)2014
(94)大阪ミューズホール 06(245)5389
(95)京都ミューズホール 075(223)0389
(96)神戸チキンジョージ 078(392)0146
(97)広島ウッディ 082(242)8187
(98)福岡Be-1 092(481)7881

ARTISTDIAL COMMUNICATION

利用方法

まずTel 0990・308・260をダイヤル

↓

発信音のあとに、認識番号0をダイヤル

↓

発信音のあとに、好きなアーティストの□□□をダイヤル

↓

伝言を残す人は3をダイヤル　　伝言を聞く人は7をダイヤル

TEL 0990−308−261　発信地／東京都杉並区

この番組はアーティストのファンのための新しいネットワーク。ファン同志の交流の場としてドンドン利用してね。ただし、他のアーティストの悪口を入れたり、アーティストのプライバシーに関わる情報を入れるのはやめましょう。また、アーティストの肖像権、著作権に関する売買は法律で禁じられています。それでは、ルールを守って楽しく利用してくださいネ!! なお、このアーティストダイヤルコミュニケーションはアーティスト公認のファンクラブ・所属プロダクションとはまったく無関係です。

総合ガイダンス ⑨⑨⑨

101	EARTHSHAKER	151	かまいたち	201	ZIGGY	251	Char	301	林田健司	351	THE MAD CAPSULE MARKET'S
102	AION	152	KAMIKAZE	202	SHADY DOLLS	252	チェッカーズ	302	B.B.クイーンズ	352	松任谷由実
103	OUTRAGE	153	嘉門達夫	203	JITTERIN' JINN	253	CHAGE&ASKA	303	PEARL	353	マルコシアス・バンプ
104	UP-BEAT	154	COLOR	204	SECRET GOLDFISH	254	CHARA	304	パール兄弟	354	MALUTI-MAX
105	あぶらだこ	155	GALAPAGOS	205	詩人の血	255	チューブ	305	VIBRASTONE	355	MR. CHILDREN
106	荒木真樹彦	156	川村かおり	206	16 TONS	256	辻仁成	306	PANTA	356	THE MINKS
107	ALCARD	157	KAN	207	SISTER'S NO FUTURE	257	DECAMERON	307	PAN PAN HOUSE	357	ムスタングA.K.A.
108	THE RC SUCCESSION	158	KIX・S	208	陣内孝則	258	TMN	308	BEGIN	358	MESCALINE DRIVE
109	THE ALFEE	159	Cutemen	209	シーナ&ザ・ロケッツ	259	T-BOLAN	309	B'z	359	MOJO-CLUB
110	アンルイス	160	吉川晃司	210	J-WALK	260	DEEP	310	VisioN	360	THE MODS
111	安藤秀樹	161	KRIS KROSS	211	GYMNOPEDIA	261	De-LAX	311	B♯	361	本木雅弘
112	THE YELLOW MONKEY	162	GWINKO	212	JACKS' N' JOKER	262	D'ERLANGER	312	The ピーズ	362	MORRIE
113	E-ZEE BAND	163	筋肉少女帯	213	JUSTY-NASTY	263	Der zibet	313	ピンク・クラウド	363	観月ありさ
114	安全地帯	164	KUSU KUSU	214	The Shamröck	264	電気グルーヴ	314	ピチカート・ファイブ	364	宮沢りえ
115	泉谷しげる	165	楠瀬誠志郎	215	ZELDA	265	チエコ・ビューティー	315	VENUS PETER	365	矢野顕子
116	稲垣潤一	166	久保田利伸	216	少年ナイフ	266	To Be Continued	316	Bonnie Duck!?	366	YAPOOS
117	井上陽水	167	窪田晴男	217	JUN SKY WALKER(S)	267	DOVE	317	福田眞純	367	山下久美子
118	今井美樹	168	グラウンド・ナッツ	218	陣内大蔵	268	東京スカパラダイスオーケストラ	318	B-FLOWER	368	山下達郎
119	忌野清志郎	169	GRASS VALLEY	219	ジル・ド・レイ	269	東京ヤンキース	319	氷室京介	369	憂歌団
120	INGRY'S	170	CRACK THE MARIAN	220	スターダスト・レビュー	270	徳永英明	320	P-MODEL	370	遊佐未森
121	INFIX	171	GRAND PRIX	221	SILVER ROSE	271	戸川　純	321	平松愛理	371	UNICORN
122	THE WILLARD	172	グルーヴァーズ	222	ZOO	272	TRACY	322	Billy&The Sluts	372	UNI-SEX
123	THE WELLS	173	THE GREAT RICHIES	223	SKA♯FUNK	273	Dreams Come True	323	THE PILLOWS	373	妖花
124	X	174	GRAND SLAM	224	すかんち	274	DOG FIGHT	324	WHITE COME COME	374	吉田栄作
125	ARB	175	ケラ	225	杉山清貴	275	永井真理子	325	フィッシュマンズ	375	米川英之
126	江口洋介	176	幻覚アレルギー	226	THE STAR CLUB	276	中島みゆき	326	FAIRCHILD	376	THE RYDERS
127	EPO	177	KENZI	227	スチャダラパー	277	中西圭三	327	FENCE OF DEFENSE	377	LOUDNESS
128	えび	178	小泉今日子	228	STALIN	278	Nav Katze	328	福山雅治	378	RABBIT
129	M-AGE	179	木暮武彦	229	鈴木雅之	279	長渕 剛	329	THE BOOM	379	LAUGHIN' NOSE
130	エレファント・カシマシ	180	子供ばんど	230	THE STREET SLIDERS	280	中村あゆみ	330	THE PRIVATES	380	ランキンタクシー
131	L.L. BROTHERS	181	GO-BANG'S	231	THE STREET BEATS	281	NEWEST MODEL	331	HOT LEGS	381	MORE DEEP
132	AURA	182	近藤房之助	232	Strawbelly fields	282	ニューロティカ	332	THE BLANKEY JET CITY	382	Little Creatures
133	横道坊主	183	COBRA	233	THE STRUMMERS	283	人間椅子	333	Flipper's guitar	383	LOVE MISSILE
134	大江千里	184	米米CLUB	234	SPARKS GO GO	284	NOKKO	334	THE BLUE HEARTS	384	米倉利紀
135	大沢誉志幸	185	THE COLLECTORS	235	SUPER BAD	285	NORMA JEAN	335	PRINCESS PRINCESS	385	LINDBERG
136	岡村孝子	186	GONTITI	236	関口誠人	286	野村義男	336	HEAVEN	386	Luis〜Mary
137	岡村靖幸	187	COMPLEX	237	聖飢魔II	287	BY-SEXUAL	337	BABY'S BREATH	387	LUNA SEA
138	奥野敦士	188	PSY・S	238	SEX	288	HOUND DOG	338	THE BELL'S	388	LUCY'S DRIVE
139	尾崎 豊	189	SIGHTS OF LOVE POTION	239	Sepia'n Roses	289	BAKU	339	MASARINA	389	麗蘭
140	小田和正	190	坂本龍一	240	Z.O.A.	290	BAKUFU-SLUMP	340	BOØWY	390	ネロリーズ
141	織田哲郎	191	SAKANA	241	SOFT BALLET	291	BUCK-TICK	341	BO GUMBOS	391	LADIES R♂♀M
142	織田裕二	192	佐久間 学	242	大事MANブラザーズバンド	292	PERSONZ	342	THE POGO	392	Resistance
143	オルケスタ・デ・ラ・ルス	193	SUBSONIC FACTOR	243	DIAMOND YUKAI	293	とんねるず	343	布袋寅泰	393	RED WARRIORS
144	THE ORIGINAL LOVE	194	サザンオールスターズ	244	Die in Cries	294	BAD MESSIAH	344	牧瀬里穂	394	Replica
145	KAI FIVE	195	佐野元春	245	高木完	295	バビロン大王	345	Mi-ke	395	山本英美
146	カステラ	196	沢田研二	246	高野寛	296	BARBEE BOYS	346	本田恭章	396	YMO
147	GARGOYLE	197	さねよしいさ子	247	高橋幸宏	297	バブルガム・ブラザーズ	347	槇原敬之	397	LONG VACATION
148	KATZE	198	しいもんきい	248	竹内まりや	298	浜田省吾	348	The 真心ブラザーズ	398	渡辺満里奈
149	KATSUMI	199	SION	249	谷村有美	299	浜田麻里	349	町田町蔵	399	WILD FLAG
150	GAO	200	Zi:KILL	250	たま	300	BA-RA-VA-LA	350	松岡英明	400	渡辺美里

●伝言の中に住所、氏名、電話番号などを残し、それが悪用されても、当方は一切の責任を負いかねます。

●ここにアーティスト名が記載されていない場合、また「〇〇〇のアーティストBOXを作って!」という要望などは⓪⑨⑨のオムニバスBOXに伝言を残してね!

電話のかけすぎには、くれぐれも注意しましょう。　プッシュ、ダイヤル回線のどちらでもOK!

この番組は8.5秒10円の情報料＋通話料がかかります。地域によっては遠距離通話料が加算されますので必ずNTTの料金ガイダンスで確認して下さい。

E-NET パーティーライン

0990·308·262
0990·308·272

（発信地／東京都杉並区）

情報料 3分60円

このパーティーラインは音楽ファンのみんなが楽しくおしゃべりできるシステムです。伝言板に待ち合わせ時間を入れて、パーティーラインで、TALKしちゃうってのもいいよね。
(24時間OPEN。プッシュ、ダイヤル回線のどちらでもOK)



E-NET
東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂521
● ● ●
TEL 03-5458-9441

KOJI KIKKAWA 吉川晃司

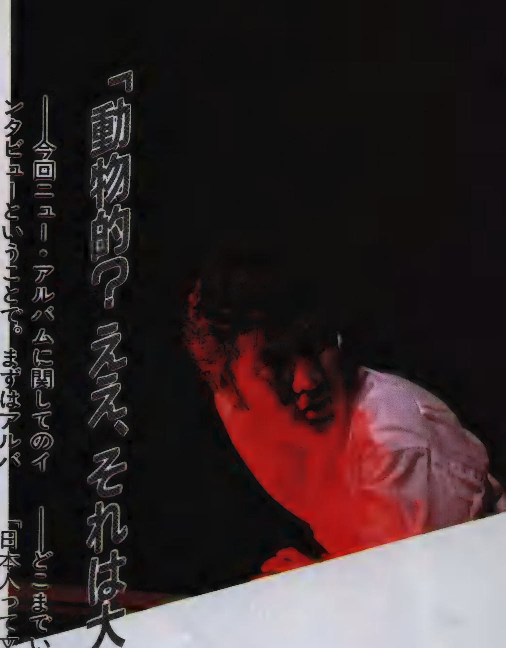
夜に墜ちた逃亡者



"SHYNESS OVERDRIVE"からのいくつかのシグナル

吉川晃司のニュー・アルバム『Shyness Overdrive』が9月9日に発売された。吉川の新たな可能性をふんだんに内包した新作を、より深く理解するためのいくつかのヒントが、このインタビューの中にある！

取材/東條祥恵　撮影/加藤正憲　ヘアメイク/佐藤寛司



「動物的？ ええ、それは大事にしてますね。自分の感性を物質文化に侵されたくない」

──今回ニュー・アルバムに関してのインタビューということで。まずはアルバム・タイトルの『Shiness Overdrive』の意味を聞かせてください。

「平たくいいますとシャイネスというのが臆病とか恥じらいとかそういう意味で、それを増幅滑走させた。疾走とかね。まあターボをかけたというか、直訳するとそういうこと。もとの意味としては、今回のアルバムっていうのが生活の中でさまざまなネガティブな感情を心の奥底に沈めていくよりも、燃やすことによってそれをパワーにしていこうと。そういうことを造語で表現しました」

──アルバムを作り終えて考えたタイトルなのですか？

「そうそう。全部出来て最後に。マスタリングをNYでやってて、ふと思い付いたんです。オーバードライヴってすごい好きで」

──ギターのエフェクター？

「そうそう。それで作業してるときに外人連中にこのタイトルを見せたら、今説明したような言葉が返ってきたから」

──造語でも通じるなと。

「ええ」

──そこで出来上がったアルバムなんですが、まずはシンガー吉川晃司について。全体を通してエモーショナルに歌っているというのが印象的だったのですが……。

「あんまりリズミックに歌うとかテクニカルなアプローチよりも一曲一曲の感情をそのまま歌ったって感じ」

──特にこの曲に感情を込めたというナンバーは？

「それは全体的に。ま、クサいところまでは行ってないと思うケド」

──どこまでいっちゃうとクサいですか。

「日本人って文化的にも血的にもリズムにジャストで歌うよりも前で歌うよりも遅らせて歌うほうが伝わりやすかったりするんでしょうね。矢沢さんなんかもそうでしょ？ 僕は別に意識はしてないケド」

──吉川さんとしては今回の歌い方が感情表現という意味で許せる範囲の限界？

「自分の意識としてあまり感情過多のものは出ないほうがいい。そういった意味では今回が感情を出すパーセンテージではマックスかな、という気がします」

──レコーディングの時、感情移入するポイントは？

「何もしてませんよ。シチュエーション作りは最低限しますけど。あんまりお膳立てしなくても平気かな。僕はね、マイクを持って歌うんですよ。あんまりいいでしょ？ 踊りながらってことじゃないですよ」

──ええ（笑）。

「昔はそんなことなかったんですけど。力入れたり抜いたりするときは体で反応するでしょ？ こうやってつっ立って東海林太郎状態（たとえが古いぞ！）で歌うより感情のままに歌うと〝お〜まえにキス〟って（実際に歌う）体も自然と動くんだよね」

──動物的ですね（笑）

「そうですね。それは大事にしてるとこなんで。自分の感性とかを物質文化っていうんですか？ そういうものに侵されたくないなって」

──そういう吉川さん自身の社会に対するスタンスが出てきたところで、話題を詞の方面に移しましょう。「Fall in Dream」のなかで〝いいことなんて無いぜ ただリアルはリアル〜〟というフレーズがありますが……。

「これはモチーフになったのが渋谷のチーマーの連中との会話。偶然酒場で知り合って。何かやりたいんだけどやりたいことが見つからない、だけど目はギラギラしてるんですよ。夢は誰だってみたい訳で。じゃあもっと汚れた夢でもボヨ〜としてるよりは何かそういうものがあったほうがいいんじゃないかと話したの。それを自分の生活とダブらせて書いた。生活していれば社会に対して不満や危機感は生まれてくる。そういうレベルで自分が感じたことは歌ってもいい訳じゃん？ たとえばラブ&ピースって歌うんだったらやっぱそれに対して自分のエネルギーを使って追求していかなきゃ。半端じゃ歌っちゃいけないと思う」

──自分が責任をもてる範囲でってこと。

「そうそう。だって自分が書いて歌ってんだから。一番ヘンだと思うのが、ロックの代名詞といわれる〝この街はオレにはくだらないから出ていくぜ〟って歌詞あるじゃん？でもその街に実際住んでんだよね。じゃあその歌詞はおかしいよってことになる。〝この街は最低だけど最高のところもある〟ってことだったら判るけどね」

──なるほど。そこまで歌詞に責任を持っている吉川さんですが、今回のアルバムでは2人作詞家の方が共作もありながら参加してらっしゃいますね。依頼した歌詞の傾向を自分で分析すると？

「自分はロマンティストだと思うんだけど、そのロマンチックな比喩がちょっと苦手で。そういうのを手伝ってもらいました」

──「Planet M」の歌詞など優しくてなめらかですよね。

「僕のイメージとギャップがあるかもしれないけど今はそういう歌を歌いたい気分であったことは確か。プラネットMの〝M〟はマザーっていう意味なんだけど。彼女のイニシャルじゃないよ（笑）。大きな意味での愛に感謝を込めて歌ってるの。仕事におわれて母親の誕生日を忘れちゃったりしたんですよ。誕生日ぐらい花束を、それぐらいのことしたいと思ってるから。ただそれを〝ママ、ボク誕生日忘れてゴメン〟って詞を書くと違うんじゃね〜のって思うから（笑）。こういう記事をおふくろが読んじゃうとヤなんだけどね。こういう母のような愛と対極に男は女性を犯したい願望っていうかさ、乱れて欲しいとかそういうのがあるでしょ？その両方が欲しいと思ったんで「SEX CRIME」が生まれたんですよ」

──セットということですね。

「そうそう。プラネットが優しい分、こっちにはAV女優さんの声をサンプリングしたり、それぐらいバカやって並べたかったんですよ」

──吉川さんとしてはどちらの〝愛〟に興味がありますか？

「場面場面違いますよ。男だったら両方いつも見え隠れしてるんじゃないですか」

──そうですか。参考になりました（笑）。あと「星の破片」なんですが、これはバラードですよね。〝臆病なぼくを守ってよ〟という歌詞が吉川さんらしくなくって意外だったんですけど……。

「うん……。その時そういう気持ちになったのかな。だからそういう歌詞、今まで書くのがすごい嫌いだったから。その辺カッコつけしぃなんだけど、自然と出てきたんだよね。これは普段あまり感じない感情の時に書いたの」

──ラブソングに仕上げられてますが、対象は女性ですか？

「じゃないです。愛というより友情みたいなとこなんで、意味は全然ラブソングじゃなかったりするんですけどね」

──どういう友情なんですか？

「裏の意味についてはしゃべりたくないんです。この曲に関しては。じっくり読んでみて下さい」

──そうですね。でも、カッコつけしいの吉川さんがこういう自分をみせるようになったというのは？

「それをカッコ悪く思わないようになってきたのかな。結構自分の生活みたって弱虫だしね（笑）。自分の夢に対してはえらく狂暴になれたりするんだけど、その分どっかで出てくる弱さもあるしね」

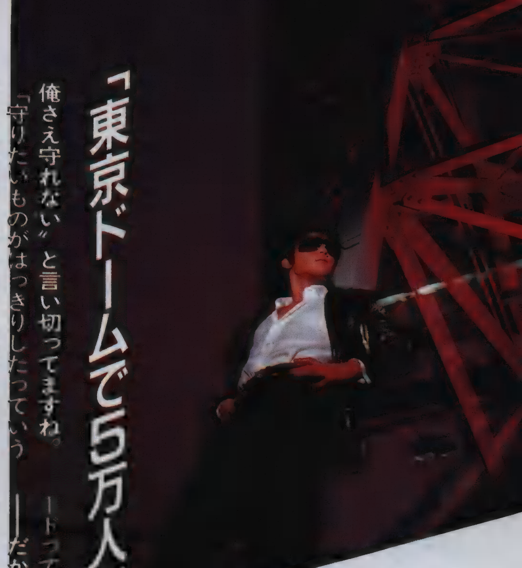
──前回のインタビューで〝守りたいもの〟がはっきりしてきたという発言があったんだけど、「DANDY」では〝俺は



KOJI KIKKAWA 吉川晃司



「東京ドームで5万人相手にするより、テレビのトーク番組のほうがアガったりするね」



——俺さえ守れない〟と言い切ってますね。

「守りたいものがはっきりしたっていうのは、俺、姪っ子がいるんだけど、こいつを怪我させた奴ははブッ殺してやろうとか思う訳。いつも頭なでなでしててやりたいとか」

——守りたいものの一つがファミリー？

「うん。すごくそう思う瞬間と、何か夢を描いているとしたら守るものがあると速度が落ちる訳じゃん？ たとえば二人三脚でね、一人だったら危険地域に飛び込めるんだけど、好きな奴が相手だったらそっちを安全なところへもっていかなきゃいけないじゃないですか。そういう対極にある感情がいつも頭ん中でグルグル回ってんじゃないかな。俺はそうですけどね」

——吉川さんが結婚して家族もったりしたらどうなるんでしょうね（笑）。

「わかんねえ。すごくいいお父さんになるって人もいるけど、子供外にいっぱい作るともいわれる（笑）」

——その対極の感情という意味では、このアルバムはその両方が含まれていると思います。でもマイナスのパワーをプラスに変えるまで、人間ドロ沼に陥りますよね。吉川さんだって自分で自分が嫌になるくらいドロ沼のときってないですか。

「そりゃありますよ」

——そのものが苦しんでいる状態が描かれてこそ、このアルバムは対極の感情表現といえるんじゃないかと思ったんです。

「ほ〜。要するにカッコつけてるんですよ。何か俺の場合、どうしても深いところをいいたくないっていうのかな。上辺の詞が好きなのかな。そういうの、やってる奴いるじゃないですか？ 俺のレコードっていうのは騒ぎたい時にとかさ」

——だからこそ見てみたいっていうのもありますよね。

「でも僕思うんですけど、そんなときに客観的に詞ができる奴ってプロだなと。普通そういう時って何もしなくないですか？ それができる人こそスタイリッシュに作ってるみたいで。もっと能力的に高まってそういう風なことが僕の美意識の中の表現として生まれてくるかもしれないしね」

——カッコつけている部分があるにしてもこのアルバムは現在の吉川さんが一番裸になっている姿だと。

「1992年の僕が全部出ていると思います」

——つぎにサウンドに関してお伺いします。デジタルフラメンコ調の「SACRIFICE」の発想というのは？

「〝カルメン〟を観て感激したんですよ。ただフラメンコをそのままやるとちょっと行き過ぎちゃうんで、ベーシックを打ち込みにしたの。で、メロディの小節も変則なんですよ。これは大成功しました」

——「FANTASIA」は一番音数の詰まったオペラ風のナンバーですが。

「唯一ね。オペラはクイーンですね。フレディーが亡くなったときにアルバム引っ張りだして聴いたらカッコいいなと思って。最初は10分以上の組曲みたいなものを作ろうと思ってたんですが、マスターベーションになってしまうなってことと、10分モノを作ってそこに起承転結をつけるという作業も大変だったというのもあって。はっきりいえば力不足だったんで短くした」

——前回のインタビューで〝シンプル・イズ・ベスト〟のサウンドでメロディと一つ一つの楽器の音を大切にしたということでしたが、その影響か、楽曲それぞれをじっくり聴かせるという流れをアルバムから感じました。

「前のアルバムがパ〜っと聴かせるタイプだったので、その反省点ということもあって。ちょっとバラードとかミディアムの曲が割合としては多いですね」

——そういった意味では、個人的な好みとして「SACRIFICE」や「Planet M」の空気感とかバラードの「RAIN



BEAT」とかとてもセクシーに仕上がっていると思いました。シンガーとしてもセクシーな部分がでてますよね？

「えっ！ホント？ セクシー？ 知らなかった。ファンの連中は特にバラード好きっていいますね。女のファンがバラード好きっていうのは分かるけど、男のファンが好きっていうのがオレもよく分かんない。バラードって照れちゃうからあまり好きじゃないんだけど。もちろんステージじゃ照れないですよ。でもイントロとかで、思いっきりキメてる人とかみると、何やってんだバカ！ と思うけど（笑）」

——今回のアルバムはとくにエモーショナルに歌っているというのもあるんで、バラードがセクシーっていう吉川さんをサウンドと両方で感じられました。

「じゃあいい気になって次はバラードで一枚っていうのをやってみようかな（笑）。でもバラードも紙一重ですからねぇ。魂R&Rってとこから考えてみると、ちょっと遠い存在ですから。嫌いじゃないけど照れるな〜と」

——照れ屋だからこそカッコつけている部分もあるんでしょうね。

「アガり性だしね。どの口がと思ってるんでしょ？」

——ええ（笑）。

「女の子とデートしちゃったりするとアガっちゃったりしてね。フィンガーボールを飲んじゃったりして（笑）。たとえば東京ドームで5万人相手にするより、テレビのトーク番組のほうがしゃべるっていうことに苦手意識があるからアガっちゃうんです」

——カッコつけてる分、器用そうに見えたりしますけどね。

「俺はスッゲー不器用だと思いますよ。そういう自分が嫌いじゃないし。好きなこと、やりたいことに対してずうずうしくなれば後はしょうがないじゃないですか」

——でも、今後吉川さんがもうひとつ突き抜けるにあたって、たとえば詞の部分でもっと照れが無くなっての表現方法というのは……。

「それは成長するってことですよね。だから何でもできる、まっ日本でいうタレントっていわれる集団があるじゃないですか？どこ行ってもアガらない人たち。普通に立ち回れる人。そういう人にはなれないし、なりたくないし。それになれてしまうってスゴい寂しいことだなって。苦手なことは目一杯苦手でいいと思うんですよ」

——そういう面での吉川さんってステージを含めた歌のなかでは見られない部分なので意外でした。

「客には自分の憧れや美意識であるところで接している訳だから。だから決して僕は、来てくれている客の連中より偉いとか利口とか思ってなくて。どっちかっていうと同志っていう気持ちが強いんですよ。ただこの場所（ステージ）に立ってるとオマエらも偉くなれるんだよと。立ちたい奴はおいでよ。頑張って立ってみろ。楽しいぜっていうことなんですよ」

——そして、そのファンもお待ちかねのツアーが始まるわけですが、どんなライヴになりそうですか？

「まだリハーサルに入ってないから……どうでしょうね。ギターがブラボー小松さんと（原田）喧太なんだけど、共通点がなにもないという（笑）。でも、そうだな。すごくシンプルでストレートだと思うよ。あまり飾りつけはいらないなと。俺がセットだ、みたいな」

——もう次のアルバムの構想なんてのはあったりするんですか？

「いやぁ、ライヴが終わって初めてそのアルバム作りが終わる、みたいな意識なんですよ。だからツアーが終わってからですね」

KOJI KIKKAWA 吉川晃司



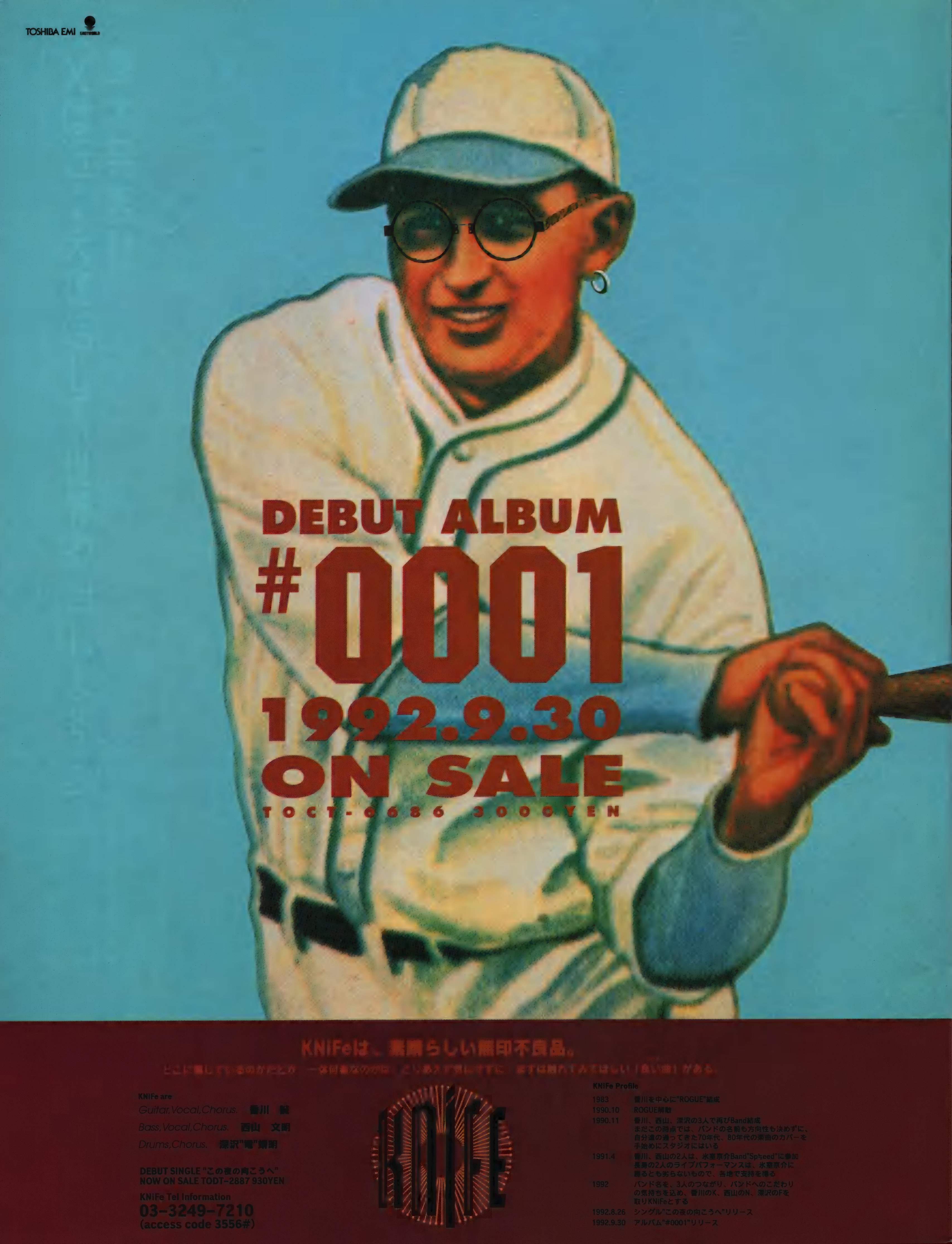
〈きりとり線〉

書籍注文書

●書店(番線)印	●受注 月 日	●部数	●担当者
	●書名 吉川晃司ライブ写真集 定価2500円(税込) 絶賛発売中!!		
	●あなたの名前	●TEL.	
	●あなたの住所 〒		
書籍扱い	●出版社名 (株)音楽専科社 〒104 東京都中央区銀座5-1-7数寄屋橋ビル5F ☎03(3574)0201 FAX.03(3574)8548		

※この注文書は切り取らないでコピーしたものでもかまいません。


TOSHIBA EMI
EASTWORLD
吉川晃司
KOJI KIKKAWA
NEW ALBUM NOW ON SALE
Shyness Overdrive
TOCT-6671 3,000YEN (WITH TAX)
初回プレスのみメタリックステッカージャケット&ピクチャーCD
NEW SINGLE ジェラシーを微笑みにかえて NOW ON SALE
SONG & WORDS BY KOJI KIKKAWA COUPLING WITH : RAIN BEAT TODT-2873 1,000YEN (WITH TAX)
CONCERT TOUR '92
9.25 (FRI) 群馬県民会館 問/フリップサイド宇都宮 0286-33-1009
9.26 (SAT) 栃木県総合文化センター 問/フリップサイド宇都宮 0286-33-1009
9.28 (MON) 大宮ソニックシティ SOLD OUT
10. 1 (THU) 中野サンプラザ SOLD OUT
10. 2 (FRI) 中野サンプラザ SOLD OUT
10. 5 (MON) 函館市民会館 問/WESS 011-613-9000
10. 6 (TUE) 北海道厚生年金会館 問/WESS 011-613-9000
10.11 (SUN) 沼津市民文化センター 問/ブレーントラスト 052-263-9155
10.14 (WED) 神奈川県民ホール SOLD OUT
10.15 (THU) 名古屋センチュリーホール 問/ブレーントラスト 052-263-9115
10.16 (FRI) 静岡市民文化会館 問/ブレーントラスト 052-263-9115
10.19 (MON) 茨城県民文化センター 問/フリップサイド宇都宮 0286-33-1009
10.20 (TUE) 山梨県民文化ホール 問/ディスクガレージ 03-5704-3200
10.26 (MON) 千葉県文化会館 SOLD OUT
10.27 (TUE) 神戸文化ホール 問/夢番地大阪 06-341-3525
10.28 (WED) 岡山市民会館 問/夢番地岡山 0862-31-3531
10.30 (FRI) 神戸文化ホール 問/夢番地大阪 06-341-3525
11.17 (TUE) 広島厚生年金会館 問/キャンディープロモーション 082-249-8334
11.19 (THU) 長崎市公会堂 問/BEA 092-712-4221
11.21 (SAT) 福岡サンパレス 問/BEA 092-712-4221
11.22 (SUN) 鹿児島市民文化ホール 問/K&M プロモーション 0992-23-7710
12. 1 (TUE) 山形県民会館 問/G.I.P. 022-222-9999
12. 3 (THU) 宮城県民会館 問/G.I.P. 022-222-9999
12. 4 (FRI) 岩手県民会館 問/G.I.P. 022-222-9999
12. 9 (WED) 日本武道館 問/ディスクガレージ 03-5704-3200
12.10 (THU) 日本武道館 問/ディスクガレージ 03-5704-3200
12.15 (TUE) 金沢市観光会館 問/サウンドソニック 0762-91-7800
12.17 (THU) 長野県民文化会館 問/F.O.B 長野 0262-27-5599
12.22 (TUE) 新潟県民会館 問/F.O.B 新潟 025-229-5000
12.27 (SUN) 大阪城ホール 問/夢番地大阪 06-341-3525
全席指定¥4,500(税込) 企画:セブンスエンタープライズ 制作:セブンスソフトハウス 後援:東芝EMI
NOW ON SALE
Album
"TOO MUCH LOVE"
1992.3.11 TOCT-6445
"LUNATIC LION"
1991.5.17 TOCT-6100
Single
"ジェラシーを微笑みにかえて"
1992.8.5 TODT-2873
"せつなさを殺せない"
1992.2.6 TODT-2798
"Virgin Moon"
1991.4.12 TODT-2642


TOSHIBA EMI
DEBUT ALBUM
#0001
1992.9.30
ON SALE
TOCT-6686 3000YEN
KNiFeは、素晴らしい無印不良品。
KNiFe are
Guitar,Vocal,Chorus. 香川 誠
Bass,Vocal,Chorus. 西山 文明
Drums,Chorus. 深沢"竜"靖明
DEBUT SINGLE "この夜の向こうへ"
NOW ON SALE TODT-2887 930YEN
KNiFe Tel Information
03-3249-7210
(access code 3556#)
KNiFe Profile
1983 香川を中心に"ROGUE"結成
1990.10 ROGUE解散
1990.11 香川、西山、深沢の3人で再びBand結成
まだこの時点では、バンドの名前も方向性も決めずに、自分達の通ってきた70年代、80年代の楽曲のカバーを手始めにスタジオにはいる
1991.4 香川、西山の2人は、氷室京介Band"Spheed"に参加
長身の2人のライブパフォーマンスは、氷室京介に勝るとも劣らないもので、各地で支持を得る
1992 バンド名を、3人のつながり、バンドへのこだわりの気持ちを込め、香川のK、西山のN、深沢のFを取りKNiFeとする
1992.8.26 シングル"この夜の向こうへ"リリース
1992.9.30 アルバム"#0001"リリース



デビュー・アルバム『#0001』9/30リリース!

元ROGUE、そして氷室京介のツアー・バンド
SP.≒eedとして活躍してきた
あの男たちが、新しいバンド
KNiFeとしてデビューする。
香川誠(g、vo)、西山文明(b、vo)
深沢(竜)靖明(ds)の本物のROCKが
今日本を席巻する!

8/26にシングル「この夜の向こうへ」をリリースする新生バンドがいる。彼等は、シングルに引き続き9/30にアルバム『#0001』を、リリースする。アルバム・タイトルにもなっているKNiFe、これが彼等のバンド名だ。

実はこのバンド、ローグ解散後に香川誠(g、vo、cho)、西山文明(b、vo、cho)、深沢靖明(dr、per、cho)という楽器陣3人で結成されたバンドである。バンド名の中に3人の名字の頭文字が使われていることに、気付いてもらえただろうか。ここにうかがえる固い結末、これまでの10年間に培って来た確かな絆を基盤に、3人は新しいバンドとしてスタートした。

* *

——ローグが解散してから、このバンドが結成されるまでのいきさつを聞かせて下さい。

香川「なんとなくまたこの3人で集まってやりましょうかっていうのを結成とすれば、時期的には、ローグの正式な解散発表が90年10月だったんだけど、その1ヵ月前の9月ですね。解散したから、他のメンバーを新たに集めてやらなきゃいけないっていうこともないし、個人的にも俺はこのふたりとはやり残したことが沢山あると思ってたから。それをあえて他の人とやることもなかった。だから、手近だからとか、仲がいいとか、付き合いがあるからとかいう理由で決めたことじゃなかった」

深沢「俺も感覚的にはなっからこの3人でやるつもりでいたし」

西山「その時点では誰がヴォーカルをとるとか、そういう現実面は考えてなかったけど、他にヴォーカルを入れるにしても、とりあえずこの3人が基本っていうことだけは考えてた。」

——じゃ、もしかしたら、もうひとり新しいメンバーを入れるかもしれないっていう考えはあった?

西山「ローグの時には4人っていう形態にこだわってたけど、その点では今回は自由にやってみたいなって思ってた」

——やっぱりこの3人の繋がりっていうのは、それほどまでに強かった、と?

香川「バンドなんてそんなもんでしょ。まして10年もやれば、言わなくてもわかる部分もあるし。だから、逆にローグの解散理由がそこにあるのかもしれないね。だいたいミーティングなんて大嫌いだったから、顔を合わせて意見を交換しあうなんていう機会はなかったし、今日のステージでは俺があまり良くなかったという状況があったとしても、そんなことは回りは何も言わないし俺もわかってるけど、特にそのことを口にしないしっていうかんじだった。でも、話し合いや言葉を必要としてたメンバーがひとりいたっていうことだよね。ただこの3人には、それはあまり必要なかった」

——バンド結成後、すぐにスタジオに入って曲作りを始めたの?

香川「実質的には7月からの4ヵ月間、3人とも楽器に触ってない、家でも練習しなかったし」

——え、なんか願をかけたり?

香川「いやいや(笑)、それだけ弾く気が起きない。そんなもんですよ、スーパー・テクニシャンじゃないから、ひとつのバンドが終わってからも、現状を維持するために必死で練習するなんてこともないしね。だから、この3人でスタジオに入ったら、リハビリから始めた。立ったままギターを弾けるでしょーか?なんてところから。で、オリジナルはないから、コピー。とりあえずローグの曲はナシだから、じゃ3人で何が演奏できるかっていうと、要するに若い頃にやったことあるヤツ。困ったもんだよ(笑)、それこそ「スモーク・オン・ザ・ウォーター」とかキッスとかU2だったり」

——でも、楽しそう。

香川「楽しいよ。もう合同演奏の楽しさを再確認したね。ただ、弾くのは楽しいんだけど、歌がね。誰かが歌うことにしてもなかなかちゃんとは歌わなくなっちゃったりしてたから、少し前向きになって、ヴォーカル・オーディションもやったんだけど。結局俺達とバック・ボーンや話が合うっていうのは、ジジイなの。で、その歳まで日の目を見てないとなると凝り固まっちゃって、ただの偏屈オヤ

KNiFe

K KAGAWA MAKOTO
N NISHIYAMA FUMIAKI
F FUKASAWA YASUAKI

本物にこだわり続けてきた男たちの自己証明

インタビュアー／星野京子

ジだし（笑）、若けりゃ若いでギャグも通じないほどジェネレーション・ギャップがあったりで。これもまた暗黙の了解のうちに、この3人の中の誰かが歌おうっていう雰囲気になってた」

＊　＊　＊

メンバー言うところの、ギター立ったまま弾けるかな？レベルのリハビリは、実は新しいバンドへ向けての精神的なものだったに違いない。

精神的に原点に戻った彼等が、最初に提示した音楽『#000ー』には、面白おかしい呼び込みや媚びや親切丁寧な説明、カテゴライズの類いは全く見当たらない。それだけに、これまでの音楽シーンに慣らされている耳には、少々突き放された感覚を覚えるかもしれない。が、私達から少し距離をおいた存在感やその緊張感。3人がうねりながら絡み合うグルーヴ感が、様々なタイプのどの曲にも感じられ、それが全体の統一感を生み出しているところなど、これぞロック！と思ってしまうのである。

――新しいバンドでスタジオに入ってからは、早く世に出たいという一心？

西山「いや、誰かに聞いてもらいたいとかデビューしたいとかっていう以前に、自分達で音を出したり曲を作ったりすることに喜びを感じてたから、そういうあせりは全くなかった。ローグでは、好きで始めたことなのに皮肉なもんで、いつの間にか自分達の意志に関係なくスケジュールに縛られて曲を書くとかしてたけど、今回は本当に回りからの拘束が全くない状況で伸び伸びしてた」

香川「それに今度は誰かに頼んでレコード作らせてもらうとか、頭を下げてっていうのはイヤだった。自分達は100出します、それを聞いてどう思われますかっていうかんじでやりたかった」

――ところでアルバムの11曲は、どういう基準でセレクトしたんですか？

香川「それまでに、カスみたいなのも入れればオリジナル全部で30曲近くあったんだけど、去年の3月くらいに自分達でデモ・テープを作ったの、代表曲みたいなかんじのを集めて。それと全く同じ曲」

――かなりの統一感があるように感じたんですけど。

香川「自分達でもあるつもりなんですけどね、ないって言われることもある。自分でもここが統一感だとは説明できないけど、発信源はひとつですからね」

――スケール感じゃないかな。

香川「いいなぁ（笑）、それくらいの大雑把だったら、俺にも言えますよ」

西山「俺達の時代っていうりは70年代のムーブメントとかはある程度体験しているけど、それ以降は音楽も飽和状態になった中でやってきたから、オリジナルとして出す音楽性は、ハードロックならハードロックっていう風にひとつにはくくれない。そういう意味でも色んな曲がアルバムにも入ってるけど、やっぱり自分達の気持ちとか精神状態からの影響が一番大きくて、それが統一感になってるんじゃないかな。ひとつのバンドを解散するまでというのは、すごい体験として残ってるからね。

――リード・ヴォーカルは主に西山くんがとっていますが、やっぱり楽器持つ人が歌うっていうのは、以前とヴォーカルのあり方も変わってるんじゃない？

香川「占める割合みたいなものは、楽器と同じくらい」

西山「それは明らかに前と違う。ローグは歌ものバンドだったけど、それを一度ぶっ壊した時点で今度のバンドでの歌のスタンスは変わってくるだろうっていう話はいつか、珍しくしたね」

香川「歌に関して多少スッタモンダしたこともとあって、抵抗みたいなものがあった。歌ってそんなに偉いの？みたいに。今までどこか歌を奉っちゃうようなところがあったけど、楽器班の純粋な解釈としては歌も同等。ドラムのカウントがなきゃ、歌も始まれないじゃないって」

――KNiFeとしてはまだ始まったばかりですが、今後のビジョンとしてはどんなことを考えてますか？

西山「これからももっと名盤を作りたい。精神的に全くそっちの方向を向いてますね。人に聞いてもらうには、売れるにはとか、そういう引き戻す作業に追われて音楽がルーティン・ワークになるほどつまらないことはないっていうことは、身をもって知ったから」

香川「ライヴにしてもある程度の完成形を見せたい。一緒に成長しようぜ！みたいなのじゃなくて（笑）。ファンとの関係は常に間に引いた線を確認しながら楽しみたいと思う」

BINETSU FREAK

冷めているより微熱(あつ)くなろうぜ！読者参加の音楽生活必需ページ

あれっ?! ビネツかな '92

9月です。長かった夏休みも終わり、学生の皆さんは新学期をむかえたことと思います。またまた勉強の毎日ですね…ざまーみろー！人生楽ありゃ苦もあるさ、遊びのあとには仕事が待ってるものよ。あなたも私もおんなじよ(笑)。夏休みの宿題をまだ残しているばかもんはさっさとやれよ、歯磨けよ（by2ヵ月連続カトちゃん）

4月号でYOSHIKIの素顔を見たという名古屋市のYOKOさん、私もそのビデオを見ました。その日私は行くあてもなく行きつけのレコード店でビデオのコーナーのところを見ていました。するとXという文字の入っているビデオを発見し、「あれーXのビデオは全部もってるはずなのにナー」と思い、深くは考えずにそのビデオを買いました。早速見てみるとXが出ているのは最後の10分だけ。やっと出てきたと思ったら見たことのあるシーンばっかり。「あーあ、このビデオははずれだな」と思っていたら…いきなりYOSHIKIがスッピンで話してるじゃないですか！髪型とかでわかったんですが…うーんうーん、何だかパンダに似ているような…。うーんうーん、でも何回も巻き戻してみているうちになかなか味のある顔してるなって思いました。（けっこうイカス）しかしこのビデオって本当に貴重ですねYOKOさん。

広島県・タイ焼きタイジ

★パンダ！パンダねえ…うーんうーん(笑)。確かに超レアなビデオのようですね。

私はXの大ファン。特にYOSHIKI命で一日中YOSHIKIのことばっかり考えている毎日です。友人（女）でYOSHIKIにそっくりな子がいて少し喜んでいたのですが…最近誰だろうがどんな人だろうがYOSHIKIに見えてしまうんです。この前なんかぜんぜん似てない教師までYOSHIKIに見えてしまいました。こんな私はおかしいんでしょうか…そんな私はYOSHIKI病…。

狂剣舞

★似てないってわかってるのに見えちゃうんだ。ふーん、不思議な病気だねぇ…。

私には今大好きというバンドが2つあります。BY-SEXUALとLUNA SEA。本当に好きです。私は11才の小6、親はライヴなんて行かせてくれない。小学生でもライヴに行ってる人はいるのにどうしてだめなのって…すごく悔しいです。Jさんが言ってた「ビデオなんかでライヴが伝わるわけない」って。腹がたった。私もライヴ行きたいって思った。LUNA SEAやBY-SEXに会えるのはいつなのかわかりません。いますぐ会いたい。私の夢はLUNA SEAとBY-SEXUALのライヴに行くこと。

大阪市・井上あこ

★中学生になったら行けるようになるのかな？ご両親に信用されるような中学生になれるように今から自分を磨いていて下さい。

長野県のHIDEちゃんさん、私はあなたがうらやましい、そんなすてきな夢を見たなんて。私は3年ほど前米米クラブが好きでした。でも石井さんにステージの上から文句を言われる夢を見てショックを受けた記憶があります。あと今年の2月ごろかな？HIDEちゃんが屋根の上で死んでいて（！）私が慌てて駆け寄ると突然電車が走ってきた（銀河鉄道999じゃあるまいし）。その中にはHIDEちゃんのコスプレした安田成美さんがいて泣きながら「HIDEちゃーん」と叫んでいた。つい最近では馬につき飛ばされた。そこに真矢さんがやってきて、「最近多いからな」と言って私を置き去りにしていった。「エックスわりぃかぁー！」と私をにらんだ真矢さんとか…。これらの夢はうそではない。まだまだあるよ、本当なのよ。あーっっ！誰か私に幸せな夢を見させてちょうだい（泣）！

神奈川県・真矢さん愛してる

★安田成美のHIDEコスプレがどーしても想像できない(笑)。もしかしてすんごく貴重な夢見てるんじゃない？考えようによっては…。

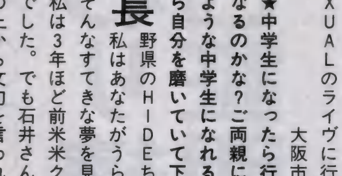
ちょっと考えてみよう

6月号のHIDEchanへ。私もあなたと同じ気持ちです。私のとこは母じゃなくて父です。7／15のLOUDNESSのLIVEにもTAIJIがいると知って行かせてくれませんてせした。最初は知らなかったらしくて行ってもいいって言ってたのに。これだけじゃありません。私宛の郵便物を中身を見て隠したり捨てたりするんです。「今日は○通きとって、中味見たらまたXのことしか書いてない」とか嫌味っぽく言ってくるし。部屋に勝手に入られて雑誌やポスターを破られたことも何度もあります。口答えすると「これだけ言ってもわからんのか」とか言いながらどこでも構わず殴りだして…そのアザは2週間くらい残ってました。反抗なんてする気はないけど私のいうことを何も聞こうとせずに頭から悪いと決めつける父には我慢できません。確かに生んでくれた親には感謝しないといけない。それはわかるよ。でもやっぱりてめェの産んだ子供がどんな考えをもってるのか知ってほしい。

愛媛県・EXTASY大好き

★とても長いお手紙でかなり略させてもらったことを付け加えておきます。今までこの問題に関しては家庭内のことだし…という気持ちもあってあえて個人的な意見は避けていたのですが…確かにお父さんもイキすぎているところがあると思いますね。Xがきらいなのか、Xにうつつをぬかしている（お父さんから見ればね）娘が許せないのか、正直言ってそこまで反対する気持ちは私にはわかりません。みんなはどう思ったかな？いろんな意見を聞かせて下さい。

あっ見つけた



「よっちゃん」なんてありそでなさそな食堂のなまえだね。モノクロじゃわからないけど真っ黄色の地に真っ赤な字で〝よっちゃん食堂〟と書かれてあってなかなかのインパクトもの。秀人命さん情報ありがと。この他に「ブティックHIDE」も見つけているそうでまってるよ。

FROMアンケート

長野県のHIDEchanさん、とてもうらやましい夢…私なんて最悪なんてもんじゃない。あのLUNA SEA全員(特にINORAN)が超デブでプールで泳いでんの。お相撲さんの水浴びみたいだった。その日は一日気分が悪かった。でもその1、2週間後にJとSUGIZOが兄ちゃんで友達に自慢している夢を見た。うれしかったけど複雑な気持ちだった…。

神奈川県・ギターができない

★なるほどねぇ、兄妹じゃあねぇ…恋人にはなれないもんねぇ…そんなことしたら○×△♨だもんねぇ。

私はINORANさんに後ろから抱きつかれて、耳元でささやかれてっていう素晴らしいときを過ごしました…っていう夢を見たい。私の友達はJくんの子供を産んでしまった夢を見たんですよ。INORANさん、私の夢にでてきてぇ…。

山形県・死んだカナブン

★みんないろんな夢見てるなー。まっ夢の中ではなにしたって許されちゃうもんねー。見たもんがちだ!

6月4日にLUNA SEAのLIVEに仙台まで行ってきました。それも友人の結婚式ということにして(笑)。メンバーが会場入りするのを待ってSUGIZO様と握手までしてしまったの! うれしかったけど職場の人に言えないこの辛さ…(笑)。結婚式に行ってSUGIZO様と握手するヤツなんていないもの(笑)。

岩手県・INORANのトトロ

★そりゃ言えないわね(笑)。でも結婚式に本当にいたりしたらすごいけどね。

スパゴーはいいよー。スパゴーはいいねー。頭をHIGHにさせてくれる。自然体で気持ちがいいんだよー。脳天気なのもね。L.A.気候のもとで音はいいしさ。スパゴー知らなかったらあなたはバカよー。

北海道・直属のまた直属宣伝屋

★地元の英雄って感じでしょうか(笑)。確かにスパゴーはいいよね。

うちんちの犬はスパゴーの八熊さんにちなんで「ヤック」という。しかし近所のガキンコたちは「やっくん」と呼び、向かいのおねえさんには「もっくんの方がいいのに」と言われた。シブガキ隊の「やっくん」ではないのに悲しい。どーせならグッバイの「やっちん」にしてほしい…。スパゴーがんばれ、アリーナがんばれ、私もがんばる。

京都市・ハリケーン・デンジャラス・ボインダーvoii.

★シブガキ懐かしいねー。やっちんとはまたマニアックな(笑)。

こないだ漢字辞典にたすくっていう人名に使う漢字があった。すごいと思った。驚いた。

松江市・たすくって漢字があるんだね

★その〃たすく〃っていう字、今だわからず(笑)。どういう字か誰か教えて。

8月号の巻頭特集でめったに歯を見せないEBIさんが歯を見せて笑っていてよかった。別に歯を見せていても変じゃないよ、EBIさん。

大阪府・HAZUFUMI

★えっ、本人そんなこと気にしてたの? さすがフリークは目ざとくみつけるねえ。

UNICORNを「うんこ」と読んだ人がいる。

新潟県・EBIさん♥

★んなやついねーよ(笑)。「ユニコーン」ならいたけどさ。

たまごやきもまともに作れない私に愛の手を…。

仙台市・たまごやきの作れない女

★たまごやきをマスターすればほかの料理も征したことになる…といわれるほどたまごやきって難しいんだよ。目玉焼きから挑戦しなさい。んじゃまた来月。

LIVE DE BINETSU!

学生のみんなは夏休み中いろんなライヴに行っていい思い出ができたでしょうか? せっかく時間もあることだし、日記がわりにレポートでも書いてみてはどうかな。絵日記ライヴレポートも大歓迎です!

7月4日、日清パワーステーションのSATURDAY NIGHT R&R SHOWへ行ってきました。出演はデルジベット、G.D.フリッカーズ、ストロベリーフィールズの3バンドです。実は生まれて初めてのライヴなので、勝手がわからず「どうしましょう」と思っていたのですが、最初のデルジベットが「VICTORIA」からノリの良い曲をどんどん飛ばし、ISSAYが客席をあおったら、単純な私はプッツリ切れてしまい、周りも気にせずおおはしゃぎ。ISSAYは曲の間で「いいイベントだよね、楽しいよね」と言ってとーってもやさしい笑顔を見せてくれました。G.D.フリッカーズは私の勉強不足で曲名がわかりませんでしたが(ごめんなさい)ハードだけど暖かい思いがしました。最後のストロベリーフィールズでもう会場内が暑くて熱くて汗まみれ。でもLEZYNAK真前でうれしくてうれしくてほとんど覚えてないんです。あんなに音が大きいと思わなくて、耳鳴りは一週間続いていましたが、2kgやせました。本当に楽しいライヴでまた行こうと心に決めています。

東京都・KARA

★うれしくてうれしくて覚えていないってところがかわいい(笑)。でも今度はしっかり覚えてまたレポート送ってきてね。

6/19、名古屋クラブクアトロ。なかなかライヴをやらなかった林田健司がやっとやるらしいと聞いてから毎日そわそわと落ち着かなかった私です。開演4時間前からどこに並んでいいのかわからずウロウロ。(実は私こういうところは初めて)並び初めてしばらくしたら周りの子たちと和気あいあい。前の子は京都、後ろは大阪、神戸と関西ばかり。大阪東京都も即日完売とかでわざわざ名古屋まで仕事を休んで来たとか。私ほど林田ファンはいないと思っていたけど、こんなにファンがいてうれしくなってしまった。「4人で盛り上がろうね」とワイワイ言っている間に林田登場! 写真もいいけど本物はもっときれい、あまりの興奮に声も出なくなった私です。目の前であの甘い声で歌われてうっとり。「10月にミニアルバム、2月に3rdアルバム、年末にまたライヴの予定です」という涙が出そうなお言葉で、帰ってからも2、3日眠れなかった。名古屋のみんな、東京、大阪に負けないくらい次回も盛り上がろうぜぇー!

愛知県・実は4人の子持ちです

★最近の主婦はスゴイねえ。今度はお子さんを引き連れていって下さい。

6/28(日)、待ちに待ったZIGGYのライヴに行ってきました。久しぶりに行ったライヴだけど、なんかメンバーも客もすごく明るくて、森重さんも笑わせてくれたり。演奏のサビが変えてあったり「ONE NIGHT STAND」はアコースティック系で聴かせてくれる曲も多かった。終盤の「La vie en ROSE」では森重さん客席まで降りていってモミクチャにされてた。この日は大山さんのご両親がすぐ近くにすわってて、最後まで息子の成長を眺めておりました。アンコールはもう走りっぱなしで、あっという間にライヴは終わってしまったけど、やっと活動してくれたZIGGYに一生ついていけるんだと思ったらうれしくてうれしくてたまらなかった。ライヴに行くことってこんなに感動するものなんだと改めて思ってしまった。

北海道・のらねこの香

★息子の成長を…ってところが涙を誘いますねえ。でもよくわかったね。顔似てたのかな?

「アルフィーは流行の先端を行くような歌は作れないけど、みんなの壊れた心を少しでも直せる歌をいつまでも歌っていきたい」これは6月22日、渋谷公会堂のコンサートでの高見沢氏の言葉。そう、アルフィーにはどこまでも流行にはなってほしくない。いくつものバンドが解散やメンバーチェンジを繰り返す中、流されず続けることは何よりの強さ。私が何の痛みも知らない人間だったならきっと彼らの歌は耳を通りすぎていってしまっただろう。たとえ久しぶりにあった友達に「まーだアルフィーいってんのぉ?」なんて言われようが、3人はどんなときでもそこにいてくれるという思いが記憶を消してしまいたいほど辛いと泣いている心を癒してくれる。だから離れられない。

東京都・まこと司

★レポートというよりはアルフィーに対する熱い思いを語ってくれてますね。

業界人のお部屋

ビクタースピードスターレーベルは、ROCKのレーベルです。でも僕にはディレクターとして、〃フォーク〃のレッテルが貼られています。たしかに昔、アコースティックギターとハープのスタイルだったこともありました。今でも家にはタカミネ特注のダブルネックのアコギがあります。でも会社にベルボトムをはいて来たことは無いし、膝の上でスリーフィンガーをしたこともありません。ただ、ミュージックシーンの3Kと言われる〃フォーク〃のワッペンがいつの間にか縫いつけられていながらもROCKレーベルのディレクターでいるのは、最近スリルさえ感じるようになり、ドキドキします。あと、担当デスクの村田、島田両女史は、送られてきたデモテープの表書きを見ただけでフォークを判別する特技をもっています。当然無言で僕の机の上に積んでゆきます。

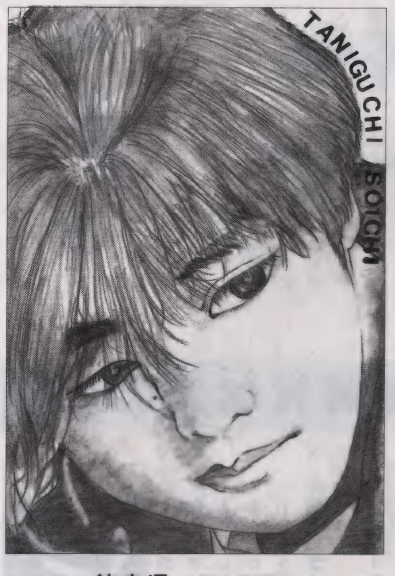
ビクタースピードスターレーベルは、ROCKのレーベルです。でもフォークのテープは僕が聞きます。



お名前:野崎圭一
ご職業:ビクター・スピードスター ディレクター

BINETSU FREAK ビネツもち

今月のビネツもち大賞



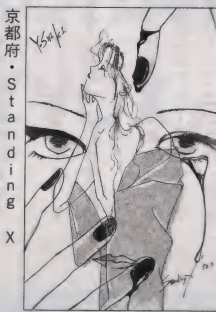
徳島県・TAPIR

BAKUには珍らしいマジなイラスト。宗クンよく似てます。

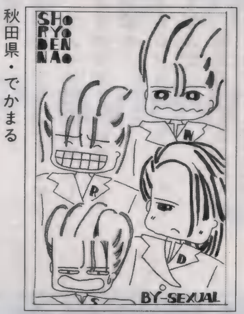
うーん今月はちょーっと不作の月になったかな？出しおしみせずにもっと描いてきなさい。で、先月号表紙のルナシーを早速描いてきた㊙ペンネームもGOODよ。糸川のヨシキも何だか納得しちゃいました。バナナマンのいんぐりもんぐりはクレヨン描き、タカダマユミの今井氏はハンコを利用していてワザが見えるね。ちなみに今回のは「今井氏インド風」だそうな。本人が見てくれるといいね。いもらんのいのらん（笑）お誕生日おめでとう。ひでによろにょろはかわいさで採用。どこがかわいいって？ずーっと見てるとかわいく見えてくるよコレ。



広島市・もよこ〝羅樹〟理恵



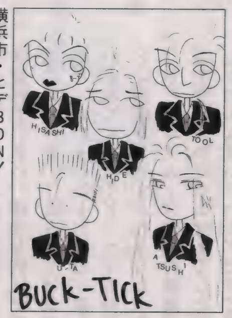
京都府・Standing X



秋田県・でかまる



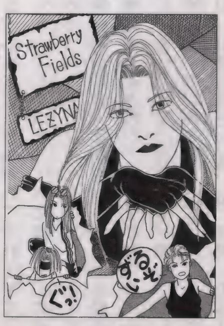
神奈川県・いもらん



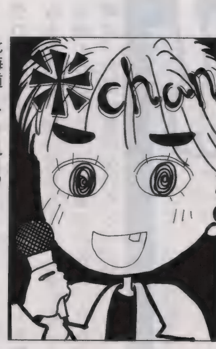
横浜市・ヒデBON！



鈴鹿市・KIRIKO椎名



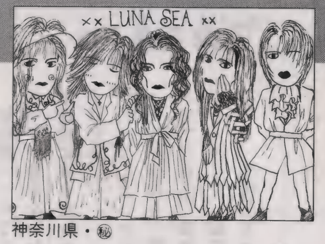
東京都・めぐみ



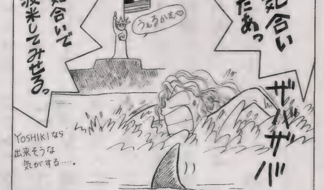
北海道・アワ風呂♥



北海道・タカダマユミ



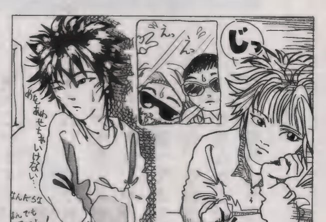
神奈川県・㊙



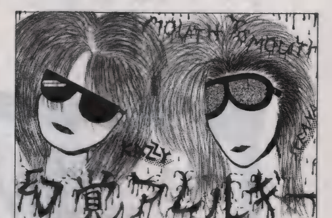
静岡県・糸川琴音



愛知県・バナナマン



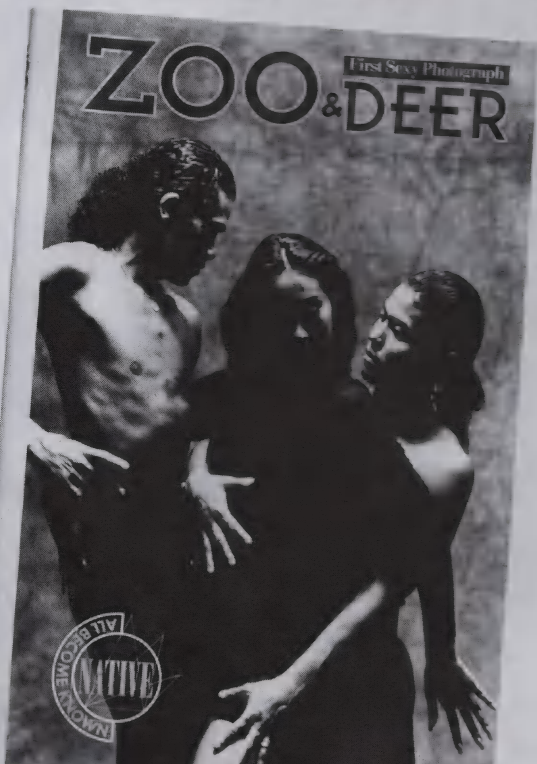
京都府・玻瑠架



和歌山市・ACID



北海道・林



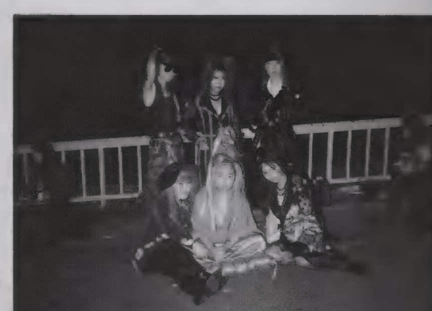
[redacted]

もどきさん
いらっしゃあーい

さーて今月も早速紹介しましょう。まずP・XTASY総長の殺華。総長って何だと思って手紙を見ると…PSYCHEDELIC XTASYていう約500人もいる集団の総長をやってるんだって!うーん…つまりえらい人なのね。次いで櫻井も7/30のヨシキ・トークライヴで撮ったもの。"J"のB-Tは5/19北海道厚生年金会館のPHOTO。今井(J自身)とヒデは姉妹だそうで、うつくしき姉妹愛やねえ。ラストの秀乃は受験生だそうで、がんばってね!(とコスプレにカンケーないコメント)。

ところで私は去る7/26、表参道でXのコスプレ集団の集会を見てしまったゾ。15人くらいはいたかなあ、お互いキャーキャー言いながら写真を撮り合ってた(笑)。あの中にアリーナ読者がいたかどうかはわからないけど、もしいたらあの時の写真を送ってきなさい。しかし、すごかったな…。


◀P-XTASY総長・殺華


▶櫻井佳姫


◀函館市・"J"


▶徳島県・秀乃

ミニコミ紹介

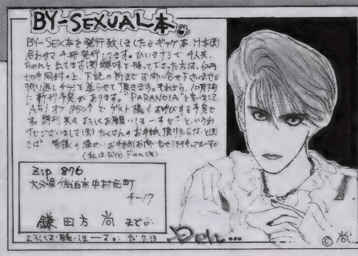


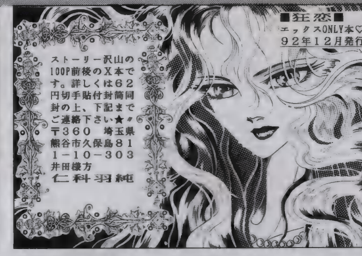
X・HIDE写真集「無言激」パロディ本、「むごんげき♡」オールメンバー登場します。お問い合わせは、左記まで。
〒190-12東京都西多摩郡瑞穂町殿ケ谷1028-6
中垣里美

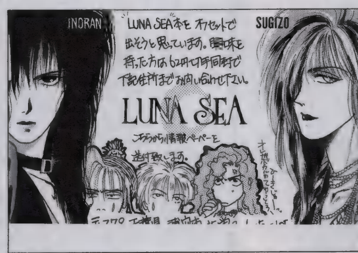
便りがたより

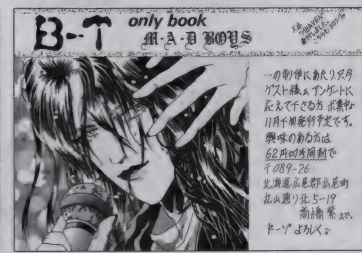
BINESTU　FREAKではみなさんからのおハガキ、イラストなどじゃんじゃん募集しています。
あれっ!?ビネツかな'92…ライヴレポート・好きなアーティストのことetc何でもOK。
（400字詰原稿用紙程度）
ビネツもち・伝言板…ハガキサイズで。（伝言板はヨコ書きで）
ミニコミ紹介…ミニコミ本に紹介文（20字詰め5行まで）をそえて送ってね。
放課後情報…アンケートについている指定の用紙に書いてアンケートと一緒に送ってね。
〒104東京都中央区銀座5－1－7数寄屋橋ビル5F(株)音楽専科社アリーナ37℃○○係
（○○にはコーナー名を入れてね）まで。

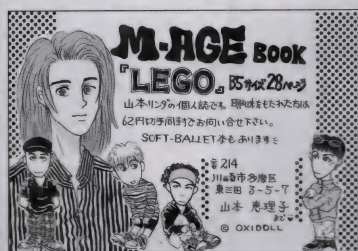
伝言板

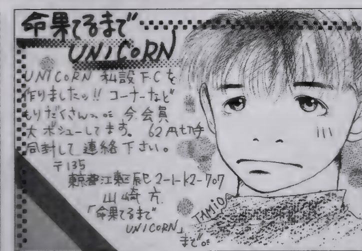


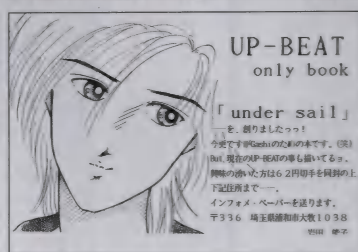


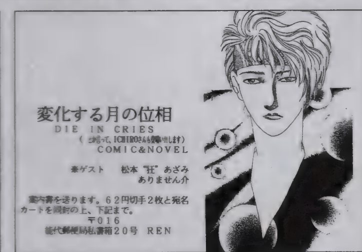


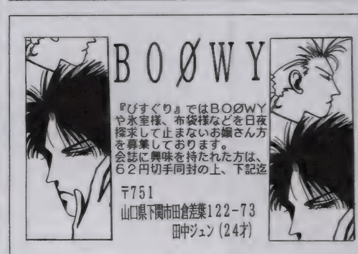


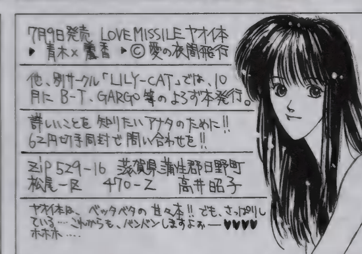


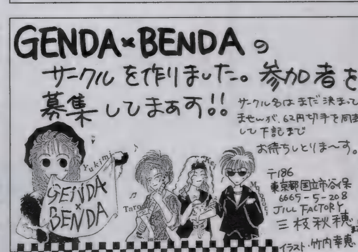














放課後情報
HOKAGO JOHO

私設FCよっといで

★LADIESの私設F・C「HARD・GEY」では、Hでメンバーを愛している人を募集しています。62円切手同封でね。
〒660 兵庫県尼崎市杭瀬本町1の18の12西原方　高松 薫

★BAKUの私設F・C「はじめのだいいっぽ」では会員募集してます。62円切手同封してLetterちょーだいっ!!
〒486 愛知県春日井市八事町2の1-51鈴木方「はじめのだいいっぽ」まで

★UNICORNの私設FC「CORN PANIC!」会員募集中。なにはともあれ切手同封で連絡下さい。
〒601-13京都市伏見区小栗栖中山田町60-15-501　中宮綾子

★ユニコーン私設FC「きういの毛を食うと盲腸になるぞッ!!」では、会員募集中だよ！興味もったら、62円切手同封で連絡下さいね。案内書送ります。
〒135 東京都江東区辰己1-3-17-508　坂田麻依

★LUNA SEA私設FC「奴隷達」では会員&STAFF募集中。なんでもありのFCです。くわしくは、切手同封で連絡下さい。
〒615 京都市西京区桂芝下町31-3吉田方如月優香「ルナシー」係

★SPARKS GO GOの私設FC作ります。会員募集中です。興味のある方は62円切手同封でお手紙下さい。待ってるよ！
〒990 山形市宮町2の14の12　会田ゆきえ

★音楽サークル"Doubledealer"ではただ今スタッフ&会員大募集中です。音楽が好きな人なら誰でもOKまずは62円切手同封で連絡下さいね。
〒606 京都市左京区田中大久保町55-15　笹原ももこ

★"Birth"～今 尾崎の魂はこの胸に永遠と…～という本を作ります。みんなの熱い素直な気持ちを四百字詰原稿用紙(何枚でも)に書いて送って下さい。
〒362 埼玉県上尾市西宮下4-38-8　鈴木敦子

★"MITTERNACHT SONNE"では会員募集中。みんなでB-T FANの友情を深めましょう。詳しく知りたい方は、62円切手同封で、連絡下さい。
〒024 岩手県北上市鍛冶3の5の33局止め"宮仁よしるB-Tサークル係"

★B-Tの施設FC作りました。只今、会員様を大募集中。興味のある方は、切手同封で。男女年令不問です、スタッフの方も募集中です。
〒326 栃木県足利市田中町785　福田ゆうみ

★X・ルナシー・バイセクFAN集れ!! FCでくるっちまおう/通信販売もするゾ。X復活のためにもみんなでがんばろうっ。62円切手同封でこちらまで。
〒814-01 福岡市早良区田734の1「X復活係」まで

★X狂集団「PSYCHEDELIC XTASY千葉支部」では、会員を募集してます。気合いの入ったヤツなら誰でもOK!!とにかく62円切手同封で待つ!!
〒270 千葉県松戸市常盤平1-28-10　片岡夕紀

★よろずサークルでは、B・T、ガーゴイル、ジキル、イエローモンキー、個人でラヴミサイル、やってます。ペーパー購読者募集中、62円切手同封で連絡を。
〒529-16 滋賀県蒲生郡日野町松尾一区470-2 高井様方　阿祈

GO GO LIVE

★LUNA SEA・Zi:KiLL・などのライヴに行こう。インディーズでもOKです。へんじはぜぇ～たいだよん。みんなどんどん手紙ちょーだいね。
〒198 東京都青梅市東青梅4-19-10-214号　三宅久美子

★LIVEにいっしょに行ってくれるFRI募集中/X-FANのみ。中2の中坊だけど気合いは入っとるぞ～。切手同封で。LETまってるよっ。
〒485 愛知県小牧市東田中1705　山本恵理子

★Xがすごく好きな女の子、いっしょにLIVE行ったり、Xのこといっぱいお話しましょ。Xのライヴ、とにかく行きたいんです。連絡まっていまーす。
〒232 横浜市南区永田みなみ台3-18-107　加藤彩子

★UNICORNのファンの方、私と一緒にコンサート行きましょう!!コンサートだけじゃなく一緒に遊んだりもしよう/男女年齢問わず。私は19才です。
〒285 千葉県佐倉市志津1-27-19　後藤麻美

★X・LUNA SEAを心から好きな人。いっしょにコンプレしてライヴに行こう。気合い入ってない人はX。はじめだけ切手同封で。とにかく"気合い"。
〒950 新潟市新石山2-10-17　鈴木結奈

★LUNA SEAのLIVE一緒に行ってくれる人Let下さい。近くに住んでいる人、そうでない人でもOK/とにかく一緒に行ける人手紙まってます。
〒390 長野県松本市女鳥羽3-4-8　井筧絵巨

★De-LAXが大好きな人、私と一緒にライヴへ行ってくれる人、なるべく近県な方でお願いします。まずは手紙から返事は必ず書きます/
〒370 群馬県高崎市下之城町12-4　藤野美栄子

★X・LADIES ROOMが大好きな人、一緒にLIVEに行きましょう。できれば、19才以上の方。まずは、お手紙下さい。よろしくね。
〒930 富山県富山市五番町3-19　室木恵

★UNICORN FANの人で、一緒にLIVE行ってくれる人、手紙まってます!!できれば、女の人がいいです。よろしく。私は高一です。
〒957 新潟県新発田市五十公野6267-3　中村佑子

譲り譲られ……

★音楽雑誌を処分します。希望のアーティストを明記の上、切手同封で連絡下さい。G・スラムの切り抜きと交換可。
〒503-11 岐阜県安八郡輪之内町南波666　加納美佳子

★音楽雑誌を処分します。(切り抜きなし) 62円切手同封で連絡下さい。リストを送ります。
〒720 広島県福山市瀬戸町地頭分21の11　中田恵

★音楽雑誌を処分します。希望アーティスト名を明記の上、切手同封で連絡下さい。(UNICORNはありません。)ほとんど残ってるのでお早めに/
〒232 神奈川県横浜市南区唐沢52　中山名美

★BAKUの89年頃からの切り抜き、写真など譲ります。くわしく知りたい人は62円切手同封で連絡下さい。けっしてソンはしない!!
〒536 大阪市城東区成育3丁目2の1　南有紀子

★BUCK-TICKに関する物売ります。交換もOK。まずは62円切手同封でお手紙ください。いっぱい待ってるんで気軽にどうぞ!!
〒957 新潟県新発田市大栄町5-18-22　川口淳子

★浜田省吾のもの、何でもいいので譲って下さい。特に古いもの、珍しいものお願いします。大事にします。お礼、その他は相談の上で。
〒651-21 神戸市西区玉津町今津6 44-1　山本智子

★BAKUの切り抜きや付録ポスター他BAKUに関するものを譲って下さい。あと、文通して下さる人も待ってます。
〒194 東京都町田市本町田2533 8の5の106　中村加奈

★ユニコーン・JSW・FUSE・米米に関するもの譲ります。リストを送りますので切手同封で。ユニコーン「MOVI-4」(限定盤)も未開封で有り。
〒997 山形県鶴岡市本町3-13-18　斎藤裕佳

★THE ALFEEに関する物ゆずって下さい/おねがいします。まずは、リストを送って下さい。輸送料はこちらでもちます。ぜったいおくってね。
〒882 宮崎県延岡市高野町882　高田早苗

放課後情報

★THE ALFEE以外の切り抜きを売ります。かなり以前の物からありますヨ。切手同封で連絡下さい。あと文通して下さるアル中さんも大募集!!
〒332 埼玉県川口市原町3-17-604 野田由恵

★エコーズの切り抜き等を譲ってください。どんなに小さい物でもかまいません。お願いします。
〒637 奈良県五條市今井町982-2 羽田佳代

★フェンス・オブ・ディフェンスとテレピアスの記事、他を譲って下さい。詳しいリストを同封の上で連絡下さい。宜しくお願い致します。
〒189 東京都東村山市萩山町1の3の15 松田尚子

★川村かおりに関する物を譲って下さい。まず条件を書いて連絡下さい。
〒140 東京都品川区大井7-22-1 横井尚子

★ARBの物何でもOKなので売って下さい。売ってくれた方にはあなたの好きなアーティストの切り抜きをあげます。又、ARBFANの人文通しよう(女のみ)
〒572 大阪府寝屋川市中木田町36-2-904 大岡瑞枝

★DIE IN CRIES・SOFT BALLETに関するもの譲って下さい。
〒064 札幌市中央区南11条17丁目2の5 高橋一代

Letter待ってるよ

★BITが大好きな人。まだFANになりたての私にいろいろ教えてくださる方お手紙下さい。返事確実、たくさんのお手紙まってます。
〒945 新潟県柏崎市松波3-6-32 高橋美智子

★セピアンローゼスを愛してるみんな、私と文通しましょう。たくさんのLETまってます。返事確実だよ。切手なんて同封しなくてもOKさっ。まってるぜ。
〒089-37 北海道足寄郡足寄町北1条4丁目 井上直子

★AURAのFANで"AURAの事なら私にまかせて"という方ぜひ私と情報交換しましょう。だれでもけっこう!今すぐ手紙ちょうだい。返事は確実!!さあ!
〒869-11 熊本県菊池郡菊陽町津久礼1958 山本沙織

★福山雅治SANが大好きな私と文通して下さい。彼のこと詳しく知らないので、いろいろ教えて下さい。年令性別問いません。返事は確実!!
〒819-11 福岡県糸島郡前原町大字神在815の4 市丸めぐみ

★全国、沖縄から北海道の皆様、B'Z、福山雅治さんのFANの私です。LETTER待ってます。返事は確実で〜〜すよ。
〒421-04 静岡県榛原郡榛原町細江3248 粂田香子

★福山雅治FANで、一生愛し続けるという人は、お手紙くださいっ!!できれば15歳以上で福山君をずっと前から知ってる人がいいです。
〒657 兵庫県神戸市灘区新在家南町3丁目13の17 海邉直子

★ZOO&DEERがすごく大好きで、末長く続けられる方、私と文通して下さい。年齢性別関係ありません。letter待ってます。ヨロシク!
〒509-92 岐阜県恵那郡坂下町坂下4224の3 斎藤真

★ZOO&DEERのFANなら誰でもOK!!今すぐ手紙をおくれでないかい。男女問わずまってます。
〒957-01 新潟県北蒲原郡聖籠町真野1340-19 清野慎子

★JUN SKY WALKER(S)のファンの方、文通しましょう。男女問いません。初回だけ切手同封してください。私は呼人ファンです。
〒010-14 秋田県秋田市仁井田浮中町5-12 佐藤千寿

★B'Z、米米クラブが好きな僕です。一緒にライヴ行ってくれる人もまってます。返事は必ず書きます。
〒457 愛知県名古屋市南区赤坪町91番地 酒井勉

★MR. CHILDRENのこと大好きな人、手紙下さい。MR. CHILDRENのことおしえてくれる人も手紙下さい。返事確実。(私は高二です)
〒612 京都市伏見区羽束師鴨川町343-20 谷川花子

★ルイ・マリーのことならまかしとけというあなた。ライヴにつれていってやろうというあなた。手紙をくれてやろうというあなた!!今すぐポストへGO!!
〒524-02 滋賀県宋山市今浜町375 今井香里

★Sepian RoseeのFanの人、文通しましょう。返事は確実ですよ。男女問いません。男の子でもOK 年齢も問いません。私は17才です。
〒089-37 北海道足寄郡足寄町北1条4丁目18番地 井上直子

★槙原敬之KUNのコトで頭がいっぱい。いつでもどんなときも槙原KUNのことばかり考えている人。お友達になって下さい。大阪で中学生の人がイイナァー。
〒590-05 大阪府泉南市新家1315ノ143 由井真理

★ストロベリーフィールズ大好きっ!って人、手紙下さい。私は"SEISHIRO"さんが大好きです。"SEISHIRO"さんFAN以外で62円切手同封でっ!!
〒132 東京都江戸川区瑞江1-18-6 萩原由子

★TRACYが大好きだぁっ!と言う人いろいろ情報交換しましょー。それか、THE MINKSの真ちゃんのFANの人も下さい。返事はちゃんと書きます。
〒040 函館市万代町13-3 秋元真紀

★スパゴーがすんごい好きな私です。私もスパゴー大すきだよ!という方は手紙下さい。返事は必ず書きます。切手同封してね。
〒東京都足立区竹の塚4の3の27の107 小野寺悦子

★とにかくスパゴーが大好きな人、お手紙下さい。ビーモダンの頃から好きな人も待ってます。近県なら一緒にライヴ行こうネ。私は高1です。
〒466 名古屋市昭和区円上町18-1 木村香代子

★スパゴーFANの方、ぜひ友達になってください。返事ぜったい書くよ!
〒671-11 兵庫県姫路市広畑区小松町2-8-4 内海亜里奈

★UNICORNが好き。でも、S×G×GもLA-PP-SCHも聴く。何ならライヴだっと行ったるでー。という方私に手紙出してみませんか?私21歳です。
〒133 東京都江戸川区南小岩2の11の10(土谷方) 鈴木由美

★誰でもいいのでお手紙下さいな。長く続けてくれる人で、切手同封の方、返事は確実です。私はUNICORNファンそれ以外のファンの人も待ってるよ。
〒913 福井県坂井郡三国町米納津10の40の6 村上ゆう子

★名古屋市民で年は20代、コンサートに行ったり、本を一緒に作ってくれる、UNICORNファンの人を探してます。よろしくネ。待ってるよォ〜。
〒455 愛知県名古屋市港区明正2-205 池野水帆子

★UNICORN・スパゴーのライヴ友達が欲しいので、FANの方、近い人も遠い人もお手紙下さい。初回だけ切手同封でよろしくおねがいします。
〒350 埼玉県川越市広谷1215の14 石井尚江

★UNICORNのFANの人、Letter下さい。末長く文通してくれるんなら、誰でもOK、返事は絶対だよ。62円切手同封でよろしくね。
〒040 北海道函館市千代台町5-12 吉田友恵

★THE ALFEEが好きっという方、お手紙下さい。お返事は絶対かくよっ。
〒229 神奈川県相模原市氷川町12-20 矢野アパート202 石山恵美子

★周りの友達にALFEEファンがいない!!と困っているそこの君!年令性別問いません。私とあれこれ語り合いましょう。
〒360 埼玉県熊谷市大字四方寺185 倉川里子

★THE ALFEEが心から好きで、寝ても覚めてもTHE ALFEEの事ばかり考えています。私もそうよ!という方お手紙下さい。切手同封して下さい。
〒816 福岡県大野城市牛頸2丁目25-17 笹男友紀

★THE ALFEEが好きで好きでたまらない20才以上の方、お手紙下さい。私は24才のOLです。初回のみ切手同封でお願いします。
〒463 名古屋市守山区新城10の5 三光ビル503 三浦久美

★THE ALFEEのFANの方、出来たら20才以上の方と。ちょっと、おばさんですけど、気持ちはラジカル!?のつもりです。楽しい文通をしましょう!!
〒001 北海道札幌市北区新琴似10条9丁目1の7の2 奥村昭子

★尾崎豊は死んでしまっても、ずっと尾崎のファンでいるよという人、お手紙まってます。返事確実です。切手同封で。あー、尾崎に会いたい。
〒739-12 広島県高田郡向原町長田3744-1 田村良子

★尾崎豊が好きな方、お手紙下さい。もし追悼コンサートがあったら一緒に行ってくださる方、よろしくお願いします。
〒154 東京都世田谷区若林1の24の2 田辺エミ

★尾崎豊を好きな人と友達になりたい。いろいろな想いを熱く語り合いたい。私は24歳です。年令性別、問いません。お手紙待っています。
〒085 北海道釧路市愛国西4-24-3 スカイハイツ6号室 渡辺敏子

★BUCK-TICKFANの方、とにかく手紙下さい。年令性別なんて全然関係ありません。返事は、BITに誓って必ず書きます。切手同封でお願いします。
〒213 神奈川県川崎市高津区作延1190 永井由美子

★BUCK-TICK愛しとお人、いっしょにLive行って下さる方お手紙下さい。私は中3の15歳ですが、ホンマにBIT愛しとおですよ。
〒559 大阪市住之江区南港中2の2の310号室 山下結子

★BIT、S-B、BY-SEXUALのどれか1つでも好きよという方、お手紙下さい。私は特にBITに狂っている18歳です。返事は確実です。
〒963-102 福島県郡山市大槻町字原の町10-2 大千里方 矢上桜

★BY-SEXUALが大好きで、どうしようもない方、私と文通しましょう。初回切手同封で。返事は120%確実!ちなみに私はShoやんFAN!
〒010-03 秋田県南秋田郡若美町払戸字小深見33 船木陽子

★LUNA SEA、シルバーローズ、Xが好きな人。どれか一つでも構いません。できるだけたくさんの人と文通します。初回だけ切手同封でよろしく。
〒814-01 福岡県福岡市城南区別府6-12-4 仲井まゆこ

★LUNA SEAファンの人お手紙下さい。私はSUGIZOが好きです。一緒にLIVE行ったりしたいんで、みんなお友達になって。切手はいらんわい。
〒611 京都府宇治市宇治字文字27-2 クレセント宇治306 福知朋子

★LUNA・SEA。EXTASY系が大好きな人文通して下さい。年下でもかまいません。あとLIVE行きましょう。
〒097-05 北海道稚内市港2丁目1の24 佐藤幸恵

★これからもBAKUが好きな人、特に谷口宗一君が好きな人、お手紙下さい。全員に必ず返事書きます。!長く続けられる人、よろしく!
〒791 愛媛県松山市南斎院町一三八六の八 土岐もとみ

★解散してもずっとBAKUのFANでいるって方お手紙下さい。私はそうきちのFANだけで他4人(太田先生含む)のFANでもO・K。男女問わないよ。
〒803 福岡県北九州市小倉南区志徳一の一・一の二〇一 大竹みゆき

★シャ乱Qについて詳しく知っていて、大阪に住んでいる方。私と文通して下さい。
〒951 新潟県市内関新1-2-32 乙川まんしょん201 長谷川瑠美

★Xを愛していて、この私と友達になってくれる人、手紙下さい。ちなみに私は16才ですが、男女・年令不問です。
〒334 埼玉県鳩ケ谷市桜町1-5-23 中村静恵

●このコーナーには必ずアンケート横の指定用紙を使い、アンケートと一緒に送って下さい。またこのコーナーをイタズラに悪用するなどは絶対しないで下さい。

BINETSUでコリクツ

BINETSU担当中尾が語る
汗と涙の青春ROCK日記(笑)

“ああ思い出の中央線ツアー”

9／21、THE BOOMのベストアルバム『THE BOOM』がリリースされる。個人的に非常にうれしい一枚。THE BOOMはいままでに4枚のアルバムと1枚のミニアルバムをリリースしている。私がしっかりとTHE BOOMを聞くようになったのは3rdの『JAPANESKA』から。そのころ私はまだ学生をやっていた。就職もマジに考えなければいけない時期ではあったのだけれど、自分のやりたいことははっきりしているのになかなか思うようにはいかず…というか頑固に妥協をしなかったために四苦八苦、ちょっとナーバスになっていた時期だった。

そんなとき、田舎の友達が東京に遊びに来た。パーッと気晴らしに遊ぼうか！と思ってはいたのだけど2人の時間があわずに結局会えたのは帰りの新幹線の時間まで。ほんの数時間じゃ何にもできないね…とため息をついたとき私は名案を思いついた。

「ねぇ、中央線をやろうよ」。というわけで私と、同じくTHE BOOMファンの彼女は東京タワーに行くよりもすごい、コテコテのお上りツアー「中央線の旅」に出かけたのだった。

とりあえず八王子までの切符を買って新宿から高尾山行きの電車に乗り込む。実はこのときまで東京に住んでいながら荻窪より先へ行ったことのなかった私、たかが中央線といえどもちょっとした小旅行気分。新宿からごてごてとした大久保、東中野を抜け、左の窓に新都心の後ろ姿を見送るといよいよ中央線の旅の始まりだ。吉祥寺を過ぎると電車の中が静かになる。ゴトンゴトンという電車の音が大きくなって、頭の中にはTHE BOOMの「中央線」が聴こえてきた。MIYAもこの電車に乗って曲を作ったのかな…きっととなりでただ黙って座っていた彼女も同じことを考えていたに違いない。

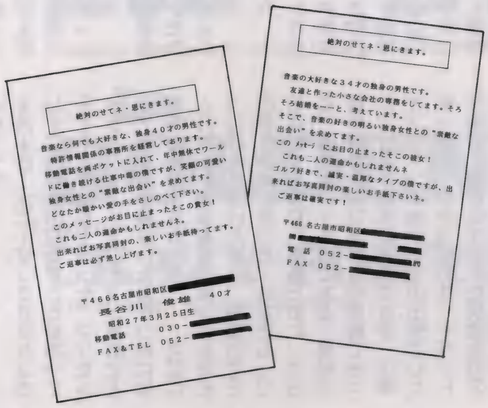
今でもこの曲を聴くとあの中央線ツアーを思い出す。そして中央線ツアーを思い出すたびにあの時の自分を思い出す。それは彼女も同じなようで、なかなかオツでマニアックな東京見物だったと今でも時々話題にしている。

その「中央線」ほか全14曲収録の今作はすべてリミックス。エンジニアは飯尾芳史氏。スタジオでは平気でジャージ姿だったりするけど(笑)個人的にとても注目しているエンジニアの一人。MIYAのテンションをそのままにイイ味を出してくれている。聴いて損はないよ。

あーあ、それにしても中央線沿線は家賃が高い！今度引っ越すときは必ずと思っていたのに…。仕方がないから今度は「釣りに行こう」かな。

あっ見つけた！

ヒンシュク編


絶対のせてネ・恩にきます。

音楽なら何でも大好きな、独身40才の男性です。
特許情報関係の事務所を経営しております。
移動電話を両ポケットに入れて、年中無休でワールドに働き続ける仕事中毒の僕ですが、笑顔の可愛い独身女性との“素敵な出会い”を求めてます。
どなたか暖かい愛の手をさしのべて下さい。
このメッセージがお目に止まったそこの貴女！
これも二人の運命かもしれませんネ。
出来ればお写真同封の、楽しいお手紙待ってます。
ご返事は必ず差し上げます。

〒466名古屋市昭和区[redacted]
長谷川　俊雄　40才
昭和27年3月25日生
移動電話　030－[redacted]
FAX&TEL　052－[redacted]

絶対のせてネ・恩にきます。

音楽の大好きな34才の独身の男性です。
友達と作った小さな会社の専務をしてます。そろそろ結婚を……と、考えています。
そこで、音楽の好きの明るい独身女性との“素敵な出会い”を求めてます。
この メッセージ にお目の止まったそこの彼女！
これも二人の運命かもしれませんネ
ゴルフ好きで、誠実・温厚なタイプの僕ですが、出来ればお写真同封の楽しいお手紙下さいネ。
ご返事は確実です！

〒466 名古屋市昭和区[redacted]
電　話　052－[redacted]
FAX　052－[redacted]

うーん、何かカンちがいしていませんか、このお2人。このハガキ本当は放課後情報あてのものなんだけど、いろいろと問題があるので(笑)ボツらせていただきました。だってこの内容だもん。笑顔の可愛い独身女性との〝素敵な出会い〟を求めるなら、しかるべき所へ申し込んだ方が良いのではないでしょうか？まあそりゃうちの読者はほとんど10代で若くて可愛い(だろう)けどさあ、アリーナは音楽専門雑誌であって結婚相談所じゃないんだから(笑)。住所やTELが一緒のところをみると同じ会社の人かな。34才と40才…うーん、もう少し大人になって下さい(笑)。

アンケート

毎度、アンケートです。読者のみなさんのキビしい、そして温かいご意見を取り入れ、日々勉強していこうってなわけなんです。流石！立派！というコトですべての質問に答えてどんどん送って下さいね。応募してくれた人の中からP133のプレゼントが当たります。このアンケートを切り取って封書で送って下さい。〆切は10月10日です。

あて先・〒104東京都中央区銀座5－1－7　数寄屋橋ビル5F㈱音楽専科社アリーナ37℃
“あっアンケートだ”係

ARENA37°Cアンケート用紙

フリガナ
氏名　　　　　　　　年齢　　　歳　　　男・女

住所〒　　　　　　　　TEL

①好きなアーティスト
〔　　　〕〔　　　〕〔　　　〕

②嫌いなアーティスト
〔　　　〕〔　　　〕〔　　　〕

③気になる新人
〔　　　〕〔　　　〕〔　　　〕

④アリーナは○○買う
初めて・ときどき・毎月・(　　　　)が載っているから

次のページに続く

(チョキンとやって✂)

〒　★

(チョキンとやって✂)

※放課後情報はコレに書くべし

〒月〒日…夏休み。パンダを観るんだと、コテコテの関西っ子達は上野動物園へ。はてさてたっぷり堪能できましたでしょうか？またいらっしゃいね、船岡くん。
〒月〒日…Xのヨシキさんの記者会見で小僧は思ったのだ。「きれいだなア…。」だってそこら辺の女の人より10倍はきれいだよ。ホント。
〒月〒日…原チャリがぶっ壊れ、カメラがぶっ壊れ、直ったと思いきや別のカメラがぶっ壊れ、……神様は私から何人の福沢さんを取りあげれば気が済むのだろう。脳ミソが溶けてジュースになってしまう。（大屋）
⑪月⑪日…あれよあれよという間に1ヵ月が過ぎた。目まぐるしく過ぎ去る月日の中に身を置いて、業界の忙しさを肌で痛感している、今日この頃。一日一日を大事にし、充実した毎日を送るよう努力しよう。
⑪月⑪日…アン・ルイスさんの取材は楽しかった。モトリー・クルーやスティーブ・ヴァイの話はポンポンでてくるし、おまけに、僕の大好きなギタリスト、JAKE・E・LEEがレコーディングに参加しているとなったら盛り上がらないわけがない(笑)。アンさん、いつまでもロックネェチャン（笑）気質を忘れないでがんばって下さい。（藤盛）
★月★日…5ティアボウリングデート。いやあスケベ心を出すといかんものかねやはり。たった4ピン差だったんだけどな。
★月★日…ピンクサファイアの取材で鎌倉へ行った。鳥類が大きらいな私はハトの大群に逃げまわっていた。でも台風が近づいてたせいでとても涼しかったし、道もすいてたし、おみくじは吉だったし、くずきりは食べたし、幸せ。運転手の片山さん、横山さん、お疲れ様でした。
★月★日…夏休み最終日、何とBYちゃんの取材が入ってしまった。帰りのAIRでベロベロに乗り物酔いしていた私はちょっとテンション低め。でもRY:OとDENが服を脱いだときは見逃さなかったワ。うーん2人ともいつ脱がされてもハズかしくないイイ体してる。いつも鍛えてるのカナ？
★月★日…ボニーダック!?はハンガリーGPの次の日ってこともあってF1ネタで盛り上がった。マンセル、ドライバーズチャンピョンおめでとう！アレジが優勝したあかつきには祝杯をあげようね社長。（みか）
△月△日…有森裕子が銀メダルをとったのを見届けたあと、寝ないでそのまま長崎に行った。もちろん〝CSAちゃん祭り〟見るために、である。長崎はいーまちである。高校の修学旅行以来14年ぶりの長崎であった。しかし観光ひとつできず、仕事オンリー（本当か?）の出張でした。唯一観光っぽかったのは、イベントの帰りに稲佐山からみた長崎の街の夜景と空港で食ったちゃんぽんであった。イベントはおもしろかった。

BINETSU NIKKI ★ビネツ日記★



ただ、すっげー気になったのは私の見てる所から5mくらい前にいた外人。踊り方が本物だったぜベエベエ（笑）。そして、帰ってきて次の日は「人に歴史あり」の取材。さすがにちょっとつかれ気味。でもかなりキワドイ話がありました。「人に歴史あり 其の貳」乞う御期待ってわけだな、これが。
△月△日…その長崎のホテルで2チャンを見ようとしたら、ペイ・ボタンをおす前に疲れで気を失って、次の朝までねてしまった。これは一生の不覚、今回の出張最大の失策であった（笑）。（金）
♥月♥日…アッという間に夏休みが終わって毎日うだるような暑さの中の仕事はしんどい。しかし夏の後には秋が来る。日本て本当いい国だ。
♥月♥日…Z-BACKの連載が終わってしまった。いつも飲みながらの取材で、時正クンの人となりがわかりかけてきた所なので残念!!しかし、Z-BACKはこれからバリバリ活動していくので応援をよろしく。
♥月♥日…マッド・カプセルのライヴを観に行った。会場は満員で、バクチクの櫻井クンや今井クンも来ていた。いろんなバンドから評価をうけているマッド。その噂どおりライヴは凄く良かった。後は、どれだけファン層を広げられるかだ。
♥月♥日…ライターとミュージシャンの関係って難しいと思った。ブランキーの件でいろいろ教えさせられた。
♥月♥日…そのブランキーに今月は2度会った。レコーディングに入る前に、達也は最後の夏をエンジョイしようと、総勢30名で伊豆の海に行くことを計画していた。本当に行ったのかなぁ？（U子）
×月×日…10年だ。もう10年、まだ10年、いろいろ言い方はあるけど、これもみんな、読者のみなさん、アーティストの方々、そして事務所やレコード会社や本屋さんや……もう、いろ〜んな人たちの協力のおかげです。どうもありがとうございます。これからもガンバリますんで、よろしくネ。
×月×日…というわけで、10周年の記念すべき巻頭はTOSHI。LAに出発するまでは、レコーディングと取材で徹夜続きの毎日だったようだけど、疲れた顔も見せずに取材に協力してくれた。TOSHIの増刊の取材も、LA、NYで無事終わって、あとはこっちが地獄の忙しさになるだけ（笑）。
×月×日…『らんまるのわがまま』がついに本になるゾ。書き下しもあるゾ。お楽しみに!!
×月×日…吉川クンがうちの会社に来た。うちは夕方6時に冷房が止まるのだ。そのちょうど止まったあとに来たのだ。とにかく暑い。バッタ屋で1000円で買った扇風機にあたってもらったが焼け石に水。（W）

（チョキンとやって✂）

放課後情報 HOKAGO JOHO

（チョキンとやって✂）

⑤他によく読む音楽雑誌は
〔　　　〕〔　　　〕〔　　　〕

⑥今月号で良かった記事、良くなかった記事（番号で）
良かった記事（　　）（　　）（　　）良くなかった記事（　　）（　　）（　　）

①TOSHI②KATSUMI③ムーンライダース④THE MODS⑤THE BLANKEY JET CITY⑥林田健司⑦YOSHIKI⑧De-LAX⑨KAZZ⑩PINK SAPPHIRE⑪THE DEAD P☆P STARS⑫LADIES ROOM連載⑬中島和之連載⑭Z-BACK連載⑮川村かおり連載⑯THE MAD CAPSULE MARKET'S⑰スピッツ⑱LUNA SEA⑲DIE IN CRIES⑳BY-SEXUAL㉑Zi：KiLL㉒SOFT BALLET㉓スピードスター㉔チャボ&蘭丸㉕陣内大蔵㉖福山雅治㉗JUSTY NASTY㉘The 5 TEARDROPS㉙アン・ルイス㉚TERRE PIERCE㉛シャ乱Q㉜タイガープレス㉞インディペンデントプレス㉟ALBUM自己紹介㊱コンサートガイド㊲吉川晃司㊳KNiFe㊴BINETSU FREAK㊵バックナンバー㊶UNICORN㊷THE ALFEE㊸山下久美子㊹M-AGE

⑦⑥を選んだ理由&アリーナに対する要望、イラストなど何でも書いて下さい。

⑧他誌と比べてアリーナ37℃は…（○をつけてね。いくつでも可）
・インタビューがおもしろい。（特に　P）
・PHOTOがきれい（特に　P）
・コラムがサイコー！
・他では扱わないアーティストが載っている
・バカでおもしろい企画がいっぱいある

欲しいプレゼント（第3希望まで）
番　番　番

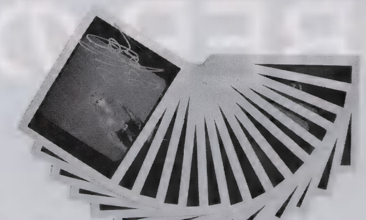
ペンネーム（本名はダメっていう人のみ）
（　　　）

BIG PRESENTS

今月もドーンとプレゼントしちゃうよ。応募方法は、前ページのアンケートに質問のすべての答えと希望のプレゼント番号を書いて封書で送ってね。〆切は10月10日（消印有効）です。



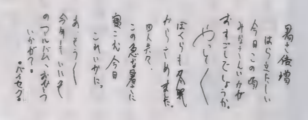
❶TOSHIのLAからのメッセージカセット、どーんと×20／超レアです。



❷TOSHIのサイン入りポラ。こちらもどーんと×15／太っ腹／



❸BY-SEXUAL“4D Pocket”ポスター×5（ポニーキャニオン提供）



❹これはレア／BY-SEXアルバム自己紹介RYÖ直筆コメントを×1／



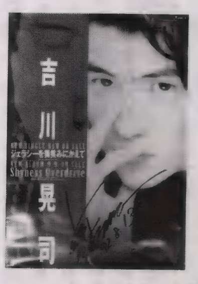
❺LUNA SEAのでっかいパンフ×10（スウィートチャイルド提供）



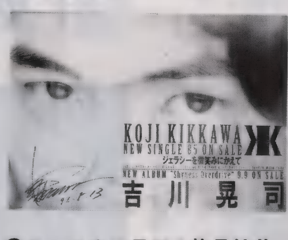
❻UNICORNのポラ。1人2枚で5人分あります×5



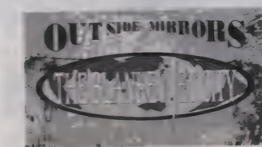
❼吉川晃司サイン入りポラ×2



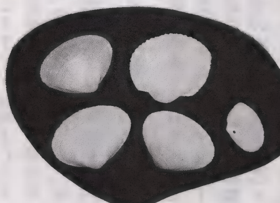
❽吉川晃司サイン入り普通サイズポスター×5（東芝EMI提供）



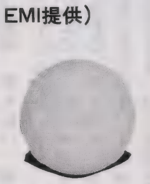
❾そして吉川晃司2枚目はサイン入り駅貼り用巨大ポスター×5（東芝EMI提供）



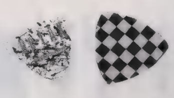
❿THE BLANKEY JET CITYからステッカー×3（東京ピストル提供）



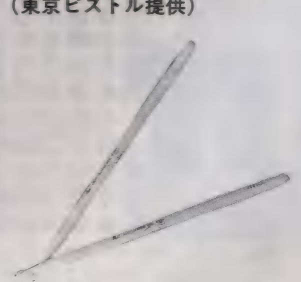
⓫PINK SAPPHIREメンバーが湘南の海で拾った貝。2枚1組（笑）×8



⓬同じくPSのメンバーが海で犬と遊んだボール（犬はくわえていません）×1



⓭De-LAXからGとBのピックを2枚1組で×3



⓮同じくDe-LAXのマコッちゃんのスティック1組×1



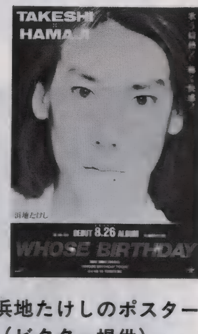
⓯M-AGEのキャップ。ロゴはオレンジです×5（ビクター提供）



⓰シャ乱Qのでっかいビーチマット×3（BMGビクター提供）



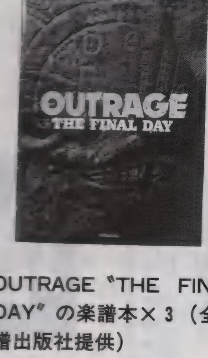
⓱シーナ&ロケッツポスター×5（ビクター提供）



⓲浜地たけしのポスター×5（ビクター提供）



⓳BAKUFU-SLAMPのウォッチ×3（ソニーレコード提供）



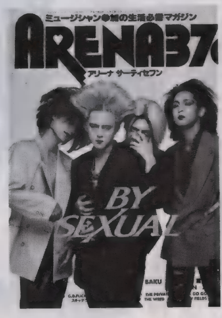
⓴OUTRAGE“THE FINAL DAY”の楽譜本×3（全音譜出版社提供）

BACK NUMBERのお知らせ

■バック・ナンバー申し込み方法■
▼定価金額＋送料分を、切手か、現金書留、または小為替で〈〒104東京都中央区銀座5の1の7数寄屋橋ビル音楽専科社経理部アリーナ○年○月号〉（○の中には希望の月号を入れる）係まで送って下さい。ご自分の住所、氏名、電話番号を忘れないでネ！

▼91年11月号

表紙＋巻頭大特集＝BY-SEXUAL（インスピレーション・トーク、『CRACKER』インタビュー、クロスレビュー、クロスワード・パズル）／BAKU（8／31EAST詳報、スタボー・レポート）／麗蘭（アルバム・インタビュー）／J(S)W（パーソナル・ストーリー最終回）／X（8／23東京ドームライヴ）／UNICORN（『ヒゲとボイン』レビュー、EBIインタビュー）／スチャダラパー、かまいたち、ブランキー・ジェット・シティ、THE MODS、すかんち連載スタート。G・D・フリッカーズ他（620円＋送料76円）



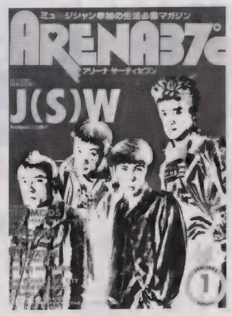
▼91年12月号

表紙＋大特集＝BAKU・全16頁（サンフランシスコ道中記、アルバム・インタビュー、パーソナル・インタビュー、悩み相談）／J(S)W（TOOBAD徹底インタビュー、アンケート）／KATSUMI（アルバム・インタビュー）／UNICORN（ヒゲとボインは何位でしょう）／すかんち、THE MODS、かまいたち、B・J・C、X、BY-SEXUAL、LUNA SEA、らんまるのわがまま、スピッツ、LADES ROOM、COBRA、De-LAX、AION、他（620円＋送料76円）



▼92年1月号

巻頭＋大特集＝JUN SKY WALKER(S)（正月号はJ(S)Wで決まり！ 1日、年中J(S)W、パーソナル・朝・昼・夜・深夜インタビュー、久々4人全員インタビュー、92年大予想企画）／UNICORN（さよなら中島悟・ユニコーンが語るF1のすべて(笑)、ライヴレポート）／X（最新衝撃フォト）／BY-SEXUAL（シングル・リリース）／THE MODS（モッズとスカーフェイスのすべて）／シスターズ・ノーフューチュアー、M-AGE、ブランキー・ジェット・シティ、布袋寅泰。ルナシー、プライベーツ、すかんち、スパゴー、らんまるのわがまま他（620円＋送料76円）



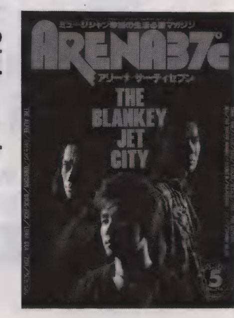
▼92年4月号

表紙＋巻頭大特集＝BUCK-TICK（『殺シノ調べ』ロング・インタビュー、完全ディスコグラフィー、美麗フォト）／NOKKO（ソロ・アルバム）／ZOO&DEER（あこがれのハワイ）／江口洋介（江口をもっと知りたい）／大事MANブラザースバンド（ロング・インタビュー）／P-MODEL（徹底研究）／パール兄弟、M-AGE、5ティアドロップス、INFIX、シスターズ・ノー・フューチュア、吉川晃司VS原田喧太、THE BLANKEY JET CITY／UNICORN（社会派企画スタート）、BAKU、LUNA SEA、SEPIA、NROSES他（620円＋送料76円）



▼92年5月号

表紙＋巻頭大特集＝THE BLANKY JET CITY（パーソナル・インタビュー、三人の相関関係、ライヴの現在・過去・未来）／THE ALFEE（新作インタビュー）／UNICORN（怒れ若人よ・奥田編、武道館ライヴ）／川村かおり／うじきつよし／佐久間正英／カラー＝TOSHI、HIDE、ZO-O、BUCK-TICK、LUNA SEA、J(S)W、BAKU、宮本英治、T-BOLAN／FUSE、THE YELLOW MONKEY、ALUCARD、PINK SAPPAIRE、The5 TEADROPS、LOVE MISSEIL E、Luis-Mary他（620円＋送料76円）



▼92年6月号

表紙＋巻頭＝BAKU解散!!本誌独占！パーソナル徹底ロング・インタビュー『解散の真相と今後』／ラウドネス全9頁（本誌独占！TAIJI対談）／ルナシー全8頁（アルバム徹底インタビュー＋美麗ピンナップ）／ユニコーン（怒れ若人よ最終回、堀内&阿部編）／筋肉少女帯（ロング・インタビュー）／DIE IN CRIES／ストロベリーフィールズ／麗蘭／DEER／幻覚アレルギー／M-AGE／ジガーズ・サン／スパークスGOGO／レディスルーム／セピアン／他（620円＋送料76円）



▼92年7月号

表紙＋巻頭大特集＝THE ALFEE（パーソナル・インタビュー、コンサート・レポート、夏のイベント速報）／尾崎豊（追悼特集・前編全30ページ、10代のインタビュー収録）／KYO・DIE IN CRIES（セルフ・ストーリー）／山下久美子（アルバム・インタビュー）／X-TOSHI／寺田／LUNA SEA、LUIS～MARY、THE YELLOW MONKEY、M-AGE、福山雅治、B'z、BAKU、ZOO、ブランキー・ジェット・シティ／スパークス・ゴーゴー、THE MODS、HEAVEN、SHADY DOLLS、THE PRIVATES他（690円＋送料86円）



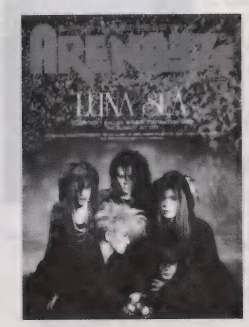
▼92年8月号

表紙＋巻頭大特集＝ユニコーン、すかんち、スパークス・ゴーゴー（CSAの大逆襲、3バンドゴチャマゼ企画・CSAの内情をさぐる、3分割対談）／尾崎豊・追悼特集〈後編全38ページ〉／BUCK-TICK（5／26、27日本武道館）／LUNA SEA（新たなる宣戦布告）／X-TOSHI、DIE IN CRIES、GRAND SLAM、M-AGE、LÄ-PPISCH、LOUDNESS、Zi:Kill／高中正義、セピアン・ローゼス、The 5ティアドロップス、Justy NASTY、AURA、シスターズ・ノー・フーチュアー、ストロベリーフィールズ、マッド・カプセル・マーケッツ（690円＋送料86円）



▼92年9月号

表紙＋巻頭大特集＝LUNA SEA全25ページ（シャンプーから下着の好みまでメンバーの全てが分かる怪文書、アトランダムのQ&A、「親愛なる奴隷ども」縮刷版）／TOSHI（追っかけ取材第3弾）／ソフトバレエ（森岡賢＋藤井麻輝）／吉川晃司（一億のエクスタシーの中から）／UNICORN（奥田民生&堀内一史）／BAKU（3人最後のインタビュー）／ZOO全5ページ／ブランキー・ジェット・シティ全6ページ／バイ・セクシュアル／M-AGE／森山達也（モッズ）VS橘厚也（スパGO）／林田健司／マッド・カプセル／ストロベリーフィールズ（福井）／町支寛二／レディースルーム他（620円＋76円）



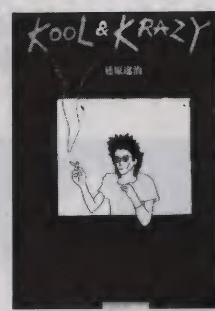
増刊、書籍

申し込みの方は定価＋送料（1冊260円、2冊以上310円。3冊以上500円）分を切手、現金書留、小為替で〒104東京都中央区銀座5－1－7数寄屋橋ビル音楽専科社経理部○○係（○の中には書名を入れる）係まで送って下さい、御自分の住所、氏名、電話番号を忘れずに！

KOOL & KRAZY
延原達治

アリーナ本誌で大好評連載していたプライベーツ、延原達治の「KOOL & KRAZY」がついに単行本化。本年度最高の話題作！ 連載されていた本文はもちろん、対談などの追加もバッチリ。直木賞はいただいた。

（1500円＋送料260円）



SHOXX SPECIAL Zi:÷Kill

ジキル初のアーティスト・ブックがついに登場！
▼個別ロング・インタビュー／13アイテム・インタビュー／趣味の世界／ライヴ徹底取材／ジキル・ストーリー／8ビート・ギャグ・Zi÷KiLL版他

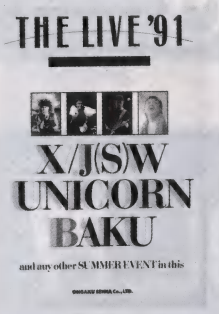
（1500円＋送料260円）



THE LIVE '91

91年の夏のイベントをこの一冊にギューづめ。夏の決定版。J（S）W（名古屋、金沢、仙台）／UNICORN vs J（S）W（名古屋）／X（新潟、仙台）／BAKU（よみうりEAST）／その他のイベント多数！

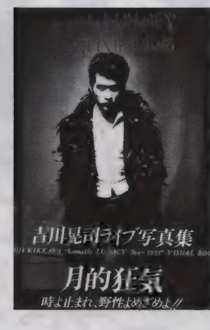
（1350円＋送料260円）



吉川晃司 LUNATIC LUNACY

吉川晃司初のライヴ写真集。1991年5月〜7月の“LUNATIC LUNACY TOUR 1991”を完全再現！ さらにオフ・ステージでの素顔、スタジオ撮り下ろしフォト、ライヴ・レポートなどなど、ソロ再始動後の吉川晃司を全てを収めた豪華本。

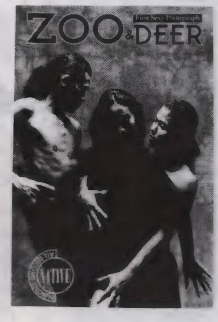
（2500円＋送料310円）



ZOO&DEER NATIVE

ZOO&DEER初の写真集。彼らの魅力を十分に味わってくれい。
▼ロケ。スタジオ・PHOTO、ビデオMAKING、ディスコGOLD、竹芝でのPHOTO、など、ボリューム満載。

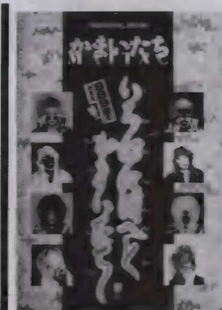
（1850円＋送料260円）



かまいたち MEMORIAL BOOK いろはにほへとかまいたち

解散してしまったかまいたちの全てを網羅した初のアーティストBOOK。
▼LIVE HISTORY、MEMORIAL STUDIO PHOTO、かまいたちHISTORY、はちゃめちゃ日記、かまち年表、ディスコグラフィー LAST TOUR完全レポート他

（1980円＋送料260円）

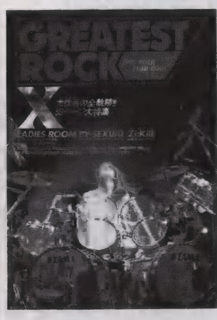


GREATEST ROCK X

(COVER,FRONT 50 Pages)
BY-SEXUAL
Zi:KiLL
BUCK-TICK
かまいたち
and More

1990年1年間のロックをパッケージした豪華本。巻頭はX。新宿パワステ3days、横浜アリーナ、エクスタシー・サミットなど、今年のXのすべてをめぐらした必読の書。

（1500円＋送料260円）



無言激 HIDE

奇才・HIDEの天才的感覚が作りあげた驚異のヴィジュアル&ハードショック写真集“無言激”。キミ達を驚愕の世界へと誘う。すさまじいばかりのフォト、そして、HIDEの書き下しエッセイも入っているぞ。

（2800円＋送料310円）



PINK SAPPHIRE GIRL×4

デビュー2周年を迎えたピンクサファイア初の写真集。ナチュラルな屋外ロケ、意外なショット、ライヴ楽屋・リハーサルシーンに加え、過去に本誌に掲載したすべてのフォトのダイジェストもあり。ファン必携の1冊。

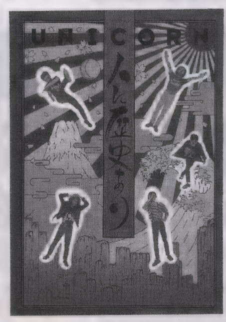
（2000円＋送料260円）



UNICORN 人に歴史あり①

UNICORN、うわさのヒストリーブック。87年から90年まで、アリーナ37℃誌上に登場したユニコーンをひとつ残らずパッケージ！ その上追加取材もある。すごいこときわまりまくり（笑）。
▼人に歴史あり（ヒストリーパート）／手島いさむの日常的音楽生活爆論／対談／インタビュー（アルバム・インタビュー、ツアー・イナタビュー）／ライヴ／企画／フォト・セッション／ディスコグラフィー他

（1500円＋送料260円）



大島暁美のロックンロール日記

SHOXXで大好評連載の「大島暁美のロックンロール日記」が1冊にまとまったゾ。X、ルナシー、レディース、ラウドネス、バイセク、ジキル、筋少、バクチク……まだまだあるゾの取材こぼれ話&スペシャル座談会4本立てなど。君は何百回涙を流して笑えるか？

（980円＋送料260円）



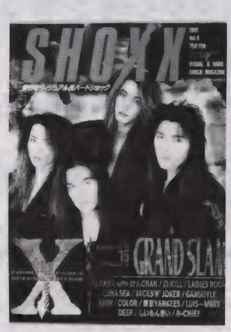
SHOXX Vol.4

表紙＋巻頭特集＝かまいたち（アルバム・インタビュー、対談、速報・けんちゃん入院）／BY-SEXUAL／LADIES ROOM／ストロベリー・フィールズ／ガーゴイル／MORRIE／AURA／LUNA SEA／Zi:KiLL／対談＝TATSU&RUDY他

（700円＋送料260円）

SHOXX Vol.6

表紙＝GRAND SLAM／巻頭＝X（8／23東京ドーム速報、トシ・インタビュー）／GRAND SLAM（ロング・インタビュー）／tjeqa、Zi:KiLL、LADIES ROOM、DEEP、LUNA SEA、GARGOYL、J,NJ、AION、COLOR、東京ヤンキース他

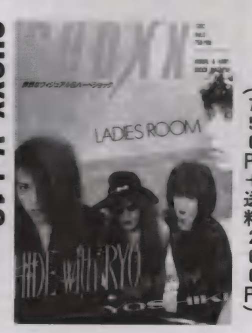


（750円＋送料260円）

SHOXX Vol.9

表紙＝LADIES ROOM、巻頭特集＝HIDE with RYO（フォト・ストーリー）／HIDE（「無言激」メイキング）／LADIES ROOM（巻末企画）／モーリー／ストロベリー vs ルイマリー他

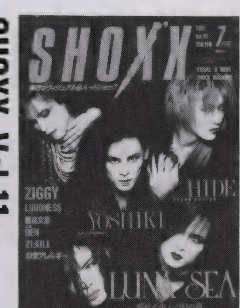
（750円＋送料260円）



SHOXX Vol.10

表紙＋巻頭特集＝LUNA SEA（34ページ、フォトジェニック・パフォーマンス、パーソナル・インタビュー、10アイテムスインタビュー）／YOSHIKI／ZIGGY／LOUDNESS／GRANDSLAM／Zi:KiLL／幻覚アレルギー／橘高文彦 vs DEN／ALUCARD／シスターズ・ノー・フューチュア

（750円＋送料260円）



SHOXX Vol.11

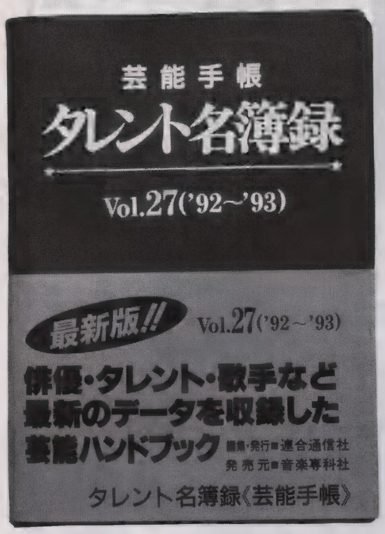
表紙＋巻頭特集＝PATA（35ページ、フォトエッセイ、ロング・インタビュー、AtoZ of PATA）／Zi:KiLL&LUNA SEA／SOH／森重樹一／百太郎／JUN-YA／LUNA SEA／LUIS-MARY／STRAWBERRY FIELDS／AION／東京YANKEES／妖花

（750円＋送料260円）



この1冊でアナタとスターが大接近

タレント名簿録 VOL.27 ('92〜'93)



テレビ等でお馴みの赤本こと最新版『タレント名簿録VOL.27('92〜'93)』は新人の歌手・俳優・タレントなどを網羅し、内容を充実させお客様のニーズにお応えいたします。

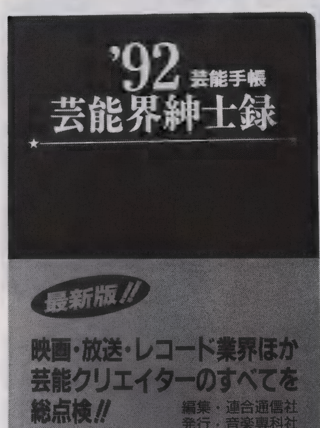
絶賛発売中!!

映画・放送・レコードで活躍中の俳優・歌手・DJ・落語家、そして映画監督・作曲家・作詞家等々、20,000人の連絡先他、最新情報を完全収録。

編集・発行㈱連合通信社　発売元㈱音楽専科社

定価5200円(税込)送料310円

'92芸能界紳士録



全国有名書店で好評発売中!

映画・放送・レコード・各業界人をはじめ製作会社・音楽出版・原盤制作会社・イベント企画興行・モデルプロ・劇団・プロダクション等々の社名およびスタッフの連絡先を完全収録。

※売切れのおそれがありますので、お早目にお申し込み下さい。

編集・連合通信社　発売・音楽専科社　定価5200円(税込)送料310円

直接のお申し込みは、現金書留または郵便小為替で定価に送料を加えた金額を誌名記入の上、小社販売部までお送り下さい。

問い合せ先◆㈱音楽専科社

〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F ☎03(3574)0201 FAX03(3574)8548

キリトリ線

雑誌注文書

●書店(番線)印	●受注　月　日	●部数	●担当者
	●書名 タレント名簿録 VOL.27 定価5,200円(税込)		
	●あなたの住所 〒		●TEL
	●あなたの名前		
	●出版社名 ㈱音楽専科社 〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F ☎03(3574)0201 FAX03(3574)8548		

＊上記注文書はコピーでもかまいません。最寄りの書店でお申し込み下さい。

新しい時代に躍進する

SANKYO



おかげさまで創業40年

総合印刷



三共グラフィック株式会社

SANKYO

〒162 東京都新宿区西五軒町1-4 ☎(03)3260-1251(大代)

VOICE EXPRESS

☎0990-32-6548

この伝言板は、ファン同志の交流や、情報交換、また、友達募集などを目的に使ってもらうネットワークステーションです／　マナーを守って有効的にご利用ください。　尚、ご利用の際は次のルールをお守り下さい／／　著作権・肖像権に関する物の売買は法律で禁じられています。また他人のプライバシーを侵害するようなメッセージや悪口を残すことは固くお断りいたします。　また、地域によってダイヤルQ2サービスの受けられない場合がありますのであらかじめご了承ください。（発信地／東京都）

—御利用のしかた—

1. ☎0990-32-6548 にアクセス
2. アナウンスを聞いて発信音の後に 0 をダイヤル！
3. **ダイヤル回線**：もう一度 0 をダイヤルして、説明を聞いてね　／　**プッシュ回線**：アーティスト番号と # をプッシュ
4. アーティスト番号をダイヤル　注）# はいりません！　→　伝言を聞く➡ 7 #　伝言を残す➡ 3 #

フリーBOX・001＃～099＃

このフリーBOXは、プライベートルームとしてご自由にお使い下さい／　例えば、アーティストBOXにメッセージを残すときに、返事はフリーBOXの007＃のほうに入れておいてください／／　というように使います。

総合案内……………………999＃

ご要望・開局BOX…………100＃

貴方の好きなアーティストのファンと友達になりたいときや、情報交換したいときなど、この「ご要望・開局ボックス」に投稿してください／　ご要望のあったアーティストのファンの方のために専用ボックスを開局いたします。　例えば、私は×××のファンですが、ア行の紹介を聞いてもありませんでした／是非×××の伝言BOXをつくってください／／　とか僕は×××のファンですが、また×××の伝言BOXがないようなので、フリーBOXの＊＊＊＃のほうにファンの方はメッセージを下さい／　というように使います。
また、ここに名前のない場合は各行の総合案内でチェックして下さい／／

351 # THE• ••CAPSULE MARKET'S	ハ 行 995#	246 # ○野 寛	195 # 佐野元○	カ 行 991#	ア 行 990#
352 # 松任谷△実	287#~346#	248 # 竹内ま○や	197 # さねよし △さ子	145#~186#	101#~144#
353 # マルコシアス·××ブ	571#~579#	250 # た ○	536 # Subsonic Fac• • •	517#~532#	501#~516#
354 # MALUTI-△AX	287 # BY-SEXU○○	551 # ○中正義	537 # 沢田○二	148 # K△TZE	101 # アースシ○イカー
582 # 三×博史	288 # HOUN△ DOG	552 # 田原○彦	198 # しい○んきい	149 # K△TSUMI	102 # AI•N
583 # 観月あ△さ	289 # BAK△	553 # ダウン×ウン	199 # SIO△	517 # 風間ト○ル	501 # 哀○ 翔
584 # 宮沢り○	290 # BAKUFU-SLU• • •	252 # チェ○カーズ	200 # Zi△KIL△	518 # C△SIOPE△	104 # UP-BE△T
355 # MR.CHiLDR× ×	291 # BU△K-TIC△	253 # CHA△E &△SKA	538 # 柴○恭兵	520 # 加○いづみ	502 # 東 幹×
359 # MOJO-C• • •	292 # △ERSONZ	254 # CHAR•	201 # ZIG△Y	521 # 角松○生	107 # ALC△RD
360 # THE MOD△	571 # ハバナ××ソチカ	554 # Cha△	202 # SH△DY DOLL△	151 # かま×たち	503 # ア×ジー
361 # ×木雅弘	572 # 林田健○	555 # TU△E	207 # △ISTER'S NO FUTURE	153 # ○門達夫	109 # THE ALFEO
362 # M△RRIE	573 # Valentin •.C	256 # 辻 ×成	539 # SING×IKE TALKING	154 # COL△R	110 # ANT○EM
585 # MORE D• •P	574 # バナナフリッ○○○	257 # DECAMER× ×	540 # ジッタ○ンジン	156 # 川○かおり	504 # アン○イス
586 # 森高○里	297 # バブルガム·××ザーズ	556 # △-SQUARE	209 # シーナ&ザ·ロケッ×	157 # K△N	112 # THE YELL• •MONKEY
ヤ 行 997#	298 # 浜○省吾	258 # T△N	213 # JUSTY-NA • • •	522 # G△O	505 # 安全×帯
365#~375#	299 # ○田麻里	259 # △-BOLAN	217 # JUN ××× WALKER(S)	160 # ○川晃司	114 # 石川よし△ろ
587#~593#	308 # BEGI△	260 # DE•P	541 # J-○ALK	162 # GWINK△	115 # 泉○しげる
588 # 安田成○	309 # B'△	261 # De-L△X	542 # G-ク○フ	163 # ○肉少女帯	116 # 稲垣×一
589 # 柳葉敏△	575 # 光GEN○○	264 # 電気グルー○	543 # △ADOES	523 # △utemen	117 # ×上陽水
590 # ×本英美	576 # ピン××ラウド	557 # Date of△irth	544 # 陣○孝則	524 # 工○静香	118 # 今井△樹
365 # 矢×顕子	319 # ×室京介	558 # △e+LAX	218 # △内大蔵	166 # 久保×利伸	119 # ○野清志郎
366 # Y△POOS	321 # 平松愛○	559 # TERRY △IERCE	219 # ジル·○·レイ	169 # GRA• •VALLEY	506 # WIN△
367 # 山下久×子	322 # Biily & The S• • • •	560 # 寺○恵子	222 # ZO△	525 # KRYZLER & KOMPA• •	507 # ウッチャ××ンチャン
368 # 山△達郎	324 # PIN• •APPHIRE	268 # ××スカパラダイスオーケストラ	223 # SKAF• •K	526 # グランド○ラム	508 # WATE△ CLUB BAND
369 # 憂歌×	326 # FAIR△HILD	269 # 東京ヤンキ○○	224 # ○かんち	527 # け ×	509 # ウル○ルズ
371 # UNICO× ×	327 # △ENCE OF DEFEN• •	270 # ○永英明	545 # 鈴木○之	176 # 幻覚○レルギー	124 # エ·クス
591 # ○山輝一	328 # ○山雅治	561 # 所○ョージ	546 # スターダストレ• • •	177 # KEN△I	125 # △RB
592 # YOSHI× ×	577 # 福○眞純	562 # 東京パノラママンボ○○○	226 # △TAR CLUB	178 # ○泉今日子	126 # 江○洋介
593 # 米倉○紀	578 # FLO△ERS	563 # ○○パフォーマンスドール	227 # ×チャダラパー	528 # COC•	128 # え ×
374 # 吉○栄作	329 # THE BOO△	273 # Dreams Come× × × ×	228 # ST△LIN	529 # 木×武彦	510 # EP△
ラ·ワ 行 998#	330 # THE PRIVA• • •	564 # Dog F• • •	230 # THE STREET SLID• • •	180 # 子供ば×ど	129 # M-△GE
376#~400#	332 # THE BLANKEY○ET○ITY	565 # ×んねるず	231 # THE STREET BEA• •	181 # GO-△ANG'S	130 # エレフ○○ト·カシマシ
594#~600#	333 # Flipper's gui• • •	ナ 行 994#	232 # Strawbelly •elds	183 # C△BRA	131 # L.L.BROTHE× ×
377 # LOUD△ESS	334 # THE BLUE HE× ×TS	274#~286#	234 # SPARKS△△ GO	530 # 小室哲哉	132 # AUR△
378 # △ABBIT	335 # PRINCESS PRINC○○○	566#~570#	547 # S△Y	184 # ○米CL+B	133 # 横×坊主
594 # LUCY'S DRI• •	336 # HE△VEN ○	275 # 永井○理子	548 # SM△P	185 # THE△OLLECTORS	134 # 大江○里
595 # LOV× × SSILE	579 # HO• •EGS	276 # 中島み○き	549 # T△RILL	531 # CON○LEX	135 # ○沢誉志幸
385 # LIN×BERG	340 # B△ ØWY	279 # ×渕 剛	237 # ×飢魔II	532 # ○藤真彦	511 # 小川×潮
386 # Luis~△ary	341 # BO GUMBOS	280 # △村あゆみ	239 # Sepia'• Rose•	サ 行 992#	136 # ×村孝子
387 # LUNA SE△	343 # 布袋×泰	566 # 仲○トオル	241 # SOFT BALL• •	187#~241#	137 # 岡村△幸
389 # ○ 蘭	マ 行 996#	567 # 中森明○	550 # SOLI• •OND	533#~550#	512 # 荻野× 洋子
391 # LADIES R♂♀ ×	347#~364#	568 # 中×美穂	タ 行 993#	533 # 斉×由貴	513 # ○崎亜美
596 # レ△ッシュ	580#~586#	569 # △INJA	242#~273#	190 # ○本龍一	139 # 尾○ 豊
597 # レッドウォーリア× ×	347 # 槇原敬○	281 # NEWES• •ODEL	551#~565#	191 # S△K△N△	140 # △田和正
598 # Y△ ○	348 # The 真心ブラ× × ×	282 # ×ユーロティカ	242 # 大事MANブラザーズ× × ×	192 # 佐×間 学	142 # 織×裕二
599 # 和久×映美	350 # ○岡英明	284 # NO•KO	243 # DIAMO• •YUKAI	534 # ○谷健次郎	514 # 男闘呼△
600 # 渡辺満△奈	580 # 牧×里穂	570 # ○村宏伸	244 # Die in○ries	194 # サザン○ールスターズ	515 # 小○卓治
400 # ○辺美里	581 # 松田聖×	286 # 野○義男	245 # 高○ 完	535 # ×だまさし	516 # △LWAYS

Prime-NET
中野区中野５－60－２　☎03－3228－2051

＊この番組は7.5秒10円の情報料＋通話料がかかります。電話のかけすぎにはくれぐれも注意してください。
尚、このVOICE EXPRESSはアーティスト所属事務所・ファンクラブとは関係ありません／
このサービスを御利用になった結果トラブルが生じても当社はその責任を追いかねますのであらかじめご了承ください。

ソロ・シングルのゆくえ…

その2

取材／藤野洋子、撮影／梶木則男



先月に引き続き、ソロ・シングルのゆくえについて阿部、西川、手島の3氏にインタビューした。それぞれの個性を聞きわけてちょーね。

阿部義晴 ■ 西川幸一 ■ 手島いさむ

UNICORN

阿部義晴

+OR−

C/W

Showgi Master

9/12 ON SALE



●●ソロ・シングル、という話が出たとき、まずなにを思いました?

「やっぱソロですからね。僕ひとりですからね。ひとりでやるのにどういう形がいいか、とまず考えました」

●●阿部義晴をどう打ち出すかと?

「うん。それで自分が今、いったい何に関心があるのかってね。で、ちょうどその時にエイズに興味があったんで、それを軽く頭に入れながら、でもまず曲を作らないとどうしょうもないんで、曲を作りました。でね、曲を何曲か書いて、あとで聴いた時にこれはエイズとぴったりじゃないかな、と思ってこれにしました」

●●それが「+or−」。エイズを意識して曲を作ったんじゃなくて、出来た曲を聴いたらエイズに合う、と。

「そうそう。でも、曲作ってる時はエイズのことは考えてなかったから。曲を聴いてエイズがまた復活してきたの。でね、そん時っていうか、よくよく考えるとエイズのことってグループで言うもんじゃないって思ったんだ。というか自分、僕ひとりの意見が言いたかった。だから5人5様の意見が混じって、いろんな意見に変化するのもいいけれど、そうじゃなくて自分の意見を言いたかったんだ……それに真面目な話題でしょ?……ソロにぴったりだ、と」

●●まぁユニコーン自体がメッセージうんぬん、と。

「そういうバンドじゃない。ただバンドでも出来ることは出来るんだよ。けど、なんとなくそうじゃないなって思ってたからね、それで踏み切ってしまいました。で、今までメッセージ的なものっていうのは……それに値するようなパワーになるものがなかったんだよ。例えば環境問題でも、オゾン層とか、ゴミとか、政治がどうのって言っても、うたいたいとは思わないし、あんまり自分の中でもなんとも思わなかったんだ。だけどそういうのってパワーになるじゃないですか、ジョン・レノンがそうだったように。だけど何も値するものがないのに、やるのはカッコ悪いじゃない」

●●作為的なもんになっちゃうよね。

「でもそれに値するようなものが、身近なところで、見つかった、というのもヘンだけど、フレディ・マーキュリーのこともあったし、自分の中でも関心があったし、うたいたかった。あのさ、世の中の空気が悪いでしょ、エイズに対する。誰でもかかる恐れがあるのに、遊んでるから伝染るってことじゃないのに、人間じゃないみたいな見方をする」

ただ、空気が変わればいい

●●ああ、それにアジア系女性が陽性だってわかるときも自国から持ってきて日本にバラまいてるような言い方を平気でするのもひどいね。

「うん。いろんなことをエイズは教えてくれるよね。そういう日本人の性格とか。あるテレビの番組でさ、理解あるようなことを言いながらけっきょくはタイの人とヤったらなっちゃうぞって感じなわけ。そうじゃないでしょ。それにはじめはホモの病気だ、とかいってね。ほらホモは悪いことだって空気を作りだしてさぁ。だからね、これ(曲)によって基金が増えるとかそんなこと思ってないの。ただ空気がね、変わればいいなって」

●●とりまく状況の。

「今の時点では特効薬もないわけで、すごい苦しみの中で死んでいかなくちゃならなくて、友達もいなくなっちゃたりしてさ。口つけたコップをまわし飲みしたって伝染りはしないのにね。ガンだって最初はそうだったっていうじゃない。かかった家の子と遊ぶとどうとか。くだらないよね。せっかく人間は考えることが出来る生き物なのに、知らず知らずいろんなふうに、いろんな人を苦しめて。白血病ならかわいそうで……エイズだと?ってさ、それもおかしいよね」

●●病気にランクづけもへったくれもないのにね。

「だよ。だから、そういう人間のくちゃぐちゃした気持ち? がイヤ」

●●で、これを聴いてくれる人にどう受けとめられたら、と思う?

「関心を持ってもらえたらと。本を読むようになったでもいいしね」

●●阿部さんにはかつて触発された、影響を受けた歌はありました?

「ないんだよねぇ(笑)。ただこの間、フレディの追悼コンサートがあったでしょ。あれの影響は受けましたね。フレディがエイズだと公表したこともすごく自分の中のものを変えましたしね。フレディが好きだ、というのももちろんあるんだけど、彼はきっとエイズ以外の死因で死ぬことも出来たと思ったんですよ。ウワサは流れるだろうけど」

●●いくらでも情報は操作出来るものだから。

「でも彼はしなかった。エイズで死にたいと思ったんだよ。いろんなこと考えての公表だったとは思うけど、やはりスーパースターなんだって」

●●自分がどれだけの影響力を持つ人間なのかきちんと知っていたのだろうって思ったな。

「うん。知ってたんだと思う。だから公表もしたんだとね。それで僕も少なからず影響を受けたわけでさ。まぁ、ささいではありますが、僕からもこの曲を、という感じですね」

●●なるほどね。ところでレコーディングなんだけど、メンバーは?

「ベースにピンク・クラウドの加部さん、そのツテで古田さん、長田さんという、もう友達のようにやってもらえて。それでね、いいミュージシャンってこれはダメだとか、これはいいって言わずにとんどんチャレンジしてくれるんですよね。普通だったら考えないようなことを僕は言ってたんです。全部、ミュートしてくれだとかね」

●●それはよくない、ちょっととシブるっつーのは。

「場合にもよるけど、その人の力量でしょう、それとか協力的であるかないか。自分に自信のある人ならきちんとやってくれるだろうしね。つまり今回は僕がメインだからさ。僕が言ったことをいかに取り組んでくれるか、なんだよ。で、それをやって出来あがったものがいいか悪いかは僕、ってこと」

●●それぞれの音はきちんと阿部さんの望み通りのわけだから。

「それで悪ければ僕の才能がないってことだよ。でも今回、悪いとは思ってないから、つまりはさ、いいってことだよね(笑)」

全国で将棋キャンペーン

●●おー! でね、カップリングの「Showgi Master」のショーギって将棋?

「そう。はやってたのよ。ツアーで。それが頭にあってさ。全国で将棋キャペーンが出来たらなぁと(笑)。腕はたいしたことないんだけど……」

●●ははぁ、全国に向けてかかって来なさいとは言えない。

「言えない……けど、言っちゃやおーかなぁ(笑)。ユニコーンの中じゃ僕とEBIがよくやってたんだけど、まぁ、こん中じゃ一番強いですよ」

●●この曲の詞は電気GROOVEが手掛けてますね。

「ウチの、これをやった時のディレクターが電気GROOVEのディレクターだったっつーことで」

●●しかし両極端なこの2曲(笑)。

「あのね、1曲目は僕の思ってることを、僕自身だけで完全にやりたいっていうのがあったんだ。それこそ他の血は入れたくないみたいな。でも逆にこっちはみんなでいろいろと楽しくやりたいなぁって思って」

●●こうしてソロを作ってみてバンドとどんな違いを感じた?

「うーん、バンドのほうが気楽かな。ソロは曲を作るとかそこから始まるその過程自体がすでに大変だけど、なんていうか同じ信号無視をするにもひとりでするより5人でしたほうがラクだってところがあるでしょ。そういうラクさがバンドにはある」

●●とてもわかりやすい例え。

「ま、だから今回、テーマがエイズってことでいい加減には出来ないし、本当気持ちを込めて作ったからね。でもべつに買わなくてもいいのよ。とにかくたくさんの人が聴いてくれれば。お金払わなくても。それぐらい広まればいいなと、純粋にね。聴いてさ、頭のどっかでああそういえば、みたいに思ってさ、それでほんの少しでも関心を持ってくれたらね」

西川幸一

リキッドマン

C/W

マカロニコンプレックス

9/26 ON SALE



UNICORN

■■この話が出たとき、まず西川さんはどのように思われましたか？

「おもしろいな、と思いました」

■■こういった形でそれぞれがシングルをリリースするというのはバンドにどんな影響を与えると？

「あんまりないんじゃないですか。まぁ、なんつーかね、シングルなんて安いじゃないですか。今は特に。昔はねぇ、アルバムが買えないからまずシングルから入って、という感じでしたけど、もう今じゃ関係ないでしょう。アルバムからぽんぽん買う時代ですから。シングルなんてカスみたいなもんですよ。そりゃ、ラジオとかでオンエアするためには便利ですけど、それをアルバムの売りの戦略にするとかね、そんなことないですからね。あまり力も入れてないじゃないでしょうかね、バンド系は、ね。んなところですよ」

■■とはいえ実際「リキッドマン」(C/W「マカロニコンプレックス」)のレコーディングはいかがでした？

「おもしろかったですよ。リズムとかそれ自体も楽しかったんですけどね。こういうドラムが叩きたかったしね、あまり考えなくていいヤツ。レコーディングのテンポもよくて、ぽんぽん次の作業に行けましたね。プロデューサー笹路(正徳)さん、ディレクターに(河合)マイケルさん。ドラムがオレで、あとはだいたいスタジオの方にやっていただいて」

■■ユニコーンを離れて、というところでの感想は？

「まぁ、あまりそういう意識はありませんね。ドラマーですから」

■■ドラマーだと？

「だから、叩いてくれと言われればどこ行っても叩きますからね。べつにバンドだとかソロだとかって意識はないですよ。ドラマーとして自分を使いわけてるとは思えないし」

■■違うもの？ ギタリストやヴォーカリストとは。

「違うんじゃないですか、やはり。だって、オレがよそ行ってやったらバンド変わりますよ。そういう部分はありますからね」

■■ただ今回、どんな西川幸一が出せたと思いますか？

「どうなんですかねぇ。あんまりそういうのも意識ないですよぉ。そのレコーディングがバンドだとしてもソロだったとしても、自分がドラムを叩いている時はそういう意識はまるでないですからね。自分がドラムを叩いてるってだけで。その現場が、それをやってる時が楽しい。それはライヴでも一緒です」

歌入れは公称3回

■■だけど、歌、もありましたでしょ？ そのへんでは。

「はぁ、3回で終わりました」

■■公称、と聞いたような気もするんですが3回というのは。

「いや、練習、はしましたけどねぇ(笑)。タミオのところに行って教えてもらったりしてね」

■■ご教授をあおいだと。

「佐野元春さんのようにうたえばいいんだ、とか矢沢永吉バージョンで行こう、とかいろんなこと言ってましたけど(笑)」

■■でも、この「リキッドマン」はもうポップでキャッチーという曲ですよね。

「そうですね。カッコいいものに対する気恥かしさってあるじゃないですか。それってなんかもったいないような気がするんですよ。そういうのをフツウに作ったらどうなるかな？ってね。べつに恥ずかしいこともないんじゃないかなって。まぁ、オレが一番(レコーディングが)、最後だったんで、みんなの曲の情報がいろいろ入ってましたからね(笑)、それでなんかそのぉ当ててるポイントを変えようと思ったんですよ。ユニコーンを聴いてるファンでなく、フツウの人が聴いてどう思うかな、という。いわゆるシングルらしいシングルってことでね」

■■シングルって一曲だけれど、その一曲を聴いた場合の印象度というところですか？

「そうそう」

■■それでテーマとかは立てたんですか？

「いや、なにもないすっよ」

■■じゃ、どんなものを作ろう、と。

「ロック」

■■ロック。

「そうです。だからコンセプトみたいなものはなにもないんですよ。アルバムじゃないんだし。ただいい物を作りたいな、ということだけでしたよ。ま、気を使ったのは歌詞、でしたね。いつも歌詞には気を使ってはいるんですけど、いやぁ、疲れましたよ。時間かかるんですよ、オレらは。作詞家じゃないですから。ああいう方は早いんでしょうね。パッパッと言葉も選んで。オレなんかはもう、うにょうにょ紆余曲折しながらやっとたどり着くという感じですからね。作り始めたのもオフの終わりも終わりのころでしたから、忙しかったですよ」

■■あの、ドラムはレコーディングの始めで歌は最後という、段階の初めと終わりにかかわる、というのはどうでした？

「はぁ、やはり最初がいいですねぇ。ラクで。でもドラムは本業なんですから当然なんですけどね。歌は、歌は趣味でやってるもんで……あ、でもこれは頑張りましたよ。本気で。これだけは」

シャレですまされん

■■だけどこうして個人でシングルでうたうってなるとまたべつの緊張もあるでしょ？

「ですねぇ。シャレですまされませんからねぇ。あげくねぇ、シングルなんだから、こっちの曲とこっちの曲の間にこういう曲が欲しいなぁ、なんて通用しないでしょ。その2曲がよくなきゃいけないんだから。ま、歌は頑張りましたからね。一応、ある程度のレベルにははいってるんじゃないでしょうかね。自分の声は…オレ、きらいですけどね。大きらいですよ」

■■(笑)自分の歌声にはまだなれませんか？

「ダメですね。ほんとに大きらいです。ヴォーカリストだと、うたってる声はなんともないけど、しゃべってる声はきらいだって言いますね。オレはうたってる声きらいですけど、ライヴだとね、自分の声が聞こえてないからなんとも思わないんですがねぇ」

■■自分では歌声がきらいということですが、これを聴いてくれる方々にはどう感じて欲しいですか？

「べつにないすけど、曲もいいですからね、歌詞もいいし。ただドラムはカッコいいと思いますよ……でもそれもねぇ、あまりわからないかもしれないですけどねぇ。ちょっとね、あるって言えばあるんですよ」

■■チャレンジ？

「いやいや、そうじゃなくてね、初めでも言ったけど、あまり考えなくていいというか、シンプルっていうかな。そこになんか裏があるようなものじゃなくて、あ、カッコいい〜っていうね。このリズム、カッコいいーっていう、そういうのです」

■■西川さん自身はこのシングル・デビュー後はどんな展開が予想されそうですか？ 例えばアルバムとか。

「うーん、ソロ・アルバムっていうんならね、オレはバンド作ってやりたいですね、ちゃんと。こういう形の作り方じゃなくて」

■■ちゃあんとメンバーを立てて。

「もちろんもちろん」

■■やはりドラマーのソロというよりもバンド指向になるんですかね。

「じゃないですか。キース・ムーンもソロ・アルバム出してますけど、一枚で終わってますしね。ドラムだけ叩いても曲にはなんないんですよ」

■■では、他のメンバーのシングルについて、なにか感想はあります？

「それぞれね、いいんじゃないですか。みんな」

■■西川さんに対しては？

「う…ん、べつになにも……まぁ、キャッチーやねぇとは言ってくれましたね」

■■狙ってる？ なんて。

「もちろん。当然じゃないですかぁ。でもね、ユニコーンって狙ったの作らないでしょ。作ってもいないし。だから、いいんじゃないですか？ こういう狙ったのがひとつぐらいあってもねぇ」

手島いさむ

UNICORN

眠れぬ夜
C/W
BIRDS

10/10 ON SALE



▲▲手島さんがソロ・シングルについてまず思ったことは?

「第一印象はねぇ、困ったな、と。なんで困ったかと言うと他のメンバーと音楽自体を比べられるだろう、と思ったから。だっておのおののパートも違うのに、それを杓子定規に並べられるのはイヤでしょ、やっぱ。けど、よく話を聞いたら、比べてどうこうすることもないし、好きにやってていいって言うじゃない。なにも気にせず。そんならいいかなって。そういうの出来る状況だし、作れる自信もあったしね」

▲▲その状況ってユニコーンの状況とかこれまで培ってきたもの全部を含めたこと?

「いや、曲書いて、歌詞も書いて、アレンジもやって、これは誰に頼んで、というプロデュースですよね。実質上の。そういう状況を作り出す自信はあったと。ただね、すべてをね、バンドと切り離して考えられませんよ、確かに。バンドあっての自分というのはありますから」

▲▲もちろんユニコーンのサム兄さんはいるんだけどギタリスト、手島イサムとしての部分もあるでしょ。

「ありますよ。でもユニコーンの枠内でっていうか、それを逸脱してまではってね。実はパンクがやりたかったんだ、じゃねぇ。好きにやるのは好きだけれどムチャクチャなのは好きじゃないからね、オレ」

▲▲けどソロを作るにあたってこうしたいという希望はなかったの?

「それがないんですよ。ただ曲を、いい曲を納得出来る曲を2曲入れたかった、というだけで。まぁ、マジメに取り組みながらこうやったらカッコいいだろうなぁという、それをただ音にしただけでね。それで前から演りたい、と思ってた人たちとも一緒にやれるという条件もそろったわけで、シングルの2曲ともほぼ同じメンバーでやりました。メンバーはね、みんないろいろやってる人」

人間がやってる安心感がある

▲▲お友達ってこと?

「うん、まぁそう、だね。そのまた紹介で出会った人とかもいるけど、でもしっくりきちゃうんですよね。百戦錬磨の人たちだから。またオケに入った時のゴマかしかたがウマいんだ、これが(笑)。ソロで聴くとあれ?っていうのがたくさんあるんだけど全体で聴くとなるほどと思えちゃうんだよ。すごいわ、あれは。スタジオ・ミュージシャンだと正確無比ってとこがあるじゃないですか、でもそうじゃなくてね、人間がやってる安心感っていうのがあるんだ」

▲▲作業もスムーズに?

「すごくやりやすかったよ。確かにビジネスってことではあるし、プロフェッショナルな部分でやりもするんだけど、そこはほれ友達で、というのがあって「こっちのほうがカッコいいよ」とかお互い言いたいことも言えたんですごく助けになりました。というか勉強になりましたね。それに細かいことね。本来その楽器をやってないとわからないことはもうまかせちゃったし、特に、キーボードなんてなんでも出来るって勘違いしちゃうところってあるじゃない? それとかギターの思うキーボードのカッコいい音とキーボードが思うギターのカッコいい音って違う、とか。すべてワタシのわがままを通させていただきながらも、ルール違反は見つけてもらって。だいたいキーボードの人が全体を見て、プロデュース補佐みたいにしてくれたんだ」

▲▲それで完成したのが「眠れぬ夜」と「BIRDS」ってわけだ。

「「眠れぬ夜」はもう、ロックンロール・ミュージックですね、昔の。60年代後半の人たちが、いい楽器持ってて、今と同じグレードの音質で出来てたら、こういう音になるんじゃないかなぁ、という曲。あのね、エリック・クラプトンの『オーガスト』ってアルバムがあるのね。フィル・コリンズがプロデュースしました、という。その、アルバム全体的な匂いを出してみたかったんですよ。ただマネてるだけじゃん、と言われたらそれまでだけど(笑)。「ハイ、そうですよ」って感じだから、べつにいいんだ」

▲▲でもさ、自分の満足とか喜びって考えれば、さぁ。

「ああ、似てる似てるってうれしいからね(笑)。だってわがままのきくソロ、のシングルなんだもんね。でも、もちろん曲とか歌とかは全然違うものだから、さ」

▲▲それはそうだ。で、「BIRDS」のほうはインスト曲だけどこれは初めからやろう、と?

「いやいや。ただ、いいメロディのって。でも歌うたっちゃうとオペラになっちゃうな、じゃ、インストでどうだ、ということで」

▲▲ははぁ。でもこの曲、メンバーに中島悟引退だの、中野浩一引退だの、そういう雰囲気だと言われてますが(笑)。あげくライヴの客出しに使えるだとか。

「なんとなくスローモーションの絵が出るねぇと……ほら終わりってなるとスローモーションになったりするじゃない? そういうイメージがあると」

中島が手を振る姿がスローモーションで…

▲▲確かに。中島が手を振る姿が浮かぶもん(笑)。でも本人は?

「そうみんなに言われたんですがね、言われてみると、そうだなぁとも思えますね(笑)」

▲▲自分で納得してる(笑)。だけど手島さんが描いていたイメージはどうだったの?

「うん、いいメロディの曲ってだけ。ほんとに。だからね「眠れぬ夜」はクラプトンのフィル・コリンズ、プロデュースがやりたかった、で、こっちはスティーブ・ヴァイがやりたかった、それだけなの。スティーブ・ヴァイのあの曲みたいなのが、やりたいんだよぉ、オレは、と」

▲▲やりたいことはない、と言いながらも、けっこうやりたいことがあったのね。で、全体の感想はある?

「楽しいのは楽しかったですよ。ある部分じゃ独裁者だものソロは。自分の希望が、無限大に近いものが出るわけですからね。でもそれは逆に自分の範囲内ということにもなるんですよ。EBIみたいにホッピーさんとか頼めば自分の許容範囲以上のものも出てくるじゃないですか。けどオレはそうしなかったから。とりあえず自分で棒を振ってみようって思ったからね。ま、それで100%のものが出せればすごいんですけど、60%しか出せなかったとしても、それがオレの今の現状、これがワタシです、と言えるけどね。なんていうのかな自分で作った実感、それが味わえたんじゃないかと思う。あとは、聴いてくれる人がいればそれでいいんですよ。ちゃんとB面(笑)まで。今、シングルだって苛酷ですからね。も、すぐポンと飛ばされちゃいますから。特別にメッセージがあるわけでもなし……でも、今さらガーガー言ってもしょうがないんで、おとなしくしてます。まぁ、完成品としては満足いってますからね。あ! ところで、ギター・クリニックをやるんですよ。楽器屋店先でちょこちょことやるのだろうと思っていたんですが、なんだか話はもっとふくらんでるみたいでね」

▲▲札幌、仙台、東京、福岡他、全国10都市回るんだって?

「寺田より多いかな(笑)。ま、少年に来て欲しいですね。ギター弾いてなくてもいいんです。ただなんとなくおもしろそうかなという程度で。それでちょっとでもギター弾くことに興味を持ってくれたら、ワタシはそれを大成功だと。で、それをやるにあたっての、題材が「BIRDS」」

▲▲あらま。

「2曲目のほうをキックしてしまうという(笑)。このためにギターを抜いたカラオケも作りましたしね、でも、そろそろコピーしないといけないんですよ」

▲▲けど自分で作った曲なんだし。

「いや、この間、つるっと一回弾いてみたのよ。そしたら一箇所だけ弾けないとこがあんの。あれ?って。ポジションがね……低い方で弾いてて、突然、高いところで超早弾きすんの。そういえばここは編集したんだっけ、やっぱぁ、と解析はしたんだけど、まだ運指にはなれてないのでなんとかしなくちゃね(笑)」

UNICORNは九州がお好き

"CSAちゃん祭り"

1992.8.2　長崎稲佐山公園野外音楽堂

レポート／藤野洋子
撮影／梶木則男

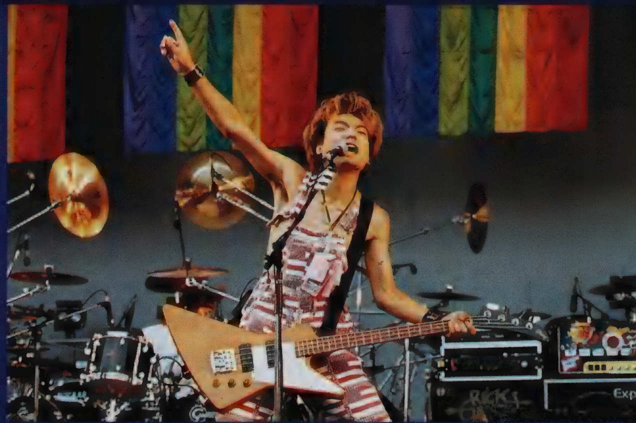


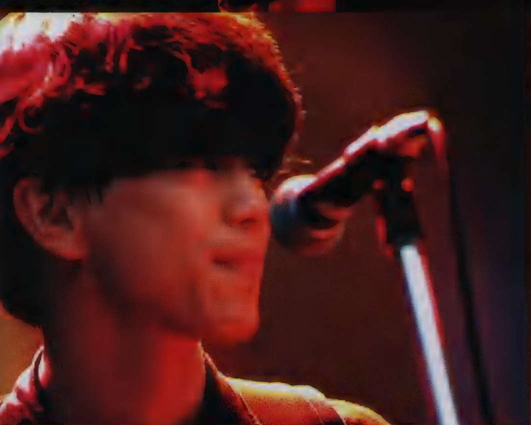
UNICORN

UNICORN

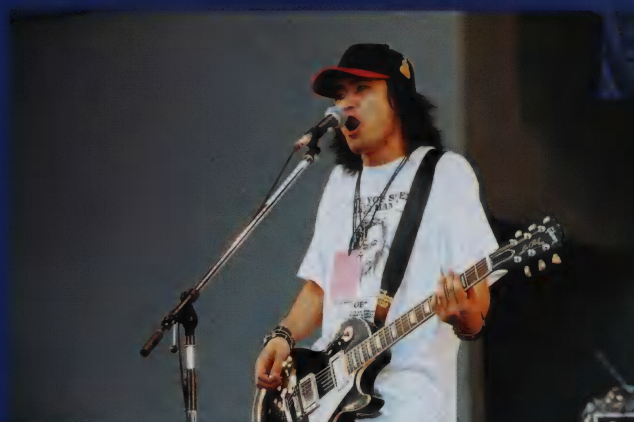


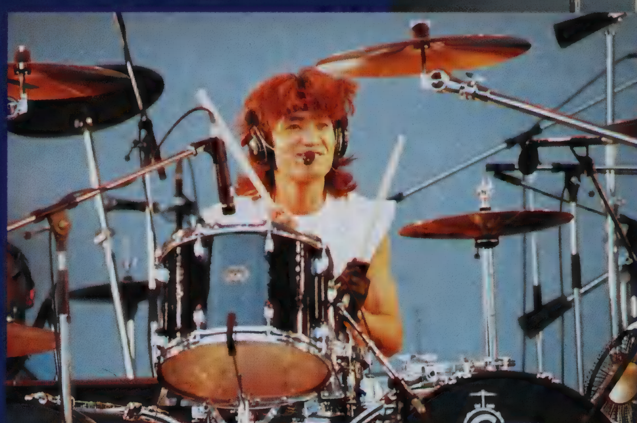
SPARKS GO GO











8月2日の長崎は雨だった。しかも、あきれるほどのどしゃぶりだった。

夕立なのだろうけど、3秒でパンツもぐっしょりという、豪雨となったのである。目の前に水の柱が立った、と言えばそのすごさわかってもらえると思う。

ここは長崎・稲佐山公園野外ステージ。〝ユニコーンは九州がお好き？〟

スパークスGOGO、すかんちの2バンドも巻き込んでまたの名を〝CSAちゃんまつり〟とも言うイベントの会場だ。

集まった人たちは激しい雨にさらされ、それこそ天に祈る思いでスタートを待っていた。開演時間が過ぎてもまだ雨足は衰えない。それどころか雷まで鳴り出すというとんだSE付き。だがその20分後。やん、じゃったのである。鉛色の雲はまだどよーんとたれこめてはいる。けれど今だ、それそれとばかりにトップバッターのスパ・ゴーがさっそく飛び出した。

待ちかねた分、その歓声はもう悲鳴。「盛りあがれ、雨とばせぇ」の叫びで始まったのは「ハリケーン・ダイナマイト・ボディ」。

去りつつある雨を再び呼び戻してしまいそうなこの曲。ハリケーンだ、タイフーンだ、とヤックがうたうたびに雲がざわついて見えた。右手にのぞむ谷間から立ち登る濃い霧は天然スモーク、「るーせー」とうたえば遠くで遠慮がちに雷が鳴った。なぜかスパ・ゴーのステージはみょうに自然と調和（!?）しつつ展開したのである。そしてゲストは奥田民生。ヤックとタミオのヴォーカルで「サムシング・ワイルド」。これはお得！

さてフィンガー5の曲にノって現れたのはすかんち。「恋のT・K・O」「恋のローラースケート」と、明るく楽しい曲にそく、会場もノリノリ。

「ボクは今、恋をしています……雨の中、ずっと待ってたみなさんに、ね」なんてベッタベタにあっまーいローリーの言葉が山のてっぺんに響き渡る。

恋の曲ばかりを5曲。最後のしめくくりは「恋のマジックポーション」で。

「みなさんが大好きです」

と、あくまでもスウィートなささやきを残すローリーであった。そして、セミの鳴き声をバックに現れたのは西川くん。手に持ったバケツをやおら頭上にか

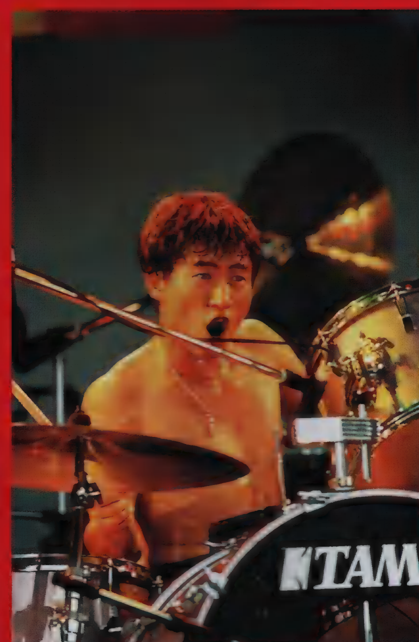




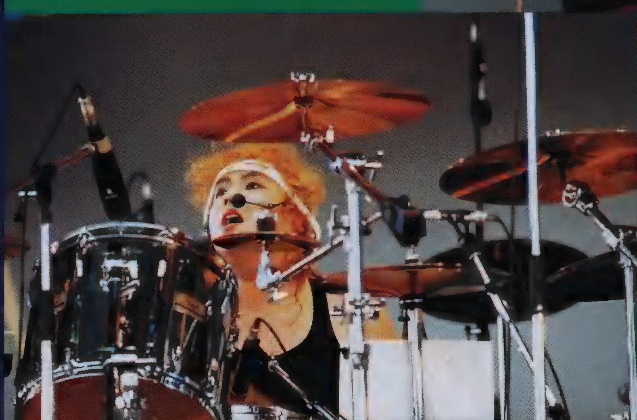


すかんち









げて、ザブリと水をかぶる。拍手と歓声。ユニコーンのスタートだ。もう雨の心配もなく代わりに涼風が吹いている。

「CSAちゃんまつりにようこそ。豪雨の中、ありがとうございます。CSA3バカトリオが九州をブイブイ言わそうということで……(略)……ここはいい所ですね、毎年やりたいと思います」

と、タミオは3曲目ですでに今後の抱負を語ってしまうという気のいれよう。

〝野外向きの歌〟ということで「デーゲーム」。それに続いて、阿部くんヴォーカルによる「患者ロック」「看護婦ロック」で笑いとロックンロールにまみれた。

あたりが暗くなりステージのライトが明るく光り始める。「働く男」「ヒゲとボイン」などアンコールを含め全13曲のライヴだった。

「フツーならここで終わるのですが……このイベントの中でわたしたちも一番気合いが入ってる〝CSAちゃんだョ全員集合〟をやってみたいと思います」

というタミオの宣言のあと、よくも揃ったり12名の大セッション大会が、手島〝いかりや長介〟イサムと観客の、「CSAだよ」「全員集合！」で、始まったのである。

「ワイルド・シング」「勝手にシンドバッド」「ジョニー・ビー・グッド」。

ドラムは2台。それを3人のドラマーが交互に使い、ギターは、ベースは、ヴォーカルは……もう、なにがなにやらわからない状態。とにかく12名が一丸となって楽しんでいたのである。

「CSAを愛してくれてありがとう。これが来年は3バカが4バカ、5バカになっているかもしれまっせーん」

タミオの言葉に会場まるごと大喜び。

全員集合と言えば「ビバノン音頭」ということで、全員揃いのハッピを着てのエンディング。お約束のセリフはEB―、「気をつけて帰れよ、カゼひくなよ、また来年！」

と、次の夏の約束をして、長崎での第1回CSAちゃんまつりは終わった。

雨に濡れた服をさらに汗でぐしょぐしょにして、みんながみんなまさにおまつり気分を味わったようだった。

ちなみに、ユニコーン印の傘がこれまでで一番売れた日になったそうである。

UNICORN HISTORY BOOK

「人に歴史あり」其の貳(その2)





発売日迫りまくり！

予約受付中

前作のスケールをはるかに超えまくったパートⅡがついに登場。90年8月号から92年9月号まで、2年間に及ぶアリーナ掲載のUNICORNの記事を1冊に濃縮100%。もちろん最新バンドヒストリーも追加！

〈内容〉

★人に歴史あり・最新版

ツアー〝パニック！服部ブーム〟からアルバム3部作、舞監なき戦い、ソロ・シングルに到るバンド・ヒストリー最新版。

★アリーナ37℃復刻版

1990年8月号から1992年9月号までアリーナに掲載された記事を再構成して全て収録。

①インタビュー＝「働く男」『ケダモノの嵐』「命果てるまで」『おどる亀ヤプシ』『ハブアナイスデー』「ブルース」『ヒゲとボイン』リリース・インタビュー

②ライブ＝ツアー〝嵐のケダモノツアー〟、'91夏のイベント、ツアー〝舞監なき戦い〟、'92夏のイベント・レポート。

③企画物＝対談、『ヒゲとボイン』順位あて、ユニコーン、スパゴー、すかんち合同企画、F1企画他。

★各メンバーのスペシャル・パート。

★撮り下ろし&ボツカット復活！

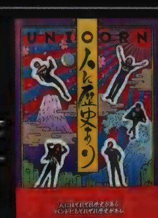
★パーフェクト・ディスコグラフィー。

初版分ポスター付！

こりゃ～あ早く予約しなくっちゃ！ということで予約受付中！だいっ。

9月22日 堂々発売！

●定価1850円(税込)



前作『人に歴史あり①』重版決定！
定価1500円(税込)

87年にアリーナ37℃に登場して以来、90年7月号まで、ユニコーンの全ての記事を一冊にパック。この機会にご注文ください。

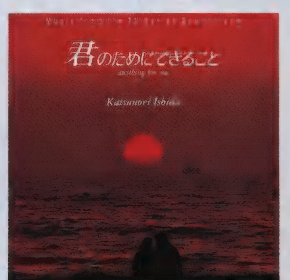
問い合わせ先◆㈱音楽専科社
〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F
TEL 03(3574)0201◆FAX 03(3574)8548

注文書

店名	●受注　月　日	●部数	●担当者
	●書名 UNICORN「人に歴史あり 其の貳(その2)」定価1850円(税込)9月22日発売		
	●あなたの住所 〒		●TEL
	●あなたの名前		
	●出版社名 ㈱音楽専科社 〒104 東京都中央区銀座5-1-7 数寄屋橋ビル5F ☎03(3574)0201 FAX03(3574)8548		



NOW ON SALE



石田勝範

フジテレビ系ドラマ

「君のためにできること」

オリジナル・サウンドトラック

NOW ON SALE CD:APCE-5252 ¥2,800(Including TAX)

〈収録曲〉●主題歌「また逢える…」、「You're the Only…」のインストゥルメンタル・ナンバー。●ドラマのストーリー上でも重要な役割を果たし、効果的に使われる吉田栄作の楽曲「Faraway」のハーモニカによるヴァージョン。●「また逢える…」(TVサイズ・ヴァージョン)Vocal入り。●他、石田勝範作曲・編曲による作品をセレクトし収録。

Produced by 石田勝範



Third Album
ONE NIGHT HEAVEN
CD:APCA-54 ¥2,200(Including TAX)
●フジテレビ系ドラマ「君のためにできること」主題歌
また逢える…他全7曲収録。



Debut Album
KIX▸S
CD:APCA-27
¥2,000
(Including TAX)



Second Album
LES=BEAT
CD:APCA-46
¥2,200
(Including TAX)

■お問合せ:〒162 東京都新宿区余丁町3-8 ㈱アポロン Tel.03-5379-3530宣伝部・前田まで。

APOLLON INC. Dreamix

平和だから
アルフィーの歌が聴ける！

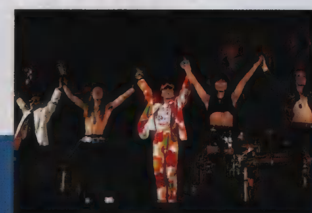
THE ALFEE
11th Summer
JUST LIVE!
Promised Night

レポート／渡辺孝二
撮影／松崎信彦











厚木基地でのイベントが中止になったこと、それはTHE ALFEEにとって決してマイナスではなかった。いやそういうアクシデントがあったからこそ、この11回目のイベントにはっきりした、ひとつのテーマが浮き上がってきた——今回のイベントに参加してそんな感想を持った。多分、THE ALFEEの長い歴史の中でも非常に重要な1ページを飾ることだろう。

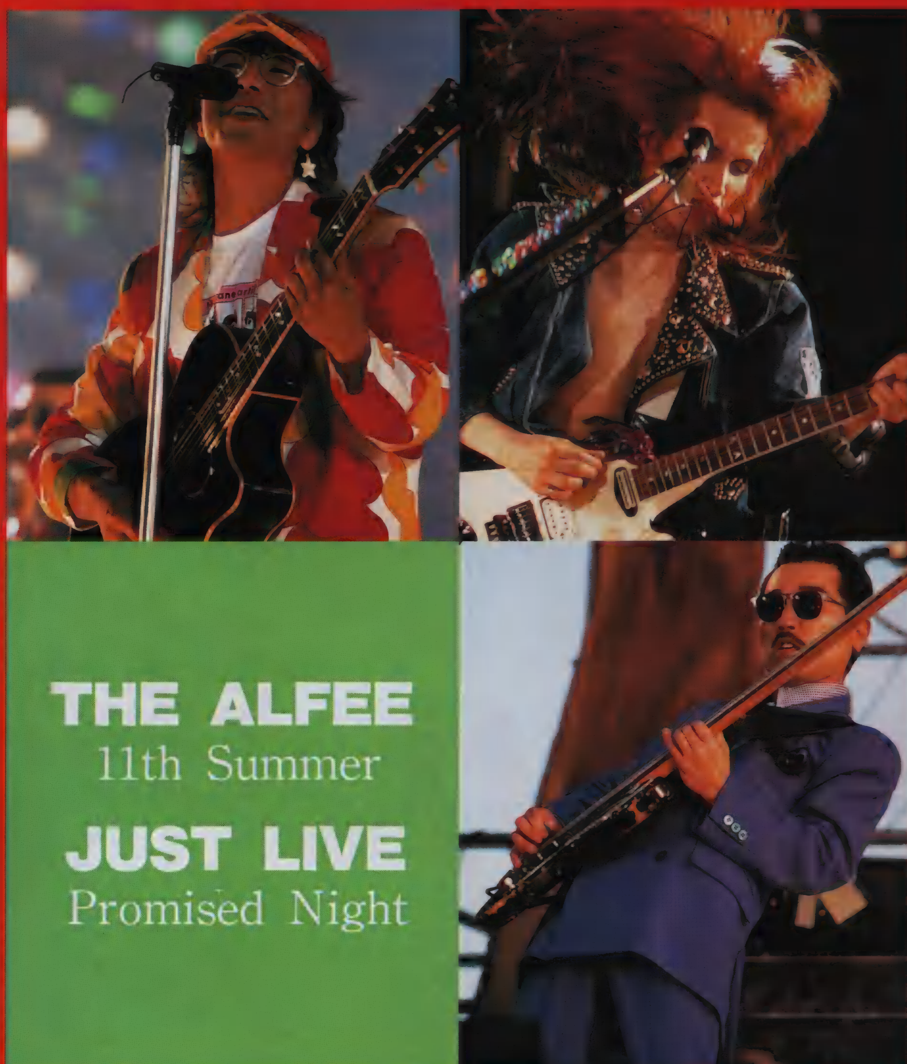
新たな代替地は横須賀。ここも基地の街だ。それは単に偶然だが、これもまた日本の現実でもある。

＊　＊

アツ——ッイ! THE ALFEEのイベントには一番似合う、焼けるような夏の一日。心配していた台風もどっかにいってしまったらしい。それにしても毎回毎回思うことだけど、この人の数。人人人……。ハンパじゃない。これが何の目的もない人の群れだったら、ただでさえうっとうしいこの暑さ。あっちこっちでケンカや殺人があってもおかしくない。それが目的が一つだから、この群衆に連帯感が生まれ、誰が号令をかけるでもないのに秩序ができる。それがどんなにすばらしいことであるか、いつもいつも実感してきた。

ステージには開演前だというのに既にアルフィーのメンバーが登場している。しかも顔だけ(笑)。巨大なモアイ像のような石像がそそり立っている。こんなのが何万年後かに発掘されたら、さぞ未来人はびっくりするだろうな～んてことを想像したら、思わず笑っちゃう。

6時ジャスト! まだ明るいステージにいきなりメンバーが登場した。ファンの大歓声に応えたのは、特効のすさまじい炸裂音。これはほんのあいさつ代わり。一曲目の「ジェネレーション・ダイナマイト」のテンションの高さはさらにすさまじかった。4万数千の観衆のパワーも



ハンパじゃない。ステージから100を投げかければすぐに何千倍となって返ってくるのだ……。

何事もなかったようにスタートしたTHE ALFEE——11回目の夏。約束は守られた。しかし、この限られた時間の中で実現にこぎ着けるまで、陰でスタッフの想像を絶する努力があったのだろう。"JUST LIVE!"と潔く名付けたイベント・タイトルにメンバーとスタッフの固い意思を感じることができた。

アルフィーのコンサートでは「ワン・ナイト・ドリーム」の気持ちを大切にするために、演奏曲目の誌面掲載は遠慮してほしいという要望がいつも事務所から出されるが、次に連続して演奏された3曲だけは特別に記しておきたい。

「ON THE BORDER」「シュプレヒコールに耳を塞いで」「SWINGING GENERATION」、そして、高見沢が噛みしめるように観衆に向かってはなったメッセージ——。

「1年に一回ぐらいは、戦争について考えてもいいんじゃないかと思う。僕も今回改めて平和というものについて考えさせられました。平和とはものすごく深い気がします。戦争というものは勝利や敗北が問題ではなく、戦争が起きた原因を考えるべきだと思う。本当の意味で、ボーダーを越えるために我々の歌がいつまでも残ることを願っています」

もしかしてこのイベントが厚木基地で行われていたならば、こういう言葉が出たかどうか。THE ALFEEは一つのトラブルを乗り越えて、また大きな目標を掴んだのではないだろうか。

そしてアンコールで「平和とはアルフィーがこうやって100年でも200年でも歌い続けていくことだと思います」と新たに思いを強くしてこの日のために作った「Promised Night」を、平和な夏の夜空にはなった。

KUMIKO YAMASHITA

ロックというワクを飛び越えた幅広いヴォーカリスト

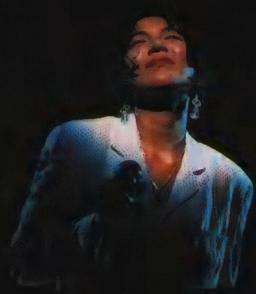
山下久美子

7／26.27　NHKホール

レポート／角野恵津子
撮影／大屋美和（本誌）







　にこやかな笑みは、元気がはち切れそうというより、余裕と落ち着きをたたえているように見える。最新作『Sleeping Gypsy』の1曲目「ノBYE BYE」で、ステージもスタートだ。軽いミディアムのナンバーが続き、ゆったりとリズムをとりながら、気持ちよくコンサートは進んでいく。

　ステージ・セットはどちらかというとシンプルで、久美子もエネルギッシュに動き回って、みんなで踊ろう騒ごうといった感じではなく、歌を聴かせることに重点がおかれているよう。また、その歌はメリハリも効いて、そんなコンサートの流れをきちっと作っていく。

　中盤、デビューして12年という話に続けて、大歓声の中で歌われたデビュー曲「バスルームから愛を込めて」を経て、アコースティックなサウンドで何曲か楽しませた後、後半はステージ・バックに星雲などのスペイシーな絵が浮び上がり、サウンドのスケールも大きくなってよりドラマティックな歌を聴かせる。

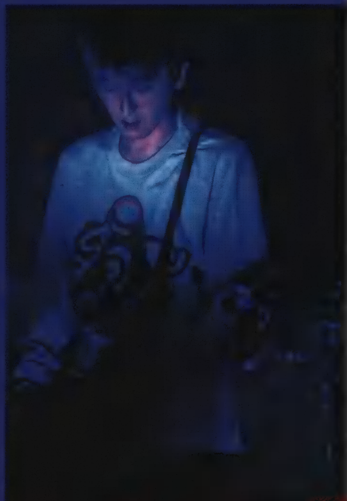
　多彩なサウンドによる起伏のあるステージは、ロックというワクを飛び越えてより幅広いヴォーカリストとしての彼女の世界を、たっぷりと楽しませてくれる。かつて、会場のみんなと一緒になってはじけていた久美子が、今ではその包容力で会場のみんなを包み込んでいる。その関係はなんとなく、お姉さんと弟や妹達のコミュニケーションのようで、彼女のステージも少しずつその形を変えていることに、改めて気づく。

　懐かしい、「リ・インカーネーション」がフィーチューされた「ロマンス」に続けて、アルバムとツアーのタイトルでもある「Sleeping Gypsy」の全曲とで終わるまで、「バスルーム～」以外は『Sleeping Gypsy』の全曲と前回のアルバムからという、活動再開後のナンバーばかりの構成に、前向きな姿勢を感じる。

　一転して、アンコールは「こっちをお向きよソフィア」「赤道小町ドキッ」など、彼女の代表的ヒット・ナンバーが並び、会場を沸かせた。

　バスルームの久美子ちゃんから、久美子さんへ。大人のアーティストとしての、これからの彼女が楽しみになってきた。







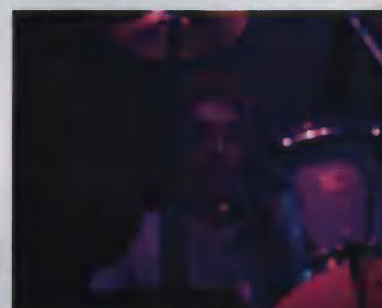


AFTER MEAT MUSTARD

M-age

7／21.22　新宿パワーステーション

異次元の空間に入り込んでしまったような錯覚に襲われた



レポート／山本弘子
撮影／松崎信彦



7月21日と22日、2日間にわたってM-ageのライヴが新宿のパワーステーションで行なわれた。ツアー・タイトルは〃AFTER MEAT MUSTARD〃。すでにシングル「Someday close your eyes」と4曲入りの12インチ『Someday ep』を聴いている人は多少なりとも彼らの変化に気がついていると思うが、ライヴのほうも例外ではなかった。パワステのステージに立った5人は4ヵ月前よりずっとクールで、堂々と自分たちの世界を表現していたのである。

この日のライヴに触れる前にちょっと4月6日の新宿パワーステーションのステージをふりかえってみよう。初めてM-ageを見る女のコたちでギシギシにひしめきあう客席、人気上昇中の注目のバンドということもあり、多くの関係者がかけつけた2F、3F。その期待を一身に背負って登場したM-ageは、プレッシャーと緊張を全身で吹きとばすかのようなエネルギッシュなライヴをみせてくれた。が、肩に力が入りすぎて、空まわりする場面が多かったのも事実。たぶんあの日のメンバーは、文字通り、頭が真っ白な状態だったのだと思う。

が、この日、同じパワーステーションのステージに立った5人は明らかに違っていた。「CRISIS」「WONDER」「ENOUGH OF THIS」。初のアルバム『MUSTARD』に収録されていたおなじみのスピード感のある曲が続くが、彼らが足をしっかり地につけている様子が演奏からもうかがえる。真剣な表情でリズムをキープするOKAZAKIとYUJI、以前は不安そうにみえたKOICHIROも静かだが、力強くステージの中心に存在し、歌うことに意識を集中させている。KOICHIROは要所、要所で派手な動きをみせるがそれ以外はほとんど動かない。まわりのメンバーが動きまわる分、彼は静止しているほうがずっとカッコよくみえる。

そしてお待ちかねの新曲「Someday Close your eyes」。PEAHがいきなり、ステージの前方に走っていき、KOICHIROの横でダンス（ハッピー・マンデーズのベス状態ね）したのには驚いたが、以前の曲と比べて思ったほど異和感は感じられない。OKAZAKIの「1枚目でもシングルに近いノリの曲はやっていたけれど、クローズ・アップされなかっただけ」という言葉を思い出したがつまりそれは続いて演奏された「BLLOMING OUT OF SEASON」や「UNDER THE CUBIC SKY」のことなのだろう。照明は美しいディープなブルーで、ステージはまるで宇宙ステーションのようだ。ゆったりとしたグルーヴは、無重力でふわふわ体が浮いていくような心地良さ。どこまでも深い青と白いスモークがステージをおおいつくし、メンバーのシルエットだけが浮かびあがる。そして、後半の「CALL ME」から新曲の「LAST TEMPTAION」へ。照明も鮮やかな赤、へと変わっていく。まるで最先端のクラブのような演出、異次元の空間に入りこんでしまったような錯覚に襲われる。つまり、演奏、演出、メンバーの存在のし方、何をとってもM-ageは変化していたのだ。かなりアバンギャルドな印象になった「SILENT FEARS」、ひとつとっても、彼らの立ち止まることを良しとしない姿勢は伝わってきただろう。練られたアレンジ、前回とは比較できないほど成長した演奏にはつねに進化しようとする前向きな意志がしっかりと感じられた。

ご存知の通り、今、M-ageはロンドンでレコーディング中である。いったい次はどんな顔をみせてくれるのだろう。



Victor

JVC

※JVCは、日本ビクターの世界ブランドです。

CDサイズのコンポ、音のビクターから。

まず、実物を見ておどろく、その稀なる小ささに。
そして、音を聴いておどろく、そのクオリティの高さに。
タテ置きなら、幅わずか458㎜。
だから、さまざまなシチュエーションにスッと収まる。
あなたの部屋の、大好きな場所に心地いい、CDサイズのコンポです。

(視覚のアメニティ) ◆音の臨場感を鮮やかに映し出す、大きく見やすいバックライト付ディスプレイ
(サウンドの光沢) ◆聴きたい音楽ジャンルのテイストを、簡単操作で引き出せるサウンドメニュー
◆音楽にメリハリをつけ、その魅力をグッと際立たせる重低音AIスーパーバス
(快適な操作性) ◆居ながらにしてお気軽にリモコン開閉できるCDドア◆多機能フルリモコンを装備

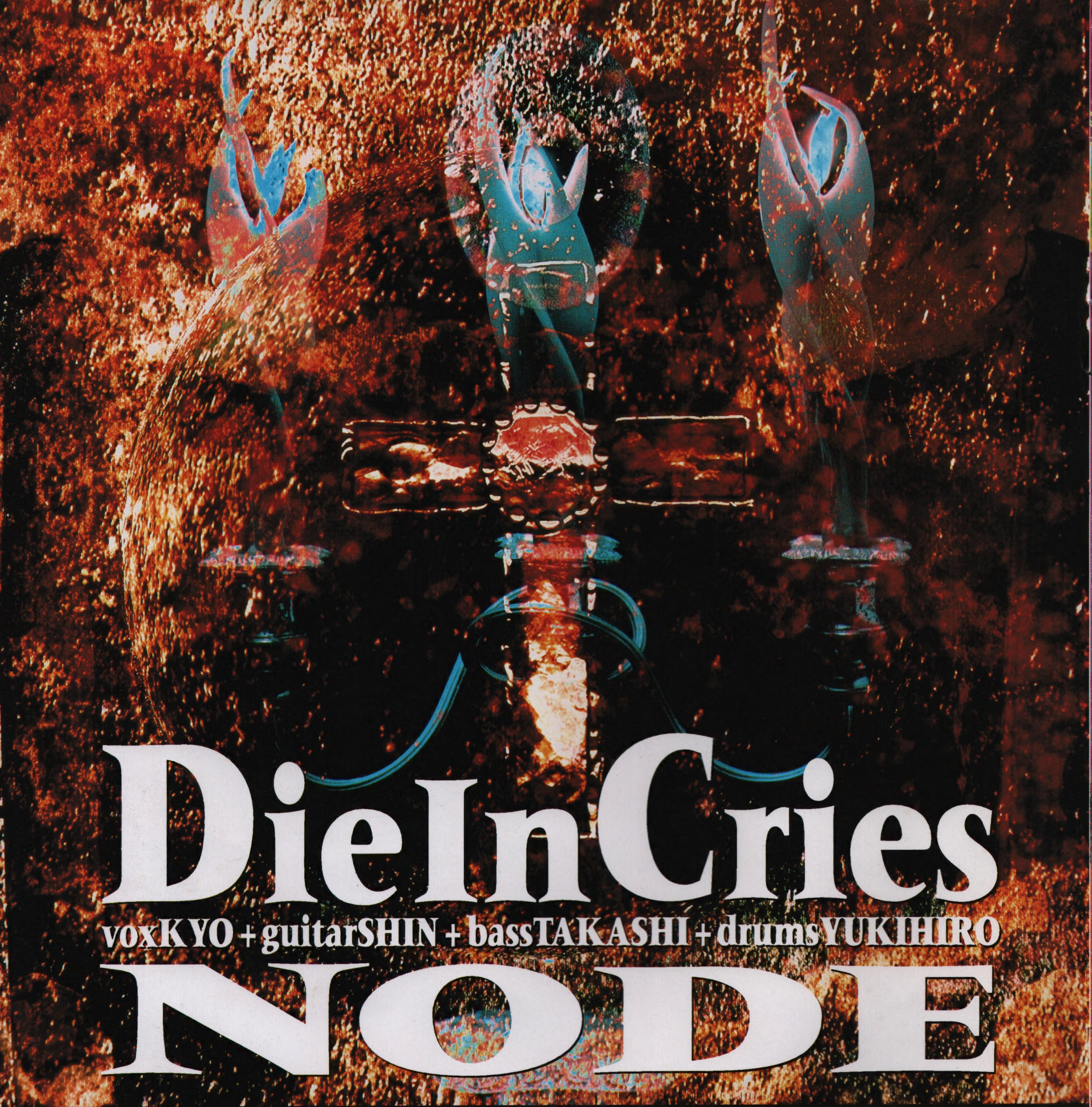
NEW
ディスクサイズ・コンポ UX-5 標準価格 **65,800円**(税別)

●あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。●ビクターへのお問い合わせ、カタログ請求は、型名および住所、氏名、電話番号をご記入のうえ…〔ビクターお客様ご相談センター〕東京：〒113 東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル TEL03-5684-9311/大阪：〒543 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル TEL06-765-4161 R係へ。日本ビクター株式会社

VICTOR CREATES IT.


Victor
Victor
RZ140
AUTO REVERSE
POWER
Miclodio
撮影協力：軽井沢高原教会


いつも新しい音楽の会社です。
BMG
BMG VICTOR INC
新人戦、
天下無敵の恐いもの知らず達
—シャ乱Q—
炸裂!へなちょこパンチ
シャ乱Q
RCA



SEVEN SONGS ALBUM

9/23 ON SALE

「NODE/ノード」

BVCR-2316 ¥2,300(INCLUDE TAX)

SONGS:「殺シテモ 殺シタリナイホドノ」「KOOL & MOONLIGHT」「言葉にならない…」etc.

初回特典:CD-SINGLE「RAPTURE THING」(The Central Nerve Mix)

LIVE

「Systems OF NODE」

11/21(SAT)、渋谷公会堂 START 18:30

11/22(SUN)、渋谷公会堂 START 18:00

12/21(MON)、大阪サンケイホール START 18:30

¥3,914 全席指定、即日完売確実!

SINGLE

9/23 ON SALE

「MY EYES—僕の瞳よ—」

C/W:「無口な夜」

BVDR-125 ¥930(INCLUDE TAX)

BONUS TRACK:「MY EYES—僕の瞳よ—」VOCALLESS VERSION

8/4～9/2 悪戯の瞬間→全会場即日SOLD OUT THANX!!

「DIE IN CRIES」に関する最新情報をお送りいたします。62円切手2枚を下記住所、「RAPTURE」係まで。

DANGER CRUE→MOVED!! 〒150 東京都渋谷区恵比寿4-5-28恵比寿ガーデン408 (有)デンジャー・クルー 03-5423-4607

ariola

いつも新しい音楽の会社です。

BMG
BMG VICTOR, INC.

ARENA37℃
No.121
アリーナサーティセブン
10月号
昭和58年1月20日第3種郵便物認可 平成4年10月1日発行第121号（毎月1回1日発行）
発行人 荒井敏行
編集人 渡辺孝二
発行 音楽専科社
〒104 東京都中央区銀座5の1の7 数寄屋橋ビル5F
☎(03)3574・0201(代)



10/8(木)	相模大野グリーンホール	ディスクガレージ
10/14(水)	市川市文化会館	ディスクガレージ
10/15(木)	大宮ソニックシティ	ディスクガレージ
10/23(金)	札幌厚生年金会館	WESS
10/26(月)	栃木県総合文化センター	アクト
10/27(火)	群馬県民会館	アクト
11/3(火)	長野県民文化ホール	FOB長野
11/6(金)	茨城県民文化センター	アクト
11/13(金)	広島アステールプラザ	キャンディプロモーション
11/14(土)	福岡市民会館	キョードー西日本
11/16(月)	高知県民文化ホール	デューク高知
11/21(土)	大阪厚生年金会館	グリーンズ
11/22(日)	大阪厚生年金会館	グリーンズ
11/27(金)	新潟県民会館	FOB新潟
12/6(日)	名古屋市民会館	サンデーフォーク
12/10(木)	仙台市民会館	GIP
12/13(日)	青森市文化会館	コルクボード
12/15(火)	京都会館第一	J音楽企画
12/17(木)	静岡市民文化会館	ビートクラブ

総合お問い合わせ：Bプロジェクト Tel：3779/2410

10/21 New Album "MILLION MIRRORS" Release

予約特典：ミリオン・ポスター（B全サイズ）

"XEO"-FUTURAMA OF ROCK CAMPAIGN!

"XEO SPECIAL REMIX CD"を抽選で5000名様にプレゼント！

<SOFT BALLET 他XEO所属アーチストの、このCDでしか聴けないREMIX VERSIONを編集した8cmCD>

応募方法：キャンペーン対象商品(SOFT BALLET/MILLION MIRRORS, BRAIN DRIVE/完全驚異, M-AGE/11.21発売アルバム)それぞれに封入されている応募ハガキにてご応募下さい。
応募締め切り：92年12月10日(消印有効) ＊詳しくは応募ハガキをご覧下さい。

ソフトバレエ写真集……完全予約限定生産 お問い合わせ：03-3234-7906

XEO INVITATION

雑誌 01593-10 特別定価690円（本体670円） Printed in Japan 三共グラフィック株式会社 T1001593100695